富士岡1古墳群他

富士市

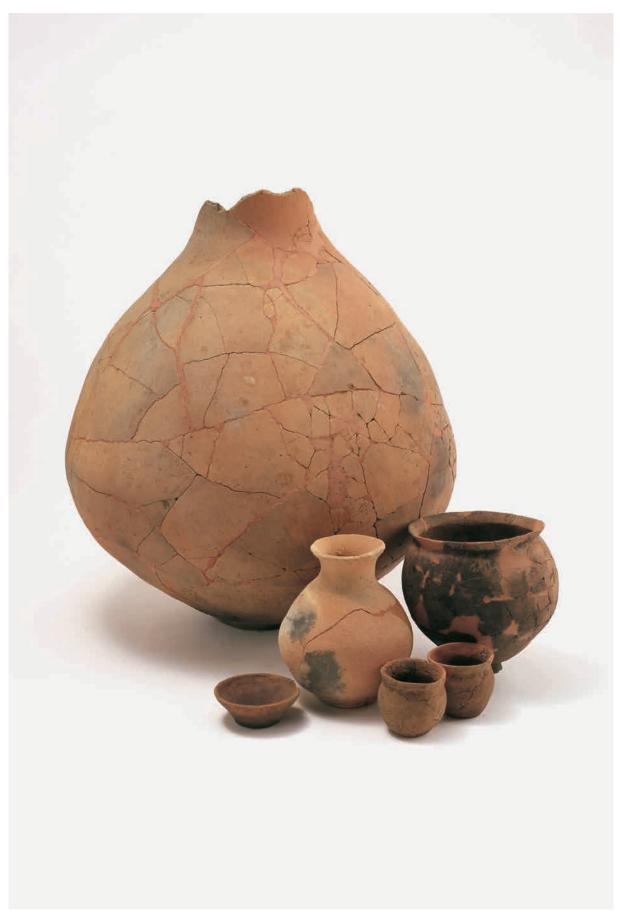
平成 21・22・24 年度地域活性化基幹農道 愛鷹 2 期地区農道整備事業に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書

2013

静岡県埋蔵文化財センター



富士岡1古墳群 1区第1遺構面調査区東側



富士岡 1 古墳群 古墳時代土師器集合



向山遺跡 古墳時代土師器集合



中尾沢遺跡 古墳時代土師器集合

カラー図版 4



向山遺跡 縄文土器集合



富士岡1古墳群 顔面把手付土器

向山遺跡 顔面装飾

富士市の富士山南麓から愛鷹山南西麓には多くの遺跡が所在しています。

本書では、愛鷹農道の建設事業に伴い調査が実施された、富士岡1古墳群・向山遺跡・中尾沢遺跡・分地遺跡について報告をします。

富士岡1古墳群では古墳時代後期の古墳の周溝と前期の竪穴建物と方形周溝墓が検出され、縄文時代前期の土器が多量に出土しました。向山遺跡では古墳時代前期の竪穴建物が検出されました。縄文時代は、中期の竪穴建物、前期の竪穴状遺構と共に、早期から後期にかけての様々な時期のバラエティーに富んだ縄文土器が出土しました。中尾沢遺跡では古墳時代前期の竪穴建物が検出され、分地遺跡では、溝や土坑が検出されました。

古墳時代前期の集落である富士岡1古墳群・向山遺跡・中尾沢遺跡という隣接する尾根に位置する遺跡の調査ができ、非常に有意義な成果となりました。富士岡1古墳群では、当地域で検出例が少なかった方形周溝墓が確認されたことで、居住域から墓域へのあり方や変遷など、集落内における人々の営みをさらに具体的な形で知ることができるようになりました。

縄文時代では富士岡1古墳群・向山遺跡で特に前期後半から中期前半にかけての土器が多量に出土しました。北陸や東北地域、西日本の影響を受けた土器などが出土していることから、当時の人々の地域間交流の広さを窺い知る事ができます。富士山南麓から愛鷹山南西麓にかけて、この時期の土器が多く出土した遺跡は類例がなく、当地域の縄文時代前期から中期前半の様相を究明する上で貴重な遺跡となるでしょう。こうした成果は地域の歴史、文化を知る上で欠かせない資料となることと思います。

本書が、研究者のみならず、県民の皆様に広く活用され、地域の歴史を理解する一助となることを願います。

最後になりましたが、本発掘調査にあたり、静岡県富士農林事務所ほか、各関係 機関の御援助、御理解をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

2013年3月

静岡県埋蔵文化財センター所長

勝田順也

例 言

- 1 本書は静岡県富士市富士岡に所在する富士岡1古墳群、同市中里に所在する向山遺跡、中尾沢遺跡、分地遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は地域活性化基幹農道愛鷹 2 期地区農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務として、静岡 県富士農林事務所の委託を受け、静岡県教育委員会文化財保護課(旧静岡県教育委員会文化課)の指 導のもと、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が実施し、平成23年度以降は、静岡県埋蔵文化財セ ンターが同研究所の業務を引き継いで実施した。
- 3 富士岡1古墳群他の確認調査・本調査及び資料整理の期間は以下のとおりである。

確認調查 平成20年8~11月 (静岡県教育委員会文化課)

調査対象面積119㎡ 実掘面積119㎡

平成21年9月~10月・平成22年3月 調査対象面積40㎡ 実掘面積40㎡

本 調 査 平成21年8月~平成22年8月 調査対象面積3,487.9㎡ 実掘面積6,975.8㎡

平成24年6月~8月 調査対象面積167㎡ 実掘面積327㎡

資料整理 平成24年4月~平成25年3月

4 調査体制は以下のとおりである。

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

平成21年度

所長兼常務理事 天野 忍 次長兼総務課長 松村 享 総 務 係 長 山内小百合 会 計 係 長 杉山 和枝 次長兼調査課長 及川 司 次長兼事業係長 稲葉 保幸 保存処理室長 西尾太加二 次長兼東部総括係長 中鉢 賢治 東部調査係長 笹原千賀子 中部調査係長 河合 修 西部調査係長 富樫 孝志 調査研究員藁科泰裕 常勤嘱託員三好元樹 平成22年度

所長兼常務理事 石田 彰 次長兼総務課長 松村 亨 専門監兼事業係長 稲葉 保幸総 務 係 長 瀧 みやこ 調 査 課 長 中鉢 賢治 調査第一係長 勝又 直人調査第二係長 岩本 貴 調査第三係長 溝口 彰啓 調査第四係長 富樫 孝志常勤嘱託員 三好 元樹・杉山 和徳・中島金太郎

静岡県埋蔵文化財センター

平成24年度

所 長 勝田 順也 次長兼総務課長 八木 利眞 調 査 課 長 中鉢 賢治 主幹兼事業係長 前田 雅人 総 務 係 長 瀧 みやこ 調査第一係長 富樫 孝志 調査第二係長 溝口 彰啓 主 査 岩崎しのぶ 常 勤 嘱 託 員 西田真由子

- 5 本書の執筆は岩崎・西田が行った。
- 6 平成24年度の発掘調査における掘削業務は、株式会社関道建設に委託した。
- 7 発掘調査における測量業務は、株式会社シン技術コンサルに委託した。
- 8 資料整理・保存処理業務については、株式会社パソナに委託した。
- 9 出土炭化物の樹種同定及び放射性炭素年代測定は、株式会社加速器分析研究所に委託した。
- 10 出土石器の石材鑑定は、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。

- 11 発掘調査・資料整理では以下の方々に御指導、御助言を賜った。厚く御礼申し上げる。 佐藤祐樹・佐野五十三・篠原和大・澁谷昌彦・谷藤保彦・戸田哲也・藤村 翔・前嶋秀張・渡井 英誉(五十音順・敬称略)
- 12 発掘調査の資料はすべて静岡県埋蔵文化財センターが保管している。

凡例

本書の記載については、以下の基準に従い統一を図った。

- 1 本書で用いる方位は国土座標の方位である。座標値は世界測地系に準拠し、標高は海抜高を表す。
- 2 調査区の方眼設定は、上記の国土座標を基準に設定した。

富士岡1古墳群 (X=-91800, Y=20700) = (A, 1)

向 山 遺 跡 (X=-91800, Y=21000) = (A, 1)

中尾沢遺跡 (X=-91930, Y=21160) = (A, 1)

分 地 遺 跡 (X = -92200, Y = 21300) = (A, 1)

- 3 遺構図、遺物実測図の縮尺はそれぞれにスケールを付した。
- 4 色彩に関する用語・記号は、新版『標準土色帳』(農林水産省技術会議事務局監修1992)を使用した。
- 5 第3章第2節の周辺遺跡地図(第4図)は国土地理院発行1:50,000地形図「吉原」「沼津」「富士宮」「御殿場」を複写し加工・加筆した。
- 6 本書で使用した遺構の表記は次のとおりである。

SH 竪穴建物 P(竪穴建物内)柱穴 SZ 方形周溝墓 SD 溝状遺構

SK 土坑 SP 小穴 SX 性格不明遺構

目 次

第1章	調査の経緯	1
第2章	調査の方法と経過	
第1節	調査の方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第2節	調査の経過 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
第3章	遺跡の概要	
第1節	地理的環境 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
第2節	歷史的環境 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	5
第4章	資料の分類	10
第5章	富士岡1古墳群	
第1節	調査履歴・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第2節	基本土層と土層の堆積状況	
第3節	1 区古墳時代の遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第4節	1 区縄文時代の遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第5節	1 区旧石器時代の遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第6節	2 区古墳時代の遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第7節	2 区縄文時代の遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	93
第6章	向山遺跡	
第1節	調査履歴1	
第2節	基本土層と土層の堆積状況 ・・・・・・・・・・1	
第3節	古墳時代以降の遺構と遺物 ・・・・・・・・・1	
第4節	古墳時代の遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・1	
	縄文時代の遺構と遺物	
第6節	旧石器時代の遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・2	:19
	中尾沢遺跡	
第1節	基本土層と土層の堆積状況2	
第2節		
第3節		
第4節	縄文時代の遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2	:53
	分地遺跡	
	基本土層と土層の堆積状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2	
第2節	遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2	259

第9章	まとめ	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •		•••••		 266	3
附編							
分析1	富士岡1古墳群、	向山遺跡に	おける放射性	炭素年代(A M	[S測定] ····	 272	2
分析 2	富士岡1古墳群、	向山遺跡、	中尾沢遺跡出土	上炭化材の樹種		 276	3
写真図版	i.						
報告書物	· 绿						

報告書抄録

挿 図 目 次

第1図	静岡県と富士市の位置 ・・・・・・・・・ 1	第28図	遺物集中1・2 37
第2図	遺跡位置図		S K 1 38
第3図	富士市域の地質の概略 ・・・・・・・・・ 6	第30図	遺構出土遺物(古墳時代前期)
第4図	周辺遺跡地図 9)	1 39
第5図	調査区位置図 15	5 第31図	遺構出土遺物(古墳時代前期)
第6図	グリッド配置図 ・・・・・・ 16	6	240
第7図	基本土層柱状図16	6 第32図	遺構出土遺物(古墳時代前期)
第8図	第1遺構面遺構配置図 · · · · · 17	7	3 41
第9図	第1遺構面遺構配置拡大図1 ···· 18	8 第33図	遺構出土遺物(古墳時代前期)
第10図	第1遺構面遺構配置拡大図219	9	442
第11図	1 号古墳周溝 ・・・・・・・ 21	1 第34図	第1遺構面 溝状遺構 … 43
第12図	2 号古墳周溝 · · · · · · 22	2 第35図	第2遺構面遺構配置図 … 45
第13図	S D13 · · · · · · 23	第36図	第2遺構面遺構配置拡大図1 ···· 46
第14図	第1遺構面 土坑 24	4 第37図	第2遺構面遺構配置拡大図2 … 47
第15図	遺構出土遺物(古墳時代後期)・・・・ 24	第38図	T A 1 ····· 48
第16図	S H 1 25	5 第39図	集石49
第17図	S H 2 · · · · · · · 26	6 第40図	第 2 遺構面 土坑 50
第18図	S H 3 27	7 第41図	配石土坑・埋甕 51
第19図	S H 4 · · · · · · 28	8 第42図	第 2 遺構面 S X 4 ····· 52
第20図	S H 5 29	9 第43図	1区 遺構出土遺物 1 … 53
第21図	T A 2 30	9 第44図	1区 遺構出土遺物 2 … 55
第22図	S B 1 31	1 第45図	1区 遺構出土遺物 3 … 56
第23図	S Z 1 32	2 第46図	1区 遺構出土遺物 4 … 57
第24図	S Z 2 · · · · · · 33	3 第47図	1区 包含層出土土器 1 59
第25図	S Z 3 34	第48図	1区 包含層出土土器 2 60
第26図	S Z 3 遺物出土状況 · · · · · · 35	5 第49図	1区 包含層出土土器 3 63
第27図	S Z 4 • S Z 5 · · · · · · 36	6 第50図	1区 包含層出土土器 4 66

第51図	1区 包含層出土土器 5 · · · · · · 67	第91図	第1遺構面 土坑1123
第52図	1区 包含層出土土器 6 68	第92図	第1遺構面 土坑2124
第53図	1区 包含層出土土器 7 · · · · · 69	第93図	遺構出土遺物 124
第54図	1区 包含層出土石器 1 … 72	第94図	第2遺構面遺構配置図 125
第55図	1区 包含層出土石器 2 73	第95図	S H 1
第56図	1区 包含層出土石器 3 74	第96図	S H 2 128
第57図	1区 包含層出土石器 4 75	第97図	S H 10 · · · · · 129
第58図	1区 包含層出土石器 5 76	第98図	S H11 · · · · · · 130
第59図	1区 包含層出土石器 6 · · · · · · 77	第99図	S H11遺物出土状況 · · · · · 131
第60図	1区 包含層出土石器 7 · · · · · · 78	第100図	T A 7 · · · · · 132
第61図	1区 包含層出土石器 8 · · · · · 79	第101図	S B 1 · · · · · 133
第62図	1区 包含層出土石器 9 80	第102図	第1遺構面 溝状遺構・土坑 … 134
第63図	1区 包含層出土石器10 81	第103図	S K 134 · S K 135 · · · · · 135
第64図	1区 包含層出土石器11 … 82	第104図	性格不明遺構 136
第65図	1区 包含層出土石器 (旧石器) · 83	第105図	遺構出土土器(古墳時代前期)
第66図	2区 第1遺構面遺構配置		1
	拡大図384	第106図	遺構出土土器(古墳時代前期)
第67図	3 号古墳周溝 1 85		2
第68図	3 号古墳周溝 2 86	第107図	遺構出土遺物(古墳時代前期) · · 140
第69図	S D20 ····· 87	第108図	第3遺構面遺構配置図 141
第70図	遺構出土遺物(古墳時代後期)・・・・ 87	第109図	S H14 · · · · · · 143
第71図	T A 3 ····· 88	第110図	S H14遺物出土状況 · · · · · 144
第72図	S D22 ····· 89	第111図	T A 1 · · · · · · 145
第73図	第1遺構面 土坑 90	第112図	T A 2 • T A 3 · · · · · · 146
第74図	2区 遺構出土遺物 1 … 91	第113図	T A 4 • T A 5 · · · · · · 147
第75図	2区 遺構出土遺物 2 … 92	第114図	T A 6 · · · · · · 148
第76図	第2遺構面遺構配置拡大図3 … 93	第115図	集石1149
第77図	集石・第2遺構面 土坑 94	第116図	集石 2150
第78図	2区 遺構出土遺物 95	第117図	第3遺構面 土坑1 151
第79図	2区 包含層出土土器 1 … 96	第118図	第 3 遺構面 土坑 2 152
第80図	2区 包含層出土土器 2 … 98	第119図	S X 3 ······ 153
第81図	2区 包含層出土土器 3 … 99	第120図	遺構出土遺物 1 156
第82図	2区 包含層出土土器 4 101	第121図	遺構出土遺物 2 157
第83図	2区 包含層出土石器 1 102	第122図	遺構出土遺物 3 158
第84図	2区 包含層出土石器 2 103	第123図	遺構出土遺物 4 159
第85図	2区 玦状耳飾104	第124図	遺構出土遺物 5 160
第86図	調査区位置図 119	第125図	遺構出土遺物 6 161
第87図	グリッド配置図 ・・・・・・・ 120	第126図	遺構出土遺物 7 · · · · · · 162
第88図	基本土層柱状図 · · · · · 120	第127図	遺構出土遺物 8 · · · · · 163
第89図	第1遺構面遺構配置図 121	第128図	遺構出土遺物 9 · · · · · · 164
第90図	第 1 遺構面 溝状遺構 122	第129図	包含層出土土器 1 166

第130図	包含層出土土器 2	• 167	第165図	包含層出土石器16 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	215
第131図	包含層出土土器 3	• 170	第166図	包含層出土石器17 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	216
第132図	包含層出土土器 4 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	• 171	第167図	包含層出土石器18 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	217
第133図	包含層出土土器 5	· 173	第168図	包含層出土石製品 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	218
第134図	包含層出土土器 6	• 174	第169図	包含層出土石器 (旧石器)	220
第135図	包含層出土土器 7	• 177	第170図	調査区位置図 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	238
第136図	包含層出土土器 8	· 178	第171図	グリッド配置図 ・・・・・・・・・・・・・・・	239
第137図	包含層出土土器 9	• 179	第172図	基本土層柱状図 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	239
第138図	包含層出土土器10 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	· 180	第173図	第1遺構面遺構配置図	240
第139図	包含層出土土器11 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	· 181	第174図	第1遺構面 土坑・小穴・・・・・・・・	241
第140図	包含層出土土器12 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	· 182	第175図	第2遺構面遺構配置図	242
第141図	包含層出土土器13 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	• 184	第176図	S H 1	243
第142図	包含層出土土器14 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	· 185	第177図	S H 2	244
第143図	包含層出土土器15 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	· 187	第178図	SH2遺物出土状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	245
第144図	包含層出土土器16 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	· 189	第179図	S H 3	246
第145図	包含層出土土器17 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	• 190	第180図	S H 4 ······	247
第146図	包含層出土土器18 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	• 191	第181図	S B 1	248
第147図	包含層出土土器19 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	• 194	第182図	第 2 遺構面 溝状遺構	249
第148図	包含層出土土器20 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	• 195	第183図	遺構出土遺物 1 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	250
第149図	包含層出土土器21 · · · · · · · · · · · ·	• 197	第184図	遺構出土遺物 2	251
第150図	包含層出土石器 1	• 199	第185図	包含層出土土器(古墳時代前期)	
第151図	包含層出土石器 2	· 200		••••••	252
第152図	包含層出土石器 3	· 201	第186図	包含層出土土器 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	254
第153図	包含層出土石器 4	· 202	第187図	包含層出土石器 1	255
第154図	包含層出土石器 5	· 203	第188図	包含層出土遺物 2	256
第155図	包含層出土石器 6	· 204	第189図	調査区位置図 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	259
第156図	包含層出土石器 7 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	· 205	第190図	グリッド配置図 ・・・・・・・・・・・・・・・	260
第157図	包含層出土石器 8	· 206	第191図	基本土層柱状図 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	260
第158図	包含層出土石器 9	· 207	第192図	遺構配置図 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	261
第159図	包含層出土石器10	· 208	第193図	溝 状遺構 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	262
第160図	包含層出土石器11 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	· 209	第194図	土坑·小穴 ···································	263
第161図	包含層出土石器12 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	• 211	第195図	遺構出土遺物 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	264
第162図	包含層出土石器13 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	• 212	第196図	包含層出土遺物 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	264
第163図	包含層出土石器14 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	• 213	第197図	富士岡1古墳群遺構変遷図 ·····	267
第164図	包含層出土石器15 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	• 214			
附編					
第198図	暦年較正年代グラフ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	· 275	第201図	向山遺跡の炭化材 (2)	282
第199図	富士岡1古墳群の炭化材	· 280	第202図	中尾沢遺跡の炭化材 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	282
第200図	向山遺跡の炭化材 (1) ・・・・・・・・・	· 281			

挿 表 目 次

第1表	工程表4	第23表	富士岡1古墳群2区
第2表	周辺遺跡地名表 9		古墳時代土器観察表 115
第3表	発掘調査された古墳の概要 14	第24表	富士岡1古墳群2区
第4表	富士岡1古墳群の調査歴 ・・・・・・ 14		縄文時代土器観察表 116
第5表	富士岡1古墳群1区	第25表	富士岡1古墳群2区
	古墳周溝の概要 … 104		縄文時代石器属性表 · · · · · 118
第6表	富士岡1古墳群1区	第26表	富士岡1古墳群2区縄文時代
	竪穴建物の概要		玦状耳飾属性表118
第7表	富士岡1古墳群1区	第27表	向山遺跡竪穴建物の概要 221
	掘立柱建物の概要 104	第28表	向山遺跡竪穴状遺構の概要 ・・・・・・ 221
第8表	富士岡1古墳群1区	第29表	向山遺跡掘立柱建物の概要 ・・・・・・ 221
	方形周溝墓の概要 104	第30表	向山遺跡溝状遺構の概要 ・・・・・・・ 221
第9表	富士岡1古墳群1区	第31表	向山遺跡集石の概要 ・・・・・・・・・・ 221
	溝状遺構の概要 … 104	第32表	向山遺跡土坑・小穴の概要 ・・・・・・ 222
第10表	富士岡1古墳群1区	第33表	向山遺跡中世・古墳時代
	竪穴状遺構の概要 … 104		土器観察表 224
第11表	富士岡1古墳群1区集石の概要 ・・ 105	第34表	向山遺跡古墳時代
第12表	富士岡1古墳群1区		金属製品属性表 · · · · · · 224
	土坑・小穴の概要 105	第35表	向山遺跡古墳時代
第13表	富士岡1古墳群1区		石製品属性表 … 224
	古墳時代土器観察表 · · · · · · 107	第36表	向山遺跡縄文時代土器観察表 · · · · 225
第14表	富士岡1古墳群1区	第37表	向山遺跡縄文時代土製品観察表 · · 234
	縄文時代土器観察表 · · · · · · 108	第38表	向山遺跡縄文時代石器属性表 · · · · 235
第15表	富士岡1古墳群1区	第39表	向山遺跡縄文時代石製品属性表 · · 237
	土製品観察表 · · · · · · 113	第40表	向山遺跡旧石器時代石器属性表 · · 237
第16表	富士岡1古墳群1区	第41表	中尾沢遺跡竪穴建物の概要 ・・・・・・ 257
	縄文時代石器属性表 113	第42表	中尾沢遺跡掘立柱建物の概要 ・・・・ 257
第17表	富士岡1古墳群1区	第43表	中尾沢遺跡溝状遺構の概要 ・・・・・ 257
	旧石器時代石器属性表 · · · · · 114	第44表	中尾沢遺跡土坑・小穴の概要・・・・ 257
第18表	富士岡1古墳群2区	第45表	中尾沢遺跡古墳時代土器観察表 · · 257
	古墳周溝の概要 ・・・・・・ 114	第46表	中尾沢遺跡縄文時代土器観察表 · · 258
第19表	富士岡1古墳群2区	第47表	中尾沢遺跡縄文時代石器属性表 · · 258
	竪穴状遺構の概要 114	第48表	分地遺跡溝状遺構の概要 265
第20表	富士岡1古墳群2区	第49表	分地遺跡土坑・小穴の概要 ・・・・・・ 265
	溝状遺構の概要 ・・・・・・ 115		分地遺跡縄文時代土器観察表 · · · · 265
第21表	富士岡1古墳群2区集石の概要・・115	第51表	分地遺跡縄文時代石器属性表 · · · · 265
第22表	富士岡1古墳群2区		
	土坑・小穴の概要 115		

附編

第52表 富士岡1古墳群、向山遺跡における 表54表 富士岡1古墳群 (SFJO) の 放射性炭素年代・・・・・・・・・・・ 274 横種同定結果・・・・・・・・ 276 表53表 富士岡1古墳群、向山遺跡における 表55表 向山遺跡 (SMY) の 放射性炭素年代 (参考値)・・・・ 274 横種同定結果・・・・・・・ 278

図版目次

カラー図版	反1 富士岡1古墳群	図版 7	富士岡1古墳群1区
	1区第1遺構面調査区東側		SZ3土層帯南壁
カラー図版	反2 富士岡1古墳群 古墳時代		SZ3北側土層帯西壁
	土師器集合		SZ3遺物出土状況
カラー図版	反3 向山遺跡 古墳時代		遺物集中2
	土師器集合		SZ3遺物出土状況
	中尾沢遺跡 古墳時代		SZ5土層断面
	土師器集合	図版 8	富士岡1古墳群1区
カラー図版	反4 向山遺跡 縄文土器集合		SK1遺物出土状況
	富士岡1古墳群 顔面把手付土器		T A 1
	向山遺跡 顔面装飾	図版 9	富士岡1古墳群1区 SY12
			S Y11
富士岡1さ	占墳群		S X 4
図版 1	富士岡1古墳群1区 第1遺構面遺構	図版10	富士岡1古墳群1区
	1号古墳周溝		第2遺構面調査区東側土坑群
図版 2	富士岡1古墳群1区		S K80遺物出土状況
	1号古墳周溝礫出土状況		S P 193
	2号古墳周溝検出状況	図版11	富士岡1古墳群1区
図版3	富士岡1古墳群1区 SH1		遺構出土土師器
	S H 2	図版12	富士岡1古墳群1区
図版 4	富士岡1古墳群1区 SH3		遺構出土土師器
	S H 4		TA1出土土器
図版 5	富士岡1古墳群1区 SH5掘方		S Y11出土土器
	TA2遺物出土状況		S Y11・S X 4 出土石器
	T A 2	図版13	
図版 6	富士岡1古墳群1区 SZ1~3		S P 出土土器
	S Z 1 土層断面		SP193 埋甕
	SZ2土層断面		S X 4 出土土器
	SZ1遺物出土状況		I 群1類 c
	遺物集中1		I群1類h·i

<u>155</u> 4 1	TT TDV 4 WET 1	台.1. 2年日七	
図版14			点山·惠琳 一览 0 / 惠排 云 古 仰 人 見
□71515	II 群 2 類 d	図版29	向山遺跡 第2遺構面東側全景
図版15	II群2類c		第2遺構面西側全景 向山遺跡 第1遺構面土坑
	II 群 2 類 e II 群 2 類 f ・ g ・ h	図版30	同山退跡 第1退件回工机 SD1
	Ⅲ群1類1・g・Ⅱ Ⅲ群1類a 顔面把手付土器		SK3
☑16	Ⅲ群1類a		S K 49遺物出土状況
図版16	Ⅲ群1類a小型鉢	网胎91	向山遺跡 SH1
		図版31	
	III群1類c・d・2類d	₩ ₩	SH2掘方
	Ⅲ群3類c・e・ f	図版32	向山遺跡 S H10掘方
	IV群b	MILEOO	S H11遺物出土状況
57 LE 1 7	土製円板	図版33	向山遺跡 S H11掘方
図版17	1区出土石鏃・石匙・石錘・石核	₩# E 04	TA7
図版18	1区出土スクレイパー・打製石斧	図版34	向山遺跡 SH1炉半載状況
図版19			SH2置石炉
図版20	1区出土打製石斧・磨製石斧 2		S H10遺物出土状況
57 ¥≓01	1区出土旧石器		S H11置石炉
図版21	富士岡1古墳群2区		S H11遺物出土状況 1
	第1遺構面全景	TOTAL LEGIS	S H11遺物出土状況 2
571111 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	第2遺構面全景	図版35	向山遺跡 SK4
図版22	富士岡1古墳群2区		S K 134 • 135
	3号古墳周溝	図版36	向山遺跡 SH14
	3号古墳周溝礫出土状況		S H14石囲炉
図版23	富士岡1古墳群2区 TA3		S H14埋甕
	S D22	図版37	向山遺跡 TA1
図版24	富士岡1古墳群2区 SY20		TA2
	S K 101		TA3
□ # # A =	S K 104	図版38	向山遺跡 TA4
図版25	富士岡1古墳群2区		T A 5
	遺構出土土師器		TA6
図版26	富士岡1古墳群2区	図版39	向山遺跡 SY2
	遺構出土土器		S Y 5
	I群1類b		SY7
	I 群 1 類 h · II 群 1 類 b · c · g · h	図版40	向山遺跡 SY6
図版27	II 群 1 類 k		S Y 9
	II 群 2 類 a		S Y 11
図版28	II 群 2 類 a	図版41	向山遺跡 SY4
	II 群 2 類 d ・ f		S Y 3
	富士岡1古墳群2区		S Y 10
	出土石器・玦状耳飾		

図版56 Ⅲ群3類a·b·d 図版42 向山遺跡 SY8 S Y 1 Ⅲ群3類c S X 3 Ⅲ群3類e III群3類e・IV群a 図版43 向山遺跡古墳時代土師器 図版44 古墳時代土師器 他 IV群 b SH14出土土器 図版57 有茎尖頭器・石鏃・石匙 SH14出土土器 図版58 石錘 TA2~4出土土器 スクレイパー TA6出土土器 打製石斧 SK·SP出土土器 磨製石斧・礫器・石核 SX3出土土器 石核 図版45 遺構出土石器 図版59 玉類 図版46 I群1類a·c 旧石器 I群1類e・f・g 図版47 I 群 2 類 a・b・c・d 中尾沢遺跡・分地遺跡 I 群 2 類 e・f・g・h・i 中尾沢遺跡 第2遺構面全景 図版48 図版60 II群1類a·b·c·d·II群1類k 分地遺跡 全景 中尾沢遺跡 SH1 図版49 II群1類g 図版61 Ⅱ群1類i SH2遺物出土状況 中尾沢遺跡 SH3 図版50 II群2類a 図版62 II群2類b S H 4 分地遺跡 SD1 II群2類c 図版63 S D 2 図版51 II群2類c 図版52 II群2類c 図版64 中尾沢遺跡古墳時代土師器 II群2類c 図版65 中尾沢遺跡Ⅱ群2類a II群2類d 中尾沢遺跡Ⅲ群1類a II群2類d 中尾沢遺跡剥片石器 図版53 II群2類f 中尾沢遺跡打製石斧 II群2類g·h 分地遺跡出土土器 Ⅱ群2類i 分地遺跡石鏃 Ⅲ群1類a 図版54 図版55 Ⅲ群1類c·d·Ⅲ群2類a·b·c·d Ⅲ群3類a

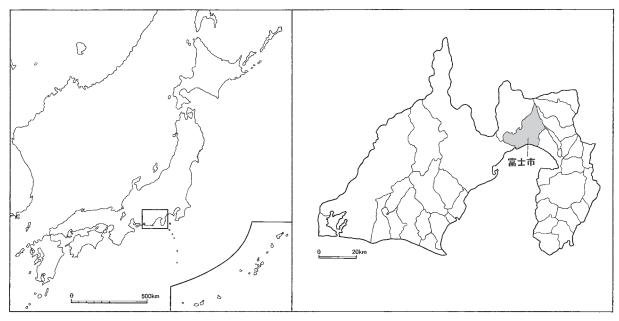
第1章 調査の経緯

日本のほぼ中央に位置する静岡県は、富士山や赤石山地を背景に駿河湾、相模湾、遠州灘に面している。その駿河湾の奥部に位置する富士市は古くから交通の要所として発展してきた。市内には東名高速道路、西富士道路、新東名高速道路など、主要な交通網が整備されている。その一方で市内山間部の道路整備は先述の幹線道路ほど進んでおらず、農工業などの産業に支障をきたしている。

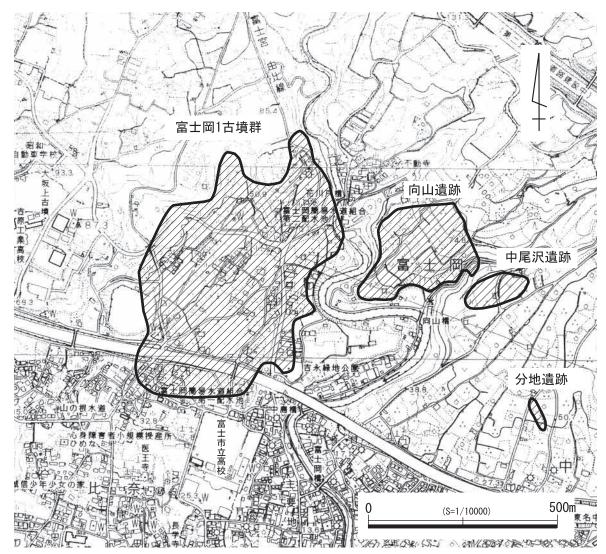
静岡県富士農林事務所(以下富士農林)は地域活性化基幹農道愛鷹2期地区農道整備事業の一環として、富士市富士岡及び中里に農道建設を計画した。富士農林は静岡県教育委員会文化課(平成22年度に文化財保護課に課名変更)の事業照会に対して、この事業を計画していると回答した。文化課は工事計画範囲における周知の埋蔵文化財包蔵地の存在の有無を調べた結果、工事計画範囲内に富士岡1古墳群、向山遺跡、中尾沢遺跡が含まれていることが明らかとなり、富士農林にこの旨を回答した。

文化課は、平成20年度にこれら3遺跡と、中尾沢遺跡の南東側に位置する尾根の計4地点の確認調査を実施した。この結果、4地点とも遺構を検出し、包含層中から遺物が出土した。工事によって遺跡が破壊されることから、文化課は4地点とも本発掘調査が必要であると判断し、富士農林と調整を進めた。文化課は南東側の尾根を分地遺跡として周知の埋蔵文化財包蔵地として新規登録した。分地遺跡は平成21年度に北西及び南東の隣接地で新たに確認調査を実施したところ、遺構が検出された。文化課はこの結果を踏まえて遺跡の範囲を拡大した。

発掘調査は文化課の指導のもと、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所(平成23年3月解散 以下埋文研)が実施する運びとなった。平成21年8月、富士農林は埋文研と埋蔵文化財調査に関する委託契約を結び、記録保存を目的とした発掘調査を実施した。発掘調査は平成22年8月まで継続した。また、富士岡1古墳群については、平成21年度に文化課が実施した近接地の確認調査で遺構及び遺物が検出、出土したことから、平成24年6月から同8月まで、埋文研の業務を引き継いだ静岡県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した。(岩崎)



第1図 静岡県と富士市の位置



第2図 遺跡位置図

第2章 調査の方法と経過

第1節 調査の方法

1 発掘調査

調査対象範囲には国土座標の方位に従って10mごとにグリッド杭を打設し、各遺跡において南から北に向かってアルファベット、西から東に向かってアラビア数字を付した。グリッドの名称は南西隅の記号を称した。富士岡1古墳群については、平成21~22年度の調査区を1区とし、平成24年度の調査区を2区とした。

遺構の検出状況や土層断面などの記録保存には6×7判(モノクロ・カラーリバーサル)フィルムカメラと35mm(カラーリバーサル)フィルムカメラを使用した。また、発掘作業の工程記録等の撮影はデジタルカメラを使用した。全景写真や景観写真については、ラジコンへリによる空中写真撮影を実施した。

遺構の測量、遺物の取り上げ位置、地形は光波で測定し、座標内での位置(X・Y座標)と標高(Z

座標)を記録した。遺構図面の作成及び各種座標の管理に当たっては、株式会社シン技術コンサルの「遺跡管理システム」を使用し、すべての遺構図面をデジタルデータで作成した。

遺物は遺跡別に製品の種類を問わず1番から通しで遺物番号を付して取り上げた。なお、この番号は本報告書図版番号とは一致しない。(岩崎)

2 資料整理

洗浄、注記等の基礎整理作業の一部は現地調査と並行して実施したが、本格的な資料整理は中原事務所(静岡市駿河区)で実施した。一部の作業は長泉事務所(駿東郡長泉町)で実施した。資料整理は株式会社パソナに委託した。

石器の実測は原則として第三角投影図法に準拠した。

遺構図版は「遺跡管理システム」で作成したデジタルデータの図面をAdobe Illustrator CS3に取り込み、編集して作成した。遺物図版の一部もAdobe Illustrator CS3で編集して作成した。

遺物写真は 6×7 判(モノクロ・カラーリバーサル)フィルムカメラと 4×5 判(モノクロ・カラーリバーサル)フィルムカメラを使用して撮影した。

黒曜石及びホルンフェルス以外の石器石材鑑定は、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。出土炭 化物の樹種同定及び放射性炭素年代測定は、株式会社加速器分析研究所に委託した。

出土品のうち、金属製品は保存処理を実施した。保存処理は株式会社パソナに委託した。(岩崎)

第2節 調査の経過

1 富士岡1古墳群

平成21~22年度の調査区を1区、平成24年度の調査区を2区とした。廃土処理の都合上、1区は東区と西区に区分した。

平成21年9月上旬に1区東区の重機による表土除去を実施した。9月中旬から10月中旬にかけて包含層第1層の人力掘削を実施した。10月中旬から12月上旬にかけて第1遺構面から検出された遺構を掘削した。12月上旬から平成22年1月下旬にかけて包含層第2層の人力掘削を実施した。1月下旬から2月上旬にかけて第2遺構面から検出された遺構を掘削した。各検出面において写真撮影及び遺構実測を実施した。2月中旬に下層の遺構・遺物を確認するためのテストピットを掘削して東区の調査が終了した。

2月下旬から3月上旬にかけて1区西区の重機による表土除去を実施した。3月上旬から下旬にかけて包含層第1層の人力掘削を実施した。4月上旬から下旬にかけて第1遺構面から検出された遺構を掘削した。5月上旬から下旬にかけて包含層第2層の人力掘削を実施した。これと並行して、5月下旬から6月上旬にかけて第2遺構面から検出された遺構を掘削した。各検出面において写真撮影及び遺構実測を実施した。6月上旬に下層の遺構・遺物を確認するためのテストピットを掘削して西区の調査が終了した。

平成24年6月下旬に2区の重機による表土除去を実施した。7月上旬から中旬にかけて、包含層第1層の人力掘削を実施した。7月中旬から8月上旬にかけて第1遺構面から検出された遺構を掘削した。8月上旬から下旬にかけて包含層第2層の人力掘削を実施した。8月下旬に第2遺構面から検出された遺構を掘削した。写真撮影及び遺構実測をして調査が終了した。(岩崎・西田)

2 向山遺跡

廃土処理の都合上、調査区は東区と西区に区分した。

平成21年10月中旬に東区の重機による表土除去を実施した。12月上旬から平成22年2月上旬にかけて包含層第1層の人力掘削を実施した。2月上旬から3月上旬にかけて第1遺構面から検出された遺構を掘削した。3月上旬から4月中旬にかけて包含層第2層の人力掘削を実施した。4月中旬から下旬にかけて第2遺構面から検出された遺構を掘削した。各検出面において写真撮影及び遺構実測を実施した。4月下旬に下層の遺構・遺物を確認するためのテストピットを掘削して東区の調査が終了した。

5月上旬から中旬にかけて西区の重機による表土除去を実施した。5月下旬から6月上旬にかけて包含層第1層の人力掘削を実施した。6月中旬から下旬にかけて第1遺構面から検出された遺構を掘削した。7月上旬から下旬にかけて包含層第2層の人力掘削を実施した。8月上旬に第2遺構面から検出された遺構を掘削した。各検出面において写真撮影及び遺構実測を実施した。8月中旬に下層の遺構・遺物を確認するためのテストピットを掘削して西区の調査が終了した。(岩崎)

3 中尾沢遺跡

平成21年11月上旬と平成22年1月下旬、5月上旬に重機による表土除去を実施した。5月中旬から下旬にかけてテストピットを掘削した。7月上旬に包含層第1層の人力掘削を実施した。7月中旬から8月上旬にかけて第1遺構面から検出された遺構を掘削した。8月中旬に包含層第2層の人力掘削を実施した。各遺構面において写真撮影及び遺構実測をして調査が終了した。(岩崎)

4 分地遺跡

平成21年10月上旬に重機による表土除去を実施した。10月中旬に包含層の人力掘削を実施した。10月下旬に作業は一時中断し、11月上旬に再度重機による表土除去を実施した。11月上旬から11月下旬まで再度包含層の人力掘削を実施した。12月上旬に検出された遺構を掘削した。写真撮影及び遺構実測を経て、12月中旬に調査が終了した。(岩崎)

第1表 工程表

	平 成 21 年					平	成	22	年			
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
富士岡1古墳群										_		
向 山 遺 跡		_	-									
中尾沢遺跡					-							
分 地 遺 跡												

成 24	年
7月	8月

第3章 遺跡の概要

第1節 地理的環境

富士岡1古墳群、向山遺跡、中尾沢遺跡、分地遺跡はJR富士駅から北東に約7㎞離れた地点に位置する。各遺跡から南に約200から400m離れた位置には東名高速道路が東西に走っている。

これら4遺跡は富士山とその南東側にそびえる愛鷹山が形成するなだらかな丘陵上に立地する。富士岡1古墳群と向山遺跡を隔てる谷には赤淵川が、向山遺跡と中尾沢遺跡を隔てる谷には赤淵川の支流の沢が流れている。

富士山の土台となる小御岳火山は愛鷹山や箱根火山(箱根外輪山)とともに約40万年前から火山活動を開始した。火口は現在の富士山より北北東に約3㎞離れた地点に位置する。約40万年前から約17万年前の活動で主に玄武岩質の溶岩を流出させ、山腹に降下した噴出物は大量の凝灰角礫岩を生成した。約17万年前からは、主な火山活動の場所が南東側に移り、噴出物は安山岩質のもので占められるようになった。小御岳火山の活動が停止した約8万年前以前に、現在の富士山頂がある付近に火口を開いた古富士火山は、その噴出物で小御岳火山を覆い尽くし、標高は2,700mに達したとされる。その後、約1万5千年前以前に古富士火山の火口に火道を開いた新富士火山は、大小の噴火活動を繰り返し、その噴出物により古富士火山を覆い尽した。有史時代に入ってからも引き続き活動し、現在の山体を形成した。

新富士火山は大量の玄武岩質岩板溶岩を主とする溶岩流を連続して発生させ、現在の富士山麓を形成している。この溶岩流によって形成された溶岩源は、開析谷に流れる大小河川のひとつである赤淵川が富士山系と愛鷹山系の境界となっている。従って富士岡1古墳群は富士山南麓、向山遺跡、中尾沢遺跡、分地遺跡は愛鷹山南西麓に立地する遺跡となる。

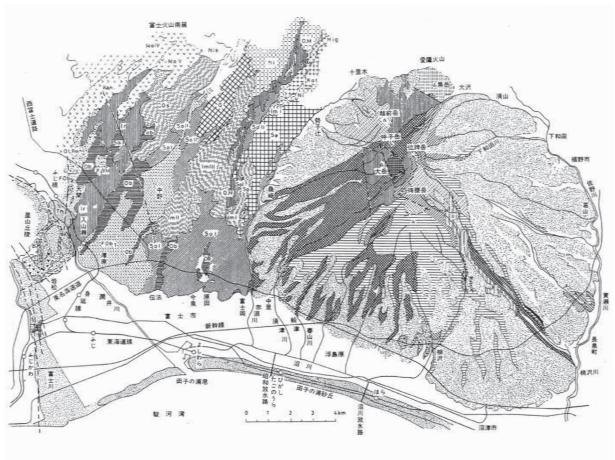
愛鷹山は約40万年前に小御岳火山とともに火山活動を開始した。愛鷹山の活動は新旧2期に分かれている。そのうち旧期の火山活動は新期の火山活動と比較してその規模が極めて大きく、現在の愛鷹山の山体はほとんどが旧期活動の噴出物によって構成されている。新旧2期の間には火山活動の休止期があり、この時に山体の浸食が進んでいる。

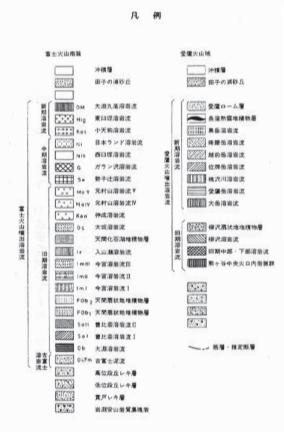
約10万年前に火山活動を終えた愛鷹山は浸食にさらされるとともに、約3万5千年前から約1万1千年前の古富士火山と新富士火山の活動によって、愛鷹ローム層が堆積した。愛鷹ローム層は下部、中部、上部とこれに重なる現世腐植質風化火山灰層の4分層から形成される。このうち上部ローム層は風化の進んだ腐植質土壌とされる黒色帯と、激しい噴火で短時間に堆積したスコリア層が交互に折り重なる。その上にクロボクと呼ばれる腐植質火山灰層が堆積している。さらに富士山南麓の寄生火山である高鉢山から噴火したと考えられる大淵スコリア(註)がクロボクの上に堆積している。(岩崎)

第2節 歷史的環境

1 旧石器時代

富士市域の旧石器時代の遺跡は、かつては愛鷹山南西麓を市域に含むにも関わらず極めて少なく、遺物の多くは表面採取によって得られていた。富士山南麓では天間沢遺跡で報告書にナイフ形石器などが採取されたとの記述が見られるが、詳細は不明である。また、愛鷹山南西麓ではナイフ形石器や小型石





第3図 富士市域の地質の概略(富士市教委2005より抜粋)

刃などが出土した峰山遺跡、陣ヶ沢A・B遺跡、矢川上C遺跡などが知られていた。

平成10年以降、埋文研による新東名高速道路建設事業に伴う発掘調査で、古木戸A遺跡、古木戸B遺跡、天ヶ沢東遺跡において石器ブロックや礫群が確認され、ナイフ形石器や細石刃などが出土した。さらに矢川上C遺跡では多数の石器ブロックや礫群が確認され、ナイフ形石器や角錐形石器が出土した。

2 縄文時代

縄文時代の遺跡は主に愛鷹山南西麓、富士山南麓、岩本山丘陵に分布している。

草創期の遺跡は確認されていない。早期は、富士山南麓に押型文や茅山下層式土器が出土したジンゲン沢遺跡、岩本山丘陵に押型文や田戸式土器が出土した方野遺跡などがある。愛鷹山南西麓には押型文土器や絡条帯圧痕文土器が出土した陣ヶ沢A・B遺跡、押型文土器が出土した矢川上A・B遺跡などがある。前期は、遺跡数は少ないが、天間沢遺跡、愛鷹山南西麓の花川戸遺跡などでは木島式土器が出土しており、時代幅の長い複合遺跡で当該期の資料が挙げられる。中期は遺跡数が多く、集落の規模も大きくなる。天間沢遺跡は縄文時代から律令期まで続く複合遺跡であり、竪穴建物、配石遺構、土坑が検出され、勝坂式、曽利式、加曽利E式土器が出土した。愛鷹山南西麓の椎木平遺跡では遺構は検出されていないが、五領ヶ台式、曽利式土器などが採集されている。後期は遺跡数が減少し、規模も小さくなる。富士山南麓の宇東川遺跡は柄鏡形敷石建物を含む竪穴建物と土坑が検出され、曽利IV式から堀之内式、加曽利B式土器が出土した。同じく富士山南麓の赫夜姫遺跡では堀之内式の注口土器が出土した。また、埋文研が新東名建設に伴って発掘調査をした愛鷹山南西麓の不動棚遺跡、富士山南麓の松坂遺跡では、遺構はほとんど確認できなかったが、堀之内式土器の良好な資料が出土した。田子浦砂丘に立地する三新田遺跡では晩期の土器片が出土した。

3 弥生時代

愛鷹山南西麓、富士山南麓及びその近辺の平野部においては、前期の遺跡は見られない。

富士山南麓に立地する大坂遺跡、岩倉遺跡、愛鷹山南西麓に立地する富士岡中尾遺跡では中期の土器の出土が伝えられる。沖積平野に立地する沖田遺跡は弥生時代から古墳時代に至る複合遺跡であり、中・後期の土器に加えて大量の木製品が出土した。

後期の遺跡数は増加する。愛鷹山南西麓では、低湿地の縁辺部の台地上に立地する宮添遺跡で後期から平安時代の竪穴建物が検出された。的場遺跡では東海道新幹線建設に伴う発掘調査によって後期から古墳時代前期にわたる竪穴建物が検出された。丘陵上に立地する遺跡は神谷遺跡、花川戸遺跡、峰山遺跡などが挙げられる。平稚遺跡では埋文研が実施した新東名建設に伴う発掘調査によって後期前半と古墳時代前期の集落が検出された。

4 古墳時代

集落遺跡は、高徳坊遺跡、天間沢遺跡、東平遺跡、沢東A・B遺跡、祢宜ノ前遺跡、宮添遺跡、三新田遺跡などが挙げられる。沢東A遺跡は中期から奈良時代の集落で、竪穴建物のほか、子持勾玉など祭祀関連の遺構・遺物も確認されている。祢宜ノ前遺跡では前期と後期から平安時代までの竪穴建物が確認された。三新田遺跡は前期から平安時代にわたる集落で、竪穴建物が多数確認されている。

富士市内ではおよそ600基の古墳が確認されている。市内で最初に築造された古墳は浅間古墳である。この古墳は全長93mの前方後方墳で、4世紀末から5世紀初頭の築造と考えられている。前期末には東坂古墳が築造された。この古墳は全長60mの前方後円墳で、副葬品として、七連弧紋を持つ内行花文鏡、四獣鏡、琴柱形石製品、碧玉製石釧、玉類、大刀などが出土した。中期初頭には琴平古墳や薬師塚古墳

(船津L-第131号墳) などが築造された。

約半世紀の空白を経て、5世紀後半から6世紀前半には全長51.5mの天神塚古墳(須達J-第91号墳)、 径54mの二段築成の円墳である伊勢塚古墳が築造された。田子浦砂丘には、埴輪を伴う全長41.5mの前 方後円墳である山ノ神古墳や、全長40mの双方中方墳とされる庚申塚古墳が存在する。

6世紀後半になると、横穴式石室を埋葬施設とした小型の円墳が群をなして造営され、東駿河地域は 古墳が多く築造される日本全国的に見ても特徴的な地域となり、中里1~4古墳群、神谷古墳群、船津 1~8古墳群など100基を超える群集墳が築造されている。この他にも富士山南麓に石坂1~12古墳群、 一色1~9古墳群、間門古墳群、比奈1~7古墳群、富士岡1~4古墳群、愛鷹山南西麓に増川古墳群 など、数多くの古墳群が奈良時代前半まで築造される。

5 奈良~平安時代

天間代山遺跡、沢東A・B遺跡、東平遺跡、三日市廃寺、舟久保遺跡、宇東川遺跡、沖田遺跡、三新田遺跡が代表的な遺跡である。

東平遺跡では約350軒の竪穴建物、約70棟の掘立柱建物が確認され、駿東型甕、甲斐型坏、西駿型長胴甕、「布自」「厨」などの墨書土器、跨帯金具が出土した。これらの遺構・遺物から富士郡衙と想定され、官衙的性格の強い計画的集落である可能性が指摘されている。また、遺跡の南東部には多くの古瓦や「寺」と墨書された土師器坏が出土した三日市廃寺が位置する。この寺は『日本三代実録』所載の定額寺「法照寺」と推定されている。舟久保遺跡では竪穴建物が確認され、「倉」と記載された墨書土器が出土した。宇東川遺跡では180軒以上の竪穴建物、4棟の掘立柱建物が確認され、「布」「寺」などと記載された墨書土器が出土した。沖田遺跡では条里型畦畔と水田跡が検出された。

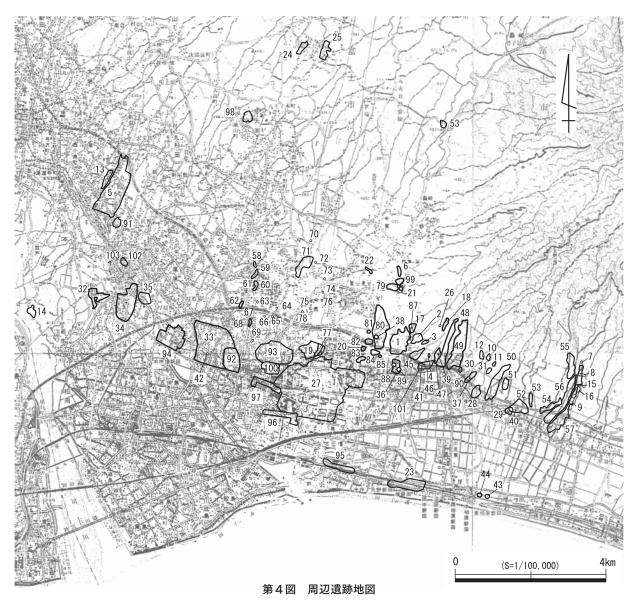
平安時代の遺跡は前述した舟久保遺跡、祢宜ノ前遺跡、三新田遺跡の他に、中桁・中ノ坪遺跡で10世紀まで続く集落が確認された。宮添遺跡では皇朝十二銭の第11番目「延喜通宝」や、鍛冶に関係する鞴の羽口が出土した。

6 中近世

中近世の遺跡は、元吉原宿遺跡、中吉原宿遺跡、新吉原宿遺跡など、東海道の宿駅に関わる遺跡が知られている。鎌倉時代初期に吉原湊の前身といえる見付が構えられ、これが発展して江戸時代の宿駅となった。中吉原宿遺跡では多量の肥前、瀬戸、美濃産などの陶磁器が出土している。

戦国期の城館跡では、後北条氏により築城された「河東十二塁」の一つあるいは武田氏に由来する大淵衆との関係が考慮される大淵城跡、後北条氏の「河東十二塁」の一つと想定される夷城跡、応永24年 (1417年) に今川範政により河東一帯への今川支配の拠点として築城されたとされる善得寺城跡、天神川城跡、入山瀬城跡、林泉寺砦跡などが所在するが、ほとんどが開発により消滅し、詳細な様相は不明である。(岩崎)

註 大淵スコリアの降灰時期については諸説あるが、近年になって考古学における発掘調査の成果や自然科学分析の結果 などから、およそ1500年前前後に定まりつつある。



第2表 周辺遺跡地名表

1	富士岡1古墳群	27	沖田遺跡	53	船津4古墳群	79	間門古墳群
2	向山遺跡	28	宮添遺跡	54	船津5古墳群	80	比奈1古墳群
3	中尾沢遺跡	29	的場遺跡	55	船津6古墳群	81	比奈2古墳群
4	分地遺跡	30	神谷遺跡	56	船津7古墳群	82	比奈3古墳群
5	天間沢遺跡	31	平椎遺跡	57	船津8古墳群	83	比奈4古墳群
6	峰山遺跡	32	高徳坊遺跡	58	石坂 1 古墳群	84	比奈5古墳群
7	陣ヶ沢A遺跡	33	東平遺跡	59	石坂2古墳群	85	比奈6古墳群
8	陣ヶ沢B遺跡	34	沢東A遺跡	60	石坂3古墳群	86	比奈7古墳群
9	矢川上C遺跡	35	沢東B遺跡	61	石坂4古墳群	87	富士岡2古墳群
10	古木戸A遺跡	36	祢宜ノ前遺跡	62	石坂 5 古墳群	88	富士岡 3 古墳群
11	古木戸B遺跡	37	浅間古墳	63	石坂6古墳群	89	富士岡4古墳群
12	天ヶ沢東遺跡	38	東坂古墳	64	石坂7古墳群	90	増川古墳群
13	ジンゲン沢遺跡	39	琴平古墳	65	石坂8古墳群	91	天間代山遺跡
14	万野遺跡	40	薬師塚古墳	66	石坂9古墳群	92	三日市廃寺
15	矢川上A遺跡	41	天神塚古墳	67	石坂10古墳群	93	舟久保遺跡
16	矢川上B遺跡	42	伊勢塚古墳	68	石坂11古墳群	94	中桁・中ノ坪遺跡
17	花川戸遺跡	43	山ノ神古墳	69	石坂12古墳群	95	元吉原宿遺跡
18	椎木平遺跡	44	庚申塚古墳	70	一色1古墳群	96	中吉原宿遺跡
19	宇東川遺跡	45	中里1古墳群	71	一色2古墳群	97	新吉原宿遺跡
20	赫夜姫遺跡	46	中里2古墳群	72	一色 3 古墳群	98	大淵城跡
21	不動棚遺跡	47	中里3古墳群	73	一色4古墳群	99	夷城跡
22	松坂遺跡	48	中里4古墳群	74	一色 5 古墳群	100	善得寺城跡
23	三新田遺跡	49	神谷古墳群	75	一色 6 古墳群	101	天神川城跡
24	大坂遺跡	50	船津1古墳群	76	一色7古墳群	102	入山瀬城跡
25	岩倉遺跡	51	船津2古墳群	77	一色8古墳群	103	林泉寺砦跡
26	富士岡中尾遺跡	52	船津3古墳群	78	一色9古墳群		

第4章 資料の分類

1 古墳時代前期の土器

平成20~21年度に沼津市教育委員会により高尾山古墳の発掘調査が実施された(沼津市教委2012)。高 尾山古墳は古墳時代前期の前方後方墳で、現在発掘調査が行われた駿河・伊豆地域の古墳の中では最も 古い時期のものである。古墳の墳丘や周溝を中心に多量の土器が出土した。これらと今回の調査で出土 した土器には類似する点が多く見られることから、比較検討を行うために、器種分類は高尾山古墳出土 土器の分類(渡井2012)に準じて行った。

2 縄文時代土器・土製品の分類

報告にあたり、以下のように時期を主体にI群からIV群まで各群類に分類した。

I 群 早期の土器

- 1類 早期前葉~中葉の土器
 - a 燃糸文土器
 - b 表裏縄文土器
 - c 押型文土器
 - d 田戸下層式土器
 - e 子母口式土器
 - f 子母口式併行の土器
 - g 清水柳E類土器
 - h 野島式土器
 - i 鵜ヶ島台式土器
- 2類 早期後葉の土器
 - a 粕畑式土器
 - b 入海 I·II式土器
 - c 入海 I・II 式併行の土器
 - d 石山式土器
 - e 天神山式土器
 - f 茅山上層式以降の条痕文土器
 - g 打越式土器
 - h 神之木台式土器
 - i 木島Ⅱ式土器
 - j 早期末条痕文土器
 - k 早期末無文土器
 - 1 早期末~前期初頭のその他の土器

II 群 前期の土器

- 1類 前期前半の土器
 - a 下吉井式土器
 - b 木島垭式土器

- c 木島IX式土器
- d 木島IX·X式土器
- e 木島式土器
- f 二ツ木式~関山 I 式併行の土器
- g 関山 II 式土器
- h 黒浜式土器
- i 上の坊式土器
- j 清水ノ上Ⅱ式土器
- k 釈迦堂Z式土器
- 2類 前期後半の土器
 - a 諸磯b式土器
 - b 蜆ヶ森式風の土器
 - c 諸磯 c 式土器
 - d 十三菩提式土器
 - e 大木6式併行の土器
 - f 北白川Ⅲ式土器
 - g 大歳山式土器
 - h 大歳山式併行の土器
 - i 大歳山式系土器
 - j 前期末~中期初頭のその他の土器

Ⅲ群 中期の土器

- 1類 中期前葉の土器
 - a 五領ヶ台式土器
 - b 五領ヶ台式併行の土器
 - c 鷹島式土器
 - d 北裏 c 式土器
- 2類 中期中葉の土器
 - a 狢沢式土器
 - b 新道式土器
 - c 阿玉台式土器
 - d 勝坂式土器
- 3類 中期後葉の土器
 - a 曽利Ⅲ式土器
 - b 曽利Ⅲ·IV式土器
 - c 曽利IV式土器
 - d 曽利IV·V式土器
 - e 加曽利E3式土器
 - f 加曽利E4式土器

IV群 後期の土器

- a 加曽利B式土器
- b 堀之内式土器

3 縄文時代石器の分類

石鏃、石匙、打製石斧、磨・敲石・凹石類については以下のように細分を行い、石皿の器種分類についても以下に記載する。

石鏃

富士岡1古墳群他3遺跡から出土した石鏃は全て無茎石鏃である。基部と側縁の形態を基準に分類した。

Ⅰ類:平基 Ⅱ類:凹基

A 正三角形に近いもの(長幅比1.2まで)

- 1 両側縁が比較的真っ直ぐなもの
- 2 両側縁が外弯するもの
- B 二等辺三角形のもの(長幅比1.2以上)
 - 1 両側縁が比較的真っ直ぐなもの
 - 2 両側縁が外弯するもの
 - 3 側縁及び基部の形態が左右で異なるもの

Ⅲ類:円基 Ⅳ類:その他

石匙

長幅及び平面形態によって分類した。

横型:長幅比0.8以下のもの。 縦型:長幅比1.2以上のもの。

さらに平面形が比較的左右対称なものと非対称のものに細分した。

打製石斧

平面形態によって分類した。

I類:短冊形(両側縁が並行するもの)

Ⅱ類:撥 形(側縁が刃部に向かって広がるもの)

Ⅲ類:分銅形(胴部に括れがあるもの)

IV類:尖頭形(基部が尖るもの)

V類:その他(小型のもの、I~IV類に該当しないもの)

磨・敲石類(磨石・敲石・凹石を含む)

自然礫をほぼそのままの形で用い、使用により変形したと考えられる石器で、使用の痕跡と考えられる変形を次の3つに区分する。

- 「磨面」:磨りに使用したと想定される面。平滑でなくても凹凸のない平坦面あるいはゆるやかな凸面と認識されるものはこれに含めた。
- 「敲打痕」: 石の表面があばた状の凹凸。
- 「凹み」:周囲より明確に低くなっており、敲打のみで形成されるのではなく、内面が磨滅しているもの。敲打のみで低くなっている場合は敲打痕に分類する。

器種名はこれらの使用痕跡によって呼び分け、磨面のみ持つものを磨石、敲打痕のみを持つものを敲石、磨面、敲打痕の両方を持つものを磨敲石と表記することとする。

さらに形状と使用痕跡の部位との関係から次のように分類した。

I類:円盤状の礫を用いた磨石。片面だけに磨面があるものと両面に磨面があるもの、さらに側縁にも磨面があるものがある。

Ⅱ類:台形の礫を用いた磨石。下面に磨面がある。

Ⅲ類:棒状の礫を用いた磨石。側面だけでなく角にも磨面があるため、横断面が多角形を呈しているものも見られる。

IV類:円盤状の礫を用いた磨敲石。平坦面及び側縁に敲打痕がある。

V類:円盤状の礫を用いた敲石。平坦面及び側縁に敲打痕がある。

VI類:円盤状の礫を用いた凹石。平坦面に凹みがある。

石皿

手持ちではなく、据え置いて使用したと思われる大型の礫石器。形状と使用痕跡との関係から次のように分類した。

I類:円盤状の礫を用い、かつ磨面(平坦面或いは凹面)を持つもの。

Ⅱ類:角礫を用い、かつ磨面(平坦面或いは凹面)を持つもの。

(岩崎)

第5章 富士岡1古墳群

第1節 調査履歴

富士岡古墳群は愛鷹山麓と富士山麓を隔てる赤渕川沿いの富士山南麓側に位置する古墳群であり、それぞれ、1~4の古墳群の名前が付されている。『吉原市の古墳』により古くからその存在が知られている古墳群である(中野・後藤1958)。分布調査により27基以上の後期古墳の存在が想定されているものの、そのほとんどが消滅したとされている(富士市教委1988)。調査は富士市教育委員会によって過去に3度の本調査が行われているほか、農道整備や宅地造成によって複数回の試掘調査が行われている(第3表・第4表)。また、未報告ではあるが、平成23年度の宅地造成における調査では古墳が検出されたほか、縄文土器が出土したという。(西田)

第3表 発掘調査された古墳の概要

名 称	墳形・ 周溝	埋葬施設	石室全長	副 葬 品 等	文献
富土岡 F-22	不明	無袖形 横穴式石室		直刀・鉄鏃・須恵器(坏蓋・坏身・はそう・長頸 壺・甕)・灰釉陶器	富士市教委1998 『下前原遺跡・富士岡 F-第22号墳』
花川戸第1号墳	円墳?	無袖形 横穴式石室	6.0m以上	刀子・鉄鏃・耳環・土師器坏	富士市教委1995『富士市埋蔵文化財発掘調 查報告書第5集花川戸第1号墳』
花川戸第2号墳	不明	無袖形 横穴式石室		須恵器坏蓋・鉄製品	富士市教委2003
花川戸第3号墳	不明	無袖形 横穴式石室	4.5 m	玉類・銅釧・大刀・小刀・刀子・鉄鏃・須恵器 (坏蓋・坏身・長頸壺・はそう・平瓶) 土師器坏	『花川戸第2・3号墳発掘調査報告書』

第4表 富士岡1古墳群の調査歴

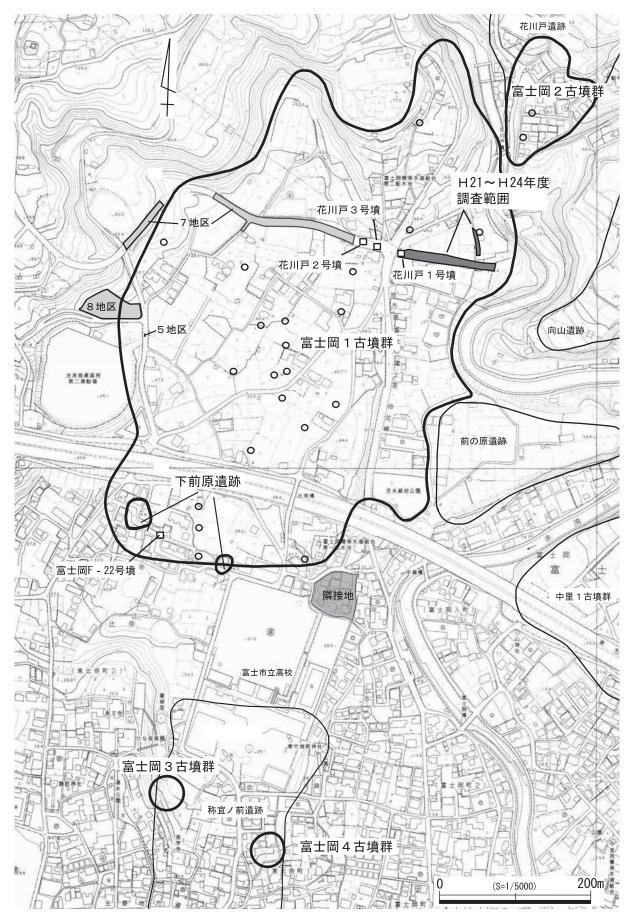
地区名・古墳名	調査年次	調査原因	報告書等
花川戸1号墳(2地区)	1994	富士宮由比線改修工事	富士市教委1995 『富士市埋蔵文化財発掘調査報告書第5集花川戸第1号墳』
富士岡 F-22号墳(3地区)	1997	宅地造成工事	富士市教委1998『下前原遺跡・富士岡F-第22号墳』
隣接地	2000	宅地造成工事	富士市教委2012『平成11·12年度 富士市内遺跡発掘調査報告書』
5 地区	2001	防火水槽築造工事	富士市教委2012『平成11·12年度 富士市内遺跡発掘調査報告書』
花川戸2号墳・3号墳(6地区)	2001 • 2002	農道整備工事	富士市教委2003『花川戸第2・3号墳発掘調査報告書』
7地区	2003	農道整備工事	富士市教委2009『平成15・19年度 富士市内遺跡発掘調査報告書』
	2004	農道整備工事	富士市教委2006『平成16年度 富士市内遺跡発掘調査報告書』
8 地区	2008	高校寄宿舎建設工事	富士市教委2010『平成14·20年度 富士市内遺跡発掘調査報告書』
_	2009 · 2012	農道整備工事	静岡埋文センター2013・本書

※ 報告書が刊行された調査のみ掲載

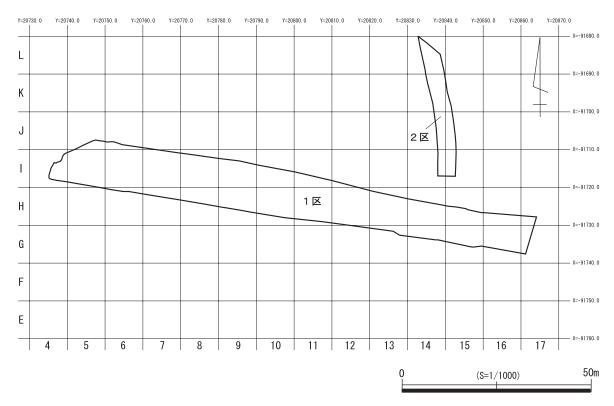
第2節 基本土層と土層の堆積状況

富士岡1古墳群は富士山南麓に立地する遺跡であるが、愛鷹ローム層が赤淵川を越えて堆積している。第2層の大淵スコリア層は本遺跡では部分的に堆積している。第3層は新富士火山から噴出した火山灰層である黒色土層と第4層の黒褐色土層、その下部に火山灰層である第5層栗色土層を挟んでいる。竪穴建物、方形周溝墓、古墳の周溝等の遺構の大部分が第5層上面で検出されている。第6層の休場層上面で縄文時代の遺構が検出された。またこの層は旧石器時代の遺物包含層でもある。愛鷹上部ローム層の堆積状況は悪く、休場層の直下は中部ローム層となる。

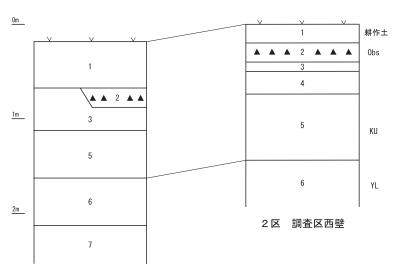
調査区は西から東にかけてゆるやかに傾斜しているが、第3層以下はほぼ水平に堆積している。(岩崎)



第5図 調査区位置図



第6図 グリッド配置図



1区 調査区南壁

第1層 耕作土

第2層 大淵スコリア層 10YR1.7/1 黒 粘性なし しまり弱 $5\sim 10\,\mathrm{mm}$ の赤色スコリア多量に含む

第3層 黒色土 10YR2/2 黒褐 第5層 栗色土層 7.5YR4/3 褐 粘性あり しまり弱 $1 \sim 2 \, \text{mm}$ の大沢スコリアと考えられる 赤色スコリアを含む

第4層 黒褐色土層 7.5YR3/1 黒褐 第6層 休場相当層 10YR/4/4 褐 粘性あり しまり弱い カワゴ平パミスと考えられる白色 パミス、赤褐色スコリアをわずかに 含む

粘性あり しまりやや強 赤色スコリアを少量含む

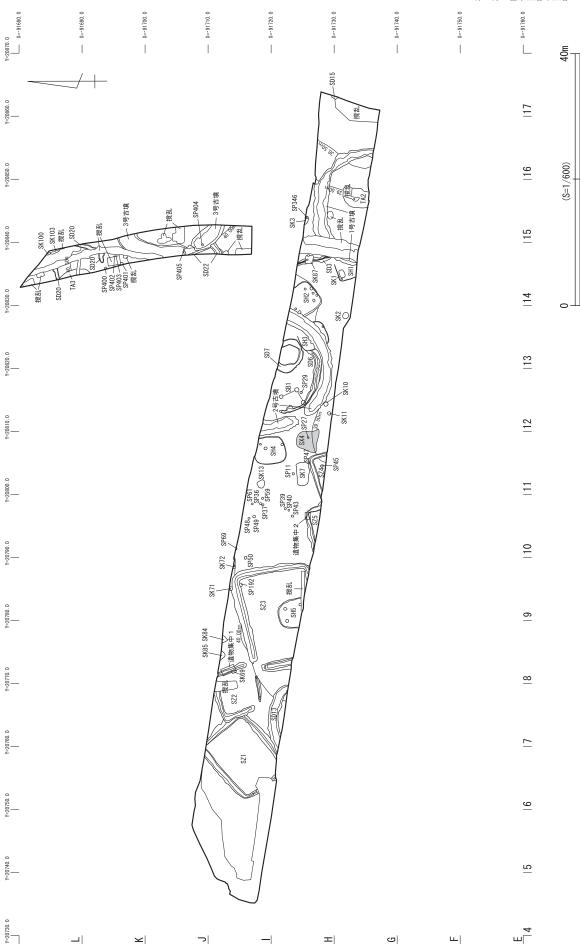
粘性あり しまり強 1~5㎜の赤色スコリア 1~2㎜の黒褐色スコリアを 少量含む

第7層 中部ローム

第7図 基本土層柱状図

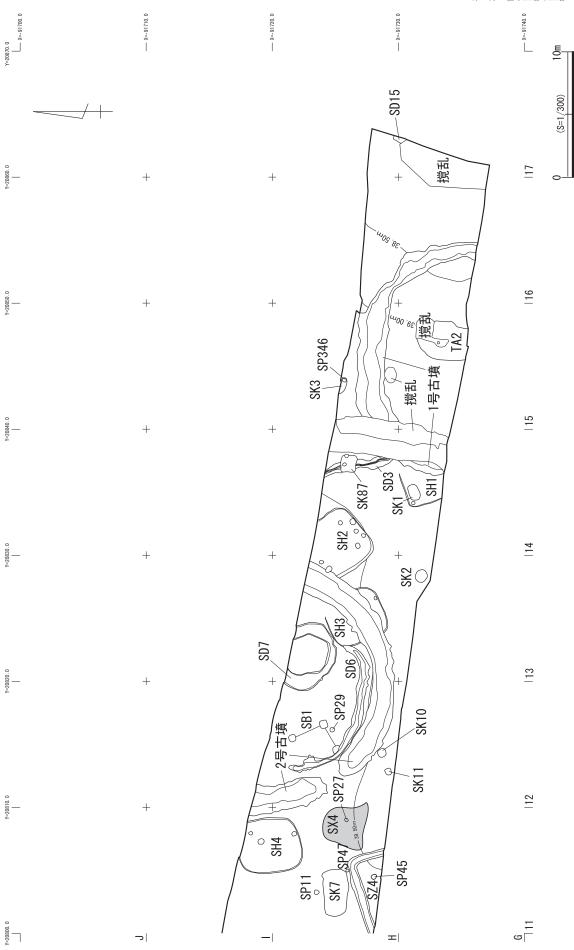
第1遺構面遺構配置図

第8図



第9図 第1遺構面遺構配置拡大図1

第10図 第1遺構面遺構配置拡大図2



- 19 -

第3節 1区古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の遺構は第5層の縄文時代の包含層である栗色土層を掘り込み構築されている。本来の掘り込み面は第2層の大淵スコリア層または第3層の黒色土であるが、遺構覆土と包含層の判別がつきにくいため、第5層の栗色土層上面で検出した。そのため、上層から掘り込まれ、栗色土層にまで達していた古墳時代の遺構と、栗色土層の縄文時代の遺構と遺物が同じ面で検出されることとなった。これを第1遺構面とする。複数の時期にわけられるため、遺物を出土しない遺構は、詳しい時期を特定することができなかったものがある。よって本節では遺物や覆土から明らかに縄文時代と判断された遺構を除いた、第1遺構面で検出された遺構を掲載し報告することとする。

1 古墳時代中期以降の遺構と遺物

大淵スコリアを覆土とする遺構をまとめた。大淵スコリアの噴出時期について諸説あるため、大きく 古墳時代中期以降の遺構として捉えることとした。古墳の周溝が2基、古墳の周溝の可能性のある溝状 遺構が1基、土坑3基を検出した。

(1) 古墳周溝(第5表)

ア 1号古墳周溝(SD1・2)(第11図)

 $H-14 \cdot H-15 \cdot H-16$ グリッド、調査区東寄りに位置する。南側半分が調査区外であり、北側半分を検出した。14.1mを測る周溝内側は、墳丘に相当する部分は削平を受け、盛土及び主体部は検出されなかった。調査区内では遺構を全て検出できなかったが、平面形は円形をなしていたと考えられる。断面は底部に平坦面を残し、緩やかに立ち上がる皿状で、最大深は60cmである。

遺物は河原石が多量に周溝内から出土しているが、古墳の年代を示す遺物は出土していない。この周 溝内の河原石は古墳を構成していた石材であったと考えられる。特に北側では集中して出土しており、 方形に集石されていた。後世にこの古墳の石材を何らかの理由で集石したのか、または調査区外の北側 に古墳が存在していたとするならば、他の古墳の石材がこの周溝内に落ち込み後に集石された可能性も 考えられる。

イ 2号古墳周溝(SD4・5・6)(第12図)

 $I-12 \cdot H-12 \cdot H-13$ グリッドの、調査区中央に位置する。墳丘に相当する部分は削平を受け、盛土、及び主体部は検出されなかった。

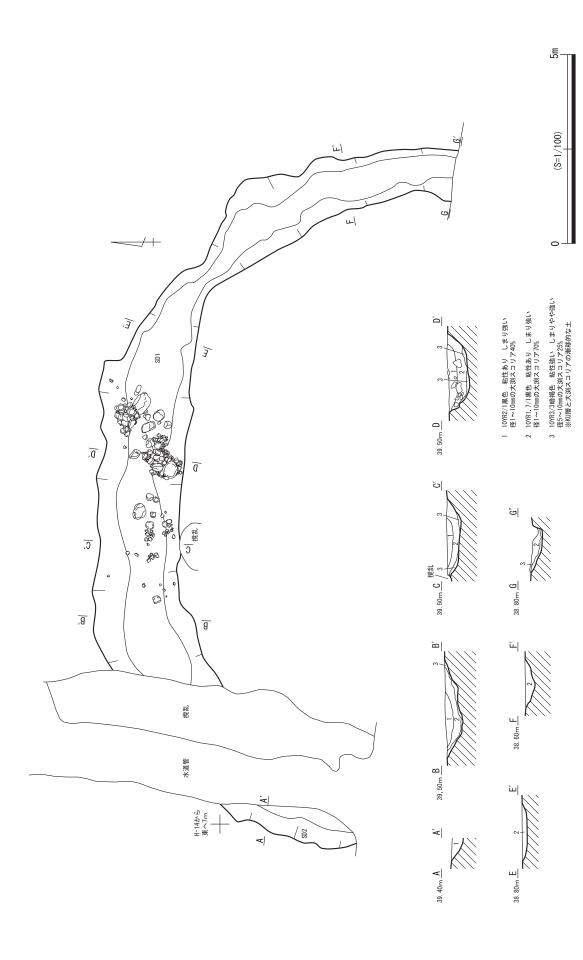
調査区内では遺構を全て検出できなかったが、平面形は円形をなしていたと考えられる。断面は底部 に平坦面を残し、緩やかに立ち上がっており、溝の最大深は50cmを測る。南東側は周溝が途切れる箇所 が確認できた。

周溝内側は15.5mであるが、ここでは古墳に沿う様に1本の浅い長さ11m、深さ20cm程の溝状遺構SD6が検出された。この溝については、長泉町原分古墳で類似する事例が存在している。墳丘の旧表土側に浅い掘り込みが確認されており、報告書では墳丘内埋没溝と呼称されている。古墳構築の際に盛土の範囲や墳丘規模を規定するために掘り込まれたものの可能性が指摘されている(井鍋2008)。

遺物は1号古墳周溝と同じく、周溝内から多量の河原石が出土した。この河原石に関しても、古墳を 構成する石材が流れ込んだ可能性が考えられる。

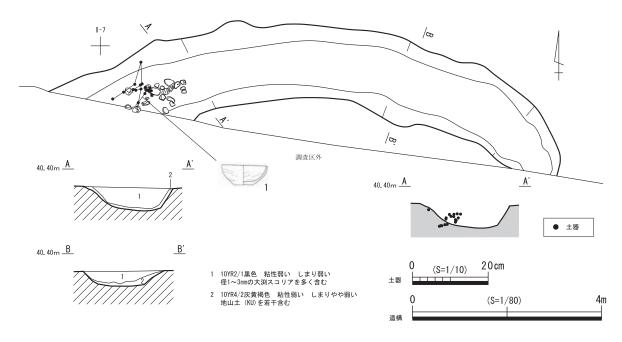
(2) 溝状遺構 (SD13)(第13図·第9表)

H-7グリッド、調査区西寄りに位置する溝状遺構である。遺構は緩やかにアーチ状をなしており、調査区外へ続いている。溝内の覆土から流れ込みで古墳時代後期の坏が出土している。 1 号・2 号古墳



第11図 1号古墳周溝

第12図 2号古墳周溝



第13図 S D13

周溝が検出されている状況からみて古墳の周溝である可能性が考えられる。

(3) 土坑 (第14図・第12表)

大淵スコリアを覆土とする土坑を3基図示した。

ア SK7

H-11グリッド、調査区中央に位置する。比較的大型の土坑で、平面形は方形をなし、断面は立ち上がりが急である。遺物の出土はない。

イ SK84

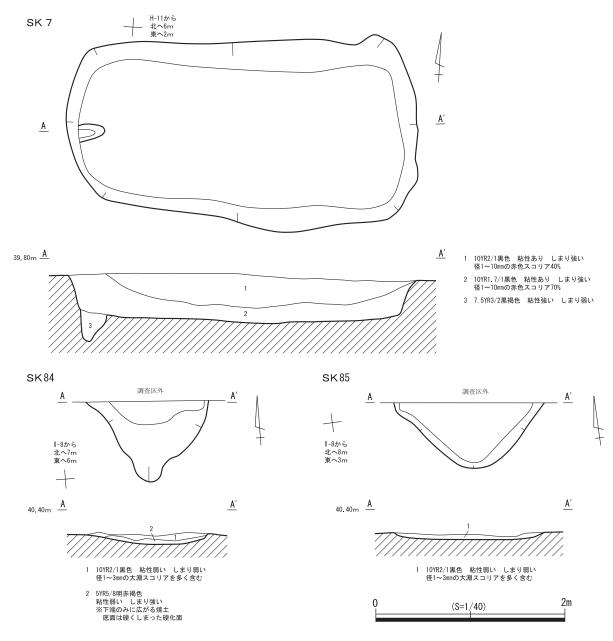
I-8グリッド、調査区西寄りの北壁に位置する。土坑の北側は調査区外で検出した部分の平面形は不整形である。断面形は皿状で最大深約10cmである。覆土には大淵スコリアを多く含み、土坑底面には焼土と硬化面が確認された。遺物の出土はない。

ウ SK85

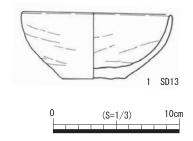
(4) 遺物(第13表)

S D13出土遺物 (第15図1 図版11)

土師器の坏である。平底の底部に塊状の体部が付く。口縁部は横ナデを施し、体部は外内面とも丁寧なナデで器面を整えている。(岩崎)



第14図 第1遺構面 土坑



第15図 遺構出土遺物(古墳時代後期)

2 古墳時代前期の遺構

古墳時代前期の遺構は、第1遺構面で確認された。竪穴建物5基・竪穴状遺構1基・方形周溝墓5基・ 土坑1基を検出した。

(1) 竪穴建物(第6表)

古墳時代の竪穴建物は5基検出されている。出土遺物からは大きな時期差は見られないようであるが、 平面形や主軸が異なっている。

ア SH1 (第16図)

構造 平面形は不明であるが、方形に近いものと考えられる。一部は壁に沿うように溝が掘り込まれており、壁溝である可能性が考えられる。

遺物出土状況 遺物の出土はないが、他の竪穴建物と同じく、前期の遺構である可能性がある。

イ SH2 (第17図)

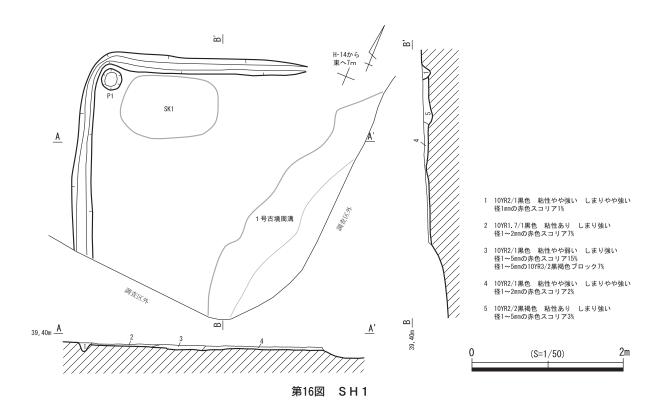
 $H-13 \cdot H-14$ グリッド、調査区東寄りに位置する。遺構東側は 2 号古墳に切られ、調査区外であるため、北側部分は検出できなかった。

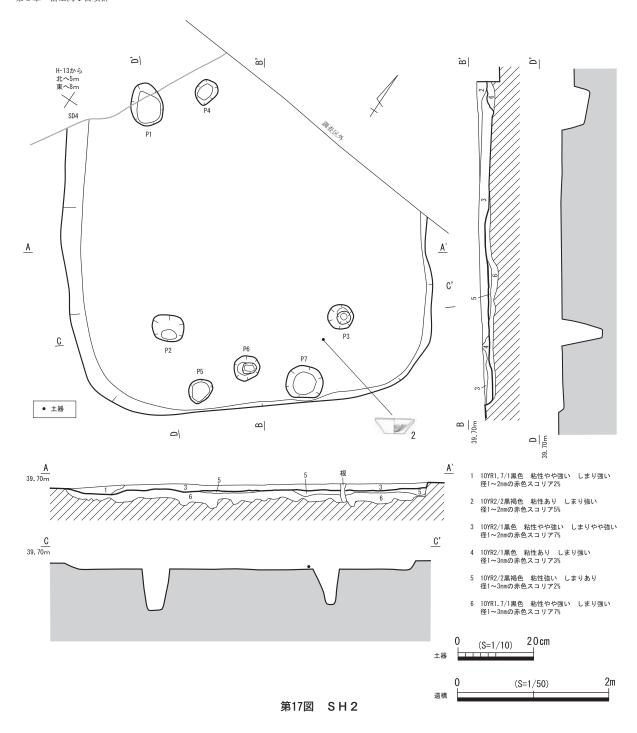
構造 平面形は隅丸方形をなす。第 5 層と第 6 層は床面構築土で、厚さ 8 ~23 cm となる。主柱穴は P1 ~ P3 であり、径30~60 cm を測る。平面形は P1 ・ P3 が円形で、 P2 が隅丸方形をなしている。また、南側から柱穴が 3 基検出されているが、おそらくこの竪穴建物の入口部分にあたるものと思われる。

遺物出土状況 建物南側の床面直上から小型鉢が出土した。

ウ SH3(第18図)

H-13グリッド、調査区東寄りに位置する。遺構を東西に横断するように 2 号古墳周溝により大きく切られ、北側の一部は撹乱を受けている。





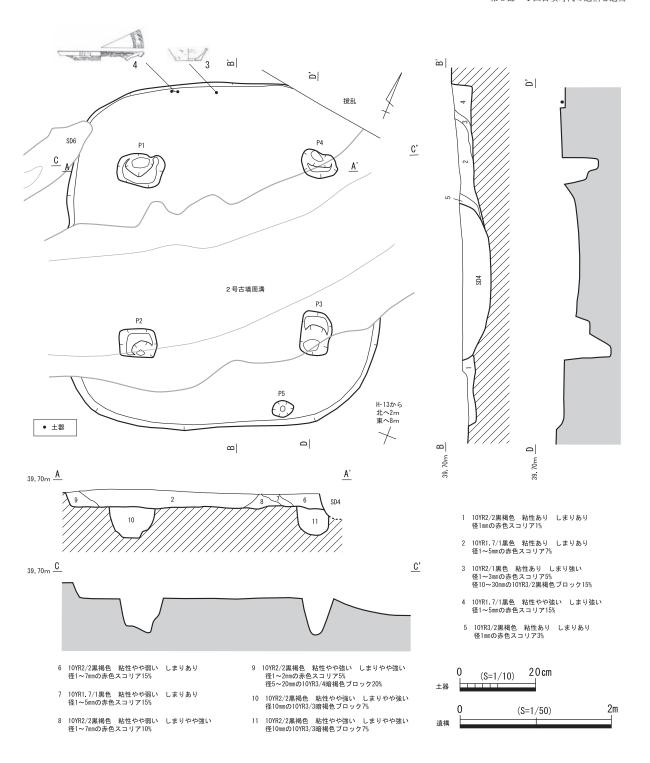
構造 平面形は隅丸方形である。床面構築土は確認されなかった。主柱穴は $P1\sim P4$ の4基確認され、P1とP3は長さ60cm、幅40cm、P2とP4は長さ50cm、幅40cmとなる。 $P1\sim P3$ は平面形は多少不整形であるが方形に近く、P1は不整形である。南側のP5に関しては、炭化材が出土しており、柱材の可能性が指摘されている。

遺物出土状況 壺の口縁部と底部が建物跡北側の壁付近の床面から出土した。

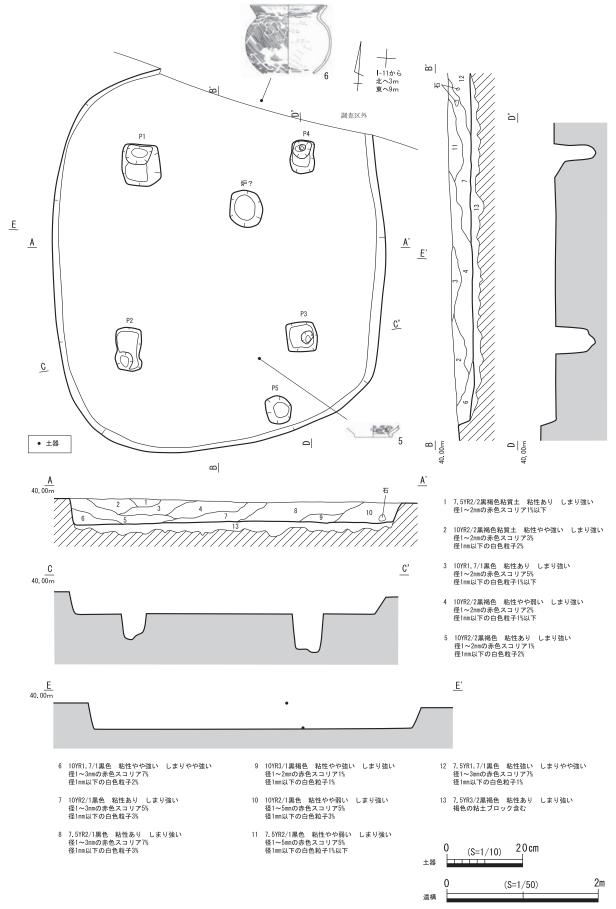
エ SH4 (第19図)

 $H-11 \cdot I-11$ グリッド、調査区中央北側に位置する。SH4の北側は調査区外である。

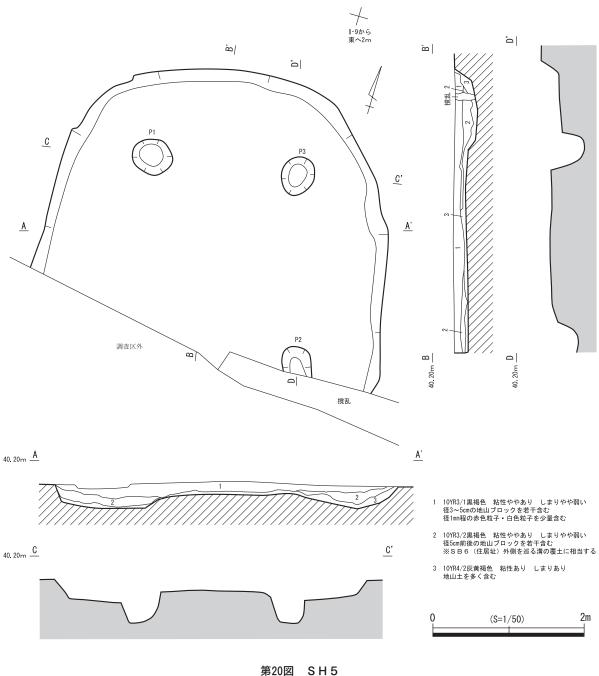
構造 平面形は隅丸方形をなす。第13層は床面構築土で、厚さ8~20cmを測る。建物中央のやや北寄りに小穴が確認され、焼土の検出はないものの炉の可能性が考えられる。柱穴はP1~P4で4基確認さ



第18図 SH3



第19図 SH4



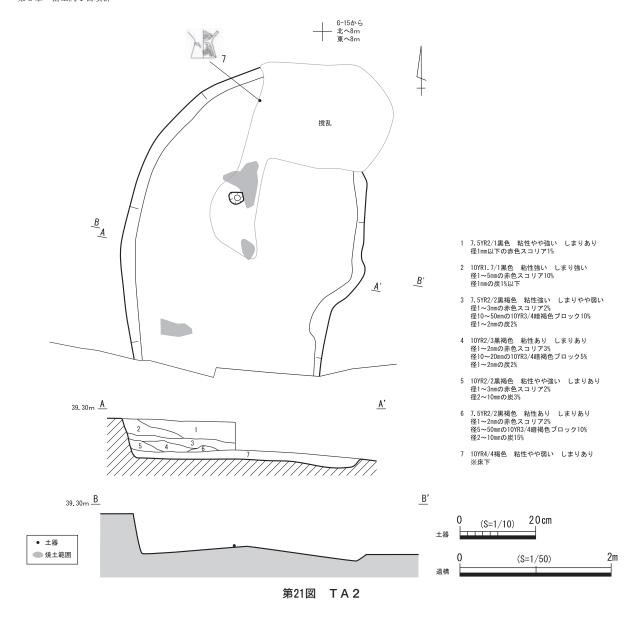
れた。いずれも平面形は方形または長方形をなす。 P1は長さ56cm、幅50cm、P2は長さ60cm、幅30cm を測る。P3は一辺40cmを測り、P4は長さ40cm、幅30cmを測る。ほか、南側に小穴が検出された。 遺物出土状況 床面直上から壺の底部、覆土からは甕(註)が出土している。

オ SH5 (第20図)

H-8・H-9グリッド、調査区中央西寄りに位置する。遺構南側が調査区外である。

構造 全てを検出していないが、平面形は小判形をなす。掘方は建物に沿って幅1m~1.5mの溝を円形 状に1周させ、床面構築土にあたる第1層~第3層を充填している。建物は上面が削平を受けており、 床面は残存していなかった。柱穴はP1~P3で平面形は円形であり、径は約60cmを測る。

遺物出土状況 遺物の出土がないことから詳しい時期は不明であるが、周囲の遺構の状況から考え、他 の竪穴建物と大きく時期差はないものと考えられる。



(2) 竪穴状遺構 TA2 (第21図·第10表)

G-15グリッド、調査区東側に位置する。土層の堆積状況や周辺に竪穴建物が検出されている事から考えて、竪穴建物の可能性が高いが、竪穴建物としては平面形が不整形である事と、柱穴と考えられる小穴も検出されなかったため、竪穴状遺構として報告する。

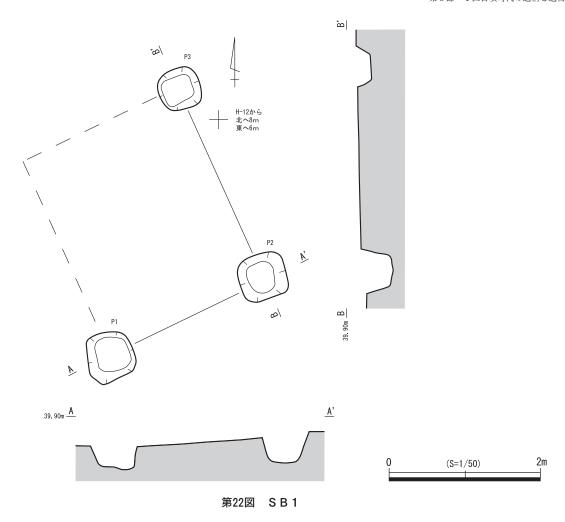
遺物は炭化材が第7層直上で出土し、樹種同定によりアカガシ亜属、ハイノキ節に同定されている(竪穴建物と言えるのであれば、7層が床面構築土となると考えられる)。また、台付甕の脚部1点が遺構の底面から出土した。

(3) 掘立柱建物 SB1 (第22図・第7表)

H-12グリッド、調査区中央部分に位置する。

規模は 1×1 間で柱穴間の距離は南北2.1m、東西1.5mを測る。主軸はN-25°-Wで、竪穴建物のSH3と値が近い。

柱穴の平面形は隅丸方形をなし、底部は平面的である。P1は一辺60cm前後、P2は一辺50cm、P3は一辺56cm前後である。掘立柱建物として報告するが、柱穴の位置やその規模から、本来は竪穴建物であった可能性が考えられる。



(4) 方形周溝墓(第8表)

方形周溝墓は、調査区西側に集中しており、1区では5基検出した。

ア SZ1 (第23図)

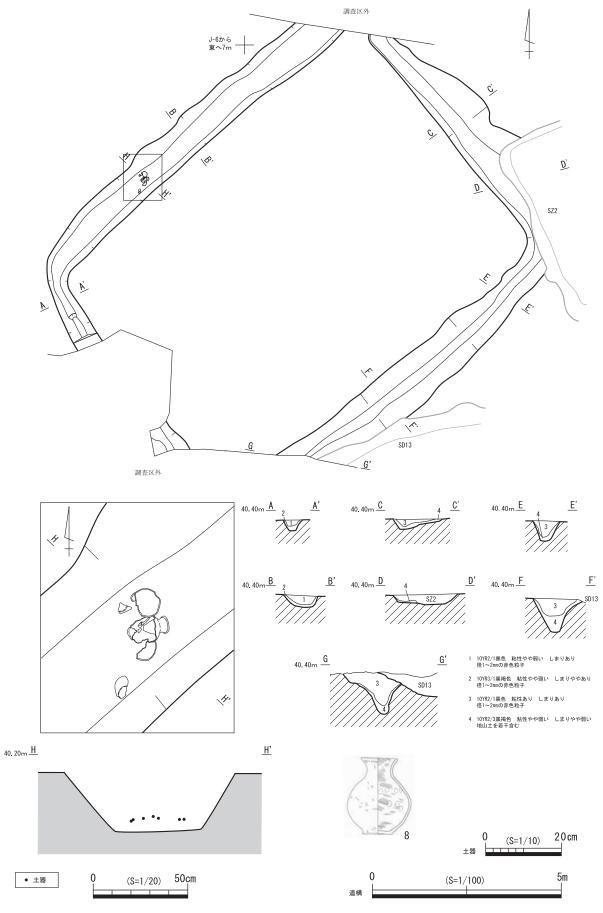
 $H-6 \cdot I-6 \cdot J-6 \cdot I-7$ グリッドにまたがり、調査区西側に位置する。平面形は正方形に近い長方形である。方台部は削平を受けている。主体部は検出されていない。西の角のみ残存しているが、その他の角は調査区外であることと、遺構に切られていることで確認できなかった。周溝の断面形は底部に平坦面を持ち、ハの字形に立ち上がる逆台形状ものと、緩やかな皿状のものがあり、形は一定でない。西側の周溝の底面付近の覆土から折り返し口縁を持つ壺がほぼ完形で出土した。

イ SZ2 (第24図)

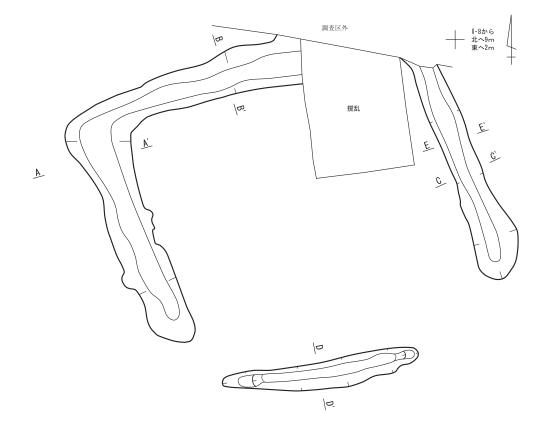
 $I-7\cdot I-8$ グリッド、調査区西側に位置する。北東の角は調査区外である。方台部及び主体部は 削平を受け残存していない。平面形は正方形に近く、南側周溝の両端が途切れている。南側の周溝は両端部分にテラス状の段構造を持つ。断面形は底面に平坦面をもち、鋭角に立ち上がるものと、西側部分は東側部分よりも削平を受けたためか、A-A'部分の断面形は皿状である。この部分はSZ1と溝を共有している。遺物の出土はなかったが、東側溝部分の直上で1個体分の壺の破片が集中して出土しており、本来的にはSZ2の遺物である可能性が高い。遺物集中1として後述する。

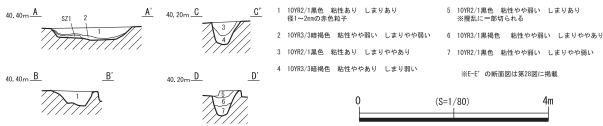
ウ SΖ3 (第25・26図)

 $H-8\cdot H-9\cdot I-8\cdot I-9$ グリッド、調査区西側に位置する。本調査区内では最大の方形周溝墓で、正方形に近似する長方形をなしている。方台部は削平を受けているため、主体部は検出されてい



第23図 SZ1





第24図 SZ2

ない。北側、南側部分は、周溝が連結しているが、北西の角では溝が途切れる。南西部分は調査区外となっている。

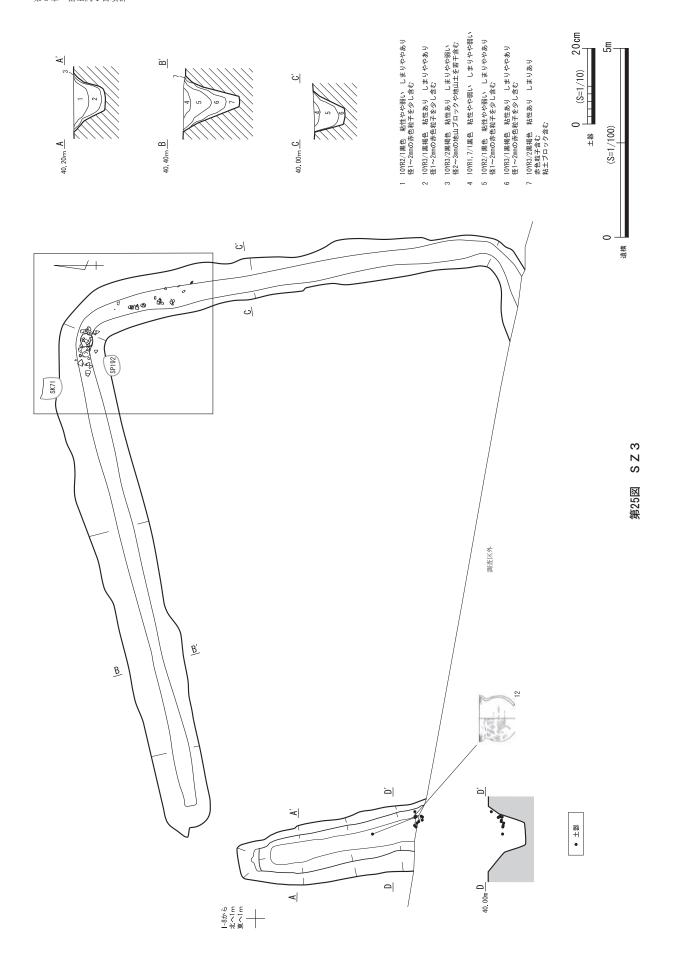
北東の角及び、西側周溝にて遺物が集中して出土した。北東の角部分では甕や台付甕が溝上面から、 西側周溝では甕が溝上面から出土した。

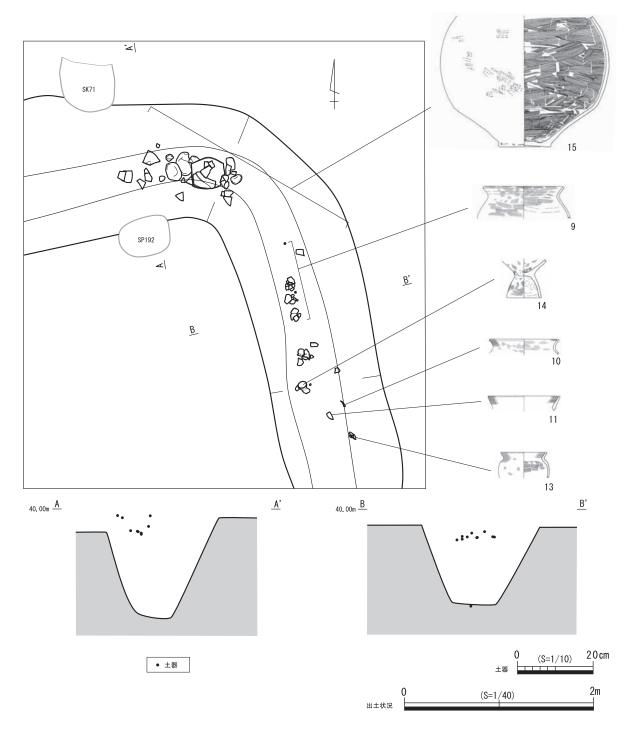
エ S Z 4 (第27図)

 $H-10 \cdot H-11$ グリッド、調査区中央部分南側に位置する。遺構の南側が調査区外で、北東の角が検出された。検出された部分の周溝はSZ5と連結している様で、周溝の角も連結する。方台部は削平を受けており、主体部も検出されていない。周溝の断面形は逆台形状をなし、立ち上がりは急角度である。遺物の出土はなかった。

オ S Z 5 (第27図)

H-10グリッド、調査区中央部分南側に位置する。遺構の南側部分が調査区外で、北東の角部分が検出された。角は連結している。方台部は削平を受けている。周溝の断面形は底面に平坦部を残す皿状である。角直上の包含層からは土器がまとまって出土し遺物集中2としている。周溝の直上から出土したことから、この部分を調査時に周溝を認識できなかった可能性があり、SZ4に伴う遺物であった可能





第26図 SZ3遺物出土状況

第27図 SZ4·SZ5

G-G'の断面図は第28図に掲載

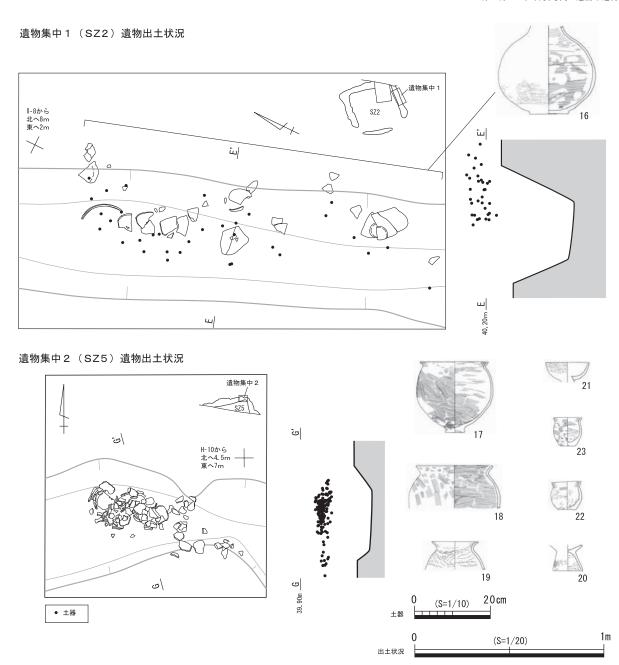
1 10YR1 7/1黒色 粘性やや強い しまりやや強い 径1~2mmの赤色スコリア10% | 10/R1.7/票色 粘性や砂強い しまりやや強い | 名1~5mmの赤色スコリア10% | 2 10/R2//漂褐色 粘性やや強い しまり強い | mm以下の赤色スコリア

(S=1/60)

断面図

(S=1/80)

五厘五



第28図 遺物集中1・2

性が高い。

(5) 遺物集中(第28図)

ア 遺物集中1

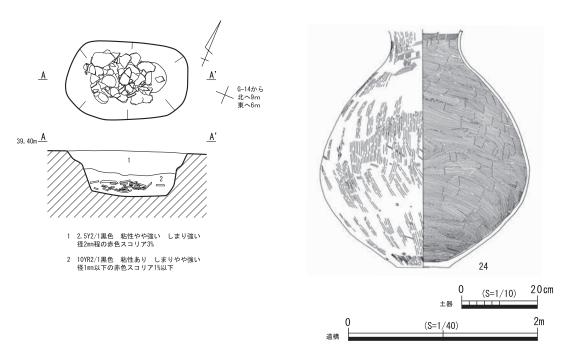
I-8グリッド、SZ2の東側周溝上面の包含層から遺物が集中して出土した。 1 m 90 cm ほどの範囲に口縁部を欠いた壺 1 個体の破片が出土している。

前述の通り本来的にはSZ2の遺物である可能性が高い。

イ 遺物集中2

H-10グリッド、SZ5の北東の角の直上の包含層から遺物が集中して出土した。 $1\,\mathrm{m}$ ほどの範囲に遺物が集中しており、甕・高坏等が集中して出土している。

前述の通り本来的にはSZ5の遺物である可能性が高い。



第29図 SK1

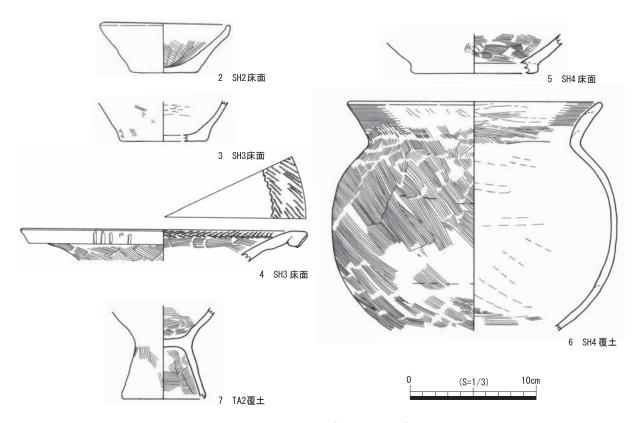
(6) 土坑 SK1 (第29図・第12表)

G-14グリッド、調査区東側に位置する。

平面形が 1 m28cm、深さ50cmを測る長楕円形の土坑である。土坑の中からは古墳時代前期の口縁部がない壺の胴部が出土した。底部が上層で反転して出土したことから、壺を反転させて埋納した土器埋納土坑なのか、それとも割れた壺を捨てた廃棄土坑である可能性が考えられるが、判断がつかない。

SH1は残存状態が悪く、遺構の大部分が削平されていたため、SK1との切り合い関係を土層から判断することができなかった。よってSK1はSH1に伴う土坑なのか、後に掘り込んだ遺構であるのか不明である。(西田)

(註) 静岡県東部地域で出土した古墳時代前期の甕は台付甕が主体であるが、稀に平底の甕も見られる。本報告書では、 脚部または底部が欠損し、形状が特定できないものについては「甕」と表記した。



第30図 遺構出土遺物(古墳時代前期) 1

(7) 遺物(第13表)

ア SH2出土遺物(第30図2 図版11)

2は小型鉢である。平底の底部に直線的に外傾する体部が付く。

イ SH3出土遺物(第30図3・4)

4は折り返し口縁壺である。口縁部は大きく外反して開き、内面にS字状結節を伴うLRの縄文を施文している。口唇部には棒状浮文を貼り付けている。

ウ SH4出土遺物 (第30図5・6 図版11)

6 は甕の胴部である。胴部は丸く、中央部に最大径を有する。頸部の屈曲は明瞭である。口縁部は直 線的に開き、横ナデを施している。口唇部は丸い。

エ TA2出土遺物(第30図7)

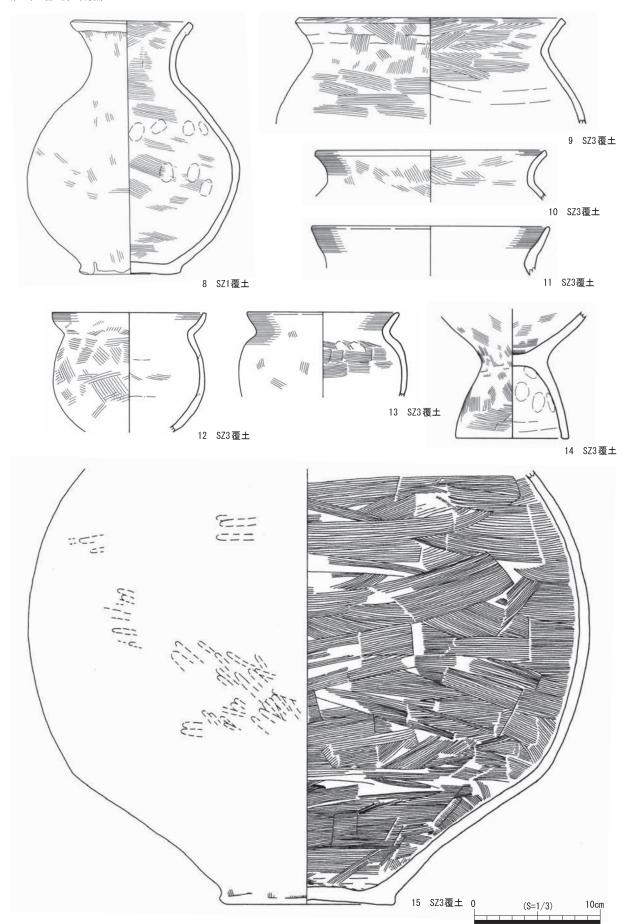
7は台付甕の脚部である。低脚で開きは小さく、直線的である。

オ SZ1出土遺物 (第31図8 図版11)

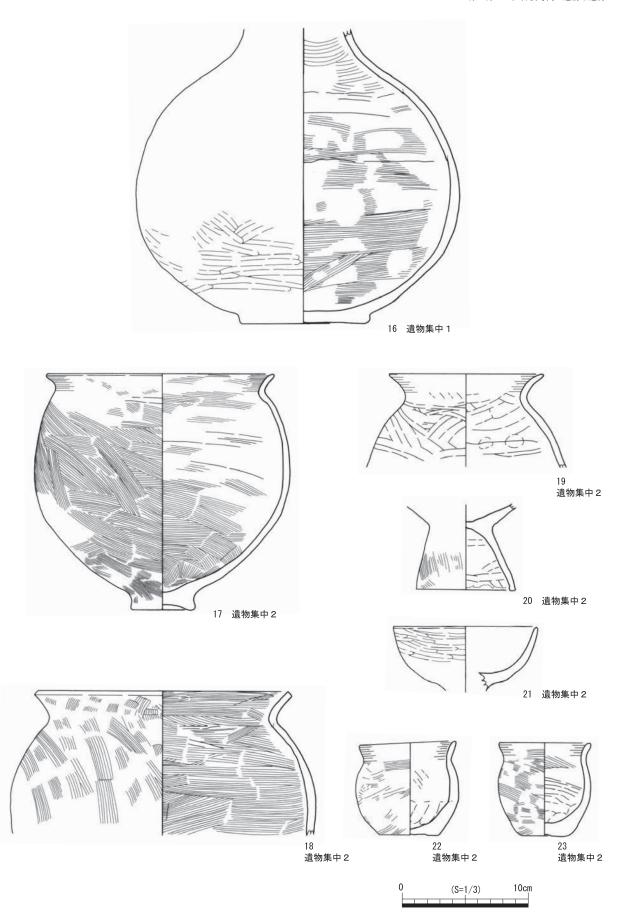
8は折り返し口縁壺である。胴部は丸く、中央部に最大径を有する。頸部は短く、口縁部の開きは小さい。

カ SZ3出土遺物 (第31図9~15 図版11)

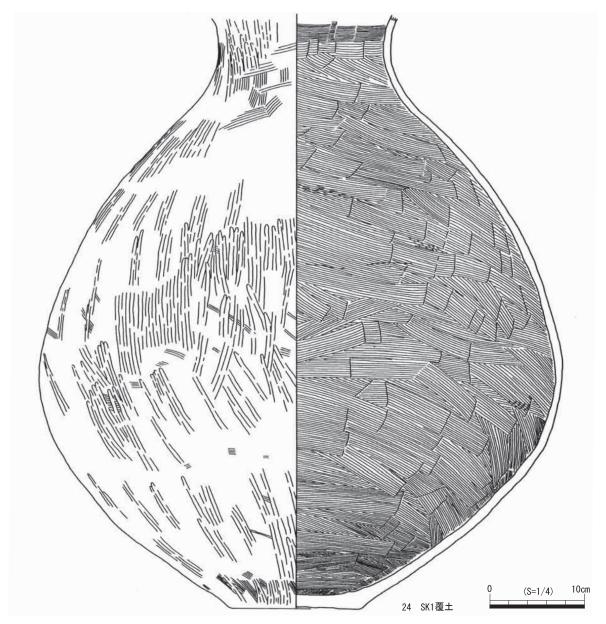
9から11は甕の口縁部である。9は頸部の屈曲が明瞭である。口縁部は直線的に開き、口唇部は面取りしている。10は9に比して頸部の屈曲が緩やかである。口唇部を面取りし、横ナデを施している。11は口縁部の開きが小さく、横ナデを施している。口唇部は丸い。12と13は小型の甕の胴部である。12は胴部が丸く、中央部に最大径を有する。頸部の屈曲は明瞭で、口縁部は内弯して開く。口唇部を面取りし、横ナデを施している。13は胴上部がやや張る。頸部の屈曲は明瞭で、口縁部は直線的に開く。外面の横ナデの範囲は頸部まで及ぶ。口唇部は丸い。14は台付甕の脚部である。短く内弯して開く。



第31図 遺構出土遺物(古墳時代前期)2



第32図 遺構出土遺物(古墳時代前期)3



第33図 遺構出土遺物(古墳時代前期) 4

15は壺の胴部である。駿河地域で出土する大型の複合口縁壺である可能性が高い。

キ 遺物集中1出土遺物(第32図16 図版11)

16は壺の胴部である。胴部の形状は潰れた球形である。

ク 遺物集中2出土遺物(第32図17~23 図版11・12)

17は鉢である。底部径は小さく、平底で中央部が凹んでいる。胴部の形状は台付甕の甕部に似ており、中央部に最大径を有する。頸部の屈曲は明瞭である。口縁部は短く外反して開き、横ナデを施している。口唇部は丸い。

18と19は甕の胴部である。18は頸部の屈曲が明瞭である。口縁部は直線的に開き、口唇部は面取りしている。19は器面全体をナデ調整している。頸部の屈曲は明瞭である。口縁部は大きく外反して開き、横ナデを施している。口唇部は丸い。20は台付甕の脚部である。開きはやや内弯気味である。

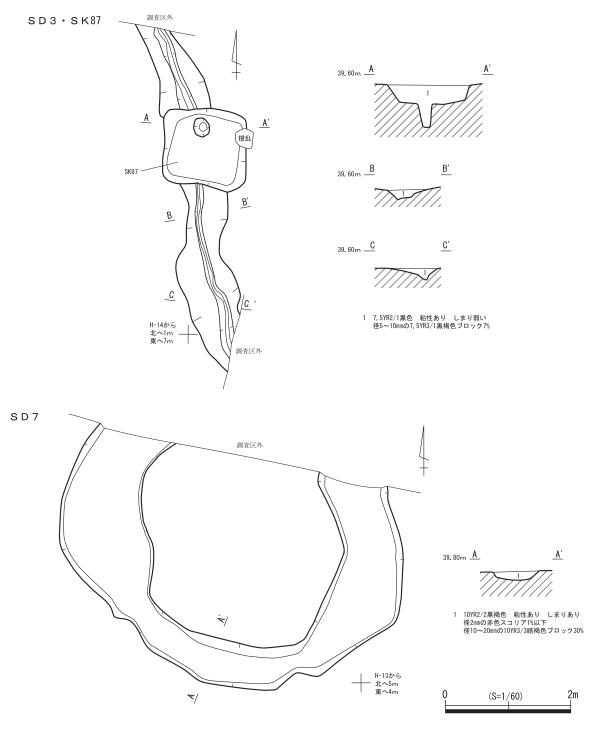
21は埦形の高坏の坏部である。

22と23は小型壺である。ともに底部径は大きい。口縁部は緩やかに外傾し、横ナデを施している。口

唇部は丸い。

ケ SK1出土遺物 (第33図24 図版12)

24は壺の胴部である。15と同様、駿河地域で出土する大型の複合口縁壺である可能性が高い。(岩崎)



第34図 第1遺構面 溝状遺構

3 溝・土坑・小穴

第1遺構面から検出された溝・土坑・小穴で、遺物の出土もなく、時期をわけられなかったものである。掘り込み面は縄文包含層の栗色土層上面からなされた、と考えられる。多くが黒色土または黒褐色土を覆土とすることから、古墳時代の遺構である可能性が高い。しかしながら縄文時代の遺構面を破壊して古墳時代の遺構が作られているという点を考えると、慎重にならざるを得ないため、ここに便宜的にまとめる。時期不明な遺構は、溝状遺構2基・土坑10基・小穴17基である。

(1) 溝状遺構(第9表)

ア SD3 (第34図)

H-14グリッドに位置し、調査区を南北に縦断する溝状遺構である。立ち上がりも不明瞭で、性格は不明である。S K87に切られている。1 号古墳周溝との先後関係が気になる所であるが、水道管が通っていたため、切り合いが分かる部分は調査できなかった。

イ SD7 (第34図)

H-13グリッド、調査区中央に位置する。調査区外により、北側は検出されていない。平面形は不整形な円形の溝である。上面が削平された竪穴建物の掘方部分である可能性が考えられる。断面形は浅い皿状をなす。SD3と同じく性格は不明である。

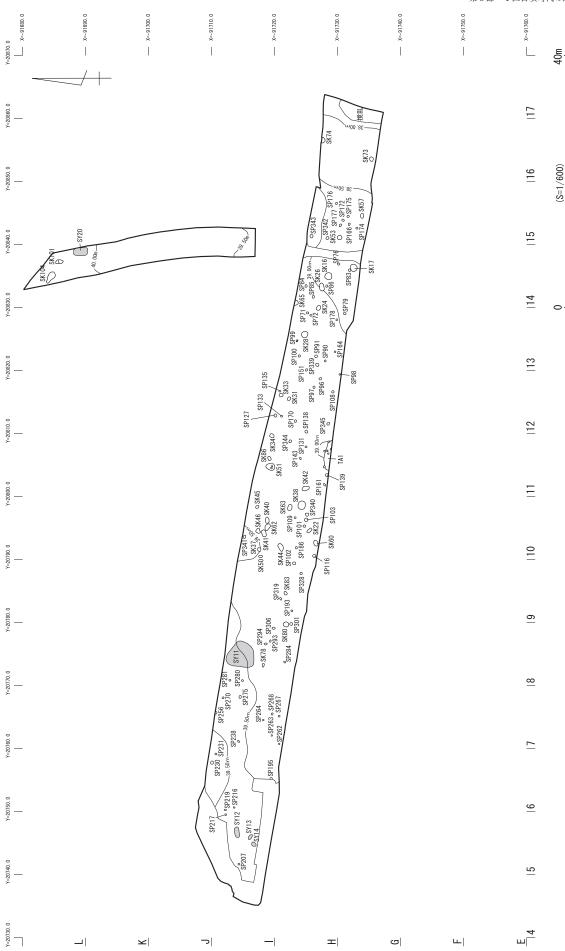
(2) 土坑および小穴について

規模などは別表に記載する(第12表)。

平面形と規模が類似し、柱穴になる可能性を指摘できる土坑がいくつか確認できたが、その大半は性格が不明である。平面形や深さの違い、または断面形に違いが認められる土坑、小穴が検出されている。平面形は円形や楕円形、不整形なものなど、断面形は壁面の立ち上がりの急なもの、皿状もの、擂鉢状のものを確認した。(西田)

第2遺構面遺構配置図

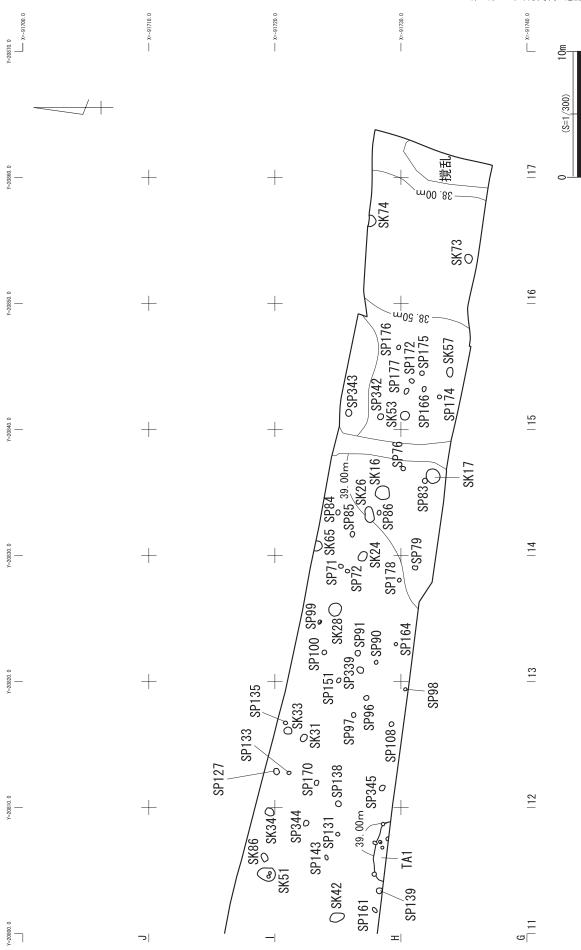
第35図



- 45 -

第36図 第2遺構面遺構配置拡大図1

第37図 第2遺構面遺構配置拡大図2



第4節 1区縄文時代の遺構と遺物

1 遺 構

1区の縄文時代の遺構は、古墳時代の遺構が主となる第1遺構面(栗色土層中)で、性格不明遺構を 1基検出した。第2遺構面(休場層相当層上面)では調査区の全体で縄文時代の遺構が確認でき、竪穴 状遺構1基、集石4基、土坑33基、小穴73基を検出した。

(1) 竪穴状遺構 TA1 (第38図·第10表)

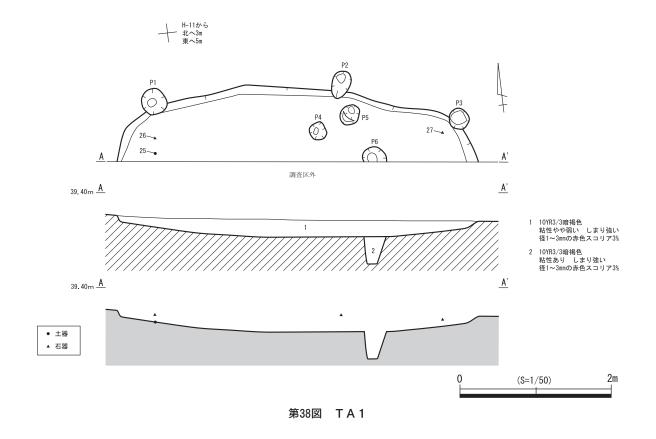
H-11グリッドに位置する。竪穴住居跡である可能性があるが、遺構の大半が調査区外である事から、 竪穴状遺構として報告する。

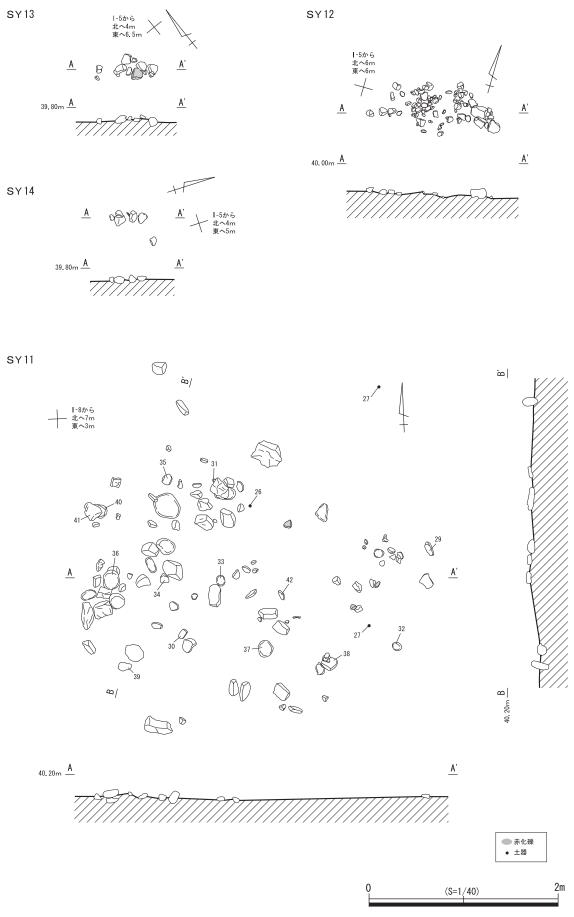
遺構の脇にはコーナー部分とその間の壁面にそれぞれ円形の小穴が配置されている。P1で径32cm、深さ45cm、P2で径38cm、深さ60cm、P3で径28cm、深さ15cmとなる。さらに遺構底面では $P4\sim P6$ の3基の円形の小穴が検出されている。これらは掘り込みが深く、P4は径20cm、深さ60cm、P5は径24cm、深さ85cm、P6は径28cm、深さ40cmとなる。遺物はII群2類d土器の十三菩提式土器と石鏃・磨石を遺構底面で出土した。

(2) 集石 (第39図・第11表)

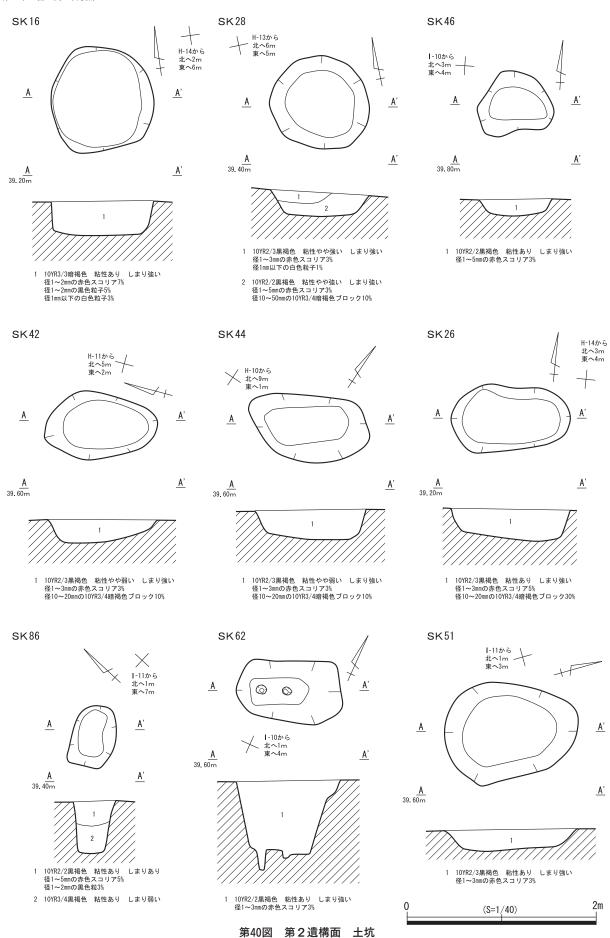
集石は4基検出されており、土坑を伴わない集石である。礫数が7点あるものから、83点ある集石が認められた。赤化比率は0%から8%と低く、受熱により赤化した礫は少ない。使用頻度が低かったのか、調理施設としての機能以外の機能を持つ可能性も考えられる。

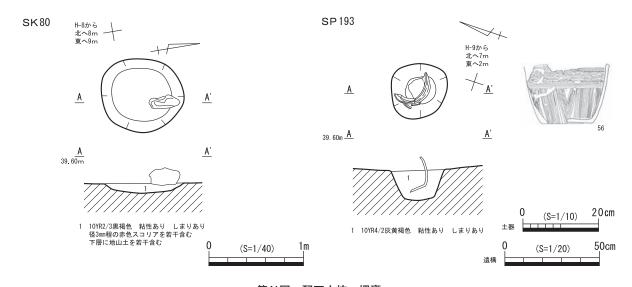
 $SY12\sim14$ は I-5 グリッド、調査区西側に近接し位置している。 $SY13\cdot14$ は、15cm程度の礫が60 cmの範囲に分布し、赤化比率は SY13では 1%、 SY14は 8%である。 SY12は1.5mの範囲に $8\sim20$ cmの礫が83点集められていた。 SY11は、 I-8 グリッド、調査区西側に位置する。 3.9mの範囲に79点の





第39図 集石





第41図 配石土坑・埋甕

礫が分布し赤化比率は4%である。Ⅲ群1類aの五領ヶ台式土器と石器が出土した。

(3) 土坑・小穴(第12表)

調査区全体に平面形や深さの違い、断面形の違いが認められる土坑、小穴が検出された。壁面の立ち上がりの急なもの、皿状、擂鉢状のものがみられる。

遺物が出土しているものは、土坑はSK16・28・46・42・44・26・62・51、小穴はSP139・166である。

S K 62は表面が不定形で底面も方形に近い不定形で小穴が 2 基並んでいる。ここからは土器が出土しているが、落とし穴に使用した可能性がある。

配石土坑 SK80(第41図)

 $H-8\cdot H-9$ グリッド、調査区中央西寄りで、埋甕である S P193西側で配石土坑と考えられる遺構を 1 基検出した。平面は径90cmの円形をなし、断面形が皿状、残存する深さが10cmの土坑内に、およそ 30cmの礫が出土した。

(4) 埋甕 S P193 (第41図・第12表)

H-9グリッド、調査区中央の西寄りに位置する。土坑は径70cm、深さ40cmで平面形は円形である。 Ⅲ群1類aの五領ヶ台式土器の深鉢を正位の状態で埋設している。

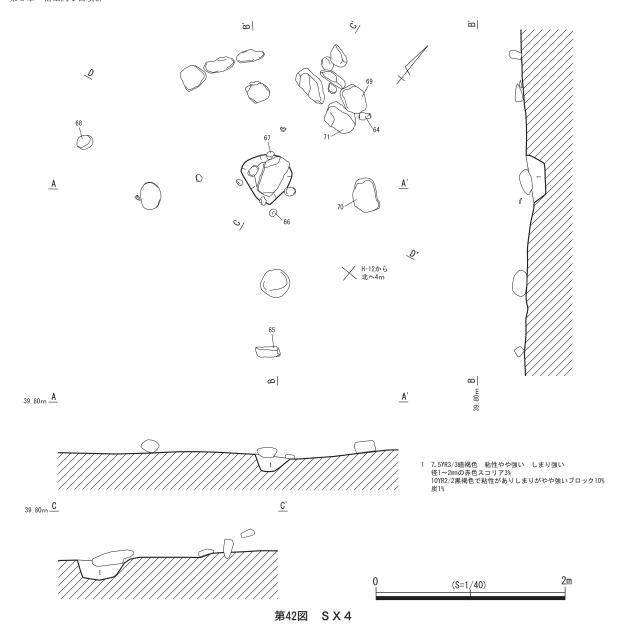
検出時は埋甕のみであり、周辺では建物跡とみられる遺構は検出されなかった。埋甕の上面とその周 囲が削平を受けている事から、建物に伴う埋甕であったのか、屋外埋甕であるのかは判断ができない。

(5) 性格不明遺構 SX4 (第42図)

H-11グリッド、調査区中央にて検出した。SX4のみ休場層相当層上面の第2遺構面でなく、第1 遺構面の栗色土層中から検出している。

遺構は、径3 m30cmの範囲の中心に径50cm、深さ18cmほどの、覆土にわずかに炭化物が含まれる小穴が掘り込まれていた。その周辺で、北側から北西にかけて、石皿および礫が並べられて出土した。その他の出土遺物は縄文時代中期前半と考えられる土器片と、打製石斧、磨石がまばらに出土した。

性格不明遺構として報告したが、本来は建物跡であった可能性があり、遺構のプランを示す掘方はすでに削平を受けているものとみられる。(西田)



2 遺物

(1) 遺構出土遺物 (第14表)

ア TA1 (第43図25~27 図版12)

土器、石鏃、磨石が1点ずつ出土した。25はII群2類d、前期後半の十三菩提式に比定される深鉢の口縁部が出土している。口唇部に粘土紐で円形の浮線文を付け、口唇部直下からも縦位のソーメン状浮線文を施している。横位の密接蒲鉾状平行沈線文を付け、斜位の密接蒲鉾状平行沈線を施した上に、斜位の浮線文を貼り付けて斜格子文を作り出している。

26は大型の石鏃である。石材は砂岩を使用している。基部が欠損しているため形態は不明である。27は I 類の磨石である。両面と側縁に磨面がある。

イ SY11 (第43図28~第44図42 図版12)

Ⅲ群1類a、五領ヶ台式土器が出土している。28、29は口縁部である。28は口縁部に沿って横位の区画を作出し、波状文を貼り付け、その下部にはヘラ状工具で刻みを入れている。29は波状口縁を有する。半截竹管状工具で矢羽根状沈線を付け、連続爪形文を施し、その下部には横位と斜位の沈線を付ける。

- 53 -

(S=4/5)

(26) 第43図 1区 遺構出土遺物1

(25, 27~30, 32~35)

(S=1/2)

30は胴部でLRの結節縄文を付けている。

31はⅡ類の打製石斧である。厚手の砂岩を素材としている。基部から刃部への広がりは小さい。刃部は中央部が尖る。表面に比較的大きな剥離を施して作り出している。裏面は剥離が刃部以外にほとんど見られない。

32から35は I 類の磨石である。側面にも磨面が見られるものが多い。36と37は I 類、38~42は II 類の石皿である。

ウ S K 16 (第44図43・44 図版13)

縄文を施した土器が2点出土した。43は口縁部、44は底部の小片である。

エ SK28 (第44図45 図版13)

隆帯を横位に貼り付け、上部に圧痕を施す。Ⅰ群2類Ьの入海Ⅰ・Ⅱ式土器の可能性がある。

オ SK46 (第44図46 図版13)

波状口縁に沿って幅約6 mmの粘土紐を貼り付けた口縁部の破片である。この土器はⅡ群2類d種の十三 菩提式土器である。

カ SK42 (第44図47 図版13)

RLの縄文を施した胴部の破片で、前期末の土器の可能性がある。

キ SK44 (第44図48 図版13)

粘土紐を貼り付け、半截竹管状工具による連続爪形文を施している。前期末の土器の可能性がある。

ク SK26 (第48図49・50 図版13)

49はRLの縄文を施す土器の口縁部で、時期は前期末の可能性がある。50の文様は風化により不明である。

ケ SK86出土遺物(第44図52)

I類の磨石である。

コ SK62 (第44図51 図版13)

縦位に粘土を2本貼り付け、そのうち1本には連続爪形文を施している。前期末の可能性がある。

サ SK51 (第44図53)

Ⅱ類の磨石である。

シ S P 139 (第45図55 図版13)

I 群 1 類 h の野島式土器が出土している。縦位、横位、斜位に沈線文を施す。

ス SP166 (第45図54 図版13)

無文の土器で、表裏ともに擦痕が見られる。胎土に繊維を含んでいることから、早期後半の土器と考えられる。

セ S P86出土遺物 (第45図57)

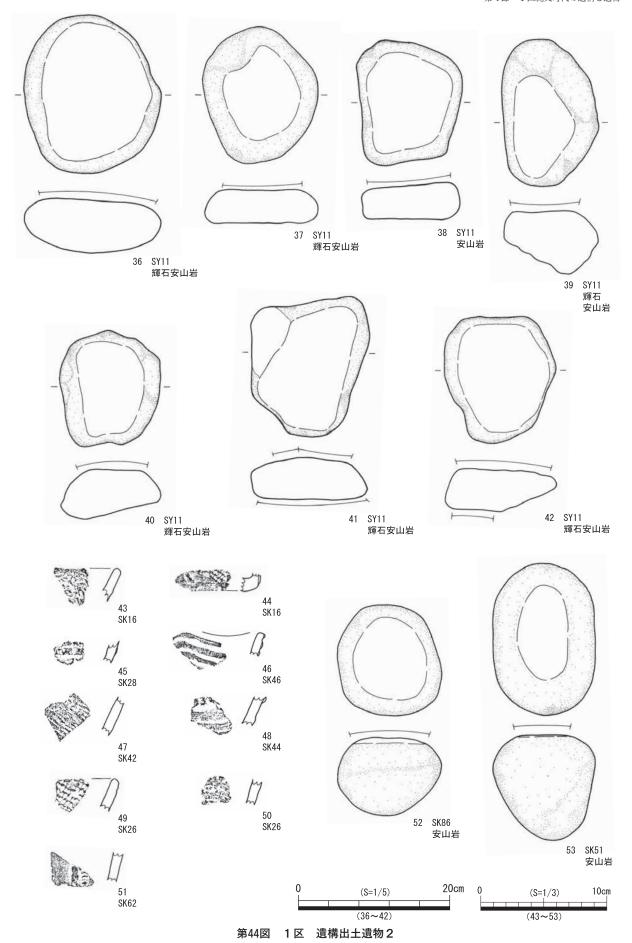
I類の磨石である。

ソ SX4出土遺物 (第45図58~第46図71 図版13)

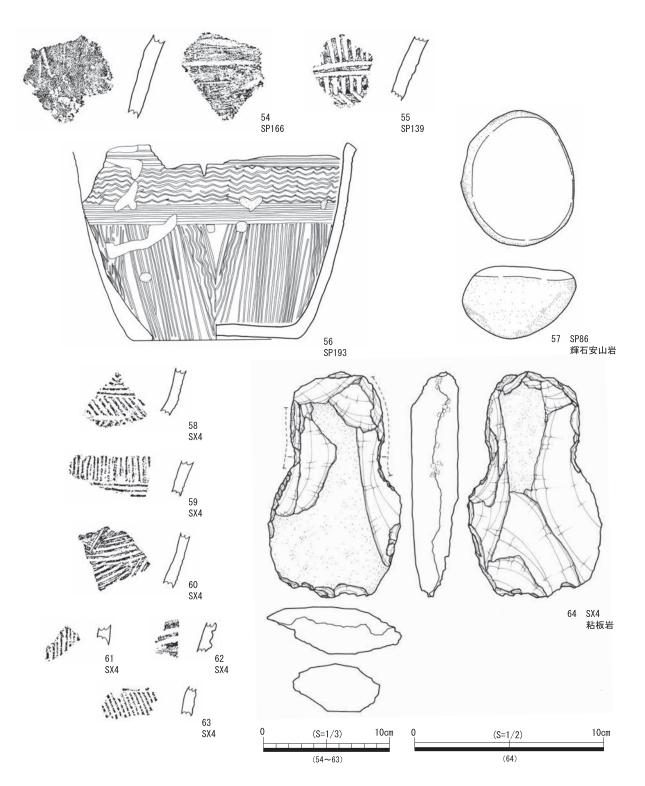
58・59・61・63は五領ヶ台式土器で、平行沈線を施すⅢ群1類aの土器である。60は沈線が横位と斜位に施されている。62は横位に沈線が2条施文された土器片である。

64はⅢ類の打製石斧である。扁平な楕円礫を素材としている。両側縁に括れがあり、刃部が基部より幅広となる。刃部は直線的である。

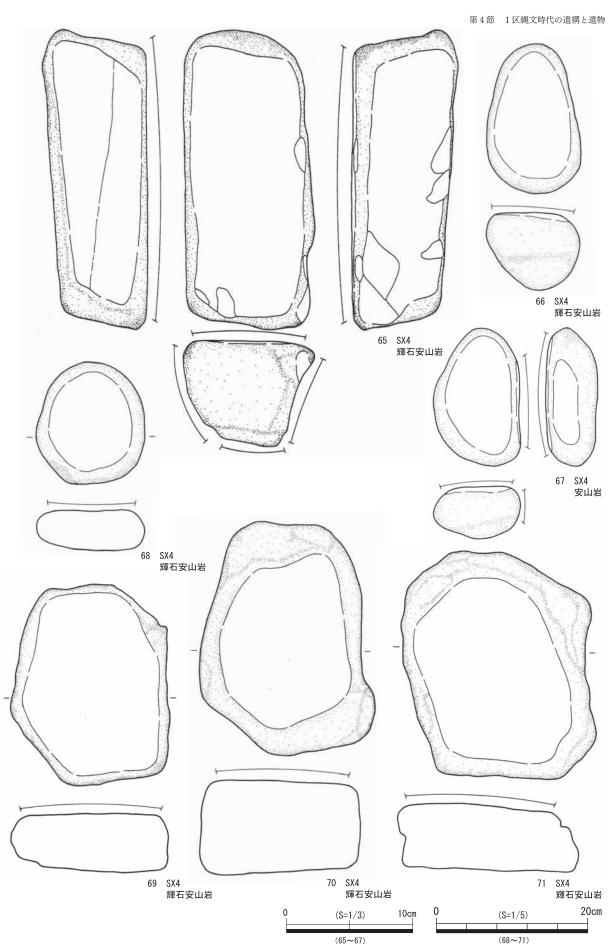
66と67は I 類の磨石である。65はⅢ類の磨石である。四角柱の礫の長辺 4 方向に磨面がある。68は小型の I 類の石皿、69~71は II 類の石皿である。



- 55 -



第45図 1区 遺構出土遺物3



第46図 1区 遺構出土遺物4

タ 埋甕 (SP193) (第45図56 図版13)

Ⅲ群1類a、五領ヶ台式の鉢56が口縁部を欠いて出土している。口縁部は、横位区画内に密接蒲鉾状平行沈線を施し、横位区画の下には縦位の密接蒲鉾状平行沈線で縦位区画を施す。縦位区画内には三角形状に蒲鉾状沈線を施し、その内部にはさらに波状沈線を施している。(岩崎・西田)

(2) 包含層出土土器 (第14表)

富士岡1古墳群1区では、早期~後期にかけての縄文土器が出土した。出土した土器・土製品のうち、198点を図化した。出土層位は第5層栗色土層~第6層休場相当層にかけてである。特に前期から中期の土器が多く出土した。

I 群 1 類 c (第47図73~75 図版13)

回転押型文を施す土器を本類とした。73~75は山型文を縦位密接施文する。73の胎土は「軽しょう」な胎土(註)に類似する。

I 群 1 類 h (第47図76~99 図版13)

胎土に繊維が入り、口縁部から胴部上半に沈線を施す土器で、主に三角形といった幾何学文様を施文する野島式土器を当類とした。施文方法からさらに2分した。

ア 沈線により文様を施すもの

斜位沈線をはさんだ矢羽根状とも言える、「ハの字」状に施すものは79・81・83~85である。さらにこの中で、縦位の区画内に「ハの字」状の沈線を充填するものは83~85・97である。

縦位と斜位区画内に沈線を充填するものは86・95である。

斜位沈線を三角形状に区画し、その中に短沈線を施すものは91・93・94である。

縦位・横位区画内に短沈線を縦位・斜位に施す土器は90・92である。90は口唇部に沈線を付けており、 斜位の沈線部分には段を作出している。99は斜位に沈線を引いた後、幅の広い指頭状工具で縦位と弧状 に擦り消した太い沈線を施している。

77・96・97はいずれも縦位と斜位沈線を組み合わせて文様を構成している。82は方向の異なる斜位沈線を上下に施し、79と類似した文様をもつものと思われる。

沈線により縦位・斜位に文様を施すものは80・88・98の3点を図示した。80は口唇部に半截竹管状工具により刻目を付け、口縁部は沈線を縦位とX字状に施している。98は縦位の沈線を引いた後、斜位の沈線を施す。

イ 指頭による沈線区画内に沈線を施すもの

指頭による沈線で区画した中に沈線で文様を付けるのは76・87・89である。指頭で縦位に区画し、逆 ハの字など斜位の沈線を付ける。78は口唇部に刻目を付け、斜位沈線を引き、それを指頭状のもので弧 状に擦り消すことで、文様をなしている。

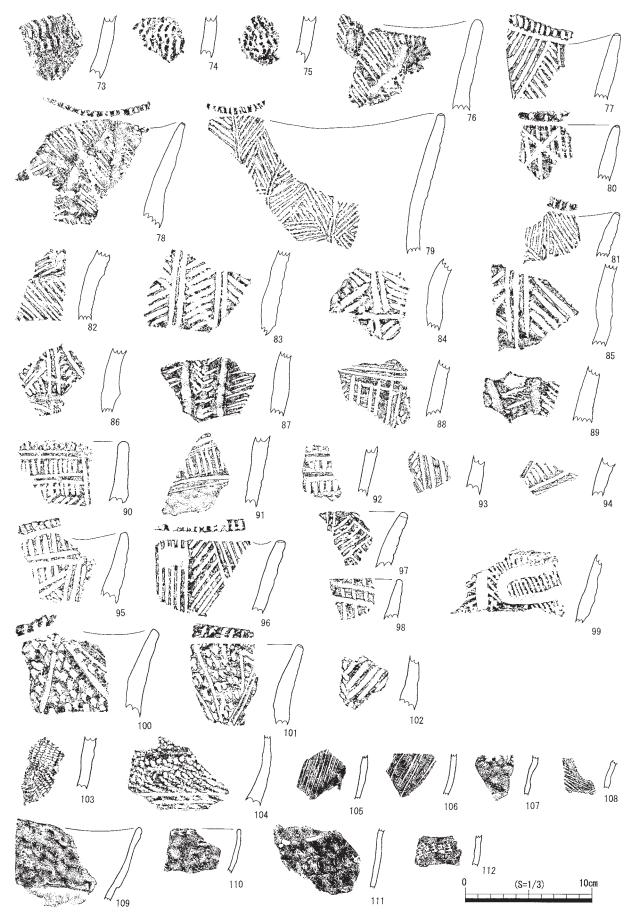
I 群 1 類 i (第47図100~102 図版13)

3点図示した。繊維を含む厚手の土器で、沈線区画内に文様を充填するという点では I 群 1 類 h 土器に類似するが、刺突に近い押引を充填する点が異なる。

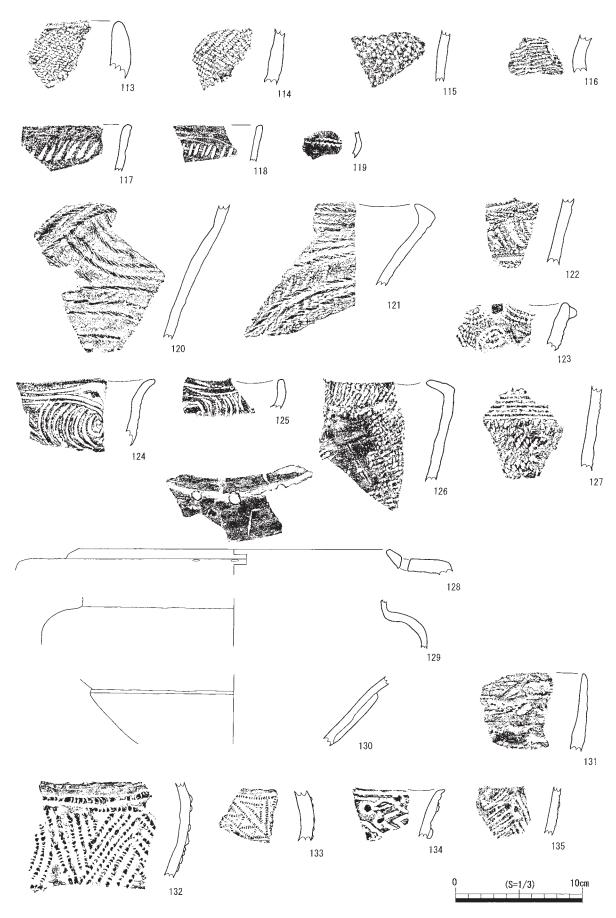
100・101は同一個体と考えられる。口唇部には刻目を施し、外面は斜位の三角状の幾何学的な沈線区画内に半截竹管状工具によって、押引状に刺突を施し充填している。102は小片で文様構成がわからないものの、 I 群 1 類 i の可能性のある土器として図示している。内面は横位に擦痕が付き、半截竹管状工具で矢羽根状に太い沈線を施している。

Ⅰ群2類Ⅰ(第47図103)

早期末から前期初頭と考えられる土器で、型式が不明なものである。103は繊維を含む厚手土器で、羽状縄文を施文している。



第47図 1区 包含層出土土器1



第48図 1区 包含層出土土器 2

Ⅱ群1類f (第47図104 図版14)

二ツ木式から関山 I 式併行の土器 1 点を図示した。104はループ文を施し、その上から半截竹管状工具で横位沈線を付けている。

Ⅱ群1類b (第47図105~108 図版14)

105・106・108は口縁部を欠くが木島畑式と思われる。薄手で内面に指頭痕を施した土器で、表面に半截竹管状工具や櫛歯状工具で斜位沈線を付けるものである。107は摘み痕を横位に付けている。外面には竹管状工具で斜格子状の細い沈線が施される。

Ⅱ群1類c(第47図109・110 図版14)

109は無文の土器であり波状口縁で、口縁部と胴部の間に折返し状に粘土紐帯を貼り付けることにより段を設けている。中越式系土器の可能性もある。110は半截竹管状工具により口縁部に沿って刺突文を付けている。木島IX式土器である。

Ⅱ群1類e (第47図111・112 図版14)

111は口縁部を欠いている土器で、横位に長さ4mm程の爪痕を施している。直径3mmほどの補修孔が付けられている。112は木端状工具で連続刺突文を施している。

Ⅱ群1類g(第48図113~116 図版14)

関山Ⅱ式で、繊維を含み縄文を施す土器である。113は器壁が厚く、組紐風の縄文が施される。114は 多条のLRとRLの羽状縄文、115・116はLRの縄文を施している。

Ⅱ群1類i (第48図117・118 図版14)

薄手の土器の口縁部に沿って、斜位の沈線を施す土器であり、117・118の2点を図示した。

II 群 1 類 j (第48図119 図版14)

119は清水ノ上II式の可能性がある土器である。器厚が 5 mmの薄手の土器で、外面には貝殻腹縁文を横位に施している。

II 群 2 類 a (第48図120~130)

諸磯 b 式で、浮線文を施すものは $120\sim122$ である。縄文を施し、口縁部がくの字形に内反するのは126である。

縄文の地文に半截竹管状工具により沈線を施すものは、123~125・127である。渦巻状沈線を付けるものは、123・124である。123は波状口縁で、波頂部に円形突起を貼り付けている。124は口縁部が外反する。125は弧状沈線を施す。127は平行沈線を施す。

128~130は無文土器である。128は有孔浅鉢形土器である。129は口縁部が立ち上がる。130も口縁部を欠くが、同じく浅鉢形をなす。

Ⅱ群2類b(第48図131)

北陸地方の蜆ヶ森式に類似する土器である。131は口縁部のみの出土で、外面は工具や指頭で調整痕が付けられている。

Ⅱ群2類c (第48図132~135 図版15)

諸磯c式で、結節浮線文と円形貼付文を施しており、4点図示した。結節浮線文を貼り付け、文様を構成する132・133と、沈線と円形貼付文を施す134・135に分かれる。132は粘土紐を鋸歯状や弧状に貼り付け、結節浮線文を施している。134は口縁に沿って半截竹管状工具で沈線を横位に施し、その下部には矢羽根状沈線を付け、円形貼付文を施す。

II 群 2 類 d (第49図136~第50図167・第52図233 図版14)

前期末の十三菩提式である。1区の縄文土器で、五領ヶ台式とともに出土量が多かった。文様・器形・ 胎土から複数の系統に分かれることが考えられる。このため、口縁部の文様や形から分類して報告する。

ア 口縁部に三角印刻および刺突を施す土器

口縁部に三角印刻文を施すのは136・137・139・140・141・144・149・150・152~155である。136・137・145・139は耳朶状の添付文が付く。136・141・145は刺突が施されている。

140は三角印刻文の下部にRLの縄文を施す。144は波状口縁の口唇部に玉抱三叉状に印刻文を付けている。口縁に沿って細かい三角印刻文を付け、円形の突起の中心に円形刺突を施す。

149・153は口唇部に粘土紐を貼り付け、凹凸のある口唇部を作出している。150・154・155は三角印刻文と半截竹管状工具による沈線を横位および斜位に施す。

イ 口縁部が筒形波状を呈する土器

167は富山県真脇遺跡の真脇式土器である。この土器は、口縁部を筒形波状に作っている点が特徴的である。筒形部分は長径53mm、短径28mmの楕円形をなしている。内面にはRL縄文の地文に粘土紐を貼り付け、結節浮線文を施す。外面も同じ様に同心円状や三角形に粘土紐を貼り付け、結節浮線文を施す。三角形に貼り付けた部分は刳り抜いて、三角印刻文を作出している。148も同じく筒形波状口縁で連続爪形文が施されている。

ウ ロ唇部に連続爪形文を施す土器

138は波状口縁の突起状の波頂部である。ソーメン状の粘土紐を縦位に貼り付ける。142は突起の付いた波状口縁の波頂部である。三角形に結節浮線文を貼り付ける。147は外面に半截竹管状工具による沈線を縦位に施し、内面には沈線とソーメン状の粘土紐で、格子状の文様を作出している。156はソーメン状の粘土紐で格子状の文様を作出し、その下部には沈線を施文している。

エ 結節浮線文を施す土器

142は波状口縁であり、三角形に隆帯・結節浮線文を貼り付けている。

オ その他

143は無文で口唇部を指頭でつまんで、小波状の突起を作出した土器である。146は平縁で隆帯により文様を作出している。

カ 胴部・底部

胴部の157~163、底部の164~166を分類した。

157~163は胴部である。157は半截竹管状工具による密接蒲鉾状平行沈線をY字状とU字状に施文し、印刻を施す。158・159・162は縄文の地文に結節浮線文を施す。160は半截竹管状工具によって刻みを施す。163は小波状の蒲鉾状平行沈線を引き、その下部に斜位沈線を施す。165は底部にかけて地文縄文、浮線文、三角印刻文などが付く。底面付近がわずかに屈曲して胴部へ続くことが特徴的である。

Ⅱ群2類e (第50図168~170 図版15)

東北地方を中心に分布する大木6式に併行する厚手の土器であり、3個体出土した。

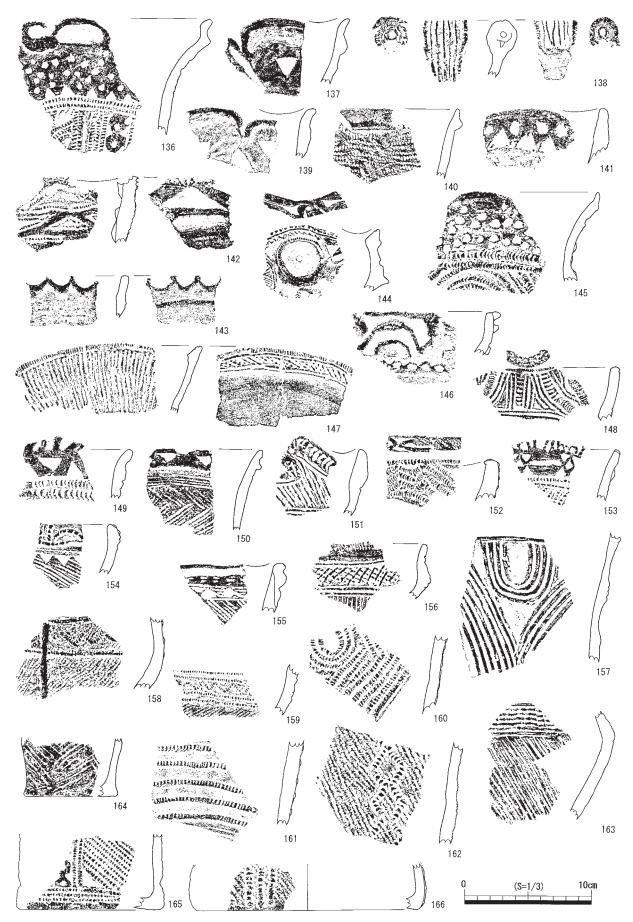
168の口唇部は粘土紐を貼り付け、凹凸を有する。半截竹管状工具で「くの字」状の沈線を施文し、円形の印刻文を施している。折り返し部の境目の屈曲部分には、横位沈線を引く。169・170は、「くの字」状の沈線内に三角印刻文を施文している。

Ⅱ群2類f (第50図171・172 図版15)

2点図示した。北白川Ⅲ式土器である。171・172は粘土紐を横位に貼り付け、半截竹管状工具により刻目を施す。

Ⅱ群2類g(第50図173~180 図版15)

173~180は西日本を中心に分布する大歳山式土器であり、8点を図示した。薄手で胎土は固く精緻で、 結節浮線文の断面が三角形である事から、文様も非常にシャープに施文されているのが特徴的である。 173は口唇部に2本の降帯を施し、小波状の口唇部で断面Σ字状の刺突を施す。内面にはRL縄文を施



第49図 1区 包含層出土土器3

す。外面は同じくRL縄文を地文とし、貼り付けた粘土紐上には刺突を施す。その下部には円形に貼り付けた粘土紐を結節浮線文としている。174~176・178は口縁部である。176は波状口縁の頂部で、粘土を内面へ折り返す事により、楕円形の孔を作出している。外面は地文にRL縄文、縦位に貼り付けた粘土紐には結節浮線文を施す。177~180は胴部である。いずれも地文に縄文を施し、粘土紐を貼り付ける。177・178は結節浮線文を施文し、180には縄文が施される。

II 群 2 類 h (第50図181~184 図版15)

大歳山式に併行する土器である。大歳山式としたものは、胎土が精緻で固く焼きしめられ薄手なのに対し、II 群 2 類 h はそれに類似するが、比較的厚手で胎土の粒子も粗く、結節浮線文の断面が蒲鉾形で、文様が粗雑なものとしている。4 点を図示した。181は口唇部につまみを施し、口縁部に沿って刻みを施す。182は口唇部の内面側にはヘラ状工具で刻みを入れ、口唇部に沿って外面には隆帯を貼り付け、刻みを入れている。内面には段を作出する。183は口唇部に連続爪形文を施す。折返し口縁で、その下部には横位に沈線が施される。184は口唇部に刺突がなされ、内面に縄文を 1 条付け外面にも縄文を施している。

Ⅲ群1類a (第50図185~第52図232・234~245 カラー図版4・図版15・16)

半截竹管状工具による集合沈線を施した土器で中期初頭に位置付けられる、五領ヶ台式土器を本群とした。

口縁部に蒲鉾状沈線を横位区画し、区画内に文様を充填し、胴部には同じく蒲鉾状沈線を施すものや、 縄文の地文と結節縄文を施す土器とそれの底部と考えられるものが多く出土した。

185は小型鉢である。口唇部に刻目を付け、口唇部と底部に横位沈線を付ける。その間に縦位沈線を付けている。

186・187・191・192・197・200は口縁部に半截竹管状工具により、横位区画内に波状沈線文様を施す 土器である。188・193・194・205は口縁部の横位区画内に格子目状沈線を施す。

196・201・206・207・208・210・238は横位区画内に矢羽根状の沈線を施す。

211~214は胴部片で、結節縄文を縦位に回転し、施文する。

223~231は同一個体である。幅 3 ~ 4 mmの細い蒲鉾状平行沈線を斜位や弧状に区画している。区画内を縦位沈線および円形印刻文、三角印刻文、三叉状の印刻文を充填する。

239は波状口縁で、口唇部から4.5cm下が無文部となり屈曲している。その下部には、RL縄文を施した後、工具で三角状の沈線を引き、文様を作出している。

245は顔面把手付土器の把手部である。顔面部分は土器の内側を向いていたものと考えられる。

顔面部は長さ5.5cm、幅5.5cm、奥行き5.9cmである。粘土紐をあらかじめ積み上げた生地の上部に高さ5mm、幅12mmの粘土紐を半楕円形状に貼り、その中に厚さ3mmの粘土板を付け、この上に幅11mmの粘土紐で眉・鼻部分を作出する。両目は三叉状に切り込みを入れ作出し、鼻部分は5mm程度に刺突をしている。顔の輪郭と眉部分は半截竹管状工具により連続爪形文を施す。頭部を眉部分に切れ込みを入れる様に額部分には三叉文を両端に施している。頭頂部はドーナツ状に粘土帯を貼り付け、RL縄文を施している。その内側には、空洞が作られ、円錐状である。後頭部に当たる部分は、横位の粘土紐を貼り付け、半截竹管状工具で連続刺突文を付ける。さらにその下部にはRL縄文を地文として施し、三角刻目文、三叉文を施している。その上から粘土紐を楕円形に貼り付け、同じく連続爪形文を付ける。

215~222、241~244はⅢ群1類a土器の底部と考えられるものを集めた。

Ⅲ群 1 類 c (第52図246~249 図版16)

主に近畿地方を中心として分布する、鷹島式土器の可能性がある土器をまとめた。色調が白色~橙色を帯びる薄手の土器である。246は縦位に多条縄文を施文した後、二枚貝の貝殻を押捺圧痕している。247

はRL縄文を地文とし、円形に貼り付けた粘土に半截竹管状工具で連続爪形文を付ける。また、渦巻状の文様と縦位沈線を付けている。他の個体と比べ胎土の粒子が粗く、焼成も異なる。248は地文にLRの縄文を施文し、薄い隆帯上に工具で円形刺突を施し、文様を作出している。249は多条縄文を施す胴部片である。

Ⅲ群 1 類 d (第52図250~252 図版16)

中期の東海系の土器である。3点図示した。

250・251は同一個体の可能性がある口縁部である。波状口縁で、外面はRL縄文の地文を施し、三角印刻文を付ける。三角印刻文を挟んだ上部と下部には半截竹管状工具で連続爪形文を施す。

252は横位に貼り付けた粘土紐に半截竹管状工具で連続爪形文を付ける。連続爪形文の下部は蒲鉾状の 平行沈線を横位に施し区画している。

Ⅲ群2類d (第52図253 図版16)

図化できたものは1点のみであった。小片であるが、253はIII群 2 類 d の可能性がある。文様は粘土紐を付け、刺突と縄文を施す。

Ⅲ群3類c (第52図254~256 図版16)

3点を図示した。254~256は全て同一個体であると考えられる。幅8m程の太い沈線を施し、周辺に 工具で横位に数段刺突を施している。中期後葉の土器である。

Ⅲ群3類e(第52図257~258 図版16)

257・258は同一個体の口縁部付近の把手の一部で、双環状であることが特徴である。中期後葉に比定される。

Ⅲ群3類f (第52図259~260 図版16)

259・260は沈線区画内に縄文を充填する土器である。259はRL縄文を施文している。

Ⅳ群 b (第53図261~266 図版16)

鉢261と、特殊な原体で施文する土器262~266を本類とした。261は口縁部に沿って隆帯を貼り付け、ナデを施し隆帯と体部の境目を平らにした後、上から横位の沈線を引いている。262~264は太めのR縄文に細いL縄文を巻いた縄文を回転施文している。265はR縄文にLを巻き付けて回転施文している。266はR縄文にLを巻き付け回転施文している。

型式不明の土器 (第53図267~268)

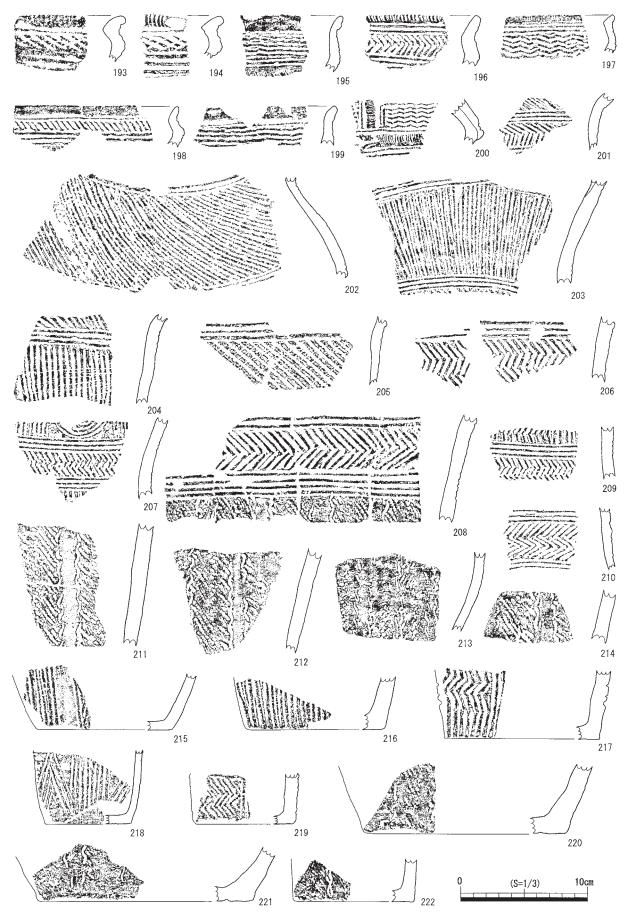
267・268は型式不明の底部である。267は木葉痕の他に敷物状の圧痕が付いている。268は底面に木葉痕が付いている。

土製品 (第53図269~271 • 第15表 図版16)

土製円板を3点図示した。全てⅢ群1類aと考えられる土器片を利用しており、それぞれ断面に擦痕が確認できる。(西田)



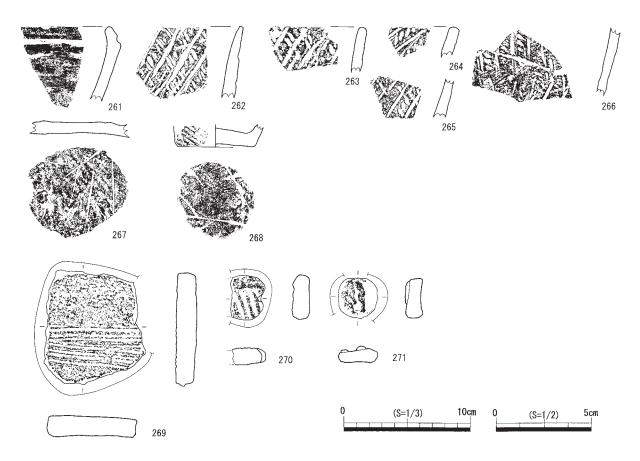
第50図 1区 包含層出土土器 4



第51図 1区 包含層出土土器 5



第52図 1区 包含層出土土器 6



第53図 1区 包含層出土土器7

(3) 包含層出土石器 (第16表)

石鏃(第54図272~291 図版17)

272は I 類である。平面形が横長である。素材剥離面を残し、裏面側縁部に未加工の部分が見られることから、未製品である可能性がある。

273と274は II A 1 類である。273は小型の製品である。274は脚部に平坦面を有するいわゆる鍬形鏃である。基部に逆U字状の抉りを入れている。275から279は II A 2 類である。275は下半部に最大幅を有し、幅が長さを凌駕する。基部は最大幅をはかる位置よりも深く抉っている。276は下半部が外弯する。277は上半部が外弯する。278と279は上半部が内弯し、下半部が外弯する。279は基部の抉りも深く、細長い脚部を有する。

280と281は II B 1 類である。形状はともに長辺の長い二等辺三角形を呈する。282と283は II B 2 類である。ともに下半部に最大幅を有する。282の基部の抉りは非常に浅く、右半部の基部は平基に近い形状を呈する。284から287は II B 3 類である。285と286は厚手の剥片を用いている。287はホルンフェルスの横長剥片を用いている。裏面の加工が基部の周縁剥離以外ほとんど見られず、素材剥離面を残していることから、未製品である可能性がある。

288はⅢ類である。厚手の剥片を用いている。

290はIV類である。上半部に最大幅を有するいわゆる五角形鏃である。石材は珪質頁岩を使用している。291は未製品である。

石匙 (第55図292~第56図300 図版17)

292から295は比較的対称的な平面形態を呈する横型の石匙である。294と295はともに右辺が切断されているが、素材剥片の形状とつまみの位置から鑑みて、対称的なものとして取り扱う。296と297はつまみの位置がやや片寄る横型の石匙である。298と299は左右非対称の横型の石匙である。石材は295が砂岩、296がチャート、その他のものはすべてホルンフェルスである。チャート製の296は表裏面とも精緻な加工を施しているが、これ以外の石材を使用したものは少ない加工で製品を作り出している。

300は縦型の石匙である。つまみの位置はやや左に片寄る。つまみは両面から剥離を加えて作り出し、 刃部は右側縁が表面に、左側縁が裏面に剥離を加えている。

石錐(第56図301~308 図版17)

301と302は三角形の基部に細長い尖頭部が付く。301は薄い剥片を用い、表面は全周、裏面は部分的に大きな剥離を加えて尖頭部を作成している。302は風化が著しい。表面は両側縁、裏面は基部と両側縁に剥離を加えて尖頭部を作成していると考えられる。303から305は基部に抉りが入り、T字またはY字状の形状を呈する。303と304は大きな剥離を加えて整形している。305は基部の抉りが浅く、尖頭部の先端を磨いている。306は棒状に近い二等辺三角形を呈する。表面は全周、裏面は部分的に剥離を加えて整形している。307の形状は不規則な五角形を呈する。最も鋭角的な角を尖頭部の先端とし、裏面の側縁部に剥離を施して整形している。308の形状は二等辺三角形を呈する。全体に剥離を加えて整形している。

スクレイパー (第57図309~第58図314 図版18)

309は逆台形の形状を呈するサイドスクレイパーである。横長剥片の両側縁を切断し、左側縁に連続した平坦剥離を両面に加えて刃部を作り出している。310の形状は半円形を呈する。横長剥片の左半部を切断し、右側縁に表面は連続的に、裏面は部分的に剥離を加えて刃部を作り出している。311の形状は楕円形を呈する。横長剥片の打面を左に置き、表面の外縁部に平坦剥離を加えて刃部を作り出している。312は細長い剥片を素材としている。両面に断続的な平坦剥離を加えて刃部を作り出している。313と314は横長剥片の打面を上に置き、剥片の端部を刃部としている。313は外縁部右側に表面側から急角度の剥離を加えている。314は表面が外縁部全体、裏面は部分的に剥離を加えている。

打製石斧 (第58図315~第60図324 図版18~20)

315は I 類である。刃部は直線的で、右側縁に打痕が見られる。

316から321はII類で、刃部は弧状をなしている。316と317は刃部の開きが小さく、幅広のものである。316は薄い円礫の形状を生かし、左側縁から刃部にかけては、表面は細かく、裏面はやや大きめの周縁加工が施されている。317は表皮付き剥片に側縁部は両面から、刃部は表面から剥離を施している。318から321は長さが短く、刃部の開きが大きいものである。318は周縁の尖った円礫の形状を生かして刃部としている。319は素材剥片の鋭利な縁辺をほぼそのまま刃部としている。320の刃部は表皮が残る表面は加工を施さず、裏面にのみ剥離を施している。321は小型の製品である。厚手の表皮付き剥片に右側縁と刃部は表面、基部と左側縁は裏面に剥離を施して作成されている。

322はⅢ類である。刃部は比較的直線的である。大型の表皮付き剥片の両側縁に大きめの剥離を施して括れを作り出している。

323と324はIV類である。ともに厚手の表皮付き剥片を素材とし、刃部は比較的直線的である。比較的大きめの剥離で基部を尖頭状に作り出している。

磨製石斧 (第60図325・326 図版19・20)

325と326はともに断面がレンズ状となり、刃部は両刃である。325は乳棒状磨製石斧である。326は基部が破損している。

石核(第61図327~329 図版17)

いずれも3~4cm大の黒曜石の原石から、打面転移を繰り返して小型の剥片が剥離されている。

石錘 (第61図330~337)

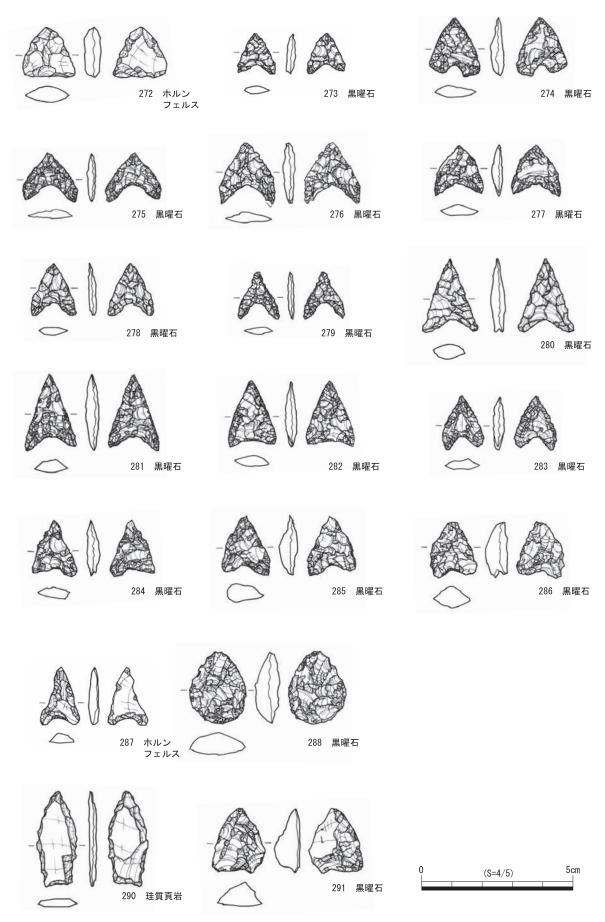
いずれも円礫の両端を打ち欠いて紐掛け部を設けている。

磨石・敲石・凹石・石皿(第62図338~第64図373)

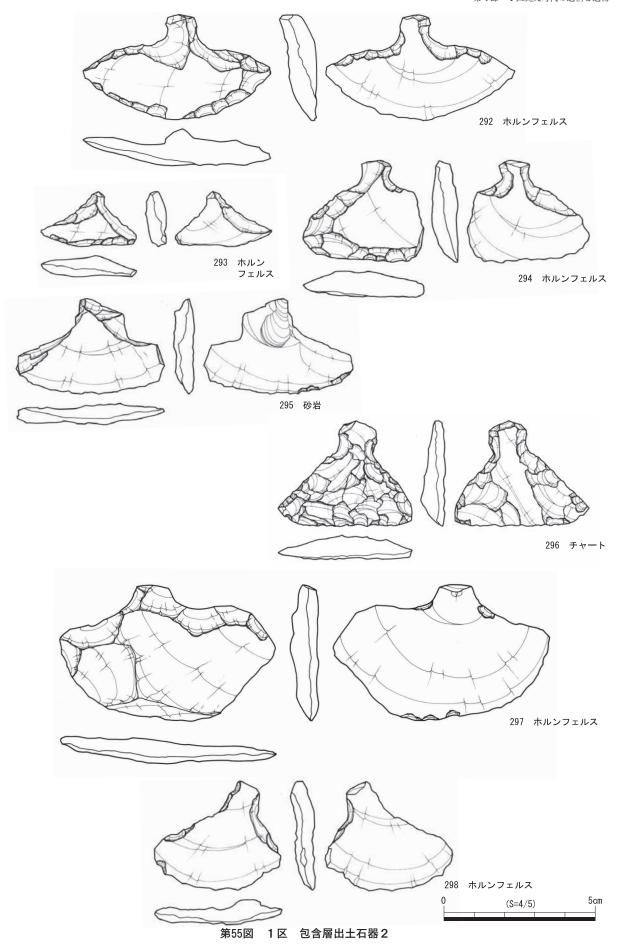
338から355は I 類の磨石である。338から350は片面だけに磨面がある。351から355は両面に磨面がある。357と358は II 類の磨石である。359から362は IV 類の磨敲石である。いずれも敲打痕は少ない。359は I 類の磨石の磨面に敲打痕がある。360は磨面の裏にも敲打痕がある。361は II 類の磨石の側面に敲打痕がある。362は円盤状の礫の平坦面に敲打痕があり、側縁に近い部分に磨面がある。363と364は V 類の敲石である。363は円盤状の礫の平坦面に、364は側縁に敲打痕がある。

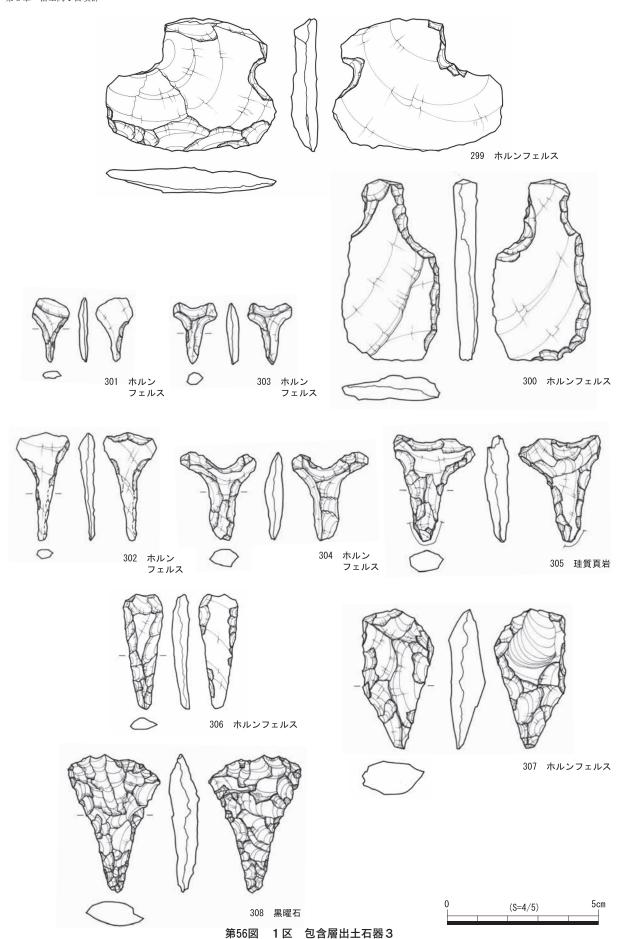
365から369は I 類の石皿である。365は磨りにより中央部が大きく凹んでいる。370から373は II 類の石皿である。(岩崎)

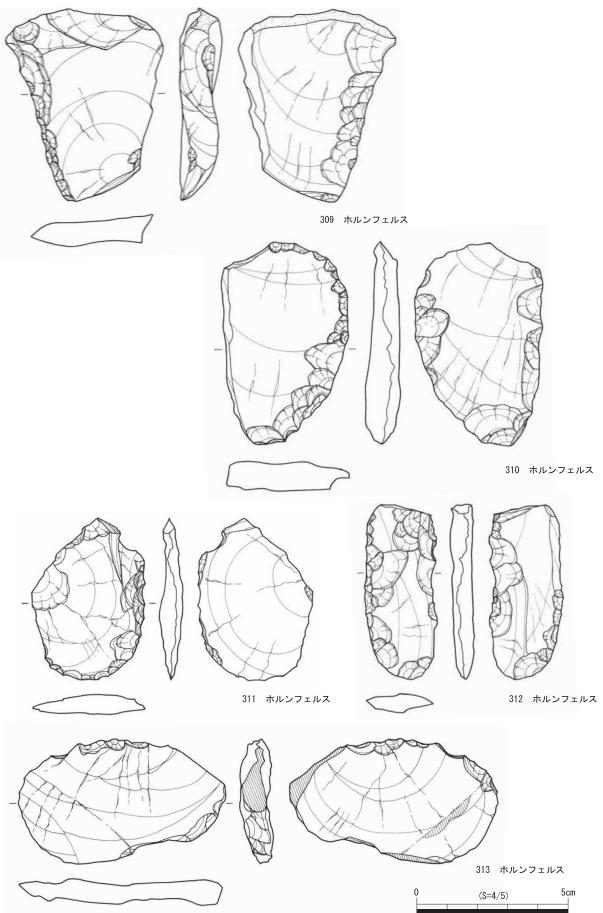
(註) 戸田哲也氏の御教示による。



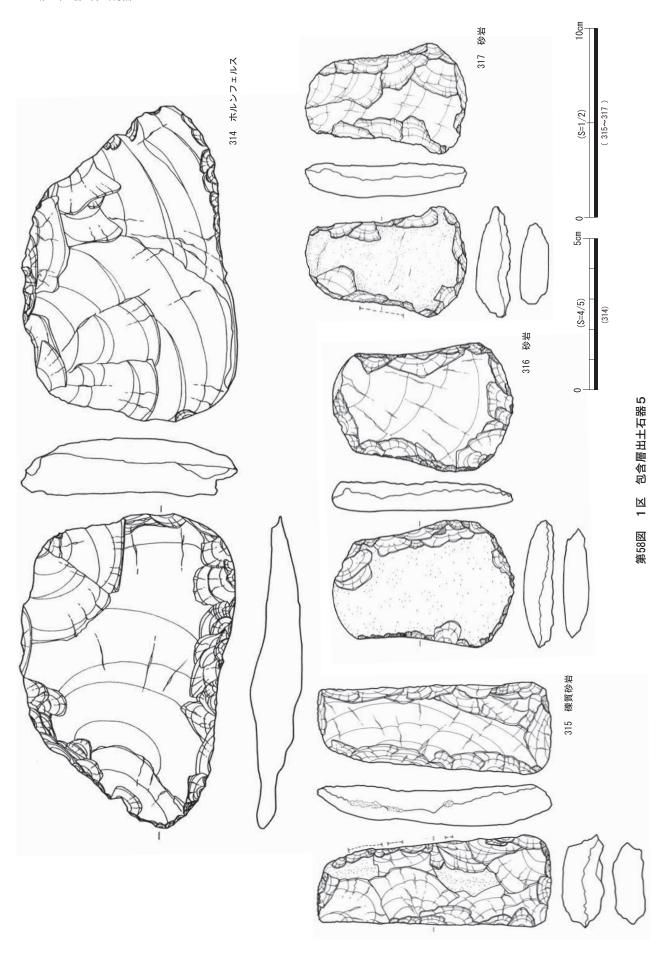
第54図 1区 包含層出土石器1



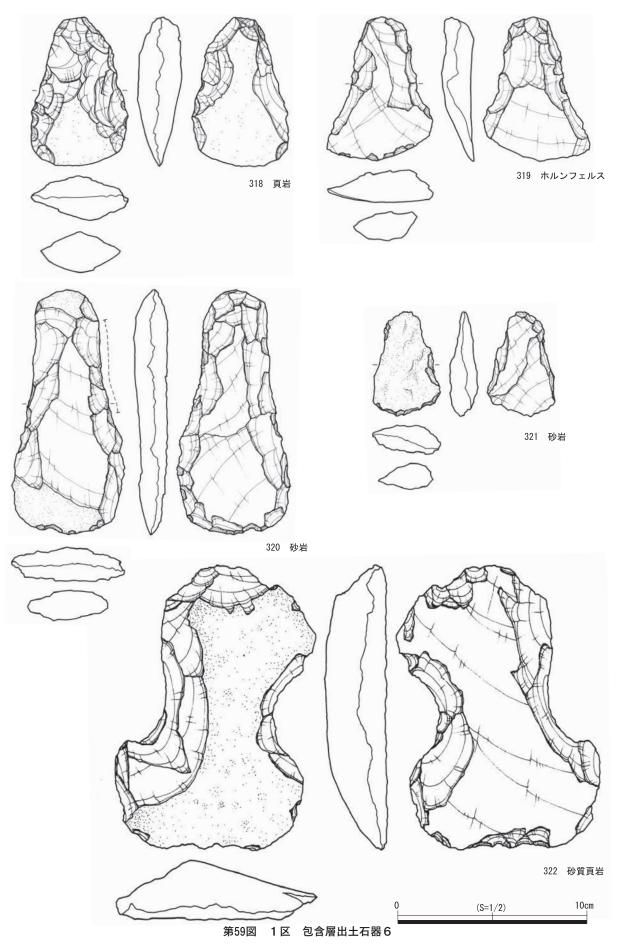


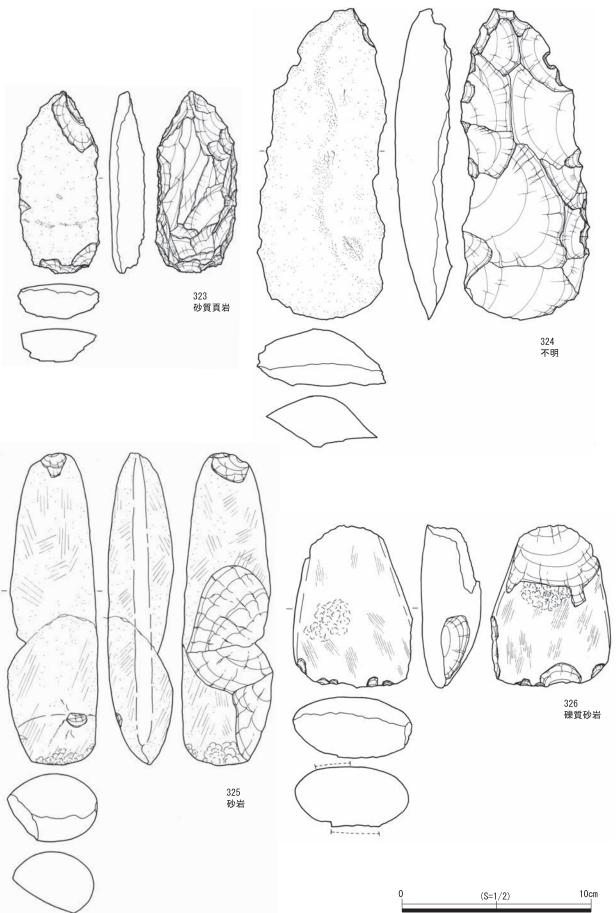


第57図 1区 包含層出土石器4

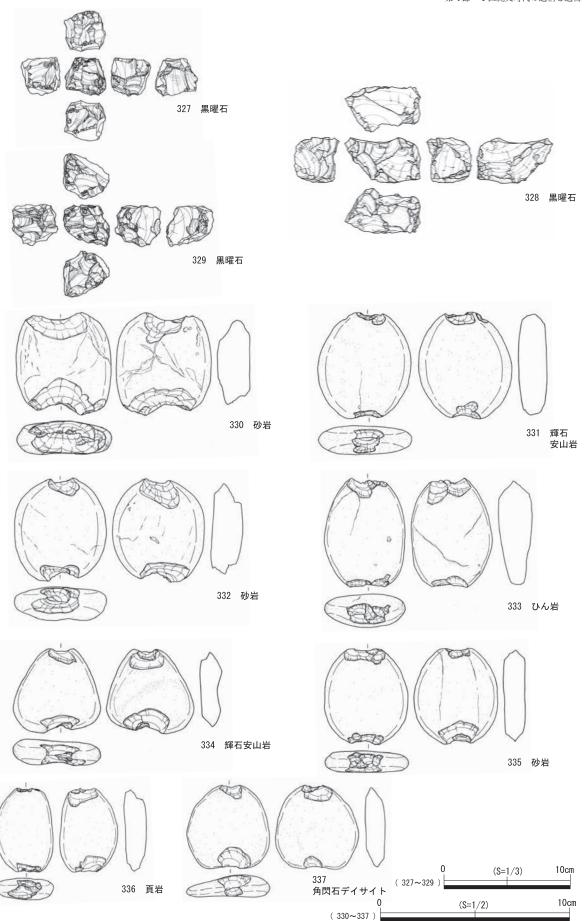


- 76 -

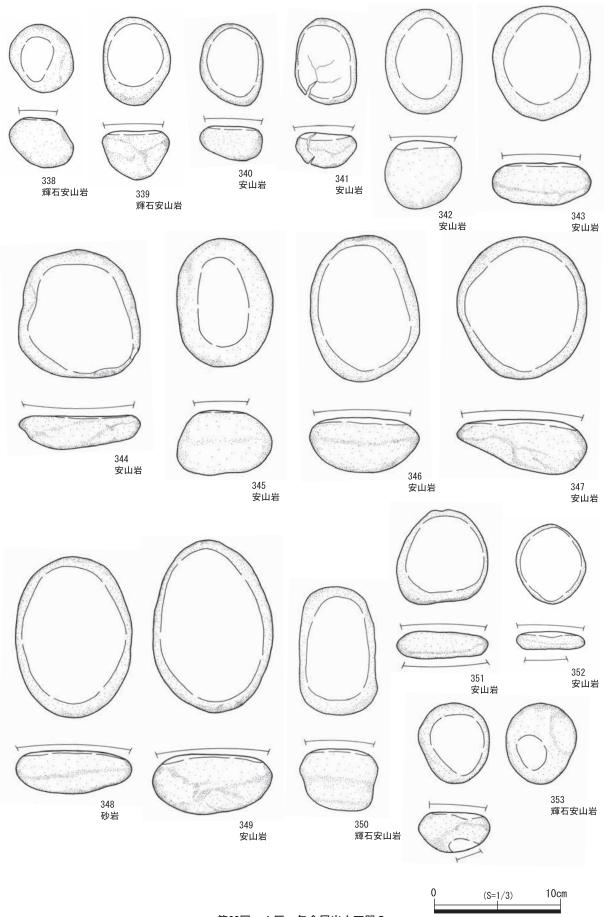




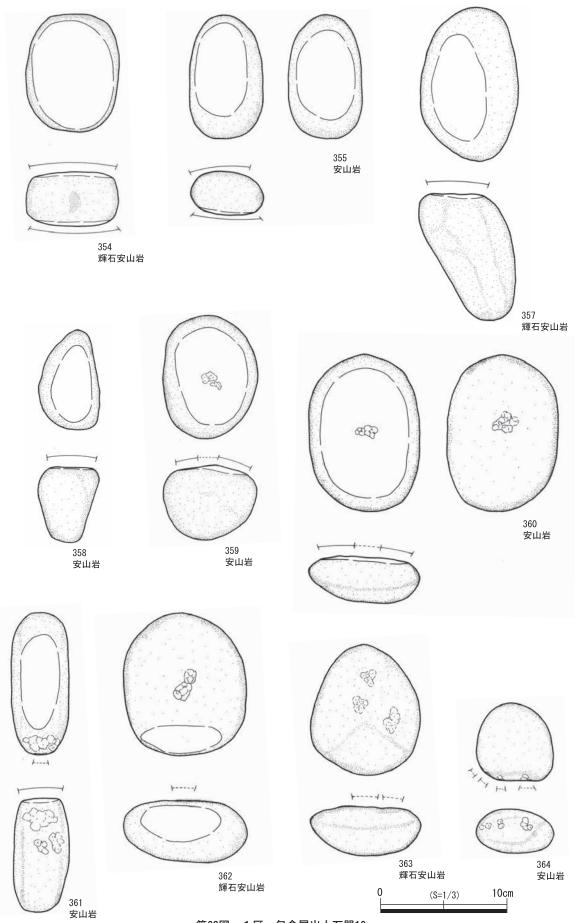
第60図 1区 包含層出土石器7



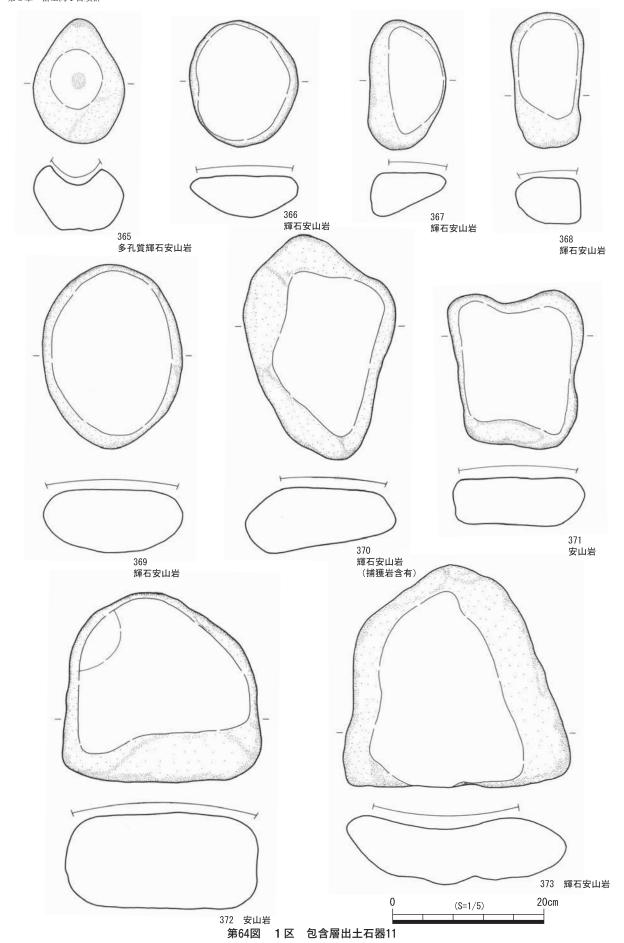
第61図 1区 包含層出土石器8

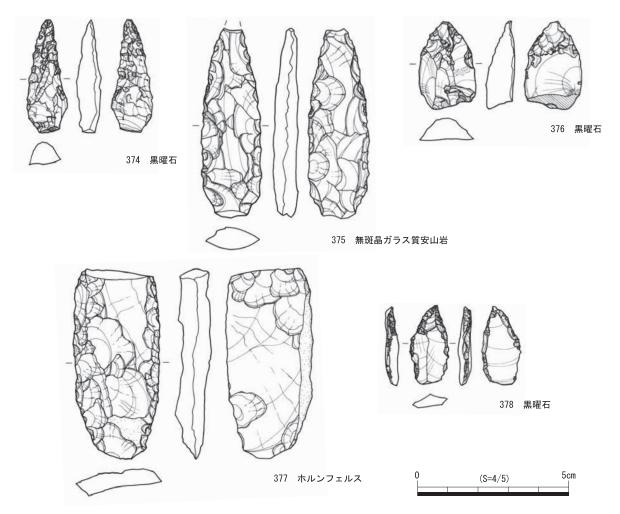


第62図 1区 包含層出土石器 9



第63図 1区 包含層出土石器10





第65図 1区 包含層出土石器(旧石器)

第5節 1区旧石器時代の遺物

本遺跡で出土した旧石器時代の遺物は、第6層休場層より上位の遺物包含層で出土したものである。 5点を図示した。

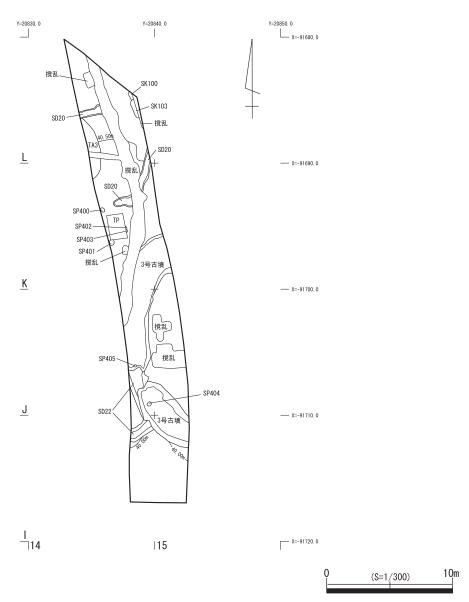
尖頭器 (第65図374~377·第17表 図版20)

374は両面加工の尖頭器である。やや反りがある剥片素材の両面に剥離を加えて整形している。基部を欠損する。375は半両面加工の尖頭器である。横長の剥片を用い、表裏面の周縁を主体に剥離を加えて整形している。先端部と基部を欠損する。376は片面加工の尖頭器である。厚手の横長剥片を用いている。表面は先端部の加工は細かいが、側縁部の加工は粗い。裏面は先端部のみ平坦剥離を加えて整形している。先端部と基部を節理により欠損する。377は未製品である。表面に自然面を残していることから、石核から早い段階で得られた横長剥片を用いていると考えられる。表面のみ周縁を主体に剥離を加えて整形している。先端部を欠損する。

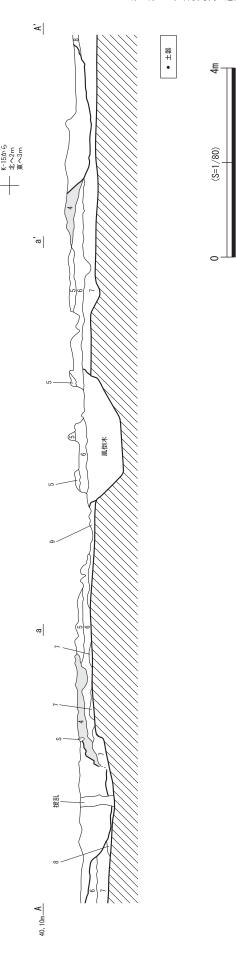
ナイフ形石器 (第65図378・第17表 図版20)

378は二側縁加工のナイフ形石器である。縦長の剥片を用い、打面側を先端として、両側縁にブランティングを施している。基部には加工を施さず、素材剥片の端部の形状をそのまま利用している。(岩崎)

第6節 2区古墳時代の遺構と遺物



第66図 2区 第1遺構面遺構配置 拡大図3



調査区外

第67図 3号古墳周溝1

4

搅乱

調査区外

SD21

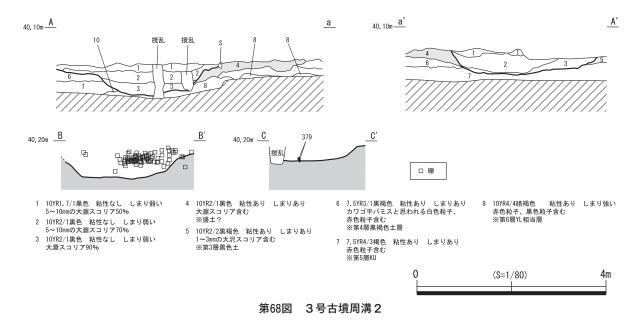
C'

SP405

SD22

SD22

搅乱



1 古墳時代中期以降の遺構

古墳時代中期以降の遺構は古墳の周溝が1基、溝状遺構1基、小穴6基を検出した。

(1) 3号古墳周溝 SD21 (第67·68図·第18表)

 $I-15 \cdot J-14 \cdot K-15$ グリッド、調査区中央から南側にかけて検出し、周溝東側は調査区外である。 周溝外側は17.1m、内側は11.4mで、平面形は1号・2号古墳周溝の様に半円形をなさず、半楕円形に近い。周溝の幅は最大3.2m、深さは最大0.6mで、断面形は底部に平坦面を持ち、緩やかに立ち上がっている。調査区は北から南にかけて緩斜面となって標高が下っているが、周溝も南側は北側に比べ深くなっている。南東側では極端に溝が浅くなり、途切れる部分が確認され、SD22を切っている。

溝が途切れることは、溝を構築する際にこの部分の底面を他の部分よりも浅く掘りこんだのか、または古墳の入口であった可能性が考えられる。しかし、周溝の内側は撹乱を受けており、墓坑の痕跡は確認されず、調査区壁面の東側土層でも痕跡は確認できなかった。

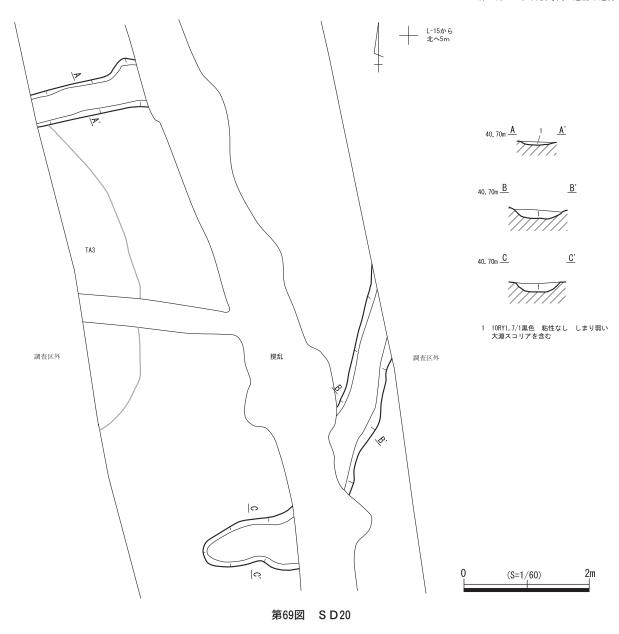
周溝の調査区東壁の土層堆積状況を確認した所、墳丘盛土と確実に言える土層堆積は削平されて確認できない。しかし、第4層に関しては、堆積している土に周溝を掘ったならば、土層が途切れた状態で検出されるはずであるが、周溝に沿うように土層が堆積していたため、盛土された土である可能性がある。

遺物は古墳時代後期の模倣坏が、西側周溝内の底面付近で出土した。南側の周溝内では多量の礫が出土した。20cmほどの礫が多くその中に人頭大の礫が混じって出土していた。古墳の石材が落ち込んだものと考えられる。また、南側の墳丘立ち上がり部分には拳大よりも少々大きい河原石が据えられていたことを、土層断面から確認した。

(2) 溝状遺構 SD20 (第69図・第20表)

調査区北側にて出土した。TA3を切って構築されている。

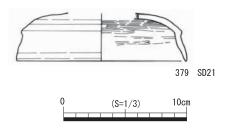
本来は半円状に溝が巡っていたものが削平を受け、部分的に消失したものと考えられる。残存している断面は非常に浅く、皿状をなす。遺物は流れ込みの縄文土器片が少々出土したが、溝状遺構自体の年代を示す遺物は出土していない。遺構覆土の黒色土に大淵スコリアを大量に含むことから3号古墳周溝時期が近いものと判断した。(西田)



(3) 遺物

3号古墳周溝SD21出土遺物(第70図379·第23表 図版25)

379は須恵器を模倣した土師器の坏蓋である。6世紀後半の時期のものと考えられる。(岩崎)



第70図 遺構出土遺物(古墳時代後期)

2 古墳時代前期の遺構

古墳時代前期の遺構は、竪穴状遺構1基、溝状遺構1基、土坑2基が検出された。

(1) 竪穴状遺構 TA3 (第71図·第19表)

L-14グリッド北東に位置する。遺構の大半が調査区外であるため遺構の本来の平面形は不明である。 遺物は覆土から流れ込みと考えられる縄文時代の遺物が出土したが、遺構本来の時期を示す遺物は出土 しなかった。SD22と同じく、古墳時代前期の遺構である可能性が高い。

(2) 溝状遺構 SD22 (第72図・第20表)

 $I-14 \cdot J-14$ グリッド、調査区南側にて検出した。東側を3号古墳周溝に切られている。

3号古墳周溝の南東側で溝が浅くなる部分があり、そこからSD22の第1層覆土が露出しており、南側で検出された溝と連結する、本来はL字状の溝であったと考えられる。溝の断面形は逆台形状である。溝状遺構の角に当たる部分は古墳周溝構築時に削られたが、角付近の第1層の上層からは壺・甕・高坏といった土師器が集中して出土した。

1区西側で5基の方形周溝墓が確認されている点と、それらの遺構覆土と類似する事、L字状になると考えられる部分から、遺物が集中して出土した状況から鑑みて、方形周溝墓である可能性がある。

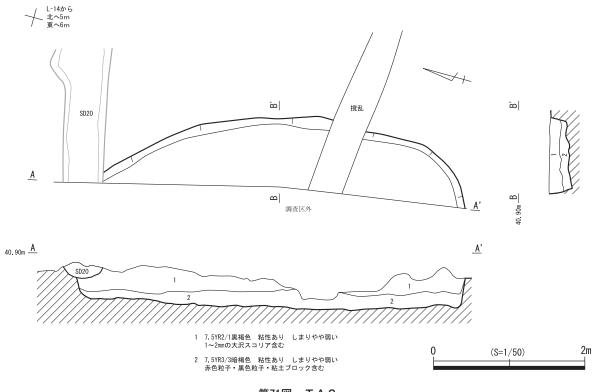
(3) 土坑 (第22表)

ア SK100(第73図)

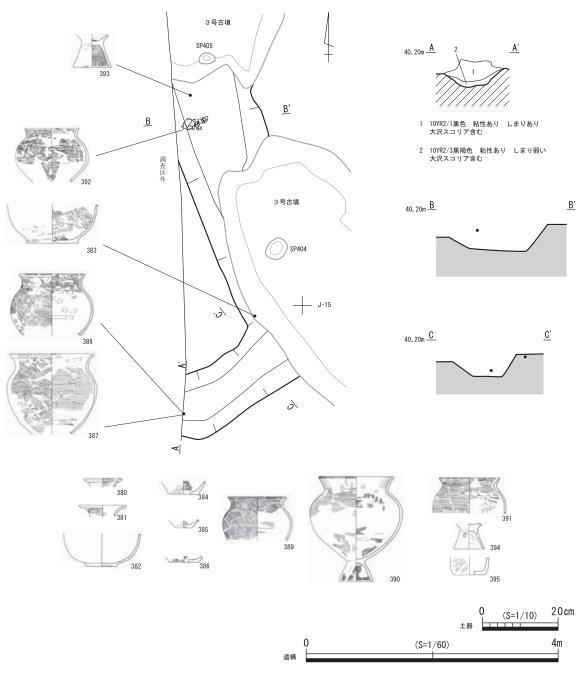
L-14グリッド調査区北側に位置する。撹乱とSK103により切られ、本来の平面形は不明である。遺物の出土はないが、覆土の特徴から古墳時代前期に近い時期に属する可能性がある。

イ SK103(第73図)

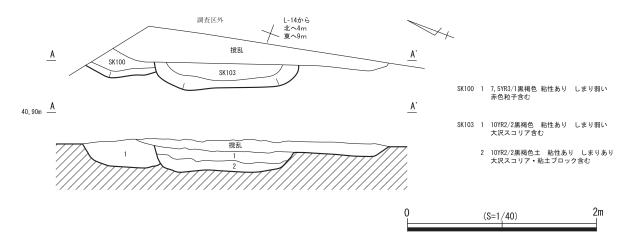
L-14グリッド調査区北側に位置する。撹乱に切られ、本来の平面形は不明である。遺物の出土はないが、覆土の特徴から古墳時代前期に近い時期に属する可能性がある。(西田)



第71図 TA3



第72図 SD22



第73図 第1遺構面 土坑

(4) 遺物(第23表)

ア SD22出土遺物 (第74図380~第75図395 図版25)

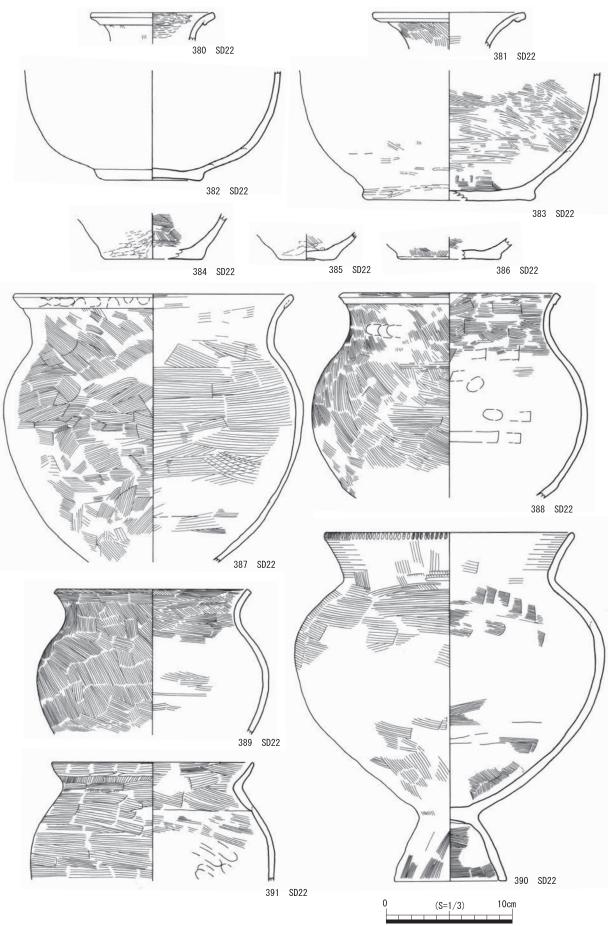
380と381は折り返し口縁壺である。380は口縁部が外反して開く。381は口縁部が大きく外反して開く。382から386は壺の底部である。

387と388は折り返し口縁を有する甕である。387は胴上部に最大径を有する。頸部は緩やかに屈曲し、口縁部の開きは小さい。388は胴部が丸く、中央部に最大径を有する。口縁部から頸部の形状は387と類似する。389は甕である。胴上部に最大径を有する。頸部は緩やかに屈曲し、口縁部の開きは小さい。口唇部は面取りしている。390は台付甕である。胴上部に最大径を有する。頸部の屈曲は明瞭で、口縁部は直線的に開き、横ナデを施している。口唇部は丸い。口唇部には刻みを施している。胴部に対して脚部は小さく、内弯気味に開く。391と392は甕である。391は胴部の張りが小さい。頸部の屈曲は明瞭で、口縁部は直線的に開く。口唇部は丸い。外面口唇部直下に弱い横ナデを施している。392は胴部が丸く、中央部に最大径を有する。頸部の屈曲は明瞭で、口縁部は直線的に開く。口唇部は丸い。393は台付甕の脚部である。開きは直線的である。

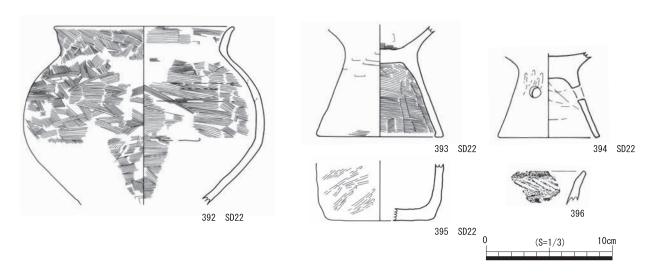
394は高坏の脚部である。短く直線的に開き、坏部との接合部が太い。円形の孔を3方に有する。 395は小型鉢の底部である。直立する胴部を有する。

イ 包含層出土遺物 (第75図396)

396は壺または甕の口縁部である。外面にヘラ状工具による斜方向の刻みを施している。口唇部は丸い。内面に弱い屈曲が見られ、屈曲より上はナデ、下は横ハケを施している。(岩崎)

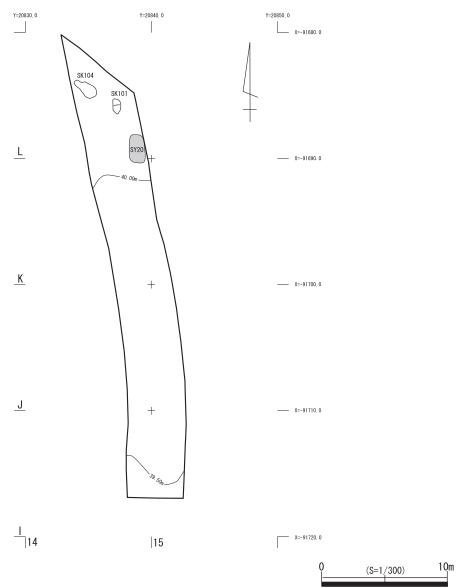


第74図 2区 遺構出土遺物1



第75図 2区 遺構出土遺物2

第7節 2区縄文時代の遺構と遺物



第76図 第2遺構面遺構配置 拡大図3

1 遺 構

富士岡1古墳群2区の縄文時代の遺構は集石が1基、土坑が2基検出された。調査区北側を除いて、 溶岩礫が露頭しており、遺構は検出されなかった。

(1) 集 石

ア SY20 (第77図・第21表)

L-14グリッド、調査区北側の第 5 層栗色土層中で検出した。 1 区で出土した集石同様、掘り込みを有さない集石である。

2 mほどの集石の範囲内からは縄文時代前期後葉と考えられる土器片が出土した。

(2) 土 坑

イ SK101 (第77図・第22表)

L-14グリッド、調査区北側で検出した。土坑の平面形は不整楕円形であり、明確な形をもたない。

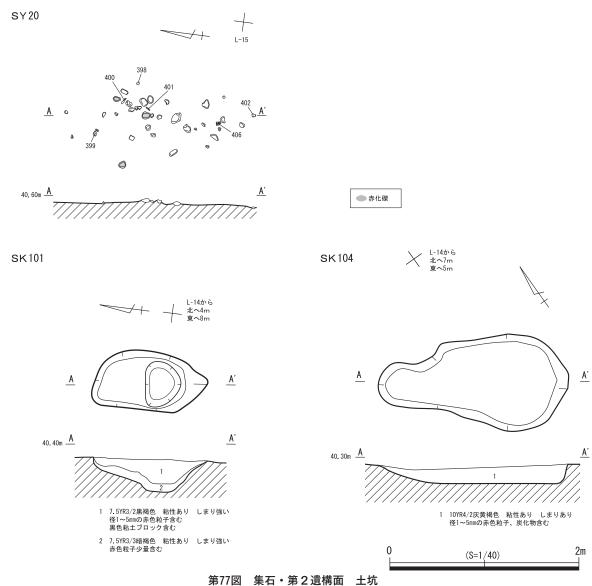
遺構の覆土は2層で、1層上面の壁面近くからⅡ群2類 d 土器が出土した。

ウ S K 104 (第77図・第22表)

L-14グリッド、調査区北側部分に位置し、栗色土層相当層の下層で検出した。

調査区北側の遺物が特に集中して出土する場所に位置し、遺構の上面およびその付近5 m四方の包含 層からは、Ⅱ群2類a土器や破損した石器、礫が多量に出土した。礫は明らかに赤化しているものも含 まれていた。報告書では土坑として報告するが、周辺の遺物の出土状況も含め本来は別の性格をもつ遺 構であった可能性もある。

遺構は明確な平面プランは持たず、不整楕円形である。断面形は緩やかに立ち上がり、皿状をなす。 遺物は熱を受けた小型の礫数点と、前期前葉のⅡ群1類e、Ⅱ群1類i土器と後葉のⅡ群2類a、Ⅱ群 2類 d 土器と考えられる土器片が出土した。土器はそれぞれ時期差があり、流れ込みである可能性もあ るため、遺構の年代を示すものではない。(西田)



2 遺物

(1) 遺構出土の遺物 (第24表)

ア SY20 (第78図398~402・406 図版26)

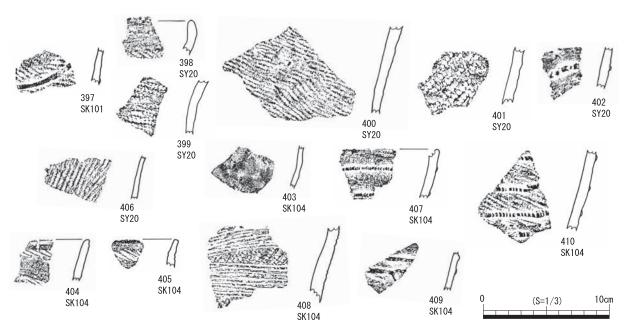
図示できた土器は 6 点である。 II 群 2 類 d の十三菩提式、 II 群 2 類 j の前期末から中期初頭の土器が出土した。 398は II 群 2 類 d の口縁部で、幅 5 mの粘土紐を横位に貼り付け、上部に刺突を施す。 R L の多条縄文を付ける。 $399\sim401$ は II 群 2 類 d、406は II 群 2 類 j で前期末の東海系土器と考えられる。 さらに、図示はできなかったが、黒曜石の剥片が出土している。

イ SK101 (第78図397 図版26)

縄文土器が1点出土した。397は条の太さ約4mmのRL縄文を地文とし、弧状の粘土紐を貼り付けている。II群2類dで前期後葉土器の可能性がある。

ウ SK104(第78図403~405・407~410 図版26)

図化できたのは土器 7 点である。403は II 群 1 類 e の木島式、 $404 \cdot 405$ は II 群 1 類 i の上の坊式土器である。408は縄文の地文に横位沈線を引く II 群 2 類 e である。 $407 \cdot 409 \cdot 410$ は結節浮線文を横位に付ける II 群 2 類 e 仕器である。e の他、黒曜石の砕片と礫が出土した。(西田)



第78図 2区 遺構出土遺物

(2) 包含層出土の土器 (第24表)

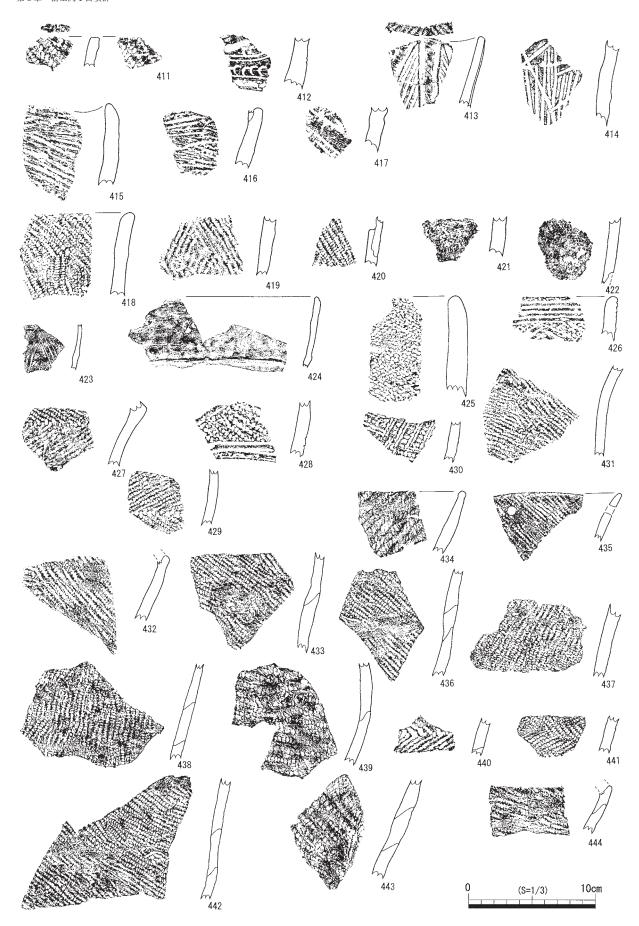
2区の縄文土器は第4層~第6層上面の包含層で出土した。特に前期後葉のⅡ群2類 a 土器の出土が調査区北側において顕著であった。その反面1区で主体となって出土した中期初頭のⅢ群1類 a 土器の出土は少量であった。

I 群 1 類 b (第79図411 図版26)

411は表裏縄文土器であり、口唇部・内外面にRL縄文を施したにぶい黄褐色の土器である。早期前葉の土器と考えておきたい。

I群1類d (第79図412)

412は器厚が 1 cm~1.5cmと厚手の土器で、沈線区画内に、半截竹管状工具で刺突を施している。田戸下層式である。



第79図 2区 包含層出土土器 1

I 群 1 類 h (第79図413・414 図版26)

野島式土器を2点図示した。413は波状口縁の口縁部に幅3mmの絡条体を付け、微隆起線文により縦位の区画をし、区画内には半截竹管状工具により、斜位に沈線を施している。1区・2区のI群1類i土器で微隆起線文が施文されるものは4131点のみの出土であった。414は縦位沈線を付けた後、斜格子状沈線を施している。

I 群 2 類 j (第79図415・416)

415・416は条痕文を施す土器で、2点図示した。口縁部片で外面に条痕文を施しており、胎土に繊維を含む。

I群2類I (第79図417~422)

早期末から前期初頭のその他の土器である。417は繊維を含み、外面に斜位の沈線が施文される。418~420は縄文を施す土器で繊維を含む。420はLRの多条縄文で羽状縄文を施している。421・422は厚手の無文土器で、繊維を多く含む。422は調整痕を付けている。

Ⅱ群1類b (第79図423 図版26)

木島||四式上器である。423は外面に半截竹管状工具で斜位の沈線を付け、一部は交差している。

Ⅱ群1類c (第79図424 図版26)

424は内外面に指頭痕が付いた無文の土器で、口縁部と胴部の間には段が付いている。中越式系土器の可能性も考えられる。

Ⅱ群1類g (第79図425~430 図版26)

関山II 式で胎土に繊維を含み羽状縄文などを施す土器である。425・426は口縁部である。425は口縁部から組紐風の縄文を付けている。426は地文に縄文を付けた後、沈線を横位に施し、鋸歯状の沈線を付ける。427は多条縄文と結節羽状縄文を施している。428はRL縄文を付け、半截竹管状工具で横位・斜位に施文している。429はLR縄文の結節羽状縄文を付けている。430は胴部に正反合で

$$L \left\{ \begin{array}{c} L \left\{ \begin{array}{c} R \\ R \end{array} \right\} \\ L \end{array} \right\} \left\{ \begin{array}{c} L \left\{ \begin{array}{c} R \\ R \end{array} \right\} \\ R \left\{ \begin{array}{c} L \\ L \end{array} \right\} \end{array} \right\}$$
 の羽状縄文を付けている。

Ⅱ群1類h (第79図431 図版26)

黒浜式で431はRL縄文を施す土器である。胎土には繊維が混入されている。関山Ⅱ式土器よりも色調が黒みがかり、胎土の特徴が異なる。

Ⅱ群1類k (第79図432~第80図465 図版27)

縄文や羽状縄文、結節縄文を施し、胎土に繊維が混入しない土器群をⅡ群1類kとした。いずれも破片で器形がわかる資料は出土していない。

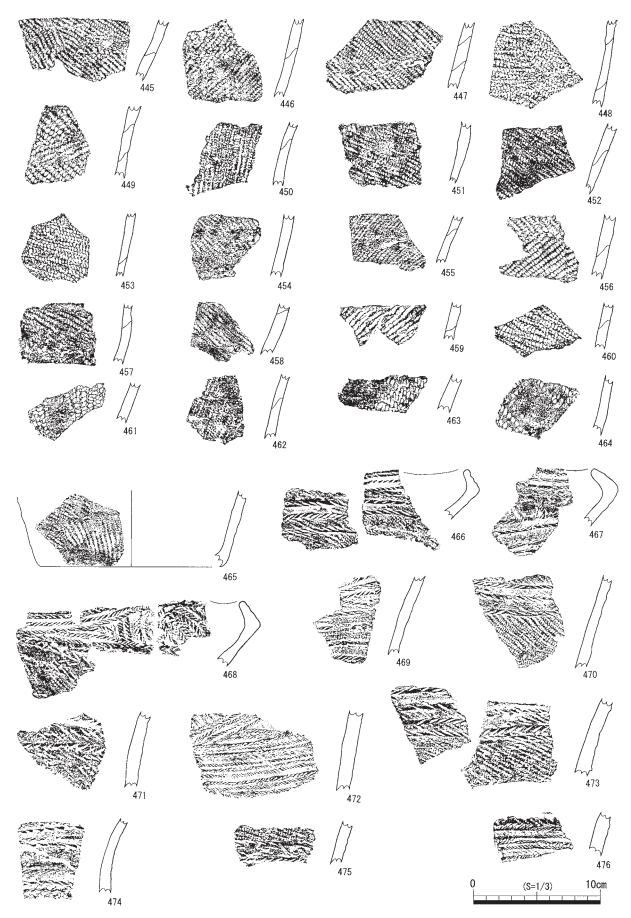
前期中葉の釈迦堂 Z式に相当する土器であり、併行すると思われる II 群 1 類 h は 1 片が出土したのみであった。しかし、 II 群 2 類 a 諸磯 b 式土器とは分布が重なって出土する状況が確認できた。この 2 類 a 土器に入るものや併行する縄文土器が混入している可能性もある。

435は補修孔が穿たれ、口縁は外反する。432・444は口縁部がくの字状に内反し、外面にRL縄文を施す。440はLRとRL縄文で結節羽状縄文を付けている。457はRL縄文とL縄文を付けている。447はRLの端部を結節した縄文を施す。羽状縄文を施すのは441・449・456である。

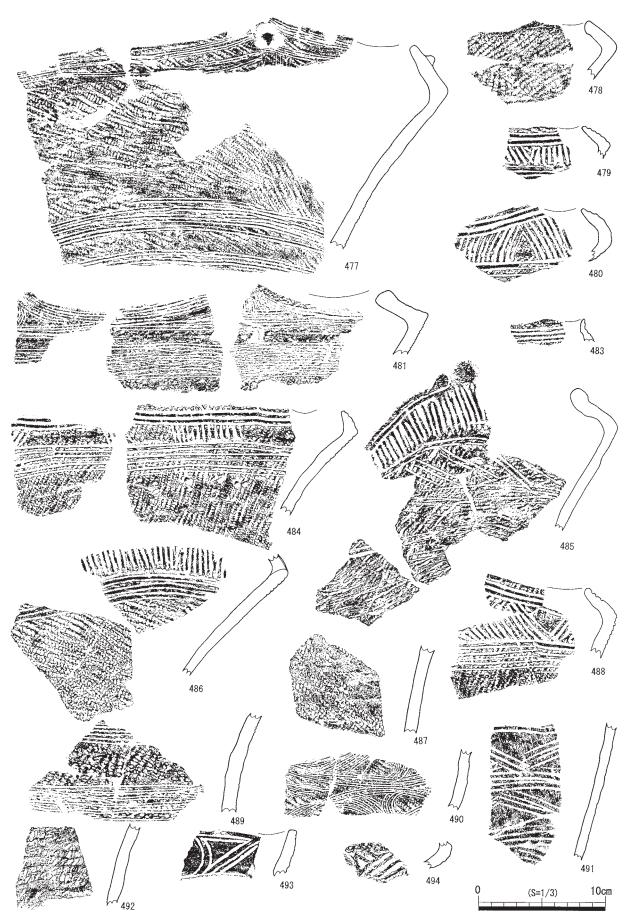
II群2類a (第80図466~第82図499·503 図版27)

2区の中で最も多く出土した土器である。特に調査区北側の集石や土坑周辺で集中して出土した。

これら II 群 2 類 a 土器としたものの中では、胎土の違いが顕著に見られた。外面が白みを帯びた黄橙色の土器は $466 \cdot 468 \cdot 470 \sim 472 \cdot 475 \cdot 476$ があげられる。この土器は全て縄文の地文に浮線文を施すものに限られるという特徴が見られた。また、胎土が白みを帯びており、砂粒を多く含む器厚の薄い491



第80図 2区 包含層出土土器 2



第81図 2区 包含層出土土器3

と、赤褐色や褐色または橙色の胎土をもつその他の土器のように数種に分けることができた。これらの Ⅱ群2類a土器は文様の特徴から、さらに以下5つに分類して報告する。

ア 浮線文を施すもの

縄文の地文に浮線文を施すものは466~471・473~475である。468は波状口縁の口縁部をくの字状に内反させている。内反する外面の部分には、RLの縄文を地文に付け、口縁に沿って扁平な浮線文を横位または渦巻状に施して文様を作出している。

また、縄文を地文とし、扁平な浮線文を横位や斜位につけ、細い棒状工具の先端で刺突をなすものは 472・476・494である。483はミニチュア土器で、波状口縁をなし、RL縄文の地文に半截竹管状工具で 横位に引いた後、浮線文を付けている。

イ 縄文の地文に平行沈線を施し、文様を構成するもの

477・479~481・484~490である。484は「くの字」状に口縁が内反する口縁部から胴部にかけての破片である。口縁に沿って半截竹管状工具で平行沈線を施し、胴部にも横位の沈線を引く。口縁部と胴部の沈線の間には縦位の沈線を施している。485は波状口縁で、波頂部には突起が付いている。3個単位で付けられたと考えられる。外面はL縄文を地文とし、口唇部に沿って山形に沈線を引き区画した中には縦位に密接平行沈線を施している。また、下部には斜位・横位の沈線を引いている。490はRL縄文を地文とし、半截竹管状工具で蕨手状沈線を作出している。503は沈線のみで文様を構成するがおそらくは485と類似する口縁部であるのでここに含める。

ウ 平行沈線のみで文様を構成しているもの

491・493である。493は口縁に沿って沈線を横位や斜位に引くことで、文様を作出している。491は半 截竹管状工具で、横位に区画した後、三角状の沈線を施す。

エ 文様が縄文のみのもの

478・487・492の3点を図示した。

478は口縁部を「くの字」状に内反させて LR縄文を施す土器で、下部には同一原体で羽状に施文している。492は L縄文を施す。これ等は出土分布が重なる点や胎土が諸磯 b 式と類似する事から本類に含めた。

オ 無文土器 (有孔浅鉢形土器・浅鉢)

496・497は有孔浅鉢形土器の口縁部である。498・499は無文の浅鉢で、横位の研磨痕が付けられている。

カ 底部

495の1点を図示した。横位に平行沈線が施文されている。

II群2類d (第82図500~502·504~509 図版28)

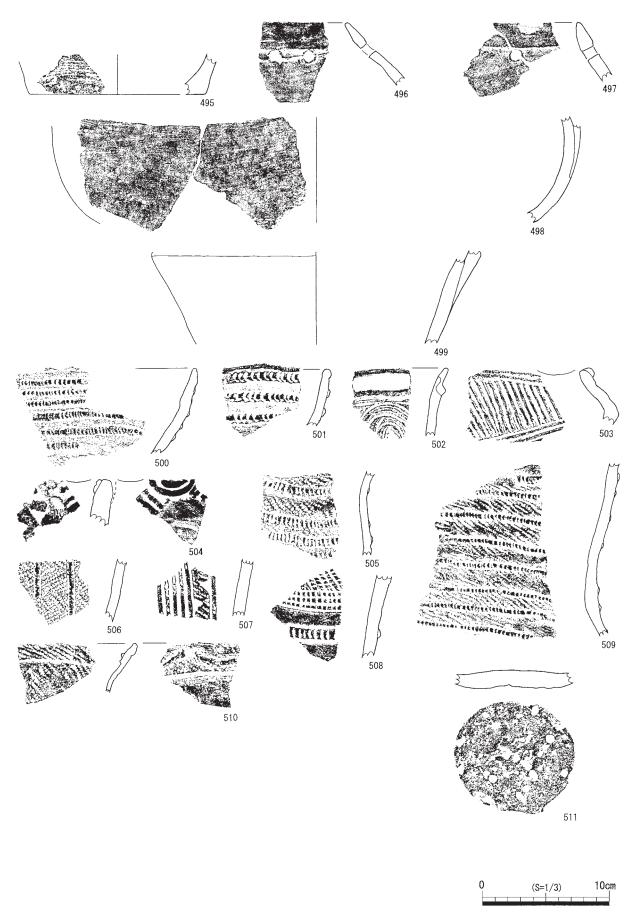
504は波状口縁で外面に三角印刻文を施す。500・505・506・509はRL縄文を付け、結節浮線文を付けるものである。501は地文が無文で結節浮線文を付ける。502は口縁に沿った横位粘土紐の下に円形沈線を付けている。508は沈線を付け、隆帯上には刻みを入れている。

II 群 2 類 f (第82図510 図版28)

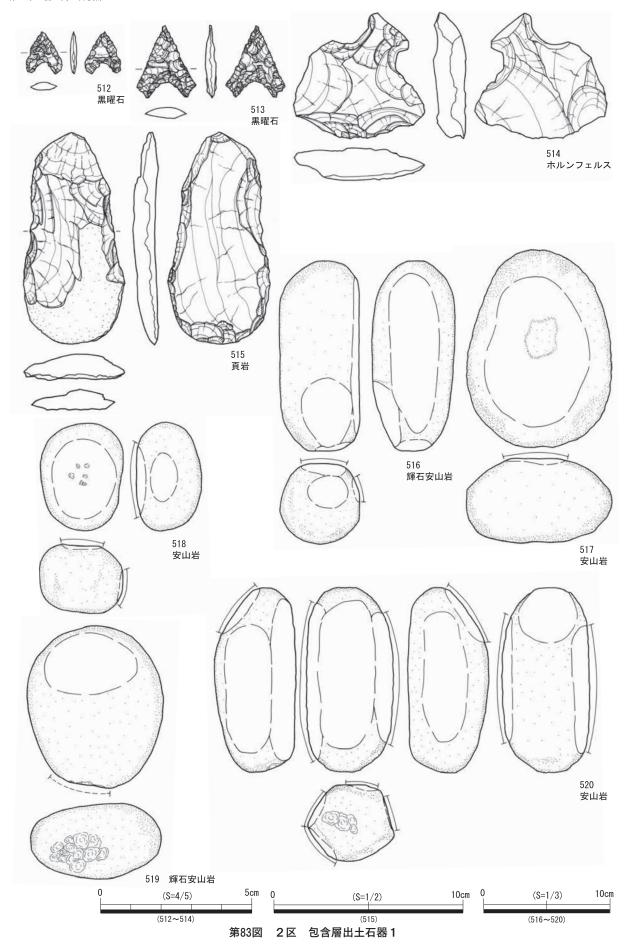
510は内面に R L の縄文を施文した後、断面が三角形の粘土紐を付けている。外面の口縁は折り返し口縁で、 R L の縄文を付けている。 II 群 2 類 f の北白川式としたが、胎土や文様の付け方が向山遺跡例とは異なるため、「北白川系」とすべきか。

Ⅲ群1類a

図化はしていないが、五領ヶ台式土器が少量出土した。Ⅲ群1類 a 土器とした五領ヶ台式の中でも1区と同じく半截竹管状工具による集合沈線と縄文で文様を付ける土器が主体を占める。

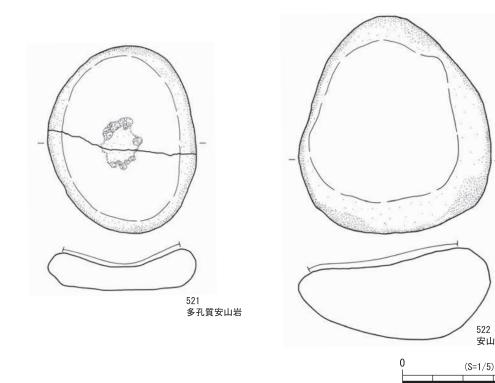


第82図 2区 包含層出土土器 4



安山岩

20cm



第84図 2区 包含層出土石器 2

型式不明の土器(第82図511)

511は型式不明の土器の底部である。底面には2~7㎜程度の植物の種子とみられる円形の圧痕が付い ている。(西田)

(3) 石器 (第25表)

石鏃(第83図512・513 図版28)

512と513は II A 1 類である。512は小型の製品である。513は基部に逆U字状の抉りを入れている。

石匙 (第83図514 図版28)

514は左右非対称の横型の石匙である。刃部は表面のみに剥離を加えている。

打製石斧 (第83図515 図版28)

515はⅡ類である。薄い円礫を素材としている。刃部は弧状で、開きは小さい。表皮が残る表面は剥離 を施さず、裏面に平坦剥離を施している。

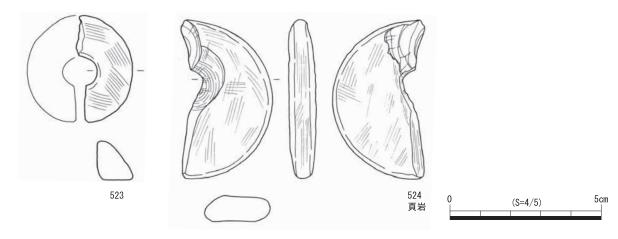
磨石・敲石・凹石・石皿 (第83図516~第84図522)

516はⅢ類の磨石である。磨面が3箇所見られる。517から520はIV類の磨敲石である。517と518はI類 の磨石の磨面に敲打痕がある。519は平坦な円礫の側縁寄りに磨面があり、反対側の側縁に強い敲打痕が ある。520はⅢ類の磨石の先端部に敲打痕がある磨敲石である。磨面が4箇所あり、断面形は五角形を呈 する。

521と522は I 類の石皿である。521は磨面の中央に敲打痕が見られる。

(4) 玦状耳飾 (第85図523・524・第26表 図版28)

523は土製の玦状耳飾である。形状は金環形を呈する。断面形は表面の中央部が盛り上がり、裏面は平 坦である。524は頁岩製の玦状耳飾である。523と同じく形状は金環形を呈する。切れ目の長さが中央孔 の径より長い。中央孔の位置はやや上に片寄る。両面から穿孔し、全面を研磨して仕上げている。断面 形は平坦である。(岩崎)



第85図 2区 玦状耳飾

第5表 富士岡1古墳群1区古墳周溝の概要

() は残存値

遺 構 名	挿 図	図版	検出面	グ リ ッ ド	規模(m) 東西×南北	最大幅 (m)	最大深 (m)
1号古墳周溝 (SD1, SD2)	8, 10, 11	1, 2	KU	H-15, 16, G-14, 16	$(18.3) \times (8.3)$	2.5	0.5
2号古墳周溝 (SD4, SD5)	8, 10, 12	2	KU	H-11, 12, 13, I-11, 12	$(20.8) \times (9.3)$	2.7	0.6

第6表 富士岡1古墳群1区竪穴建物の概要

() は残存値

遺構名	挿図	図版	検出面	グリッド	主軸方位	平面形態	規模(m) 長軸×短軸	主柱 穴数	掘方	炉形態	出土遺物
SH1	8, 10, 16	3	KU	G-14	N-17°-W	方形	$(3.4) \times (3.0)$	1	_	_	
SH2	8, 10, 17	3	KU	H-13, 14	N-39°-W	隅丸方形	4.8× (4.3)	3	平坦	_	第30図2
SH3	8, 10, 18	4	KU	H-13	N-22°-W	隅丸方形	4.6× (4.1)	4	_	_	第30図3, 4
SH4	8, 9, 19	4	KU	H, I-11	N-7°-W	隅丸方形	5.1×4.4	4	平坦		第30図5, 6
SH5	8, 9, 20	5	KU	H-8, 9	N-7°-W	楕円形	4.6× (4.0)	3	円形	_	

第7表 富士岡1古墳群1区掘立柱建物の概要

遺構名	挿 図	図版	検出面	グリッド	主軸方位	柱間規模	桁行 (m)	梁間(m)	柱穴平面形態
SB1	8, 10, 22		KU	H-12	N-25°-W	1間×1間	2.8	2.2	隅丸方形

第8表 富士岡1古墳群1区方形周溝墓の概要

() は残存値

遺構名	挿図	図版	検出面	グリッド	主軸方位	方台部(m) 長軸×短軸	規模(m) 長軸×短軸	周溝最大 幅(m)	周溝最大 深(m)	出土遺物
SZ1	8, 9, 23	6	KU	H, I, J-6, 7	N-37°-W	10.5×7.7	12.1×10.0	1.3	0.9	第31図8
SZ2	8, 9, 24	6	KU	I-7, 8	N-20°-W	6.2×6.0	7.8×7.6	1.1	0.4	
SZ3	8, 9, 25	6, 7	KU	H-8, 9, I-8, 9	N-12°-W	13.9×10.5	16.6× (12.6)	1.7	1.1	第31図9~15
SZ4	8, 9, 27		KU	H-10, 11	N-16°-W	$(4.4) \times (2.2)$	$(7.4) \times (2.6)$	0.9	0.5	
SZ5	8, 9, 27	7	KU	H-10	N-13°-W	$(4.5) \times (1.9)$	$(6.9) \times (2.4)$	1.1	0.2	

第9表 富士岡1古墳群1区溝状遺構の概要

()は残存値

遺構名	挿 図	図版	検出面	グリッド	全長(m)	最大幅 (m)	最大深(m)	遺物
SD3	8 • 10, 34	_	KU	H-14	(5.2)	0.8	0.2	
SD6(1号古墳周溝)	8, 10	_	KU	H-12, 13	13.9	1.2	0.2	
SD7	8 • 10, 34	_	KU	H-12, 13	(9.2)	1.4	0.1	
SD15	8, 10	_	KU	G, H-17	(1.0)	(0.4)	(0.2)	
SD13	8, 9, 13	_	KU	H-6, 7, I-7	(9.6)	1.7	0.5	第15図1

第10表 富士岡1古墳群1区竪穴状遺構の概要

() は残存値

遺構名	挿 図	図版	検出面	グリッド	主軸方位	規模(m) 長軸×短軸	深さ	ピット数	出土遺物
TA1	35, 37, 38	8	YL	H-11	_	4.8× (1.0)	0.1	6	第30図7 第43図25
TA2	8, 10, 21	5	KU	G-15	N-5°-W	$(4.1) \times 3.2$	0.1	1	

第11表 富士岡1古墳群1区集石の概要

遺構名	挿 図	図版	検出面	グリッド	規模(m) 長径×短径	礫数	赤化比率	遺物
SY12	35, 36, 39	9	YL上面	I-5	1.4×0.6	83	1%	
SY13	35, 36, 39	_	YL上面	I-5	0.6×0.5	12	8%	
SY14	35, 36, 39	_	YL上面	I-5	0.5×0.4	7	0%	
SY11	35, 36, 39	9	KU	I-8	3.9×3.8	79	4%	第43図28~35 第44図36~42

第12表 富士岡 1 古墳群 1 区土坑・小穴の概要

() は残存値

书123交	苗上門 白垻			7(3)					()は残存値
遺構名	挿 図	図版	検出面	グリッド	種 類	規模(m) 長径×短径	最大深 (m)	平面形態	遺物
SK1	8, 10, 29	8	KU	G-14	土坑	1.3×0.8	0.5	長楕円形	
SK2	8, 10		KU	G-13	土坑	1.0×0.9	0.1	円形	
SK3	8, 10		KU	H-15	土坑	1.3×0.5	0.2	不整形	
SK7	8, 10		KU	H-11	土坑	3.7×2.0	0.5	長楕円形	
SK10	8, 10		KU	H-12	土坑	$0.7 \times (0.5)$	0.5	楕円形	
SK11	8, 10		KU	H-12	土坑	0.5×0.5	0.2	楕円形	
SK13	8, 9		KU	I-11	土坑	1.4×1.2	0.1	楕円形	
SK69	8, 9		KU	I-8	土坑	$0.8 \times (0.4)$	0.1	不整形	
SK71	8, 9		KU	I-9	土坑	$0.6 \times (0.5)$	0.2	長楕円形	
SK72	8, 9		KU	I-9	土坑	$0.6 \times (0.4)$	0.4	楕円形	
SK84	8, 9, 14		KU	I-8	土坑	$(1.3) \times 0.8$	0.1	不整形	
SK85	8, 9		KU	I-8	土坑	$(1.6) \times 0.7$	0.1	不整形	
SK87	8, 10, 34		KU	H-14	土坑	1.3×1.2	0.3	楕円形	
SP11	8, 10		KU	H-11	小穴	0.4×0.4	0.5	楕円形	
SP27	8, 10		KU	H-11	小穴	0.3×0.2	0.5	円形	
SP29	8, 10		KU	H-12	小穴	0.4×0.4	0.2	円形	
SP36	8, 9		KU	I-10	小穴	0.4×0.3	0.6	楕円形	
SP37	8, 9		KU	I-10	小穴	0.4×0.3	0.5	楕円形	
SP39	8, 9		KU	H-10	小穴	0.3×0.3	0.4	円形	
SP40	8, 9		KU	H-10	小穴	0.3×0.3	0.4	円形	
SP43	8, 9		KU	H-10	小穴	0.4×0.3	0.2	楕円形	
SP45	8, 10		KU	H-11	小穴	0.4×0.4	0.4	楕円形	
SP47	8, 10		KU	H-11	小穴	0.2×0.2	0.5	円形	
SP48	8, 9		KU	I-10	小穴	0.4×0.3	0.3	楕円形	
SP49	8, 9		KU	I-10	小穴	0.4×0.4	0.7	楕円形	
SP50	8, 9		KU	I-9, 10	小穴	0.5×0.4	0.2	楕円形	
SP59	8, 9		KU	I-10	小穴	0.4×0.3	0.6	楕円形	
SP61	8, 9		KU	I-10	小穴	0.3×0.3	0.5	円形	
SP69	8, 9		KU	I-10	小穴	$0.4 \times (0.2)$	0.4	円形	
SP192	8, 9		KU	I-9	小穴	0.5×0.4	0.2	楕円形	
SP346	8, 10		KU	H-15	土坑	0.3×0.3	0.3	楕円形	
SK16	35, 37, 40		YL	H-14	土坑	1.1×1.1	0.4	楕円形	第44図43,44
SK17	35, 37		YL	G-14	土坑	1.2×1.1	0.5	円形	
SK22	35, 36		YL	H-10	土坑	1.0×0.4	0.3	長楕円形	
SK24	35, 37		YL	H-13, 14	土坑	0.8×0.6	0.3	長楕円形	
SK26	35, 37, 40		YL	H-14	土坑	1.3×0.7	0.3	長楕円形	第44図49,50
SK28	35, 37, 40		YL	H-13	土坑	1.1×1.0	0.3	円形	第44図45
SK31	35, 37		YL	H-12	土坑	0.6×0.5	0.4	長楕円形	
SK33	35, 37		YL	H-12	土坑	0.6×0.6	0.6	楕円形	
SK34	35, 36		YL	I-11	土坑	0.7×0.6	0.3	楕円形	
SK37	35, 36		YL	I-10	土坑	0.6×0.5	0.3	楕円形	
SK38	35, 36		YL	H-10	土坑	1.4×1.2	0.2	楕円形	
SK40	35, 36		YL	I-10	土坑	1.0×0.6	0.2	長楕円形	
SK41	35, 36		YL	I-10	土坑	1.2×0.7	0.2	不整形	
SK42	35, 36, 40		YL	H-11	土坑	1.2×0.7	0.2	長楕円形	第44図47
SK44	35, 36, 40		YL	H-10	土坑	1.2×0.7	0.3	長楕円形	第44図48
SK45	35, 36		YL	I-10	土坑	0.6×0.4	0.2	楕円形	
SK46	35, 36, 40		YL	I-10	土坑	0.8×0.7	0.2	不整形	第44図46
SK50	35, 36		YL	I-10	土坑	0.6×0.4	0.3	長楕円形	
SK51	35, 36, 40		YL	I-11	土坑	1.4×1.1	0.2	長楕円形	第44図53
SK53	35, 37		YL	G-15	土坑	0.7×0.7	0.3	円形	
SK57	35, 37		YL	G-15	土坑	0.8×0.5	0.1	長楕円形	
SK60	35, 36		YL	H-10	土坑	1.0×0.6	0.3	長楕円形	
SK62	35, 36, 40		YL	I-10	土坑	1.1×0.6	0.8	長楕円形	第44図51
SK63	35, 36		YL	H-10	土坑	1.0×0.6	0.2	長楕円形	
SK65	35, 37		YL	H-14	土坑	$0.8 \times (0.6)$	0.2	楕円形	
SK73	35, 37		YL	G-16	土坑	0.7×0.6	0.2	楕円形	
SK74	35, 37		YL	H-16	土坑	$0.9 \times (0.6)$	0.2	楕円形	
SK78	35, 36		YL	I-8	土坑	0.6×0.3	0.2	長楕円形	
SK80	35, 36, 41	10	YL	H-8, 9	土坑	0.9×0.8	0.1	円形	
SK83	35, 36		YL	H-9	土坑	0.6×0.5	0.1	楕円形	
	35, 36, 40		YL	I-11	土坑	0.7×0.5	0.6	楕円形	第44図52

遺構名	挿 図	図版	検出面	グリッド	種類	規模(m) 長径×短径	最大深 (m)	平面形態	遺物
SP71	35, 37		YL	H-13	小穴	0.4×0.3	0.3	楕円形	
SP72	35, 37		YL	H-13	小穴	0.3×0.3	0.4	楕円形	
SP76 SP79	35, 37 35, 37		YL YL	G-14 G-13	小穴 小穴	0.3×0.3 0.4×0.3	0.5	円形形 不整形	
SP83	35, 37		YL	G-13 G-14	小穴	0.4×0.3 0.4×0.4	0.4	円形	
SP84	24, 37		YL	H-14	小穴	0.4×0.4 0.4×0.3	0.2	円形	
SP85	24, 37		YL	H-14	小穴	0.5×0.4	0.4	楕円形	
SP86	35, 37		YL	H-14	小穴	0.4×0.3	0.4	円形	第45図57
SP90	35, 37		YL	H-13	小穴	0.3×0.3	0.4	楕円形	
SP91	35, 37		YL	H-13	小穴	0.4×0.4	0.2	楕円形	
SP96	35, 37		YL	H-12	小穴	0.4×0.4	0.4	楕円形	
SP97	35, 37		YL	H-12	小穴	0.4×0.3	0.4	楕円形	
SP98	35, 37		YL	G-12	小穴	0.3×0.2	0.5	楕円形	
SP99	35, 37		YL	H-13	小穴	0.4×0.3	0.4	楕円形	
SP100	35, 37		YL	H-13	小穴	0.4×0.4	0.4	円形	
SP101 SP102	35, 36 35, 36		YL YL	H-10 H-9	小穴 小穴	0.4×0.3 0.5×0.4	0.1	楕円形 楕円形	
SP103	35, 36		YL	H-10	小穴	0.6×0.6	0.2	円形	
SP108	35, 37		YL	H-12	小穴	0.4×0.4	0.6	楕円形	
SP109	35, 36		YL	H-10	小穴	0.3×0.3	0.3	円形	
SP116	35, 36		YL	H-10	小穴	0.5×0.5	0.2	楕円形	
SP127	35, 37		YL	H, I-12	小穴	0.5×0.4	0.5	楕円形	
SP131	35, 36		YL	H-11	小穴	0.3×0.3	0.3	楕円形	
SP133	35, 37		YL	H-12	小穴	0.3×0.3	0.5	楕円形	
SP135	35, 37		YL	H-12	小穴	0.3×0.3	0.7	楕円形	
SP138	35, 37		YL	H-12	小穴	0.5×0.4	0.5	円形	
SP139	35, 36		YL	H-11	小穴	0.5×0.5	0.3	楕円形	第45図55
SP143	35, 36		YL	H-11	小穴	0.4×0.2	0.3	長楕円形	
SP151	35, 37		YL	H-12, 13	小穴	0.4×0.3	0.4	長楕円形	
SP161 SP164	35, 36 35, 37		YL YL	H-11 H-13	小穴 小穴	0.5×0.3 0.3×0.3	0.4	長楕円形 円形	
SP166	35, 37		YL	G-15	小穴	0.3×0.3 0.4×0.3	0.4	楕円形	第45図54
SP170	35, 37		YL	H-12	小穴	0.4×0.3 0.4×0.3	0.3	楕円形	WHO DOL
SP172	35, 37		YL	G-15	小穴	0.4×0.3	0.3	楕円形	
SP174	35, 37		YL	G-15	小穴	0.3×0.3	0.3	円形	
SP175	35, 37		YL	G-15	小穴	0.4×0.4	0.7	楕円形	
SP176	35, 37		YL	H-15	小穴	0.4×0.3	0.5	楕円形	
SP177	35, 37		YL	G-15	小穴	0.5×0.3	0.1	長楕円形	
SP178	35, 37		YL	H-13	小穴	0.3×0.3	0.5	楕円形	
SP186	35, 36		YL	H-10	小穴	0.4×0.3	0.3	楕円形	tete + - tt - o
SP193	35, 36, 41	10	YL	H-9	小穴	0.3×03	0.2	楕円形	第45図56
SP195 SP207	35, 36 35, 36		YL YL	I-6 I-5	小穴 小穴	$0.4 \times (0.3)$ 0.3×0.3	0.3	長楕円形 円形	
SP207 SP216	35, 36		YL	I-6	小穴	0.3×0.3 0.3×0.2	0.4	<u> </u>	
SP217	35, 36		YL	I-5	小穴	0.3×0.2 0.3×0.3	0.5	円形	
SP219	35, 36		YL	I-6	小穴	0.3×0.2	0.6	楕円形	
SP230	35, 36		YL	I, J-6	小穴	0.5×0.5	0.3	円形	
SP231	35, 36		YL	I-6	小穴	0.3×0.3	0.6	楕円形	
SP238	35, 36		YL	I-7	小穴	$(0.4) \times 0.2$	0.5	楕円形	
SP256	35, 36		YL	I-7	小穴	$0.5 \times (0.3)$	0.2	楕円形	
SP262	35, 36		YL	H-7	小穴	0.2×0.2	0.4	円形	
SP263	35, 36		YL	I-7	小穴	0.2×0.2	0.3	円形	
SP264	35, 36		YL	I-7	小穴	0.3×0.2	0.3	円形	
SP267 SP268	35, 36 35, 36	-	YL YL	H-7 I-7	小穴 小穴	0.3×0.3 0.4×0.3	0.5	円形 楕円形	
SP268 SP270	35, 36	-	YL	H-7	小穴	0.4×0.3 0.3×0.3	0.2	精円形 精円形	
SP275	35, 36		YL	I-7	小穴	0.5×0.3 0.5×0.3	0.6	精円形 精円形	
SP280	35, 36		YL	I-8	小穴	0.3×0.3	0.5	楕円形	
SP281	35, 36		YL	I-8	小穴	0.3×0.3	0.3	円形	
SP284	35, 36		YL	H-8	小穴	0.3×0.2	0.5	楕円形	
SP293	35, 36		YL	I-8	小穴	0.4×0.2	0.4	長楕円形	
SP294	35, 36		YL	I-8	小穴	0.5×0.3	0.5	長楕円形	
SP301	35, 36		YL	H-8	小穴	0.5×0.4	0.2	円形	
SP306	35, 36		YL	H, I-8	小穴	0.5×0.3	0.1	長楕円形	
SP319	35, 36		YL	H-9	小穴	0.4×0.3	0.2	長楕円形	
SP328	35, 36		YL	H-9	小穴	0.4×0.4	0.2	楕円形	
SP339	35, 37		YL	H-13	小穴	0.5×0.5	0.3	楕円形	
SP340	35, 36	-	YL	H-10	小穴	$(0.5) \times 0.5$	0.2	精円形 E.接口形	
SP341 SP342	35, 36 35, 37	-	YL YL	I-10	小穴	0.6×0.4 0.5×0.4	0.4	長楕円形	
SP342 SP343	35, 37		YL	H-15 H-15	小穴 小穴	0.5×0.4 0.5×0.5	0.2	円形	
	υυ, υ <i>ι</i>								
SP344	35, 36		YL	H-11	小穴	0.5×0.4	0.2	楕円形	

第13表 富士岡 1 古墳群 1 区古墳時代土器観察表

挿図 番号	図版 番号	出土位置	種別	器種	部 位	残存率 (%)	器高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	色 調	調整	備考
1	11	SD13覆土	土師器	坏身		85	5.4	11.9	5.2	2.5YR5/6明赤褐	外面:口縁部横ナデ 体部ナデ 内面:口縁部横ナデ 体部ナデ	
2	11	SH2床面	土師器	小型鉢		100	4.1	10.3	5.4	7.5YR6/6橙	外面:ナデ 内面:口縁部横ナデ 体部放射状の ハケ	
3		SH3床面	土師器	壺	底部	20	(3.2)		(7.0)	7.5YR7/6橙	外面:縦ハケ後ナデ 内面:ナデ	
4		SH3床面	土師器	壺	口縁部	15	(2.5)	(22.6)		7.5YR7/6橙	外面:口縁部斜めハケ 棒状浮文 内面:口縁部横ハケ S字状結節を 伴うRL縄文	
5		SH4床面	土師器	壺	底部	10	(3.2)		(10.2)	7.5YR6/4にぶい橙	外面:横へラミガキ? 内面:横ハケ	外面磨滅
6	11	SH4覆土	土師器	甕	口縁部~胴部	30	(18.4)	(20.0)		7.5YR4/3褐	外面:口縁部横ナデ 胴部斜めハケ 内面:口縁部横ハケ後横ナデ 胴部 ナデ 胴下部横ハケ	
7		TA2覆土	土師器	台付甕	胴部~脚部		(7.3)		(6.4)	10YR6/4にぶい黄橙	胴部外面: 不明 胴部内面: 横ハケ 脚部外面: 縦ハケ 脚部内面: 横ハケ	外面磨滅
8	11	SZ1覆土	土師器	壺		90	20.5	9.1	8.2	7.5YR7/4にぶい橙	外面:縦ハケ・斜めハケ 内面:横ハケ後ナデ	外面磨滅
9	11	SZ3覆土	土師器	魙	口縁部~胴部	10	(8.5)	(21.8)		10YR7/4にぶい黄橙	外面:口縁部〜頸部縦ハケ 胴部横 ハケ内面:口縁部〜頸部横ハケ 胴 部ナデ	
10		SZ3覆土	土師器	甕	口縁部		(4.1)	(18.4)		7.5YR5/4にぶい褐	外面:斜めハケ後横ナデ 内面:横ハケ後横ナデ	
11		SZ3覆土	土師器	甕	口縁部		(3.9)	(19.0)		10YR5/4にぶい黄橙	外面:横ナデ 内面:横ナデ	
12	11	SZ3覆土	土師器	選	口縁部~胴部	40	(9.6)	(12.4)		5YR6/4にぶい橙	外面:口縁部横ナデ 胴部横ハケ・ 斜めハケ 内面:口縁部横ナデ 胴部横ハケ後 ナデ?	
13	11	SZ3覆土	土師器	甕	口縁部~胴部	20	(6.8)	(12.2)		10YR6/4にぶい黄橙	外面:口縁部横ナデ 胴部縦ハケ・ 斜めハケ 内面:口縁部横ナデ 胴部横ハケ後 ナデ	外面磨滅
14	11	SZ3覆土	土師器	台付甕	胴部~脚部		(10.3)		9.1	10YR6/4にぶい黄橙	胴部外面:斜めハケ 胴部内面:横ハケ後ナデ 脚部外面:縦ハケ・横ハケ 脚部内面:指頭ナデ	
15	11	SZ3覆土	土師器	壺	胴部~底部	50	(35.1)		14.2	7.5YR7/6橙	外面:横ヘラミガキ 内面:横ハケ	外面磨滅
16	11	遺物集中1	土師器	壺	頸部~底部	70	(23.6)		10.0	7.5YR6/6橙	外面:横ヘラミガキ 内面:横ハケ後ナデ	外面磨滅 底部木葉痕
17	11	遺物集中2	土師器	鉢		85	18.9	18.1	4.7	7.5YR6/3にぶい褐	外面:口縁部横ナデ 胴部斜めハケ 内面:全体横ハケ後口縁部横ナデ 胴上部ナデ	
18		遺物集中2	土師器	甕	口縁部~胴部		(11.5)	20.0		7.5YR4/4褐	外面:口縁部縦ハケ 胴部斜めハケ 内面:横ハケ	外面磨滅
19		遺物集中2	土師器	甕	口縁部~胴部		(7.5)	12.3		7.5YR6/4にぶい橙	外面:口縁部横ナデ 胴部ナデ 内面:口縁部横ナデ 胴部ナデ	
20	11	遺物集中2	土師器	台付甕	胴部~脚部		(7.5)			10YR6/4にぶい黄橙	胴部外面: 不明 胴部内面: ナデ 脚部外面: 縦ハケ 脚部内面: 指頭ナデ	外面磨滅
21	11	遺物集中2	土師器	高坏	坏部		(5.2)	11.6		7.5YR3/1黒褐	外面:横ヘラミガキ 内面:不明	外内面磨滅
22	12	遺物集中2	土師器	小型壺		95	7.6	7.7	4.7	7.5YR6/6橙	外面:口縁部横ナデ 胴部横ハケ・ 斜めハケ 内面:口縁部横ナデ 胴上部ナデ 胴下部指頭ナデ	
23	12	遺物集中2	土師器	小型壺		60	7.5	7.2	4.1	5YR5/4にぶい赤褐	外面:口縁部横ナデ 胴部横ハケ・ 斜めハケ 内面:口縁部横ナデ 頸部横ハケ 胴上部ナデ 胴下部指頭ナデ	
24	12	SK1覆土	土師器	壺	頸部~底部	85	(62.9)		14.4	7.5YR7/6橙	外面:縦ハケ・斜めハケ後縦ヘラミ ガキ 内面:横ハケ	

第14表 富士岡 1 古墳群 1 区縄文時代土器観察表

ידו כא:	X F	ヨエド	一口怎		人时代工态锐杀衣		
挿図 番号	図版 番号	遺構 番号	位置	分類	色調	胎 土	文 様 ・ 調 整 等
25	12	TA1	覆土	II 群2類 d	10YR6/4にぶい黄橙	長石·灰色·黒色粒子	口唇部に円形浮線文、外面縦位の浮線文、横位の蒲 鉾状平行沈線、密接蒲鉾状平行沈線と浮線の斜格子
28	12	SY11		Ⅲ群1類 a	7.5YR 5 /4にぶい褐	長石・石英・灰色・黒色粒子	次状、眼鏡状の貼付文、横位の粘土紐に刻目
29	12	SY11		III群1類 a	7.5YR6/6橙	長石•灰色砂粒	波状口縁、矢羽根状沈線、横位の粘土紐に連続爪形 文、斜位沈線
30	12	SY11		Ⅲ群1類 a	7.5YR7/6橙	長石・灰色・黒色粒子	LR結節縄文を縦位施文
43	13	SK16	覆土	不明	7.5YR7/6橙	長石の細砂・灰色砂粒	RL縄文
44	13	SK16	覆土	II 群2類 d	5YR5/4にぶい赤褐	長石·金雲母·灰色·黒色砂粒	LR縄文
45	13	SK28	覆土	I 群2類 b	5YR5/6明赤褐	長石•灰色砂粒	横位の粘土紐に圧痕
46	13	SK46	覆土	II 群2類 d	7.5YR4/3褐	長石•金雲母	波状口縁、口縁に沿った粘土紐
47	13	SK42	覆土	II 群2類 j	7.5YR5/4にぶい褐	長石・金雲母・灰色砂粒	RL縄文
48	13	SK44	覆土	II 群2類 j	10YR6/4にぶい黄橙	長石·灰色砂粒	粘土紐に連続爪形文
49	13	SK26	覆土	Ⅱ 群2類 j	5YR5/4にぶい赤褐	長石·金雲母·灰色砂粒	RL縄文
50	13	SK26	覆土	Ⅱ 群2類 j	7.5YR5/4にぶい褐	長石•石英•灰色砂粒	風化により文様不明
51	13	SK62	覆土	Ⅱ群2類j	10YR4/2灰黄褐	長石・金雲母・灰色砂粒	縦位の粘土紐2本、うち1本に連続爪形文
54	13	SP166	覆土	I 群2類 l	7.5YR6/6橙	長石•石英•灰色砂粒•繊維	外面斜位擦痕、内面横位擦痕
55	13	SP139	覆土	I 群1類 i	10YR5/3にぶい黄褐	長石•石英•灰色砂粒	縦位・横位・斜位の沈線
56	13	SP193	覆土	Ⅲ群1類 a	7.5YR7/6橙	長石·茶色·灰色砂粒	胴上部横位・横波状の密接蒲鉾状平行沈線、胴下部 縦位の密接蒲鉾状平行沈線区画内に三角形状・斜位 波状の密接蒲鉾状平行沈線
58	13	SX4		Ⅲ群1類 a	10YR5/4にぶい黄褐	長石•石英•灰色砂粒	横位・矢羽根状の密接蒲鉾状平行沈線
59	13	SX4		Ⅲ群1類 a	7.5YR7/6橙	長石•石英•灰色砂粒	縦位・横位の密接蒲鉾状平行沈線
60	13	SX4		II 群2類 c	5YR5/6明赤褐	長石・金雲母・灰色砂粒	弧状・斜位の沈線
61	13	SX4		Ⅲ群1類 a	10YR6/4にぶい黄橙	長石•石英•灰色砂粒	縦位の密接蒲鉾状平行沈線
62	13	SX4		Ⅲ群1類 a	10YR6/4にぶい黄橙	長石・金雲母・灰色・黒色粒子	斜位沈線
63	13	SX4		Ⅲ群1類 a	7.5YR5/4にぶい褐	長石・金雲母・灰色砂粒	横位沈線、密接蒲鉾状平行沈線と沈線の斜格子文
73	13		KU	I 群1類 c	2.5Y7/4浅黄橙	長石	縦位の山形押型文
74	13		KU	I 群1類 c	7.5YR6/6橙	長石•灰色砂粒	縦位の楕円文をつないだような山形押型文
75	13		KU	I 群1類 c		長石	縦位の楕円文をつないだような山形押型文
76	13		KU	I 群1類 h	10YR7/4にぶい黄橙	長石•灰色砂粒•繊維	地文に斜位沈線、指頭で縦位・斜位沈線、内面調整痕
77	13		KU	I 群1類 h	7.5YR6/6橙	長石·灰色·茶色砂粒·繊維	波状口縁、口唇部に刻目、斜位沈線、内面調整痕
78	13		KU	I 群1類 h	10YR7/4にぶい黄橙	長石・石英・灰色・茶色砂粒・繊維	波状口縁、口唇部に刻目、斜位沈線を指頭で弧状に擦り消す
79	13		KU	I 群1類 h	7.5YR7/6橙	長石•石英•灰色砂粒•繊維	波状口縁、口唇部に刻目、矢羽根状沈線
80	13			I 群1類 h	7.5YR6/4にぶい橙	長石・石英・灰色・茶色砂粒・繊維	口唇部に刻目、縦位沈線、X字状沈線
81	13		KU	I 群1類 h	10YR6/4にぶい黄橙	長石・石英・灰色砂粒・繊維	波状口縁、口唇部に刻目、斜位沈線
82	10		KU	I 群1類 h	7.5YR6/4にぶい橙	長石・灰色・黒色粒子・繊維	斜位沈線
83	13		KU	I 群1類 h	7.5YR6/6橙	長石・灰色・黒色粒子・繊維	縦位の沈線区画内に斜位沈線
84	13		KU	I 群1類 h	7.5YR6/4にぶい橙	長石・石英・灰色砂粒・繊維	縦位・横位の沈線区画内に斜位沈線
85 86	13 13		KU	I 群1類 h	10YR7/4にぶい黄橙 7.5YR7/6橙	長石·石英·灰色砂粒·繊維 長石·灰色砂粒·繊維	縦位の沈線区画内に斜位沈線 縦位・斜位・刺突状の沈線
87	13		KU	I 群1類 h	7.51R7/0位 7.5YR7/4にぶい橙	長石・金雲母・灰色砂粒・繊維	縦位・指位・利矢(いの) 線位の指頭による沈線区画内にハの字状沈線
88	13		KU	I 群1類 h	5YR6/6橙	長石•石英•灰色•茶色砂粒•繊維	横位・縦位沈線、内面擦痕
89	10		KU	I 群1類 h	10YR7/4にぶい黄橙	長石・灰色・黒色粒子・繊維	縦位の指頭による沈線区画内に斜位沈線
90	13		KU	I 群1類 h	7.5YR7/6橙	長石·金雲母·灰色·茶色砂粒·繊維	口唇部に沈線、外面横位・縦位の沈線区画内に縦位・ 斜位短沈線
91			KU	I 群1類 h	10YR6/3にぶい黄橙	長石·石英·金雲母·灰色·茶色砂 粒·繊維	斜位の沈線区画内に斜位の沈線
92			KU	I 群1類 h	7.5YR6/6橙	長石·石英·繊維	縦位・横位の沈線区画内に縦位短沈線、内面調整痕
93			KU	I 群1類 h	10YR6/4にぶい黄橙	長石·石英·灰色·茶色砂粒·繊維	縦位・斜位の沈線
94			KU	I 群1類 h	7.5YR6/4にぶい橙	長石・石英・灰色・茶色・黒色粒子・繊維	斜位の沈線区画内に斜位沈線、内面擦痕
95	13		KU	I 群1類 h	7.5YR7/6橙	金雲母・灰色・茶色砂粒・繊維	波状口縁、口唇部に沈線、斜位の沈線区画内に斜位短沈線、内面擦痕
96	13		KU	I 群1類 h	7.5YR7/4にぶい橙	長石·灰色·茶色砂粒·黒色粒子· 繊維	波状口縁、口唇部に沈線、斜位の沈線区画内に斜位沈線、内面擦痕
97	13		KU	I 群1類 h	7.5YR6/4にぶい橙	長石•灰色•茶色砂粒•繊維	口唇部に沈線、外面縦位・斜位の沈線区画内に斜位 沈線
98			KU	I 群1類 h	7.5YR5/3にぶい褐	長石·石英·灰色·茶色·黒色粒 子·繊維	格子状の沈線
99	13		KU	I 群1類 h	7.5YR6/4にぶい橙	長石·灰色·黒色粒子·繊維	地文に斜位沈線、太い沈線で縦位と弧状の区画
100	13		_	I 群1類 i	7.5YR6/4にぶい橙	長石・灰色・黒色粒子・繊維	波状口縁、口唇部に刻目、^ 状の沈線区画内に刺突 文、内面擦痕

挿図 番号	図版 番号	遺構番号	位置	分類	色調	胎土	文 様 · 調 整 等
101	13		KU	I 群1類 i	7.5YR6/8にぶい橙	長石・灰色・黒色粒子・繊維	口唇部に刻目、外面斜位の沈線区画内に刺突文、内 面擦痕
102			KU	I 群1類 i	7.5YR7/6橙	長石·灰色砂粒·繊維	矢羽根状沈線
103			クロ	I 群2類 l	5YR4/3にぶい赤褐	長石・金雲母・灰色砂粒・繊維	LRとRLの羽状縄文
104	14		クロ	II 群1類 f		長石·金雲母·灰色砂粒	ループ文、横位沈線
105	14		KU	II 群1類 b	10YR6/4にぶい黄橙	長石•灰色砂粒	斜位沈線
106	14		KU	II群1類 b	7.5YR6/4にぶい橙	長石•灰色砂粒	斜位沈線
107	14		KU	II群1類 b	2.5Y6/3にぶい黄	長石·金雲母·灰色·茶色砂粒	横位の摘み痕、斜格子状の細い沈線
108	- 1 1		KU	II群1類b		長石・灰色砂粒	斜位沈線
109	14		KU	II 群1類 c	5YR6/6橙	長石•金雲母•灰色砂粒	波状口縁、口縁部と胴部の間に段、外内面に指頭痕、中越式系の可能性も
110	14		KU	II 群1類 c	 10YR7/3にぶい黄橙	長石•石英•金雲母•灰色砂粒	連続刺突文、擦痕
111	14		KU	II 群1類 e		長石·金雲母·茶色砂粒	横位の爪痕、補修孔
112	14		KU	II 群1類 e		長石·金雲母·灰色砂粒	木端状工具で横位の連続刺突文
113	14		KU	II 群1類 g	5YR5/4にぶい赤褐	長石・灰色・黒色粒子・繊維	組紐風縄文
114	14		KU	II群1類g	5YR5/6明赤褐	長石・金雲母・灰色砂粒・繊維	LRとRLの羽状縄文
115	14		KU	II群1類g	7.5YR5/6明褐	長石・石英・灰色・黒色粒子・繊維	
-	14			II 群1類g		長石•石英•灰色•無色粒丁•繊維	
116			KU		5YR5/4にぶい赤褐		LR縄文
117	14		KU	Ⅱ群1類 i	7.5YR4/3褐	長石・石英	斜位沈線
118	14			II 群1類 i	7.5YR4/3褐	長石·石英·黒色粒子	斜位沈線
119	14		KU	II群1類jか		長石•灰色砂粒	横位の貝殻腹縁文
120			KU	II 群2類 a	7.5YR4/3褐	長石·金雲母·灰色·黒色粒子	地文にRL縄文、横位・弧状の扁平な浮線文
121			KU	II 群2類 a	7.5YR5/4にぶい褐	長石·石英·金雲母·灰色·黒色粒 子	地文にRL縄文、横位・弧状の扁平な浮線文
122			_	II 群2類 a	10YR8/4浅黄橙	長石•灰色•黒色粒子	地文にRL多条縄文、横位・斜位・弧状の扁平な浮線 文、刺突文
123			クロ	II 群2類 a	5YR5/6明赤褐	長石•灰色•黒色粒子	波状口縁、地文にRL縄文、波頂部に円形突起、渦巻 状・弧状の沈線
124			KU	II 群2類 a		長石•石英•金雲母•灰色砂粒	波状口縁、地文に縄文、波頂部下に突起、渦巻状の沈 線文
125			KU	II 群2類 a	2.5Y6/3にぶい黄	長石・金雲母・灰色砂粒	波状口縁、地文に縄文、弧状の沈線
126			KU	II 群2類 a	7.5YR5/4にぶい褐	長石・灰色・黒色の砂粒	LR縄文
127			KU	II 群2類 a	7.5YR5/4にぶい褐	長石・灰色・黒色の砂粒	地文にL縄文、横位の蒲鉾状沈線
128			KU	II 群2類 a	7.5YR6/4にぶい橙	長石•石英•金雲母•灰色砂粒	無文の有孔浅鉢形土器
129			KU	II 群2類 a	10YR6/4にぶい黄橙	長石・金雲母・灰色・茶色砂粒	無文、口縁部が立ち上がる
130			KU	II 群2類 a	10YR7/6明黄褐	長石·石英·金雲母·灰色·茶色砂 粒	無文の浅鉢
131			KU	II 群2類 b	10YR4/4褐	長石•金雲母•灰色砂粒	調整痕
132	15		KU	II 群2類 c	10YR6/4にぶい黄橙	長石•灰色•茶色砂粒	横位・鋸歯状・弧状の粘土紐に結節浮線文
133	15		KU	II 群2類 c	2.5Y7/2灰黄	長石•石英	三角形に組み合わせた粘土紐に結節浮線文
134	15		KU	II 群2類 c	10YR8/6黄橙	長石	波状口縁、口縁に沿った沈線・横位矢羽根状沈線、円 形貼付文
135	15		KU	II 群2類 c	10YR4/3にぶい黄褐	長石·黄橙色砂粒	縦位矢羽根状沈線、円形貼付文
136	14		KU	II 群2類 d	10YR7/6明黄褐	長石·金雲母·灰色砂粒·黒色粒子	口縁部耳朶状の添付文、刺突文、三角印刻文、口縁部 と胴部の境に横位の結節浮線文、胴部縦位・斜位の 結節浮線文、三角形・菱形等の印刻文
137			KU	II 群2類 d	7.5YR6/4にぶい橙	長石·金雲母·灰色·茶色砂粒·黒 色粒子	耳朶状の添付文、三角印刻文
138	14		KU	II 群2類 d	10YR6/4にぶい黄橙	長石·金雲母·石英·灰色砂粒·黒 色粒子	波状口縁、波頂部の粘土を折って突起を作り、中央 に円孔を貫通、地文にLR縄文、ソーメン状の粘土紐 を縦位に貼付、両側縁に連続爪形文
139	14		KU	II 群2類 d	 7.5YR5/3にぶい褐	長石·石英·金雲母·灰色砂粒	耳朶状の添付文、三角印刻文
140	14		KU	II群2類 d	7.51R5/5/とぶく飛り 7.5YR6/6橙	長石•石英•金雲母•灰色砂粒	折り返し口縁に三角印刻文、RL縄文
141	14		KU	II群2類d	2.5YR5/6明赤褐	長石・石英・灰色・黒色粒子	波状口縁、刺突文、三角印刻文
					, ,,,,,,,,	長石・石英・金雲母・灰色・茶色砂	波状口縁、初天文、二角中刻文 波状口縁、波頂部に突起、三角形に組み合わせた粘
142	14		KU	II 群2類 d II 群2類 d	5YR5/4にぶい赤褐 10YR6/4にぶい黄橙	粒 長石•灰色•黒色粒子	土紐に結節浮線文、内面も粘土紐貼付 小波状口縁、無文、内面に段
143	14		KU	II 群2類 d	7.5YR5/4にぶい褐	長石·石英·金雲母·灰色砂粒	が状口縁、無え、内面に投 波状口縁、口唇部玉抱三叉状印刻文、口縁に沿って 細かい三角印刻文2段、円形の薄い粘土板を貼り付 け、外縁に結節浮線文、中央に円形の刺突文
145	14		KU	II 群2類 d	10YR7/4にぶい黄橙	長石·金雲母·灰色砂粒·黒色粒 子	耳朶状の添付文、刺突文、横位・孤状の粘土紐に結節 浮線文
146	14		KU	II 群2類 d	10YR5/4にぶい黄褐	長石·金雲母·灰色砂粒·黒色粒子	口縁部弧状・波状の粘土紐、胴部横位の粘土紐に刻 目
147	14		KU	II 群2類 d	5YR5/4にぶい赤褐	長石·金雲母·灰色砂粒·黒色粒子	口唇部斜位の集合沈線とソーメン状の粘土紐の斜 格子文、連続爪形文、外面縦位沈線

挿図 番号	図版 番号	遺構番号	位置	分類	色	調	胎	土	文 様 ・ 調 整 等
148	14		KU	II 群2類 d	10YR7/41	ぶい黄橙	長石•灰色•黒色料	拉子	筒形波状口縁、弧状・斜位・横位の密接蒲鉾状平行沈線、斜位の沈線に沿って連続爪形文、区画内に横位 沈線
149	14		KU	II 群2類 d	10YR6/41Z	ぶい黄橙	長石・金雲母・灰色	色砂粒	口唇部に刻目、外面三角印刻文、連続爪形文
150	14		KU	II 群2類 d	7.5YR5/413	ぶい褐	長石・金雲母・灰色	色•茶色砂粒	口唇部圧痕、折り返し口縁に三角印刻文、横位・矢羽 根状の集合沈線
151	14		_	II 群2類 d	5YR6/412.2	ざい橙	長石·金雲母·灰色子	色砂粒•黒色粒	波状口縁、口縁に沿って連続爪形文、弧状・横位の蒲 鉾状の沈線区画内に斜位の密接蒲鉾状平行沈線文
152	14		KU	II 群2類 d	7.5YR5/413	ぶい褐	長石·金雲母·灰色	色砂粒	口唇部RL縄文、粘土紐をリボン状に貼付、口縁部横位・鋸歯状の粘土紐に結節浮線文、三角印刻
153	14		KU	II 群2類 d	7.5YR5/413	ぶい褐	長石·石英·灰色码	少粒	口唇部に刻目、三角形・方形・菱形の印刻文、横位・斜 位の粘土紐に結節浮線文
154	14		KU	II 群2類 d	7.5YR6/6橙	Ė	長石·石英·金雲母	母•灰色砂粒	縦位・横位・弧状の粘土紐に結節浮線文、三角印刻文、 斜位沈線
155	14		KU	II 群2類 d	5YR6/8橙		長石·金雲母·灰色	色砂粒	口縁に沿って沈線、連続刺突文、横位の集合沈線に 三角印刻文、斜位沈線
156	14		KU	II 群2類 d	10YR6/413	ぶい黄橙	長石·石英·灰色码	少粒	口唇部連続爪形文、口縁部横位の蒲鉾状沈線の区画 内に密接蒲鉾状平行沈線と粘土紐の斜格子文、胴部 は縦位沈線
157	14		KU	II 群2類 d	5YR6/6橙		長石・金雲母・灰色	色•黒色粒子	Y字状・U字状の密接蒲鉾状平行沈線、無文部は印刻
158	14		KU	II 群2類 d	5YR5/412.2		長石·金雲母·灰色		地文にLR結節縄文、縦位・横位・鋸歯状の粘土紐に 結節浮線文
159	14		KU	II 群2類 d	10YR7/4に		長石・石英・金雲母	母•灰色砂粒	鋸歯状・横位の粘土紐に結節浮線文、LR縄文
160	14		KU	II 群2類 d	10YR5/41C	, ., .	長石・灰色・黒色料		縦位羽状・同心円状の粘土紐に刻目、円形印刻文
161	14		KU	II 群2類 d	10YR6/41C		長石・灰色・黒色料		横位の粘土紐に刻目、横位沈線
162	14		KU	II 群2類 d	10YR5/31C		長石•灰色•茶色砂		地文にRL縄文、連続菱形の粘土紐に結節浮線文
163	14		KU	II 群2類 d	10YR7/41C		長石・石英・金雲母		横位小波状の密接蒲鉾状平行沈線、斜位沈線
164	14		KU	II 群2類 d	5YR5/412.2	ざい赤褐	長石・金雲母・灰色		鋸歯状沈線
165	14		KU	II 群2類 d	5YR5/6明录		長石·石英·金雲母 粒·黒色粒子		縦位・横位・斜位の結節浮線文、三角印刻文
166			KU	II 群2類 d	7.5YR6/6档		長石・灰色・黒色料	位子	地文にRL縄文、縦位の粘土紐に結節浮線文
167	14		FB	II 群2類 d	10YR6/4に	ぶい黄橙	長石・金雲母・灰色	色砂粒	筒形大波状口縁、筒型の上部は楕円形を呈する。外面地文にRL縄文、三角形・同心円状・弧状・横位・波状の粘土紐に結節浮線文、三角印刻文、内面地文にRL縄文、三角形・弧状の粘土紐に結節浮線文
168	15		KU	II 群2類 e	10YR6/3に	ぶい黄橙	長石・金雲母・灰色	色砂粒	口唇部に連続刻目文、外面くの字状沈線、円形印刻 文、横位沈線
169	15		KU	II 群2類 e	7.5YR6/6档	<u> </u>	長石•灰•茶色砂粒	Ĭ.	口唇部からくの字状沈線、三角印刻文
170	15		KU	II 群2類 e	7.5YR6/413	ぶい橙	長石・金雲母・灰色	色砂粒	V字状沈線、三角印刻文
171	15		_	II 群2類 f	4YR5/4によ	ざい赤褐	長石·石英·灰色·	茶色砂粒	横位の粘土紐に刻目
172	15		_	II 群2類 f	10YR6/4に	ぶい黄橙	長石•灰色•黒色料	位子	横位の粘土紐に刻目
173	15		KU	II 群2類 g	10YR7/412	ぶい黄橙	長石·金雲母·灰色	色砂粒	小波状口縁、口唇部 Σ字状刺突文、外内面RL縄文、 横位の粘土紐に刻目、円形の粘土紐に結節浮線文、 補修孔
174	15		KU	II 群2類 g	10YR5/3に	ぶい黄橙	長石・金雲母・灰色	色砂粒	LR縄文、^状の粘土紐に結節浮線文
175	15		KU	II 群2類 g	10YR7/6明	黄褐	長石•石英•灰色	少粒	折り返し口縁、外内面RL縄文
176	15		KU	II 群2類 g	10YR7/6明	黄褐	長石·灰色砂粒		波状口縁、波頂部の粘土を折って突起を作りΣ字状 刺突、中央に円孔を貫通、外内面RL縄文、縦位と山 形の粘土紐に結節浮線文
177	15		KU	II 群2類 g	10YR7/41C	ぶい黄橙	長石·金雲母·灰色	色砂粒	RL多条縄文、横位の粘土紐に結節浮線文
178	15		KU	II 群2類 g	7.5YR6/413	ぶい橙	長石·石英·灰色码	少粒	波状口縁、口唇部 Σ字状刺突文、外内面RL縄文、山 形の粘土紐に結節浮線文、両側縁に連続爪形文
179	15		KU	II 群2類 g	10YR7/41C	ぶい黄橙	長石・石英・金雲母	母•灰色砂粒	RL縄文、弧状の粘土紐に刺突を付ける
180	15		KU	II 群2類 g	10YR6/41C	ぶい黄橙	長石•石英•灰色码	少粒	LR縄文、縦位の粘土紐にLR縄文
181	15		KU	II 群2類 h	7.5YR6/413	ぶい橙	長石•石英•灰色砲	少粒	口唇部に摘み痕、外内面LR縄文、横位・弧状の粘土 紐に刺突
182	15		KU	II 群2類 h	10YR7/41C	ぶい黄橙	灰色砂粒		口唇部に刺突、外面調整痕、内面段
183	15		KU	II 群2類 h	7.5YR5/413	ぶい褐	長石·金雲母·灰色子	色砂粒•黒色粒	口唇部連続爪形文、外面横位の蒲鉾状沈線
184	15		KU	II 群2類 h	7.5YR6/6档	<u> </u>	長石・金雲母・灰色	色砂粒	口唇部に棒状工具の刻目、外内面RL縄文
185	16		KU	Ⅲ群1類 a	7.5YR5/413		長石•金雲母		口唇部に刻目、口縁部と底部に横位、胴部に縦位沈 線
186	16		KU	Ⅲ群1類 a	7.5YR7/6橙	<u> </u>	長石•石英•灰色码	少粒・黒色粒子	波状口縁、口唇部連続爪形文、口縁に沿った蒲鉾状 沈線区画内に横位小波状の密接蒲鉾状平行沈線
187	16		KU	Ⅲ群1類 a	10YR7/4に	ぶい黄橙	長石・灰色砂粒・県	具色粒子	波状口縁、幅広の口唇部の両角に連続爪形文、区画内に斜位の密接蒲鉾状平行沈線、横位の蒲鉾状沈線 区画内に小波状の密接蒲鉾状平行沈線

挿図 番号	図版 番号	遺構 番号	位置	分類	色調	胎 土	文 様 ・ 調 整 等
188			KU	Ⅲ群1類 a	7.5YR4/3褐	長石・石英・金雲母	口唇部直下連続爪形文、胴上部横位の蒲鉾状沈線区 画内に密接蒲鉾状平行沈線と沈線の斜格子文、胴下 部縦位集合沈線
189	16		KU	Ⅲ群1類 a	5YR5/4にぶい赤褐	長石・石英・金雲母・灰色砂粒	波状口縁、口唇部連続爪形文、口縁に沿って密接蒲 鉾状平行沈線、横位の密接蒲鉾状平行沈線区画内に 斜位の密接蒲鉾状平行沈線
190			KU	III群1類 a	7.5YR6/6橙	長石·金雲母·灰色砂粒	口唇部直下連続爪形文、横位小波状、斜位の密接蒲 鉾状平行沈線
191	16		KU	Ⅲ群1類 a	7.5YR4/2灰褐	長石·金雲母·灰色砂粒	横位・横位小波状の密接蒲鉾状平行沈線、T字状の 粘土紐に連続爪形文、方形区画内にLRの結節縄文 を縦位施文
192	16		KU	Ⅲ群1類 a	10YR4/2灰黄褐	長石・石英・灰色・茶色・黒色粒子	口唇部連続爪形文、横位小波状、横位、斜位の密接蒲 鉾状平行沈線
193			KU	Ⅲ群1類 a	7.5YR6/6橙	長石·金雲母·灰色·茶色砂粒	口唇部連続爪形文、横位の密接蒲鉾状平行沈線区画 内に斜格子状の密接蒲鉾状平行沈線
194			KU	Ⅲ群1類 a	7.5YR5/4にぶい褐	長石·石英·金雲母·灰色砂粒	口唇部連続爪形文、横位の密接蒲鉾状平行沈線区画 内に斜格子状の密接蒲鉾状平行沈線
195			YL	Ⅲ群1類 a	5YR6/6橙	長石•灰色•黒色粒子	口唇部直下無文帯、横位小波状の密接蒲鉾状平行沈 線、斜位沈線
196	16		_	Ⅲ群1類 a	7.5YR5/4にぶい褐	長石·石英·金雲母·灰色·茶色砂 粒	口唇部連続爪形文、横位の密接蒲鉾状平行沈線区画 内に横矢羽根状の密接蒲鉾状平行沈線
197			_	Ⅲ群1類 a	2.5YR6/6橙	長石•灰色•黒色粒子	口唇部連続爪形文、横位・横位小波状の密接蒲鉾状 平行沈線
198			KU	Ⅲ群1類 a	10YR5/4にぶい黄褐	長石·金雲母·灰色·茶色砂粒·黒 色粒子	口唇部直下無文帯、横位・斜位の密接蒲鉾状平行沈 線
199			KU	Ⅲ群1類 a	10YR7/6明黄褐	長石・灰色・茶色・黒色粒子	口唇部直下無文帯、横位・横位小波状の密接蒲鉾状 平行沈線
200			_	Ⅲ群1類 a	7.5YR6/4にぶい橙	長石•灰色•黒色粒子	逆T字状の粘土紐に連続爪形文、区画内に横位小波 状の密接蒲鉾状平行沈線
201			KU	Ⅲ群1類 a	5YR6/6橙	長石・石英・灰色・茶色・黒色粒子	横位の密接蒲鉾状沈線区画内に斜位・横矢羽根状の 密接蒲鉾状平行沈線
202	16		KU	Ⅲ群1類 a	7.5YR8/6浅黄橙	長石•灰色•黒色粒子	横位の蒲鉾状沈線区画内に斜位の密接蒲鉾状平行沈線
203	16		KU	Ⅲ群1類 a	5YR6/6橙	長石・金雲母・灰色・黒色粒子	横位の密接蒲鉾状平行沈線区画内に縦位・斜位の密接蒲鉾状平行沈線
204			KU	Ⅲ群1類 a	 5YR5/4にぶい赤褐	長石•石英•黒色粒子	斜位・横位・縦位の密接蒲鉾状平行沈線
205	16		KU	Ⅲ群1類 a	7.5YR6/6橙	長石•灰色砂粒•金雲母	横位の密接蒲鉾状平行沈線、密接蒲鉾状平行沈線と沈線の斜格子文
206	16		KU	Ⅲ群1類 a	10YR6/6明黄褐		横位・縦矢羽根状の密接蒲鉾状平行沈線
207	16		KU	Ⅲ群1類 a	7.5YR7/4にぶい橙	長石·金雲母·灰色·茶色砂粒·黑色粒子	横位の密接蒲鉾状平行沈線区画内に縦位・円形・縦 矢羽根状の密接蒲鉾状平行沈線
208	16		KU	Ⅲ群1類 a	7.5YR6/6橙	長石·石英·灰色·黒色粒子	横位・横矢羽根状の密接蒲鉾状平行沈線、LRとLの 結節縄文を縦位施文
							地文に縄文、縦矢羽根状・横位の密接蒲鉾状平行沈
209			KU	Ⅲ群1類 a	7.5YR5/4にぶい褐	長石·金雲母·灰色砂粒 長石·石英·金雲母·灰色·茶色砂	線 横位の密接蒲鉾状平行沈線区画内に縦矢羽根状の
210			KU	Ⅲ群1類 a	7.5YR5/3にぶい褐	粒 長石·金雲母·灰色砂粒·黒色粒	密接蒲鉾状平行沈線
211	16		KU	Ⅲ群1類 a	10YR7/6明黄褐	子	LRとLの結節縄文を縦位施文、Lは開端を縛る
212	16		KU	Ⅲ群1類 a	7.5YR7/6橙	長石·石英·金雲母·灰色砂粒·黒 色粒子	LRとLの結節縄文を縦位施文、Lは開端を縛る
213			KU	III群1類 a	5YR5/6明赤褐	長石・金雲母・灰色砂粒	RLの結節縄文を縦位施文
214			KU	III群1類 a	10YR7/4にぶい黄橙	長石・金雲母・灰色・黒色粒子	LRとLの結節縄文を縦位施文
215			KU	Ⅲ群1類 a	2.5Y6/2灰黄	長石·石英	縦位の密接蒲鉾状平行沈線
216			KU	III群1類 a	2.5YR6/6橙	長石·石英	縦位の密接蒲鉾状平行沈線
217			KU	III群1類 a	5YR6/6橙	長石·灰色砂粒	縦位・縦矢羽根状の密接蒲鉾状平行沈線
218			_	III群1類 a	10YR4/2灰黄褐	長石·灰色砂粒	縦位・
219			<u> </u>	Ⅲ群1類 a	7.5YR6/6橙	長石・石英・黒色粒子	縦矢羽根状の密接蒲鉾状平行沈線
220			KU	III群1類 a	5YR7/6橙	長石•石英•黒色粒子	LRの結節縄文を縦位施文
221			KU	Ⅲ群1類 a	5YR6/6橙	長石・石英・黒色粒子	Lの2連結節縄文を縦位施文
222			KU	Ⅲ群1類 a Ⅲ群1類 a	5YR6/6橙 5YR5/6明赤褐	長石·石英 長石·金雲母·灰色砂粒	Lの結節縄文を縦位施文 三角印刻文、横位の沈線区画内に縦位の密接蒲鉾状
223			NU	шҥ1親 а	UINU/U門/小恂		平行沈線、波状・横位の蒲鉾状沈線
224			KU	Ⅲ群1類 a	5YR6/8橙	長石•灰色砂粒	弧状の蒲鉾状沈線区画内に縦位の密接蒲鉾状平行 沈線・波状の蒲鉾状沈線
225			KU	Ⅲ群1類 a	5YR5/6明赤褐色	長石•灰色•黒色粒子	横位・斜位の蒲鉾状沈線区画内に縦位の密接蒲鉾状 平行沈線・波状の蒲鉾状沈線、三角印刻文
226			KU	Ⅲ群1類 a	2.5YR5/6明赤褐	長石·石英	横位の蒲鉾状沈線区画内に縦位の密接蒲鉾状平行 沈線・波状の蒲鉾状沈線、三角印刻文

挿図 番号	図版 番号	遺構 番号	位置	分類	色調	胎 土	文 様 ・ 調 整 等
227			クロ	Ⅲ群1類 a	2.5YR5/6明赤褐	長石•石英	横位の蒲鉾状沈線区画内に縦位の密接蒲鉾状平行 沈線・波状の蒲鉾状沈線、三角印刻文
228			KU	Ⅲ群1類 a	2.5YR5/6明赤褐	長石•石英	横位・弧状の蒲鉾状沈線区画内に縦位の密接蒲鉾状 平行沈線・波状の蒲鉾状沈線、三角印刻文
229			_	Ⅲ群1類 a	5YR5/8明赤褐	長石•灰色砂粒	弧状の蒲鉾状沈線区画内に縦位の密接蒲鉾状平行 沈線・波状の蒲鉾状沈線、三角印刻文
230			KU	Ⅲ群1類 a	2.5YR6/8橙	長石•灰色砂粒	弧状・方形の蒲鉾状沈線区画内に縦位の密接蒲鉾状 平行沈線・波状の蒲鉾状沈線、三角印刻文
231			KU	Ⅲ群1類 a	5YR6/8橙	長石•灰色砂粒	縦位・斜位の蒲鉾状沈線区画内に縦位の密接蒲鉾状平行沈線、菱形・三角形・三叉状の印刻文
232			KU	Ⅲ群1類 a	5YR6/6橙	長石•灰色砂粒	横位の蒲鉾状沈線区画内に縦位の密接蒲鉾状平行 沈線、三角形・円形・三叉状の印刻文
233			KU	II 群2類 d	10YR4/3にぶい黄褐	長石・金雲母・灰色砂粒	横位・斜位の粘土紐に結節浮線文
234			KU	Ⅲ群1類 a	10YR6/4にぶい黄橙	長石•石英•灰色•茶色砂粒	横位の蒲鉾状沈線区画内に縦位の密接蒲鉾状平行 沈線、弧状の粘土紐
235			KU	Ⅲ群1類 a	10YR6/4にぶい黄橙	長石·金雲母·灰色砂粒·黒色粒子	地文に縄文、縦位の密接蒲鉾状平行沈線、弧状の蒲 鉾状沈線
236	16		KU	Ⅲ群1類 a	5YR6/6橙	長石·石英·灰色砂粒	横位の密接蒲鉾状平行沈線区画内に縦位・半円形・ 縦位小波状の密接蒲鉾状平行沈線
237	16		KU	Ⅲ群1類 a	10YR5/4にぶい黄褐	長石·金雲母·灰色砂粒	縦位・縦位小波状の密接蒲鉾状平行沈線、アーチ状 の蒲鉾状沈線
238			KU	Ⅲ群1類 a	7.5YR5/4にぶい褐	長石・金雲母・灰色・茶色砂粒	円形の蒲鉾状沈線区画内に縦位の密接蒲鉾状平行 沈線、横位蒲鉾状沈線、矢羽根状の密接蒲鉾状平行 沈線
239	16		KU	Ⅲ群1類 a	7.5YR5/4にぶい褐	長石•金雲母•灰色砂粒	波状口縁、地文にRL縄文、三角形状の沈線区画
240	16		KU	Ⅲ群1類 a	7.5YR6/6橙	長石・金雲母・灰色砂粒	横位沈線、U字状沈線の中心部に半楕円形の印刻文
241			KU	Ⅲ群1類 a	7.5YR5/4にぶい褐	長石•石英	○状の蒲鉾状沈線区画内に横位の密接蒲鉾状平行 沈線、三角印刻文
242			KU	Ⅲ群1類 a	2.5YR6/6橙	長石	横位の蒲鉾状沈線区画内に縦位の密接蒲鉾状平行 沈線
243			KU	Ⅲ群1類 a	7.5YR6/6橙	長石•石英•黒色粒子	鋸歯状の蒲鉾状沈線区画内に縦位沈線、三角印刻文
244			KU	Ⅲ群1類 a	5YR6/8橙	長石·石英	三角印刻文
245	カラー 4 ・ 15		KU	Ⅲ群1類 a	2.5YR5/6明赤褐	長石・金雲母・砂粒	顔面把手、顔面部は粘土紐で輪郭・眉・鼻を作り連続 爪形文、両目は三叉状の切り込み、頭頂部は粘土を ドーナツ状に貼り付けRL縄文、後頭部は横位の粘 土紐に連続爪形文、背面は楕円形の粘土紐に連続爪 形文、三叉文など
246	16		KU	Ⅲ群1類 c	10YR8/4浅黄橙	長石·金雲母·灰色砂粒	RL多条縄文を縦位施文、二枚貝貝殻の殻頂部を押 捺圧痕
247	16		KU	Ⅲ群1類 c	5YR6/8橙	長石·石英·灰色·茶色砂粒	地文にRL縄文、円形の粘土紐に連続爪形文、弧状・ 縦位沈線
248	16		KU	Ⅲ群1類 c	10YR7/6明黄褐	長石·金雲母·灰色砂粒	LR縄文、横位の低い粘土紐に円形の連続刺突文
249	16		KU	Ⅲ群1類 c	7.5YR7/4にぶい橙	長石・金雲母・灰色・茶色砂粒	RL多条縄文
250	16		KU	Ⅲ群1類 d	2.5Y7/4浅黄	長石•石英•金雲母•灰色砂粒	波状口縁、地文にRL縄文、三角印刻文、連続爪形文
251	16		KU	Ⅲ群1類 d	2.5Y7/4浅黄	長石・金雲母・灰色砂粒	波状口縁、地文にRL縄文、三角印刻文、連続爪形文
252	16		KU	Ⅲ群1類 d	7.5YR5/4にぶい褐	長石•石英•灰色•茶色砂粒	横位の粘土紐に連続爪形文、横位の蒲鉾状沈線
253	16		クロ	Ⅲ群2類 d	7.5YR6/6橙	長石•灰色•黒色粒子	粘土紐、連続刺突文、縄文
254	16		クロ	Ⅲ群3類 c	7.5YR6/4にぶい橙	長石•灰色•黒色粒子	円形の沈線文、横位の連続刺突文
255	16		KU	Ⅲ群3類 c	10YR6/4にぶい黄橙	長石·石英·茶色·黒色粒子	弧状の沈線、横位の連続刺突文
256	16		KU	Ⅲ群3類 c	7.5YR5/6明赤褐	長石·石英·金雲母·茶色砂粒	縦位波状の沈線、横位の連続刺突文
257	16		クロ	Ⅲ群3類 e	7.5YR7/6橙	長石・灰色・黒色粒子	双環状の把手
258			クロ	III群3類 e	7.5YR7/4にぶい橙	長石·灰色·黒色粒子	双環状の把手
259	16		KU	Ⅲ群3類 e	7.5YR6/6橙	長石·石英·金雲母·灰色砂粒	隆帯と沈線の区画内にRL縄文
260	16		KU	III群3類 e	5YR5/6明赤褐	長石·金雲母·灰色砂粒	隆帯と沈線の区画内に縄文
261	16		KU	IV群 b	7.5YR6/6橙	長石·灰色·黒色粒子	横位沈線
262	16			IV群 b	7.5YR6/4にぶい橙	長石·石英·灰色·茶色砂粒	Rの太い縄にLの細い縄を巻いた縄文
263	16		クロ	IV群 b	7.5YR6/6橙	長石•灰色•茶色•黒色粒子	Rの太い縄にLの細い縄を巻いた縄文
264	16		KU	IV群 b	7.5YR6/6橙	長石·石英·灰色砂粒	Rの太い縄にLの細い縄を巻いた縄文
265	16		クロ	IV群 b	7.5YR5/4にぶい褐	長石・石英・灰色・黒色粒子	Rの太い縄にLの細い縄を巻いた縄文
266	16		KU	IV群 b	7.51R5/4にふい帽 7.5YR6/6橙	長石・石英・灰色砂粒	Rの太い縄にLの細い縄を巻いた縄文
267	10		IVO	底部	7.51 R6/6位 10YR6/4にぶい黄橙	長石・灰色・茶色砂粒	底面敷物状の圧痕の上に木葉痕
			LII.				
268			KU	底部	7.5YR5/4にぶい褐	長石・灰色砂粒	外面縄文、底面木葉痕

第15表 富士岡 1 古墳群 1 区土製品観察表

挿図 番号	図版 番号	位置	分 類	色 調	胎 土	文 様 ・ 調 整 等	長径 (cm)	短径 (cm)	厚さ (cm)
269	16	クロ	Ⅲ群1類 a	5YR4/6赤褐	石英・長石・雲母・黒色粒子	横位沈線	6.0	4.6	1.1
270	16	KU	Ⅲ群1類 a	7.5YR5/4にぶい褐	白色砂粒	粘土紐で区画した中に斜位の蒲鉾状沈線	2.4	1.5	1.0
271	16	KU	Ⅲ群1類 a	5YR4/4にぶい赤褐	金・石英砂粒	粘土紐を斜位に貼り付け	2.2	2.0	0.9

第16表 富士岡 1 古墳群 1 区縄文時代石器属性表

挿図 番号	図版 番号	出土遺構	層位	器種	分類	石 材	全 長 (cm)	幅 (cm)	厚 さ (cm)	重 量 (g)
26		TA1	覆土	石鏃	不明	砂岩	3.55	2.65	0.70	5.94
27		TA1	覆土	磨石	I	安山岩	(11.90)	6.80	4.50	578.50
31	12	SY11		打製石斧	II	砂岩	15.50	7.70	3.00	430.30
32		SY11		磨石	I	輝石安山岩	10.40	5.85	4.70	389.30
33		SY11		磨石	I	安山岩(新第三紀)	10.10	8.00	3.90	348.00 684.00
34 35		SY11 SY11		磨石 磨石	I	デイサイト質凝灰岩 輝石安山岩	11.00 11.50	8.60 9.50	4.60 4.10	660.00
36		SY11		石皿	I	輝石安山岩	21.00	18.20	7.10	3850.00
37		SY11		石皿	I	輝石安山岩	18.10	15.30	4.50	2000.00
38		SY11		石皿	II	安山岩	16.60	13.70	4.90	1920.00
39		SY11		石皿	II	輝石安山岩	19.50	12.70	8.40	2830.00
40		SY11		石皿	II	輝石安山岩	14.90	13.30	6.40	2180.00
41		SY11		石皿	II	輝石安山岩	18.10	15.70	5.60	2600.00
42		SY11	क्स ।	石皿	II	輝石安山岩	16.70	14.70	5.50	2140.00
52 53		SK86 SK51	覆土 覆土	磨石 磨石	II	安山岩 安山岩	8.70 12.00	8.20 8.10	6.20 8.30	689.00 1194.00
57		SP86	覆土	磨石	I	輝石安山岩	11.70	9.00	5.70	695.80
64	12	SX4	182.11	打製石斧	III	粘板岩	11.90	7.10	2.50	228.90
65		SX4		磨石	III	輝石安山岩	23.10	10.30	8.40	3460.00
66		SX4		磨石	I	輝石安山岩	11.80	7.40	6.10	790.00
67		SX4		磨石	I	安山岩	10.90	6.90	4.10	460.80
68		SX4		石皿	I	輝石安山岩	16.10	14.50	5.20	2200.00
69		SX4		石皿	II	輝石安山岩	26.40	20.90	7.90	7875.00
70 71		SX4 SX4		石皿 石皿	II	輝石安山岩 輝石安山岩	30.50 29.70	22.80 24.80	12.50 8.50	16500.00 12350.00
272	17	5.74	クロ	石鏃	I	神口女山石 ホルンフェルス	1.65	1.72	0.55	1.56
273	17		<i>,</i> ,	石鏃	II A 1	黒曜石	1.30	1.72	0.30	0.34
274	17		KU	石鏃	II A 1	黒曜石	1.90	1.66	0.45	0.90
275	17		KU	石鏃	II A 2	黒曜石	1.59	1.81	0.31	0.40
276	17		KU	石鏃	II A 2	黒曜石	2.00	1.82	0.40	0.80
277	17		KU	石鏃	II A 2	黒曜石	1.66	1.58	0.37	0.62
278	17			石鏃	II A 2	黒曜石	1.70	1.47	0.27	0.44
279	17 17		クロ	石鏃	II A 2 II B 1	黒曜石	1.52	1.27	0.23	0.24
280 281	17		KU	石鏃 石鏃	II B 1	黒曜石 黒曜石	2.40 2.50	1.85 1.67	0.30	1.20
282	17		KU	石鏃	II B 2	黒曜石	2.16	1.55	0.40	0.90
283	17		KU	石鏃	II B 2	黒曜石	1.77	1.34	0.37	0.61
284	17		KU	石鏃	II B 3	黒曜石	1.83	1.46	0.43	0.68
285	17		KU	石鏃	II B 3	黒曜石	1.91	1.47	0.58	0.99
286	17		KU	石鏃	II B 3	黒曜石	1.82	1.52	0.75	1.42
287	17		KU	石鏃	II B 3	ホルンフェルス	1.88	1.27	0.35	0.56
288 290	17 17		KU	石鏃 石鏃	III IV	黒曜石 斑質頁岩	2.37 3.15	1.85 1.30	0.80 2.80	3.24 1.33
290	17		KU	石鏃未製品	1 V	黒曜石	2.10	1.73	0.86	2.11
292	17		KU	石匙	横型	ホルンフェルス	3.50	6.20	1.10	13.66
293	17		KU	石匙	横型	ホルンフェルス	1.80	3.15	0.70	2.98
294	17		KU	石匙	横型	ホルンフェルス	3.35	0.44	0.85	10.54
295	17		KU	石匙	横型	砂岩	3.15	4.80	0.70	6.69
296	17		KU	石匙	横型	チャート	3.45	4.30	0.80	8.59
297	17		KU	石匙	横型	ホルンフェルス	4.50	7.10	0.90	22.88
298 299	17 17		KU KU	石匙 石匙	横型横型	ホルンフェルス ホルンフェルス	3.60 4.40	4.20 5.60	0.80	6.79 21.96
300	17		KU	石匙	縦型	ホルンフェルス	6.00	3.22	0.80	15.94
301	17		KU	石錐	THE IL	ホルンフェルス	2.10	1.20	0.30	0.62
302	17		クロ	石錐		ホルンフェルス	3.55	1.75	0.50	1.96
303	17		KU	石錐		ホルンフェルス	2.00	1.45	0.40	0.76
304	17		クロ	石錐		ホルンフェルス	2.90	2.55	0.60	2.12
305	17		KU	石錐		珪質頁岩	3.50	2.70	0.80	4.70
306	17		KU	石錐		ホルンフェルス	3.75	1.30	0.60	2.70
307	17 17		クロ	石錐		ホルンフェルス 黒曜石	4.60	2.35	1.20	12.05
308	18		KU	石錐 スクレイパー		無曜日 ホルンフェルス	4.55 6.35	3.05 5.17	1.00	7.90 39.84
310	18		KU	スクレイパー		ホルンフェルス	6.65	4.25	1.41	38.27
311	18		KU	スクレイパー		ホルンフェルス	5.32	3.73	0.81	15.05
312	18		KU	スクレイパー		ホルンフェルス	5.77	2.40	0.80	14.43
313	18		KU	スクレイパー		ホルンフェルス	4.14	6.79	1.10	29.18
314	18		KU	スクレイパー		ホルンフェルス	7.20	10.47	1.95	134.82

挿図 番号	図版 番号	出土遺構	層位	器 種	分 類	石 材	全 長 (cm)	幅 (cm)	厚 さ (cm)	重 量 (g)
315	18		KU	打製石斧	I	礫質砂岩	12.80	4.90	2.20	154.10
316	19		KU	打製石斧	II	砂岩	9.58	6.75	1.60	134.60
317	19		KU	打製石斧	II	砂岩	8.50	5.85	1.80	95.90
318	19		KU	打製石斧	II	頁岩	7.87	5.11	2.38	92.20
319	19		KU	打製石斧	II	ホルンフェルス	7.60	5.60	1.70	54.17
320	19		KU	打製石斧	II	砂岩	12.80	6.00	1.80	130.80
321	19		撹乱	打製石斧	II	砂岩	5.50	3.60	1.50	25.50
322	20		KU	打製石斧	III	砂質頁岩	15.10	10.70	3.30	504.20
323	18		クロ	打製石斧	IV	砂質頁岩	9.58	4.35	1.90	96.80
324	18		クロ	打製石斧	IV	不明	16.40	6.80	3.00	323.77
325	20		KU	磨製石斧		砂岩	16.52	4.38	3.60	401.80
326	19		クロ	磨製石斧		礫質砂岩	8.60	6.30	3.20	266.30
327	17		KU	石核		黒曜石	2.02	2.18	2.10	9.99
328	17		KU	石核		黒曜石	4.00	2.40	2.40	20.91
329	17		KU	石核		黒曜石	2.43	2.15	2.40	11.34
330			クロ	石錘		砂岩	8.20	7.60	2.68	240.9
331			KU	石錘		輝石安山岩	8.54	7.52	2.38	217.80
332			KU	石錘		砂岩	8.30	7.40	2.65	225.90
333			KU	石錘		ひん岩	8.80	6.50	2.70	223.30
334			KU	石錘		輝石安山岩	6.80	7.00	2.10	121.00
335			KU	石錘		砂岩	7.70	7.70	1.70	141.20
336				石錘		頁岩	6.70	4.70	0.75	83.20
337				石錘		角閃石デイサイト	6.70	6.70	1.60	103.40
338				磨石	I	輝石安山岩	5.50	5.51	4.00	117.30
339				磨石	I	輝石安山岩	7.00	5.50	3.90	163.60
340				磨石	I	安山岩	6.50	5.10	2.80	130.10
341				磨石	I	安山岩	6.90	5.00	2.80	125.10
342			KU	磨石	I	安山岩	8.40	6.20	5.50	359.60
343			KU	磨石	I	安山岩	9.20	7.90	3.40	330.50
344			KU	磨石	I	安山岩	10.30	9.80	2.60	371.20
345			777.7	磨石	I	安山岩	10.30	7.70	5.20	507.80
346			KU	磨石	I	安山岩	11.80	8.80	4.40	580.40
347 348			KU	磨石	I	安山岩	11.40 12.90	10.40 9.30	4.30 3.50	563.40 637.00
348			KU	磨石	I	砂岩	13.80	9.30	4.80	846.70
350			KU	磨石 磨石	I	安山岩 輝石安山岩	10.30	6.20	4.80	471.20
350			KU	磨石 磨石	I	安山岩	7.50	7.30	2.20	171.70
352			KU	磨石 磨石	I	安山岩	6.40	5.60	1.40	63.90
353			KU	磨石	I	輝石安山岩	6.50	5.70	3.20	165.90
354			KU	磨石	I	輝石安山岩	9.40	7.50	4.40	471.50
355			KU	磨石	I	安山岩	9.90	5.90	3.50	321.70
357			KU	磨石	II	輝石安山岩	12.30	7.80	8.10	1100.00
358			KU	磨石	II	安山岩	8.00	4.90	6.00	322.50
359			150	磨敲石	IV	安山岩	9.90	7.60	6.00	600.90
360			KU	磨敲石	IV	安山岩	12.60	9.00	3.70	549.50
361			KU	磨敲石	IV	安山岩	11.40	4.50	9.10	688.50
362			KU	磨敲石	IV	輝石安山岩	11.50	9.90	5.00	724.20
363				敲石	V	輝石安山岩	10.50	8.80	4.00	448.60
364				敲石	V	安山岩	6.20	6.20	3.50	190.80
365				石皿	I	多孔質輝石安山岩	16.40	12.10	8.00	1870.00
366			KU	石皿	I	輝石安山岩	17.70	14.40	5.50	1870.00
367				石皿	I	輝石安山岩	17.10	10.00	5.70	1280.00
368			KU	石皿	I	輝石安山岩	17.90	9.70	7.50	1790.00
369			KU	石皿	I	輝石安山岩	24.30	18.60	8.30	4820.00
370			KU	石皿	II	輝石安山岩 (捕獲岩含有)	28.30	20.10	8.40	7040.00
371			KU	石皿	II	安山岩	20.70	17.90	6.30	4280.00
372				石皿	II	安山岩	25.00	26.40	12.50	12460.00
373			KU	石皿	II	輝石安山岩	29.40	30.20	7.90	10010.00

第17表 富士岡 1 古墳群 1 区旧石器時代石器属性表

挿図番号	図版番号	層位	器種	石材	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
374	20	KU	尖頭器	黒曜石	3.70	1.30	0.84	2.49
375	20	KU	尖頭器	無斑晶ガラス質安山岩	6.20	2.01	8.50	11.20
376	20	KU	尖頭器	黒曜石	2.90	1.85	0.90	4.07
377	20	KU	尖頭器未製品	ホルンフェルス	6.32	2.91	1.22	24.05
378	20	KU	ナイフ形石器	黒曜石	1.61	1.29	0.48	1.22

第18表 富士岡1古墳群2区古墳周溝の概要

() は残存値

遺構名	挿 図	図版	検出面		グ	· IJ	ツ	ド	規模(m) 東西×南北	最大幅 (m)	最大深 (m)
3 号古墳周溝 (SD21)	8, 66~68	22	KU	I-14,	15,	J-14,	15,	K-14,	$5 (4.6) \times (17.1)$	3.2	0.6

第19表 富士岡1古墳群2区竪穴状遺構の概要

() は残存値

遺構名	挿図	図版	検出面	グリッド	主軸方位	規模(m) 長軸×短軸	深さ (m)	ピット数
TA3	8, 66, 71	23	KU	K, L-14	N-11°-W	$(4.9) \times (0.9)$	0.4	0

第20表 富士岡1古墳群2区溝状遺構の概要

() は残存値

遺構名	挿 図	図 版	検出面	グリッド	全長(m)	最大幅(m)	最大深(m)
SD20	8, 66, 69		KU	K, L-14	(13.5)	0.9	0.1
SD22	8, 66, 72	23	KU	I, J-14	(6.3)	1.5	0.4

第21表 富士岡1古墳群2区集石の概要

() は残存値

遺構名	挿 図	図版	検出面	グリッド	規模(m) 長径×短径	礫数	赤化比率	遺物
SY20	76, 77	24	KU	L-14	2.0×1.0	31	26%	第78図398~402, 406

第22表 富士岡1古墳群2区土坑・小穴の概要

遺構名	挿 図	図版	検出面	グリッド	種類	規模(m) 長径×短径	最大深 (m)	平面形態	遺物
SK104	76 · 77	24	YL	L-14	土坑	2.0×0.8	0.2	不整形	第78図403~405, 407~410
SK101	76 · 77	24	YL	L-14	土坑	1.2×0.6	0.3	不整形	第78図397
SK100	8 • 66		KU	L-14	土坑	_	0.3	_	
SK103	8 • 66 • 73		KU	L-14	土坑	$1.5 \times (0.3)$	0.3	長楕円形	
SP400	8 • 66		KU	K-14	小穴	0.4×0.3	0.3	長楕円形	
SP401	8 • 66		KU	K-14	小穴	$(0.5) \times 0.4$	0.1	長楕円形	
SP402	8 • 66		KU	K-14	小穴	$(0.3) \times (0.1)$	0.4	長楕円形	
SP403	8 • 66		KU	K-14	小穴	$(0.2) \times (0.1)$	0.3	_	
SP404	8 • 66		KU	J-14	小穴	0.4×0.3	0.1	楕円形	
SP405	8 • 66		KU	J-14	小穴	0.3×0.2	0.2	楕円形	

第23表 富士岡 1 古墳群 2 区古墳時代土器観察表

挿図 番号		出土 位置	種別	器種	部 位	残存率 (%)	器高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	色 調	調整	備	考
379	25	3号古墳 周溝SD21 覆土	土師器	坏蓋		30	(3.9)	(14.0)		5YR5/6明赤楬	外面:口縁部横ナデ 天井部回転ヘラ削り 内面:口縁部横ナデ 天井部横へラミガキ		
380		SD22覆土	土師器	壺	口縁部	25	(2.3)	(9.8)		7.5YR6/3にぶい楬	外面:縦ハケ後ナデ 内面:横ヘラミガキ		
381		SD22覆土	土師器	壺	口縁部	30	(2.9)	(12.3)		5YR6/6橙	外面:縦ハケ 内面:横ハケ後ナデ		
382	25	SD22覆土	土師器	壺	胴部~底部	30	(8.8)		7.8	10YR6/6明黄楬	外面:不明 内面:不明	外内面》 底部木	
383	25	SD22覆土	土師器	壺	胴部~底部	40	(10.4)		(13.0)	10YR4/6楬	外面:斜めハケ後横ミガキ 内面:横ハケ		葉痕
384		SD22覆土	土師器	壺	底部	20	(3.7)		(8.0)	5YR6/8橙	外面:横へラミガキ 内面:横ハケ・斜めハケ		
385		SD22覆土	土師器	壺	底部	80	(2.1)		4.6	5YR6/6橙	外面:板ナデ 内面:斜めハケ		
386		SD22覆土	土師器	壺	底部	40	(1.7)		(8.4)	5YR6/4にぶい橙	外面:縦ハケ 内面:横ハケ後ナデ?	底部木	葉痕
387	25	SD22覆土	土師器	選	口縁部~胴部	45	(21.5)	(22.4)		5YR7/6橙	外面:口縁部〜頸部斜めハケ 胴上部横ハケ 胴下部縦ハケ 内面:口縁部横ハケ後ナデ 内面横ハケ		
388	25	SD22覆土	土師器	甕	口縁部~胴部	45	(16.5)	(17.9)		7.5YR6/6橙	外面:斜めハケ 内面:口縁部横ハケ 胴部板ナデ		
389	25	SD22覆土	土師器	魙	口縁部~胴部	70	(11.6)	(15.2)		7.5YR5/3にぶい楊	外面: 口縁部横ハケ 頸部〜胴上部縦ハケ 胴下部斜めハケ 内面: 口縁部〜頸部横ハケ 胴部横ハケ後 ナデ		

挿図 番号		出土 位置	種別	器種	部 位	残存率 (%)	器高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	色 調	調整	備	考
390	25	SD22覆土	土師器	台付甕		50	(28.0)	(20.0)		7.5YR4/2灰楬	外面:口縁部縦ハケ後横ナデ 胴上部横ハケ 胴下部縦ハケ 口唇部キザミ 内面:口縁部横ハケ後横ナデ 胴部横ハケ後ナデ		
391	25	SD22覆土	土師器	魙	口縁部~胴部	20	(9.6)	(16.2)		7.5YR5/3にぶい楊	外面:口縁部横ハケ後ナデ 頸部縦ハケ 胴部横ハケ 内面:口縁部〜頸部横ハケ 胴上部横ハケ 後ナデ 胴中央部斜め指頭ナデ		
392	25	SD22覆土	土師器	魙	口縁部~胴部	35	(14.3)	(14.4)		5YR7/6橙	外面:口縁部〜頸部斜めハケ 胴部斜めハケ後横ハケ 内面:口縁部横ハケ後ナデ 胴部横ハケ		
393	25	SD22覆土	土師器	台付甕	脚部	100	(8.9)		(10.2)	10YR6/3にぶい黄橙	外面:板ナデ 甕部内面:横ハケ 脚部内面:横ハケ		
394	25	SD22覆土	土師器	高坏	脚部	40	(6.8)		(8.2)	7.5YR7/6橙	外面:縦ヘラミガキ 内面:ナデ		
395		SD22覆土	土師器	小型鉢	底部	25	(4.6)		(8.6)	10YR4/2灰黄楬	外面:斜めヘラミガキ 底面ナデ 内面:ナデ		
396		KU	土師器	不明	口縁部					7.5YR6/6橙	外面:斜方向のキザミ 内面:口唇部直下ナデ 横ハケ		

第24表 富士岡 1 古墳群 2 区縄文時代土器観察表

	図版 番号	遺構 番号	位置	分 類	色 調	胎 土	文 様 ・ 調 整 等
397	26	SK101	覆土	II 群2類 d	7.5YR5/4にぶい褐	長石•灰色砂粒	地文にRL縄文、弧状の粘土紐
398	26	SY20		II 群2類 d	7.5YR5/4にぶい褐	長石•金雲母•灰色砂粒	地文にRLの多条縄文、横位の粘土紐に刻目
399	26	SY20		II 群2類 d	7.5YR5/4にぶい褐	長石•石英•灰色砂粒	RL縄文
400	26	SY20		II 群2類 d	5YR5/4にぶい赤褐	長石·石英·金雲母·茶色·灰色砂 粒·黒色粒子	RL多条縄文
401	26	SY20		II 群2類 d	7.5YR4/3褐	長石·石英·金雲母·灰色·茶色砂粒	LR縄文
402	26	SY20		II 群2類 d	7.5YR5/4にぶい褐	長石·石英·金雲母·灰色砂粒	弧状の粘土紐に結節浮線文
403	26	SK104	覆土	II 群1類 e	10YR7/6明黄褐	長石•灰色•半透明砂粒	指頭圧痕
404	26	SK104	覆土	Ⅱ群1類 i	10YR5/4にぶい黄褐	長石•灰色砂粒	横位の刻目文
405	26	SK104	覆土	Ⅱ群1類 i	10YR5/4にぶい黄褐	長石·石英·灰色砂粒	横位の刻目文
406	26	SY20		II 群2類 j	10YR7/4にぶい黄橙	長石•雲母	LR多条縄文
407	26	SK104	覆土	II 群2類 d	10YR4/3にぶい黄褐	長石・金雲母・灰色・茶色砂粒	横位の粘土紐に結節浮線文
408	26	SK104	覆土	II 群2類 a	10YR5/4にぶい黄褐	長石·石英·金雲母·灰色·茶色砂粒	地文にLR縄文、横位・斜位の集合沈線
409	26	SK104	覆土	II 群2類 d	2.5Y6/3にぶい黄	長石•灰色•銀色砂粒	横位の粘土紐に縄文
410	26	SK104	覆土	II 群2類 d	10YR6/4にぶい黄橙	長石•灰色•茶色砂粒	地文にRL縄文、横位の粘土紐に結節浮線文
411	26		_	I 群1類 b	10YR5/4にぶい黄褐	長石•灰色•茶色砂粒	外内面と口唇部にRL縄文
412			_	I 群1類 d	7.5YR6/6橙	長石•灰色砂粒	沈線区画内に半截竹管の連続刺突文
413	26		KU	I 群1類 h	10YR6/3にぶい黄橙	長石·石英·灰色砂粒	波状口縁、口唇部に絡条体圧痕、縦位の微隆起線の 区画内に斜位沈線
414			KU	I群1類h	7.5YR7/6橙	長石•石英•灰色砂粒	縦位•斜位沈線
415			KU	I 群2類 j	10YR7/4にぶい黄橙	長石•砂粒	斜位条痕
416			KU	I 群2類 j	10YR7/4にぶい黄橙	長石•石英•砂粒	斜位条痕
417			KU	I 群2類 l	7.5YR7/4にぶい橙	長石•砂粒•黒色粒子•繊維	斜位沈線
418			KU	I 群2類 l	10YR6/4にぶい黄橙	長石•石英•灰色砂粒•繊維	RL多条縄文の羽状縄文
419			KU	I 群2類 l	7.5YR7/6橙	長石•砂粒•黒色粒子•繊維	RL多条縄文・LR多条縄文で羽状縄文
420			KU	I 群2類 l	7.5YR7/6橙	長石•砂粒•繊維	RL多条縄文・LR縄文で羽状縄文
421			KU	I 群2類 l	5YR6/6橙	長石・灰色・茶色・黒色粒子・繊維	無文
422			KU	I 群2類 l	7.5YR5/4にぶい褐	長石•灰色砂粒•繊維	調整痕
423	26		KU	II群1類 b	10YR6/4にぶい黄橙	長石•灰色砂粒	斜位沈線、一部交差
424	26		KU	II 群1類 c	7.5YR6/6橙	長石·金雲母·灰色砂粒	外内面に指頭痕、中越式系の可能性
425	26		KU	II 群1類 g	7.5YR5/4にぶい褐	長石•黒色粒子•繊維	組紐風縄文
426	26		KU	II 群1類 g	7.5YR6/6橙	長石・黒色粒子・繊維	地文に縄文、横位・鋸歯状沈線
427	26		_	II群1類g	10YR7/6明黄褐	長石·石英·灰色·茶色·黒色粒子· 繊維	多条縄文、結節羽状縄文
428	26		KU	II 群1類 g	10YR7/6明黄褐	長石・金雲母・灰色・茶色砂粒・繊維	地文にRL縄文、斜位・横位沈線
429	26		KU	II 群1類 g	7.5YR6/6橙	長石·灰色·茶色砂粒·繊維	LR縄文の結節羽状縄文
430	26		KU	II 群1類 g	7.5YR5/4にぶい褐	長石・石英・金雲母・灰色砂粒・繊維	正反の合の撚りの羽状縄文
431	26		KU	II 群1類 h	7.5YR5/4にぶい褐	長石·金雲母·灰色砂粒·繊維	RL縄文
432	27		KU	II 群1類 k	10YR5/4にぶい黄褐	長石·金雲母·灰色砂粒	RL縄文
433			KU	II 群1類 k	7.5YR5/4にぶい褐	長石・灰・黒の砂粒・金雲母	RL縄文
434	27		_	II 群1類 k	10YR7/4にぶい黄橙	長石•石英•灰色砂粒	L縄文
435	27		KU	II 群1類 k	7.5YR5/4にぶい褐	長石·金雲母·灰色砂粒	RL縄文、補修孔
436			KU	II 群1類 k	7.5YR6/4にぶい橙	長石·金雲母·灰色砂粒	RL縄文
			耕作土		10YR4/6褐	長石•石英•灰色•黒色粒子	LR縄文

桂加	DATE:	(事・抽					
挿図 番号	図版 番号	遺構 番号	位置	分 類	色 調	胎 土	文 様・調 整 等
438			KU	II 群1類 k	5YR5/4にぶい赤褐	長石•灰色砂粒	RL縄文
439	27		KU	II 群1類 k	7.5YR5/4にぶい褐	長石•灰色•茶色•黒色粒子	RL縄文
440	27		KU	II 群1類 k	7.5YR5/3にぶい褐	石英·金雲母·灰色砂粒	LRとRLの結節羽状縄文
441	27		KU	II 群1類 k	10YR4/6褐	長石・金雲母・灰色砂粒	LRとRLの羽状縄文
442	27		KU	II 群1類 k	7.5YR5/4にぶい褐	長石・金雲母・灰色砂粒	RL縄文
443			KU	II 群1類 k	7.5YR6/4にぶい橙	長石•灰•茶•黒色粒子	RL縄文
444	27		KU	II 群1類 k	10YR7/6明黄褐	長石・金雲母・灰色砂粒	RL縄文
445	27		KU	II 群1類 k	10YR5/4にぶい黄褐	長石・金雲母・灰色砂粒	RL異方向縄文
446			KU	II 群1類 k	10YR5/4にぶい黄褐	長石•灰色•黒色砂粒	LR縄文
447	27		KU	II 群1類 k	7.5YR6/6橙	長石・金雲母・灰色砂粒	端部を結節したRL縄文
448			KU	II 群1類 k	10YR5/4にぶい黄褐	長石•灰色•黒色粒子	RL縄文
449	27		KU	II 群1類 k	7.5YR5/4にぶい褐	長石・金雲母・灰色・茶色・黒色粒子	RLとLの羽状縄文
450			KU	II 群1類 k	10YR5/4にぶい黄褐	長石・灰色・黒色の砂粒	RL縄文
451			KU			長石•石英•灰色•黒色粒子	RL縄文
452			KU			長石・金雲母・灰色・黒色粒子	RL縄文
453			KU			長石·金雲母·灰色·茶色砂粒	RL縄文
454	27		KU		7.5YR4/4褐	長石•石英	RL多条縄文
455	21		_		10YR5/3にぶい黄褐		LR縄文
456	27		KU		7.5YR5/4にぶい褐	長石•茶色•黒色粒子	RLとLRの羽状縄文
457	21		KU			長石・金雲母・灰色・茶色砂粒	RLとLの羽状縄文
458			KU			長石・石英・灰色砂粒	RL多条縄文
459			KU			長石・灰色・黒色粒子	L縄文
460			KU		, , , , , , ,	長石•石英•灰色•黒色粒子	RL縄文
461			KU		7.5YR5/4にぶい褐	長石・金雲母・灰色・茶色・黒色粒子	RL縄文
462			YL		10YR5/4にぶい黄褐		LR縄文
463			KU		7.5YR5/4にぶい褐	長石·石英·灰色砂粒	RL縄文
464			KU	II 群1類 k	5YR5/4にぶい赤褐	長石•石英•灰色•黒色粒子	RL縄文とLR縄文
465	27		KU		7.5YR5/4にぶい褐	長石·金雲母·灰色砂粒	RL縄文
466	27		KU	II 群2類 a	10YR8/4浅黄橙	長石•石英•灰色•茶色砂粒	地文にRL多条縄文、横位・弧状の扁平な浮線文
467			KU	II 群2類 a	5YR4/3にぶい赤褐	長石•石英•金雲母•灰色砂粒	地文にRL縄文、斜位・弧状の扁平な浮線文
468	27		KU	II 群2類 a	2.5Y8/4淡黄	長石•灰色砂粒	地文にRL縄文、横位・渦巻状の扁平な浮線文
469			KU	II 群2類 a	7.5YR5/4にぶい褐	長石•石英•金雲母•灰色砂粒	地文にRL縄文、横位・弧状の扁平な浮線文
470	27		KU	II 群2類 a	10YR7/4にぶい黄橙	長石•金雲母•灰色砂粒	地文にRL多条縄文、横位の扁平な浮線文
471	27		KU	II 群2類 a	10YR7/4にぶい黄橙	長石・金雲母・灰色砂粒	地文にRL縄文、横位の扁平な浮線文
472	27		KU	II 群2類 a	7.5YR7/6橙	長石·灰色砂粒	RL縄文、横位・斜位・弧状の扁平な浮線文、刺突文
473	27		KU	II 群2類 a	10YR8/4浅黄橙	長石・金雲母・灰色砂粒	地文にRL多条縄文、横位の扁平な浮線文
474	27		KU	II 群2類 a	7.5YR6/6橙	長石・金雲母・灰色砂粒	地文にLR縄文、横位・弧状の扁平な浮線文
475	27		KU	II 群2類 a	10YR7/5にぶい黄橙	長石・黒雲母・灰色砂粒	地文にRL多条縄文、横位の扁平な浮線文
476	27		KU	II 群2類 a	10YR6/2灰黄褐	長石•灰色砂粒	地文にRL多条縄文、横位の扁平な浮線文、刺突文
477	28		KU	II 群2類 a	10YR6/4にぶい黄橙	長石・石英・金雲母・灰色砂粒・黒色	波状口縁、地文にRL縄文、口縁に沿った集合沈線、
411	20		NU	II 杆乙炔 a	101 10/4にかい貝包	粒子	横位の集合沈線、波頂部に突起
478	27		KU	II 群2類 a	7.5YR4/4褐	長石・石英・金雲母・灰色・黒色粒子	波状口縁、LR羽状縄文
479			KU	II 群2類 a	7.5YR5/4にぶい褐	長石•石英•灰色砂粒	波状口縁、地文にRL縄文、横位の密接蒲鉾状平行
				-1 11 = 13x tt			沈線の区画内に縦位・斜位の密接蒲鉾状平行沈線
480			KU	II 群2類 a	5YR5/4にぶい赤褐	長石·石英·灰色砂粒	波状口縁、地文にLR多条縄文、口縁に沿った蒲鉾 状沈線と横位沈線の区画内に斜位の密接蒲鉾状平 行沈線
481			KU	II 群2類 a	5YR4/4にぶい赤褐	長石・石英・金雲母・灰色・黒色砂粒	波状口縁、地文にRL縄文、口縁部に沿った集合沈 線と横位沈線の区画内に弧状の集合沈線
483			KU	II 群2類 a	10YR3/2黒褐	長石•灰色砂粒	波状口縁、地文にRL縄文、横位の密接蒲鉾状平行 沈線
484	27		KU	II 群2類 a	7.5YR4/3褐	長石・金雲母・灰色・黒色粒子	波状口縁、地文にLR多条縄文、口縁に沿った密接 蒲鉾状平行沈線と横位集合沈線の区画内に縦位の 密接蒲鉾状平行沈線
485	28		KU	II 群2類 a	7.5YR4/2灰褐	長石·石英·金雲母·灰色砂粒·黒色 粒子	波状口縁、地文にL縄文、波頂部に円形の突起、縦位の密接蒲鉾状平行沈線、横位・斜位の不規則な沈線
486	27		KU	II 群2類 a	5YR5/4にぶい赤褐	長石·石英·金雲母·灰色砂粒	地文にRL縄文、縦位・横位の密接蒲鉾状平行沈線
487	T		KU	II 群2類 a	7.5YR6/4にぶい橙	長石·金雲母·灰色砂粒	RL縄文
488	27		KU	II 群2類 a	7.5YR5/4にぶい褐	長石・石英・灰色砂粒	波状口縁、地文にLR縄文、口縁部に沿った密接蒲 鉾状平行沈線と横位集合沈線の区画内に斜位の密 接蒲鉾状平行沈線
489	27		KU	II 群2類 a	5YR4/6赤褐	長石・石英・金雲母・灰色・黒色砂粒	地文にLR縄文、横位集合沈線
	27		KU	II 群2類 a	7.5YR5/4にぶい褐	長石・石英・金雲母・灰色・黒色粒子	
490							
490 491	27		KU	II 群2類 a	10YR6/4にぶい黄橙	長石•石革•灰色砂粒	横位集合沈線の区画内に山形の集合沈線
490			-10	ユットロバ共の			

挿図 番号	図版 番号	遺構 番号	位置	分類	色調	胎土	文 様 ・ 調 整 等
493	27		KU	II 群2類 a	10YR8/4浅黄橙	長石・金雲母・灰色砂粒	横位・弧状・斜位の沈線
494			KU	II 群2類 a	10YR5/4にぶい黄橙	長石·灰色·黒色粒子	地文に縄文、弧状の扁平な浮線文、刺突文
495			_	II 群2類 a	5YR4/4にぶい赤褐	長石·石英·金雲母·灰色·茶色砂 粒·黒色粒子	横位集合沈線
496	27		KU	II 群2類 a	7.5YR6/4にぶい橙	長石·金雲母·灰色·茶色·黒色粒子	有孔浅鉢形土器
497	27		_	II 群2類 a	7.5YR6/6橙	長石·石英·金雲母·灰色·黒色粒子	有孔浅鉢形土器
498	27		_	II 群2類 a	7.5YR5/4にぶい褐	長石·石英·金雲母·灰色砂粒	無文の浅鉢
499			KU	II 群2類 a	5YR5/4にぶい赤褐	長石·石英·金雲母·灰色砂粒	無文の浅鉢
500	28		KU	II 群2類 d	7.5YR6/6橙	長石・金雲母・灰色・黒色砂粒	地文に一部RL縄文、横位の粘土紐に結節浮線文
501	28		KU	II 群2類 d	7.5YR5/3にぶい褐	長石·石英·金雲母·灰色·黒色粒子	横位の粘土紐に結節浮線文
502	28		_	II 群2類 d	7.5YR5/4にぶい褐	長石・石英・金雲母・灰色・黒色粒子	折り返し口縁、円形の沈線文、中心部に印刻文
503			_	II 群2類 a	10YR6/4にぶい黄橙	長石・金雲母・灰色・茶色・黒色粒子	波状口縁、横位の密接蒲鉾状平行沈線の区画内に 斜位の密接蒲鉾状平行沈線
504	28		KU	II 群2類 d	7.5YR5/4にぶい褐	長石•金雲母•灰色砂粒	波状口縁、外面口縁に沿った粘土紐、三角印刻文、 内面波頂部に半円形の突起
505			KU	II 群2類 d	7.5YR5/4にぶい褐	長石・金雲母・灰色・黒色砂粒	地文にRL縄文、横位の粘土紐に結節浮線文
506			KU	II 群2類 d	7.5YR5/3にぶい褐	長石•石英•金雲母•灰色砂粒	地文にRLとLRの羽状縄文、縦位の粘土紐に結節 浮線文
507			KU	II 群2類 d	7.5YR6/6橙	長石·金雲母·灰色·黒色砂粒	地文にRL縄文、縦位の密接蒲鉾状平行沈線、三角 印刻文
508			KU	II 群2類 d	7.5YR6/6橙	長石・金雲母・灰色・黒色砂粒	格子状の沈線、横位の粘土紐に刻目
509			KU	II 群2類 d	7.5YR6/6橙	長石·金雲母·灰色·黒色砂粒	地文にRL縄文、横位の粘土紐に結節浮線文
510	28		KU	II 群2類 f	10YR5/4にぶい黄褐	長石·金雲母·灰色砂粒	折り返し口縁、内面地文にRL縄文、ハの字状の粘土紐、外面RL縄文
511			KU	底部	10YR5/3にぶい黄褐	長石•金雲母	底面円形・半円形の圧痕

第25表 富士岡 1 古墳群 2 区縄文時代石器属性表

挿図番号	図版番号	層位	器 種	分 類	石 材	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
512	28	76 1	石鏃	II A 1	黒曜石	1.37	1.15	2.30	0.20
312	20		7口 纵仄	плі	杰唯年	1.07	1.10	2.00	0.20
513	28	KU	石鏃	II A 1	黒曜石	2.37	1.96	3.60	0.81
514	28	KU	石匙	横型	ホルンフェルス	4.12	4.31	1.05	16.04
515	28		打製石斧	II	頁岩	11.20	5.36	1.35	80.38
516		KU	磨石	III	輝石安山岩	15.60	11.50	6.70	1720.00
517		KU	磨敲石	IV	安山岩	15.00	6.30	6.30	900.00
518		KU	磨敲石	IV	安山岩	8.50	6.50	5.40	450.00
519		YL	磨敲石	IV	輝石安山岩	12.70	10.80	6.00	1200.00
520		KU	磨敲石	IV	安山岩	14.60	6.90	6.90	800.00
521			石皿	I	多孔質安山岩	24.80	19.50	4.90	2890.00
522		KU	石皿	I	安山岩	28.70	25.60	11.50	11950.00

第26表 富士岡 1 古墳群 2 区縄文時代玦状耳飾属性表

挿図番号	図版番号	位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	欠 損	石材	色調	分 類	備考
523	28	KU	3.50	1.20	1.30	1/2欠損	_	7.5YR7/6橙	土製玦状耳飾	体部断面三角形
524	28		5.27	3.02	1.40	1/2欠損	頁岩	_	石製玦状耳飾	体部平坦 重量19.48 g

第6章 向山遺跡

第1節 調査履歴

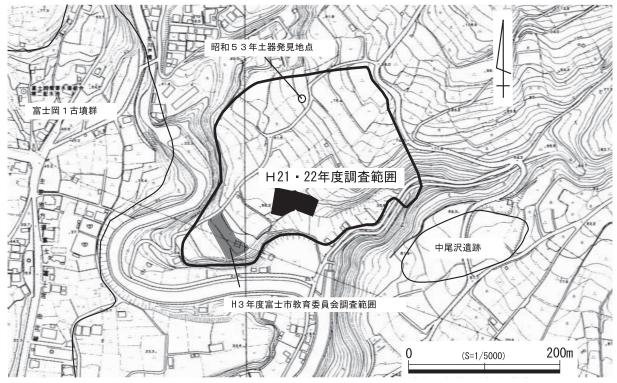
向山遺跡は愛鷹山麓の西端の舌状丘陵に位置し、南北250m、東西300mの範囲に広がる。

昭和53年、農道工事中に弥生時代後期から古墳時代前期にかけての完形の土器が一括で出土して、本遺跡の存在が知られるようになった。平成3年、鉄塔増強工事に伴って富士市教育委員会による発掘調査が実施された(富士市教委1992)。この結果、縄文時代早期末と古墳時代初頭の竪穴建物が1軒ずつ検出された。出土した縄文土器は早期末から前期初頭の条痕文系土器が主体である。(岩崎)

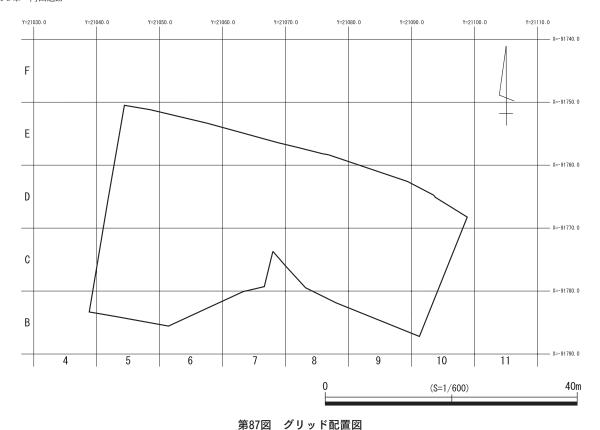
第2節 基本土層と土層の堆積状況

本遺跡は愛鷹山麓に立地する遺跡の中で最も西に位置する遺跡である。山体から離れているにもかか わらず上部ローム層の堆積が良好に残っている。

第2層の大淵スコリア層と第3層のクロボク土層は調査区の北西側のみに堆積している。遺構は第3層上面で検出されたものと、第5層上面で検出されたものが見られる。第5層の火山灰層である栗色土層と腐食土層である富士黒色土層の境界は不明瞭である。第11層、第12層のニセローム層は姶良丹沢パミス(AT)を包含する層であるが、本遺跡では確認できなかった。上部ローム層の残存状況は尾根上では良好であるが、谷部では休場層の直下は中部ローム層となる。(岩崎)



第86図 調査区位置図



0m 1 表土 2 🛦 🛦 0bs 3 クロ <u>1m</u> 4 AN 5 KU ∼ FB 6 ZN 7 ΥL <u>2m</u> 8 BB0 Sc I 10 BB I 11 NLa 3m 12 NLb 13 $\mathsf{BB} \, \mathrm{I\!I}$ Sc II <u>4m</u> 15 BBⅢ

第1層 表土

第2層 大淵スコリア層 10YR1.7/1 黒 粘性やや弱 しまりやや弱 1~2mm大の 赤色スコリア少量含む

第3層 クロボク土層 10YR1.7/1 黒粘性やや弱 しまりやや弱

第4層 暗褐色土層 10YR 2/2 黒褐 粘性あり しまりあり 1~3 mm大の赤色 スコリア少量含む

第5層 栗色土〜富士黒色土層 10YR3/3 暗褐 粘性あり しまりやや強 1~2 mm大の 赤色スコリア少量含む

第6層 漸移層 10YR3/4 暗褐 粘性強 しまりやや強 1~3 mm大の赤色 スコリア少量含む

第7層 休場層 10YR4/4 掲 粘性強 しまりあり 1~3 mm大の赤色 スコリアごく少量含む

第8層 第0黒色帯 10YR3/3 暗褐 粘性弱 しまり強 1~3 mm大の赤色 スコリア少量含む 1~2 mm大の黒色 ラビリ少量含む 同大の黄色ラビリごく 少量含む

第9層 第1スコリア帯 10YR3/4 暗褐 粘性弱 しまり強 1~5 mm大の赤色 スコリア少量含む 1~2 mm大の黒色 ラピリ少量含む

第 10 層 第 I 黒色帯 10YR2/3 黒褐

粘性あり しまり強 $1\sim20\,\mathrm{mm}$ 大の赤色 スコリア少量含む $1\sim2\,\mathrm{mm}$ 大の黒色 ラビリ少量含む 同大の黄色ラビリごく 少量含む

第11層 ニセローム層 a 10YR3/4 暗褐
 粘性あり しまり強 1~10 mm大の赤色
 スコリア含む 同大の黒色ラビリ少量
 含む 1~2 mm大の黄色ラピリごく少量
 含む

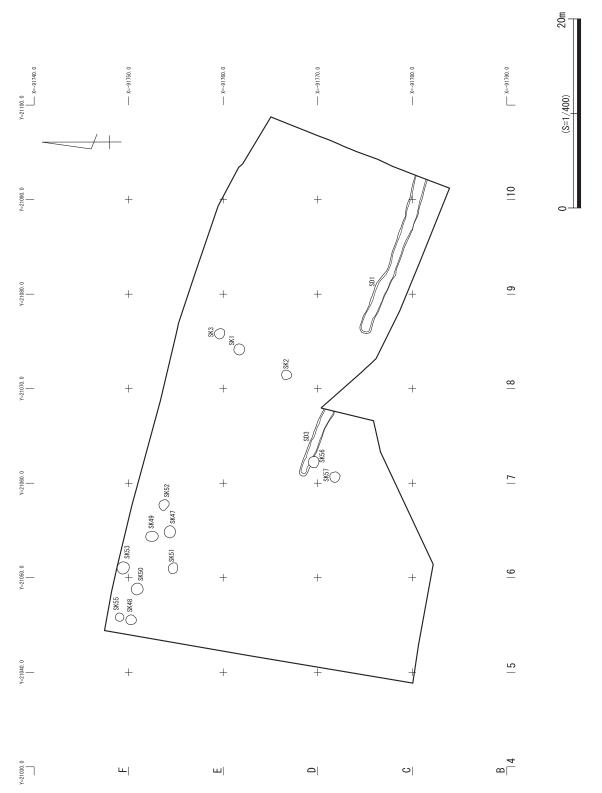
第12層 ニセローム層 b 7.5YR4/4 褐
 粘性やや弱 しまり強 1~10 mm大の赤色スコリア含む 1~5 mm大の黒色ラピリ
少量含む 1~2 mm大の黄色ラピリごく
少量含む

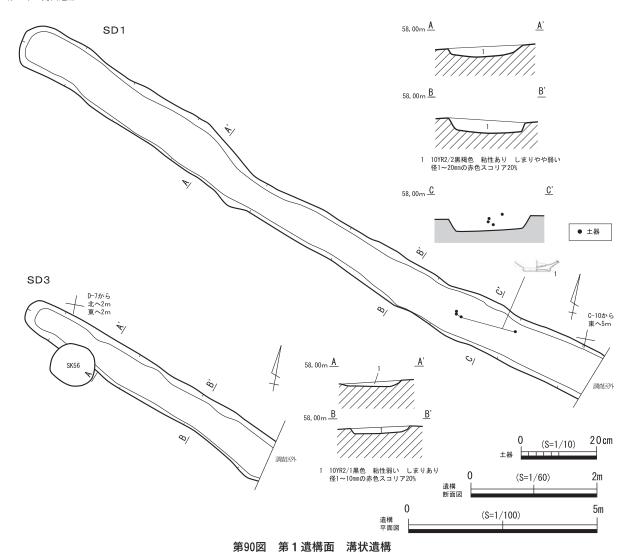
第 13 層 第 II 黒色帯 10 YR 3 / 4 暗褐 粘性あり しまり極めて強 1 ~ 10 mm大の 赤色スコリア含む 1 ~ 10 mm大の黒色 ラビリ多く含む 1 ~ 2 mm大の黄色ラビリ 少量含む

第14 層 第II スコリア帯 10YR4/4 褐 粘性ややあり しまり極めて強 1~5 mm 大の赤色スコリア少量含む 1~10 mm大の 黒色ラビリ少量含む

第15層 第Ⅲ黒色帯 10YR3/4 暗褐 粘性あり しまり極めて強 1~3 mm大の 赤色スコリア少量含む

第88図 基本土層柱状図





第3節 古墳時代以降の遺構と遺物

1 遺 構

第1遺構面は第3層クロボク土層から検出された遺構である。溝状遺構2基、土坑13基を検出した。 遺構覆土は大淵スコリアが混入しているが、大淵スコリア層そのものではなく、上層の表土まじりの覆 土であった。

(1) 溝状遺構 (第30表)

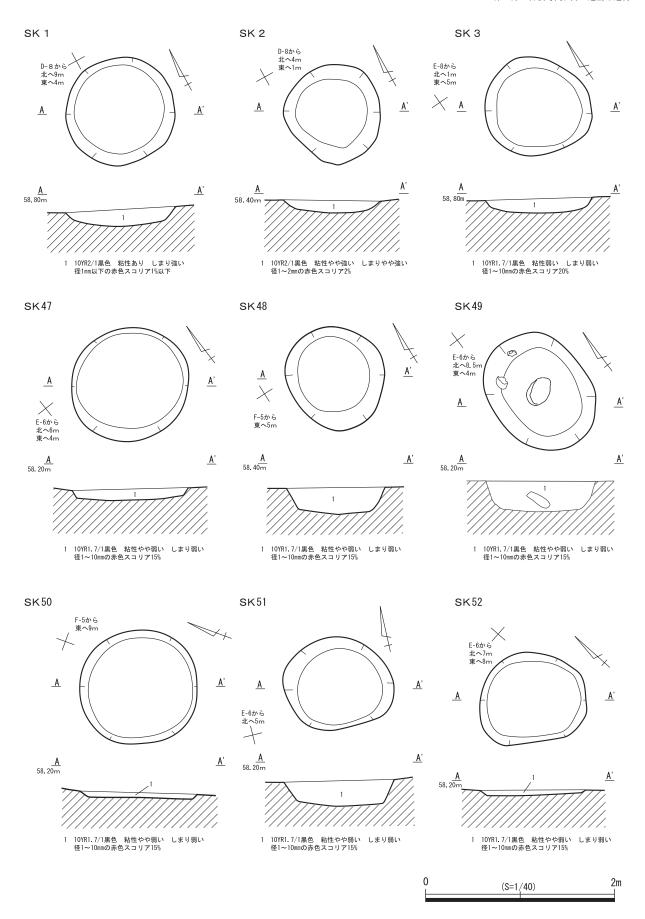
ア SD1 (第90図)

 $C-8 \cdot C-9$ グリッド、調査区南東から北西にかけて伸びる全長17.5mの溝状遺構である。断面形は台形状で、深さは15~20cm前後である。覆土内から中近世の遺物が1点出土した。

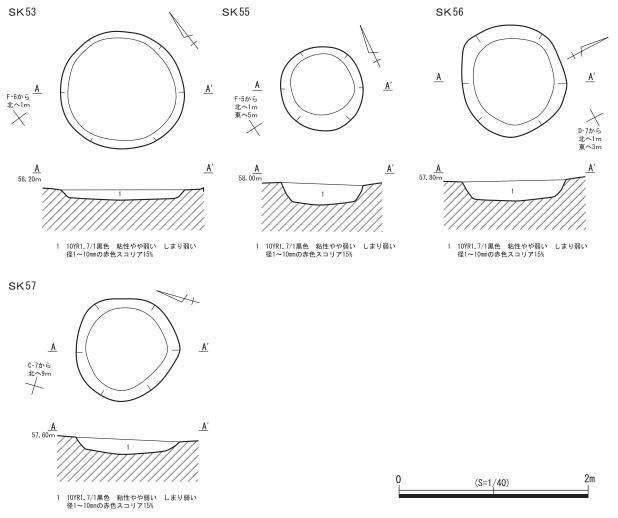
イ SD3 (第90図)

 $C-7 \cdot D-7$ グリッド、調査区中央、南側にのびる全長7.5mの溝状遺構である。削平を受けており、断面形は台形状または皿状、深さは10cm前後である。

SD1、SD2は一連の溝状遺構であった可能性がある。



第91図 第1遺構面 土坑1



第92図 第1遺構面 土坑2

(2) 土坑 (第91・92図・第32表)

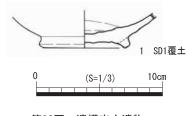
S K49を除いた全ての土坑は平面形が円形を呈する土坑である。断面形は底面に平坦面を持ち、立ち上がっている。遺物の出土はない。

S K 49は楕円形を呈する土坑である。土坑の底面付近では、長径31cmの河原石が出土している。遺構の形状から土坑墓の可能性も考慮されるが、根拠に乏しい。(西田)

2 遺物

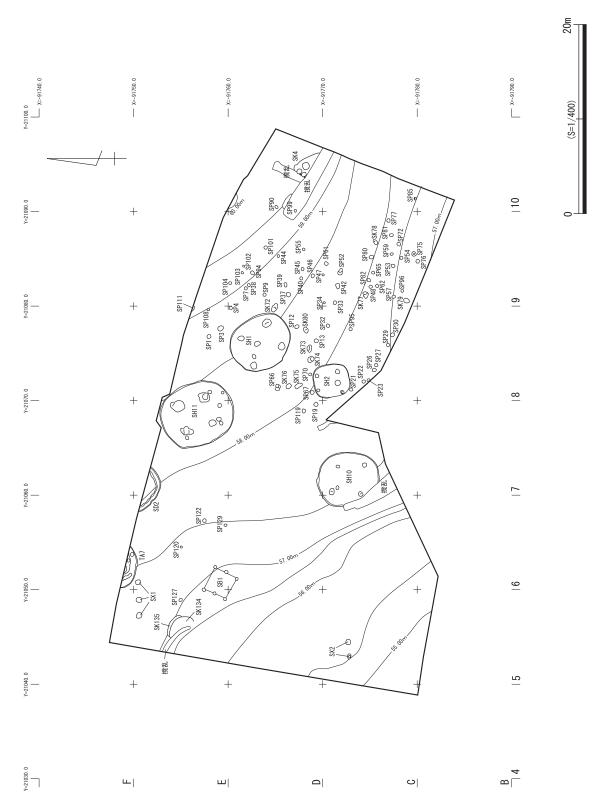
SD1出土遺物(第93図1・第33表)

1は陶器の埦である。貼付高台を有し、底面には糸切り痕が見られる。(岩崎)



第93図 遺構出土遺物





第4節 古墳時代の遺構と遺物

1 遺 構

古墳時代の遺構は本来の掘り込み面と遺構覆土の判別が困難であるため、第5層栗色土層上面にて遺構を検出した。遺構は竪穴建物5軒、掘立柱建物1棟、溝状遺構1基、土坑10基、小穴76基、不明遺構2基である。

調査区東側で検出されており、西側では竪穴建物や掘立柱建物が出土しているものの、土坑や小穴は 西側ほど検出されなかった。

(1) 竪穴建物(第27表)

ア SH1 (第95図)

D-8グリッド、調査区中央に位置する。

構造 平面形は小判形を呈する。長軸を北西と南東に向ける。掘方は円形に掘り込まれ、床面構築土(第5層)の厚さは4~15cmである。掘方は円形に掘り込まれているため、中心部分が高くなっている。主柱穴はP1~P4で4基検出され、不整円形をなしている。径50cm~80cmと規模は一定でない。炉は、建物中央のやや北東寄りで地床炉が検出されている。長径69cm、短径47cmの楕円形で深さ9cmとなる。遺物出土状況 遺物は古墳時代前期の土師器が床面直上から出土し、南西の柱穴P2内からは小礫がまとまって出土した。

イ SH2(第96図)

C-8・D-8グリッド、調査区中央南側に位置し、竪穴建物南西部分は削平を受けている。

構造 平面形は正方形に近い隅丸方形をなす。

掘方は円形に掘り込みがなされ、床面構築土(第 $6\cdot7$ 層)が確認され、最大で16cmの厚さを測る。主柱穴は $P1\sim P4$ で4基検出されている。平面形は不整円形である。炉は中央南西寄りに置石炉が検出されている。径57cm深さ11cmの円形の掘り込み内に細長い石が2つ並べられていた。

遺物出土状況 遺物の出土はなかったため、遺物からは遺構の所属時期はわからない。平面形は他の竪穴建物とは異なった形態を示しているが、覆土の特徴から、他の竪穴建物と同じく古墳時代のものと判断した。

ウ SH10 (第97図)

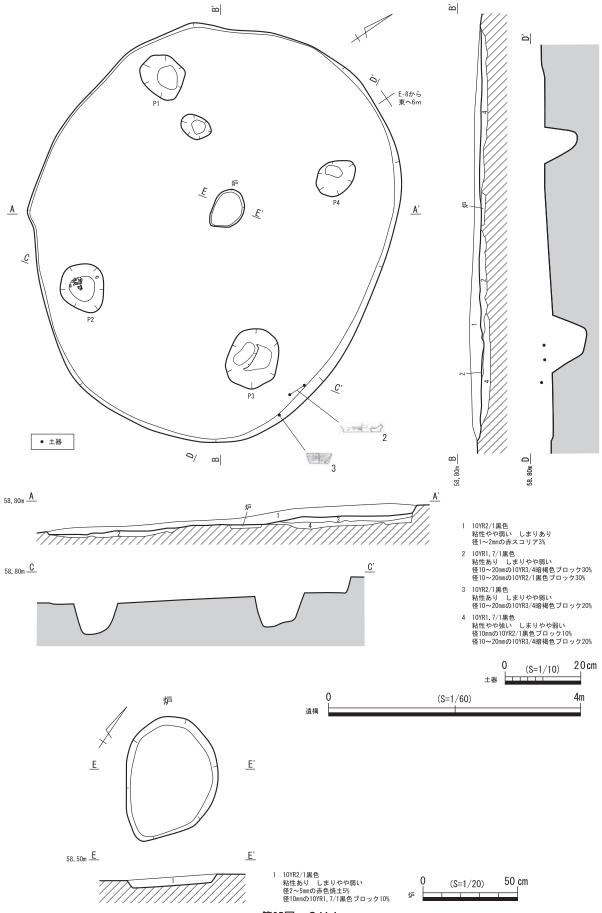
 $C-6 \cdot C-7 \cdot D-7$ グリッド、調査区中央の南側に位置する。

構造 平面形は円形に近い小判形を呈している。床面構築土(第3~5層)が確認され、最大で25cmの厚さを測る。主柱穴はP1~P4の4基が検出されており、いずれも平面形は楕円形である。P4は他の柱穴と比べてやや規模が小さいが柱穴と考えた。炉は、掘方を明確に持つものは検出されていないが、建物中央北東寄りで焼土の広がりが確認されている。焼土は50~60cmの範囲にわたって広がっている。遺物出土状況 遺物は建物北西の覆土から出土したほか、建物中央の焼土の南西側の床面直上では、人為的に集められたとみられる壺や甕が集中して出土した。これらの遺物の時期から、遺構の所属時期は古墳時代前期と考えられる。

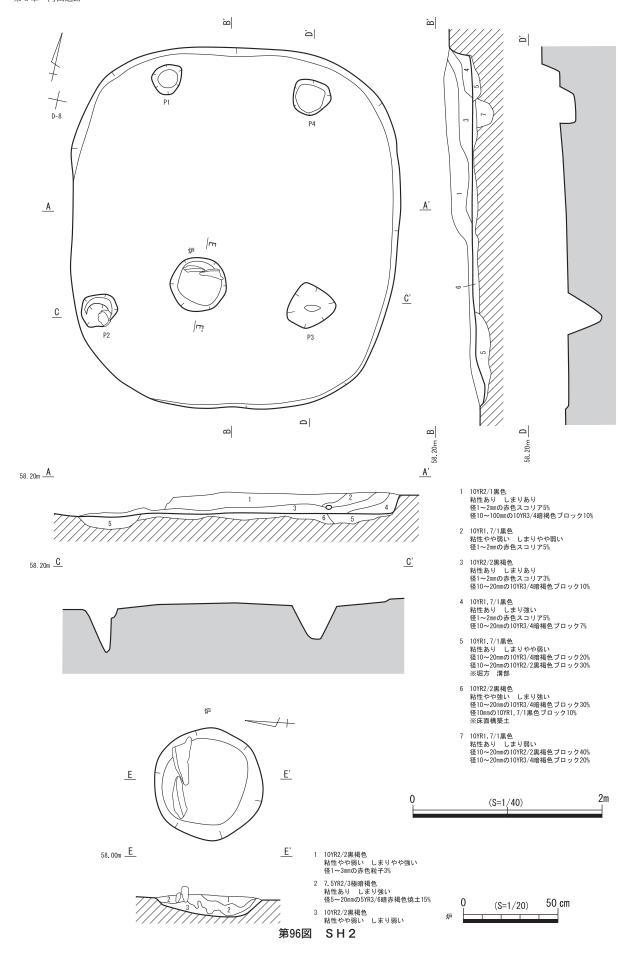
エ SH11 (第98・99図)

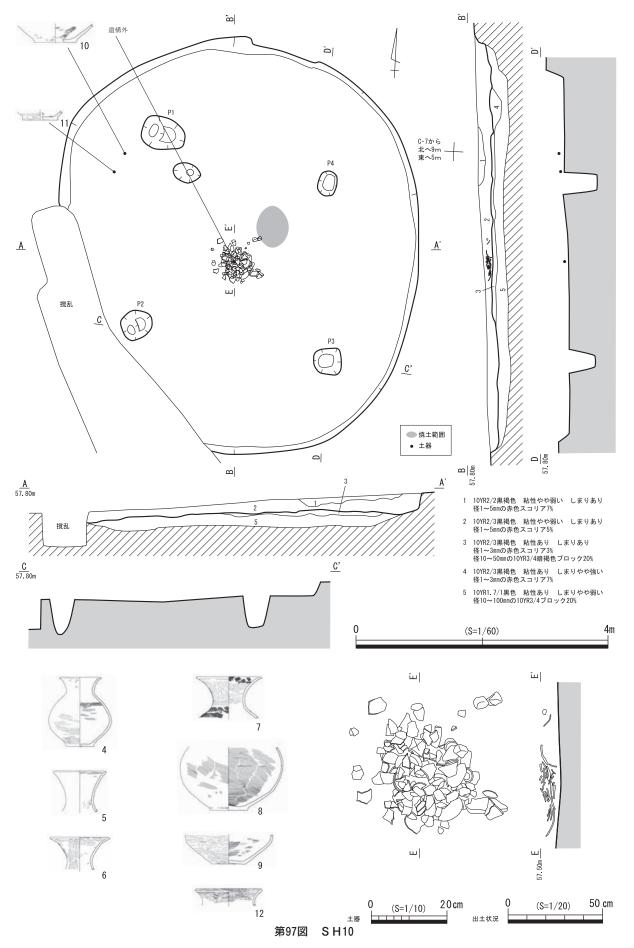
 $E-7 \cdot E-8$ グリッド、調査区中央に位置する。

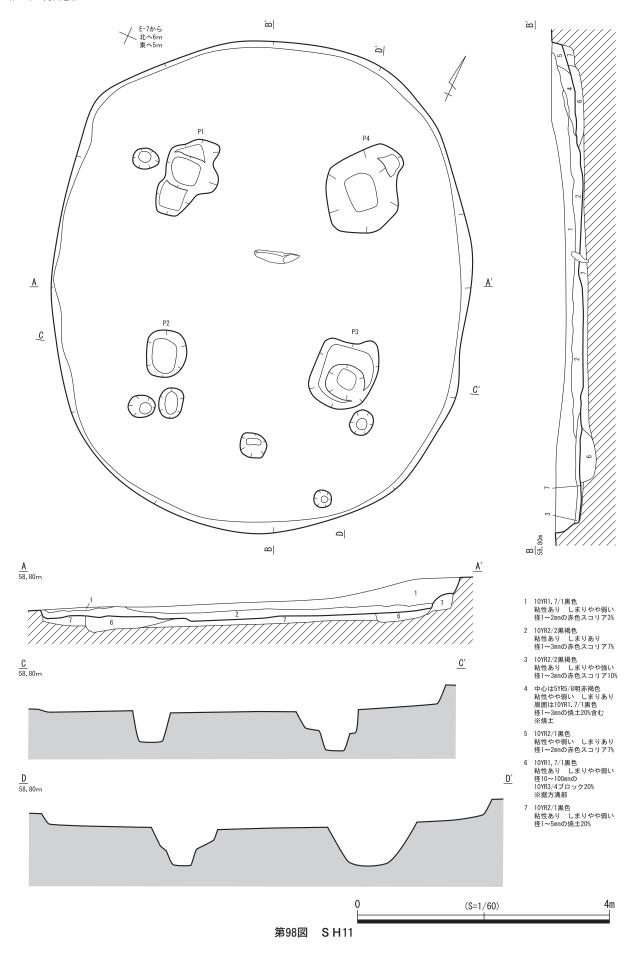
構造 平面形は小判形を呈する。主柱穴は4基検出され、平面形は不整形であるが、隅丸方形に近い。 掘方は円形に掘り込まれ、床面構築土(第6・7層)が充填されていた。厚さは3~25cmを測る。炉は 掘方や焼土は確認されていないが、建物中央の床面直上から炉石と思われる礫が検出されているため、

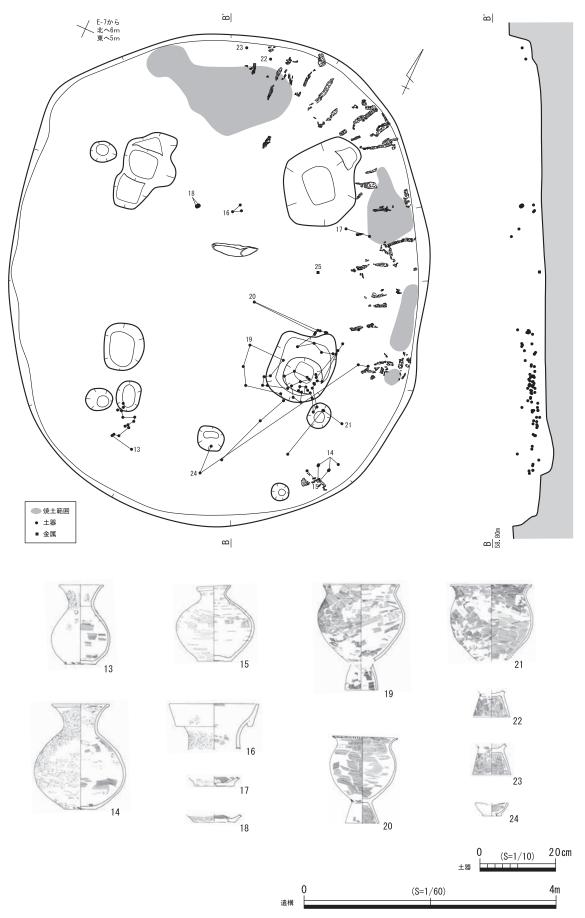


第95図 SH1

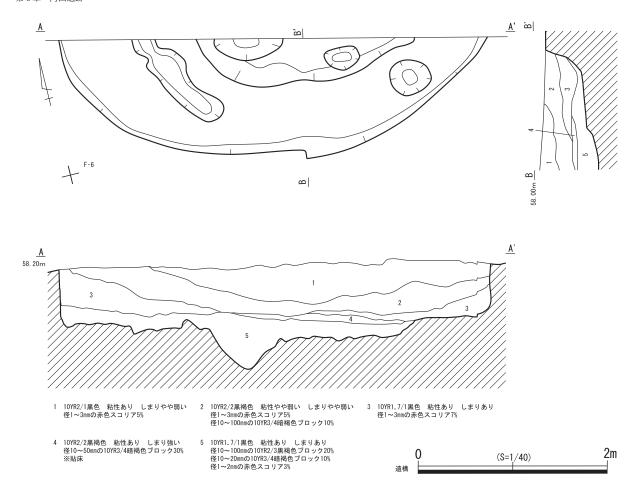








第99図 SH11遺物出土状況



第100図 TA7

本来は存在していた可能性がある。

遺物出土状況 遺物は南東の柱穴 P 3 周辺の床面で土器が集中して出土している。また、炭化材についても南東側で放射線状に散らばって出土している。S H11は出土遺物から古墳時代前期の遺構と考えられる。

(2) 竪穴状遺構 TA7 (第100図・第28表)

 $E-6 \cdot F-6$ グリッド、調査区西側に位置する。遺構の大部分が調査区外であるため、遺構全体の構造がわからない。竪穴建物跡である可能性が高いが、竪穴状遺構として報告する。

TA7内には溝と土坑が掘り込まれているほか、床面構築土とみられる厚さ $6\sim24$ cmほどの堆積(第5層)がみられた。

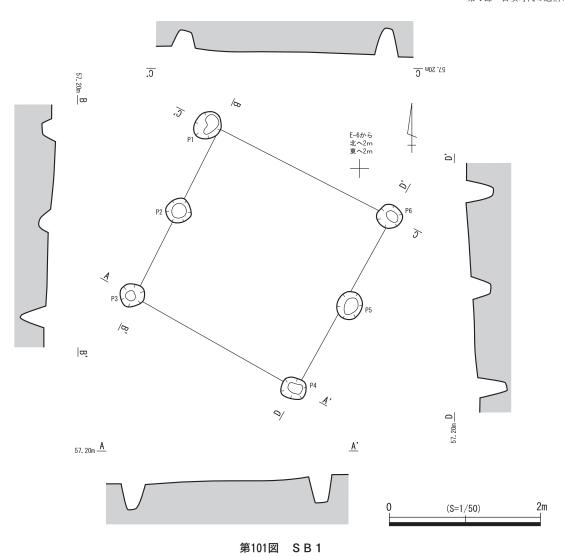
遺物の出土はなく、遺物からの遺構の所属時期を求めることはできないが、覆土の特徴から、竪穴建物と同じく古墳時代前期の遺構である可能性が高い。

(3) 掘立柱建物 SB1 (第101図·第29表)

 $E-5 \cdot E-6 \cdot D-6$ グリッド、調査区北西に位置する。柱間規模は 1×2 間であり、やや不整形な長方形である。桁行2.5m、梁間2.6mを測る。建物を構成する柱穴の平面形は円形をなしており、径 $40\sim45$ cmを測る。覆土の特徴から、竪穴建物の時期と同じく、古墳時代前期の遺構と位置付けることができる可能性が高い。

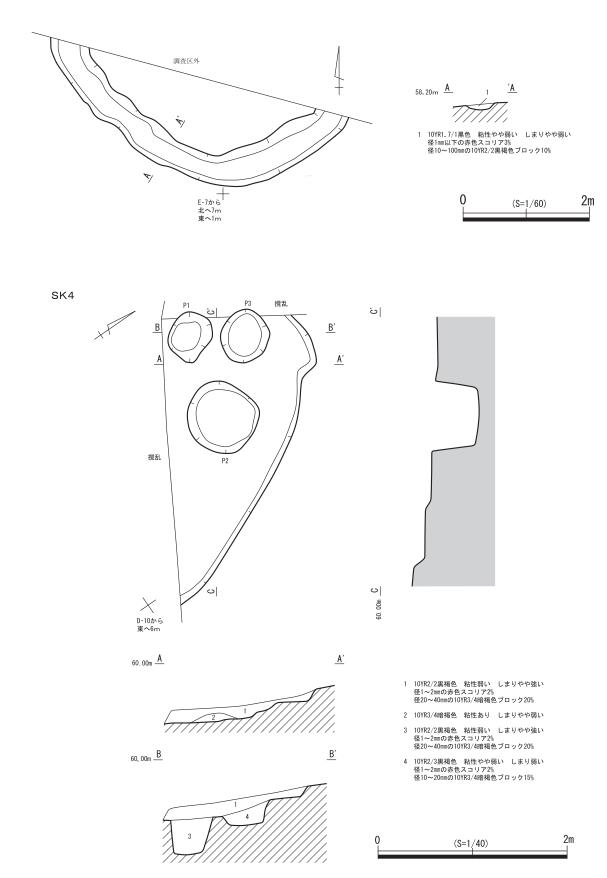
(4) 溝状遺構 SD2 (第102図·第30表)

 $E-6 \cdot E-7$ グリッド、調査区中央西寄りから出土し、遺構の北側は調査区外となっている。全長 3 m 27 cm で平面形は半円状に掘り込まれ、断面は皿状で深さは10 cm である。遺物の出土もなく、遺構の

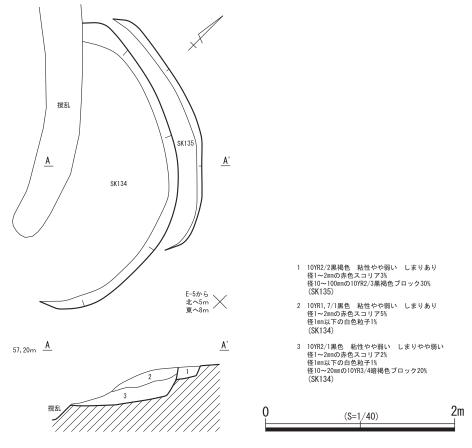


-133-

SD2



第102図 第1遺構面 溝状遺構・土坑



第103図 SK134·SK135

性格も不明である。

覆土の特徴から、竪穴建物の時期と同じく、古墳時代前期の遺構と位置付けることができる可能性が 高い。

(5) 土坑および小穴(第32表)

土坑としたものは10基、小穴としたものは76基である。それぞれ平面形や深さの違いや断面形に違いが認められる。壁面の立ち上がりの急なもの、皿状もの、擂鉢状のものなどを検出した。

ア SK4 (第102図)

D-10グリッド、調査区東側に位置する。撹乱によって大部分が削平されており本来の平面形は不明である。遺構内には50cm ~ 80 cm、深さ $20\sim 50$ cmの土坑が3基掘り込まれている。遺物の出土はない。

イ SK134(第103図)

E-5グリッド、調査区西側に位置する。遺構の大部分が削平を受け、本来の平面形は不明であるが、 半円形の部分が残存している。遺物の出土はない。

ウ SK135 (第103図)

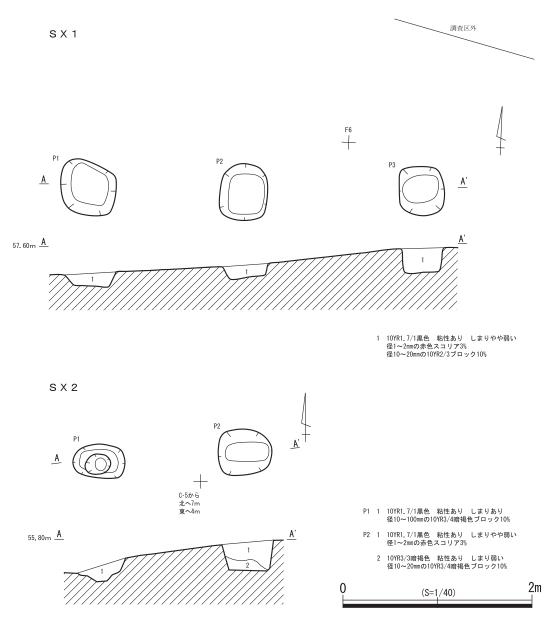
E-5グリッド、調査区西側に位置する。平面形はSK134に切られ不明である。遺物の出土はない。

(6) 性格不明遺構

性格不明遺構としたものは2基である。

ア SX1 (第104図)

 $E-5 \cdot E-6 \cdot F-6$ グリッド、調査区北西側、柱穴とおぼしき小穴の並びが認められた。北側が調査区外であるために積極的に建物跡とできなかったものである。



第104図 性格不明遺構

小穴の平面形は隅丸方形で、断面形はやや急角度に立ち上がっている。P1 は長径60cm、短径44cm、P2 は長径60cm、短径38cmで、ともに深さはおよそ10cmを測る。P3 は長径50cmで正方形に近く、深さは25cmを測る。柱間間隔は $P1\sim P2$ 間では110cm、 $P2\sim P3$ 間では140cmを測る。

イ SX2 (第104図)

C-5 グリッド、調査区南西側に位置する。小穴の並びが認められたものの、積極的に建物跡や柵列とできなかったものである。

P 1 の平面形は長楕円形で P 2 は隅丸方形に近い不整楕円形である。 P 1 は長径50 cm、短径38 cm、深さは22 cm で、断面形は急角度に立ち上がっている。 P 2 は長径54 cm、短径50 cm、深さ32 cm である。 ともに遺構底面の標高は P 1 が55.38 m、 P 2 が55.36 m と近い値を示している。(西田)

2 遺物

(1) SH1出土遺物(第105図2・3・第33表)

3は小型鉢である。平底の底部に直立気味に外傾する体部が付く。

(2) SH10出土遺物(第105図4~12·第33表 図版43)

4と5は単純口縁壺である。4は胴部が丸く、中央部に最大径を有する。頸部は短く、口縁部は外反して開く。5は頸部がやや長く、口縁部は直線的に開く。6と7は最上段の輪積み痕を残して折り返し口縁に見せかけた単純口縁壺である。ともに口縁部は大きく外反して開く。7は外面胴上部と内面口縁部にRLの縄文を施文している。8から11は壺の胴部と底部である。8は胴部が丸く、中央部に最大径を有する。9は胴下部ににぶい稜を持つ。

12は折り返し口縁を有する甕の口縁部である。頸部の屈曲が緩やかで、口縁部の開きは小さい。

(3) S H11出土遺物 (第106図13~第107図25·第33表 図版43·44)

13は単純口縁壺である。胴部は丸いが、張りは小さい。頸部が太く、口縁部は外反して開く。口唇部は磨滅が著しい。14と15は折り返し口縁壺である。14の胴部は丸く、中央部に最大径を有する。口縁部は外反して開く。15の胴部の形状は潰れた球形で、中央部に最大径を有する。頸部から口縁部が極端に細くて短く、口縁部の開きも小さい。16は大型の複合口縁壺である。胎土に白色粒子を多く含む。複合部は幅広の面を意識してわずかに屈折させた口縁部に粘土帯を貼り付けて作出している。

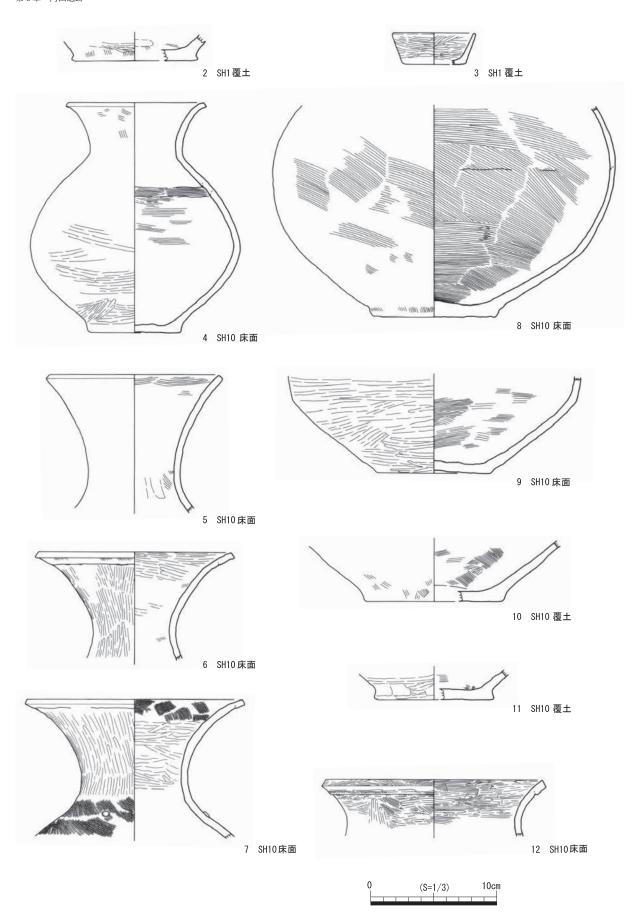
19と20は台付甕である。ともに胴上部に最大径を有し、頸部の屈曲は緩やかである。19は口縁部が直線的に外傾し、口唇部は面取りを施す。脚部は内弯して開く。20は口縁部が大きく外反して開き、口唇部は面取りの後、下端部に刻みを施している。脚部は直線的に開く。21は甕の胴部である。胴上部に最大径を有し、頸部の屈曲は緩やかである。口縁部が大きく外反して開き、口唇部は面取りを施している。22と23は台付甕の脚部である。ともに開きは小さく、直線的である。

24は小型鉢である。平底の底部に直線的に外傾する体部が付く。口縁部は歪みがある。 25は銅鏃である。上下端部が破損し、著しく劣化しているため、形状は不明である。

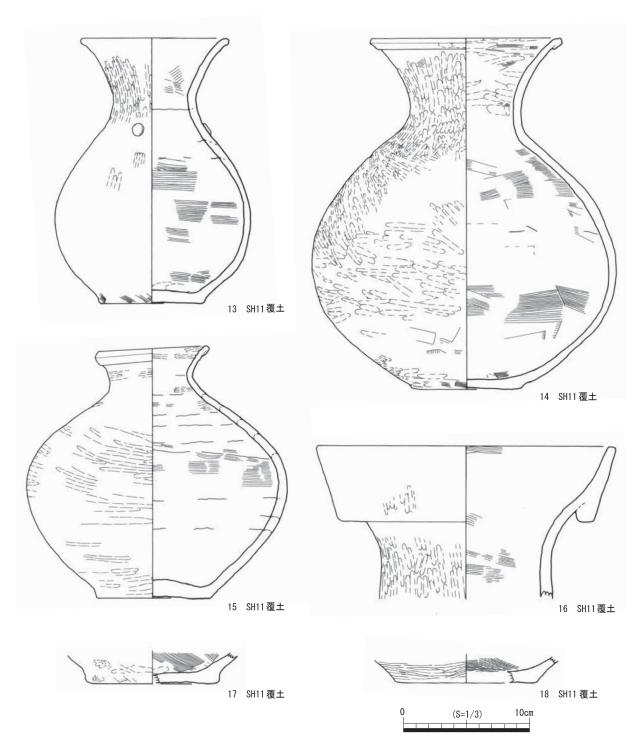
(4) 遺構外出土遺物 (第107図26・27・第32・35表 図版44)

26はコップ形の小型鉢である。外内面ともに指頭による調整が明瞭に残る。

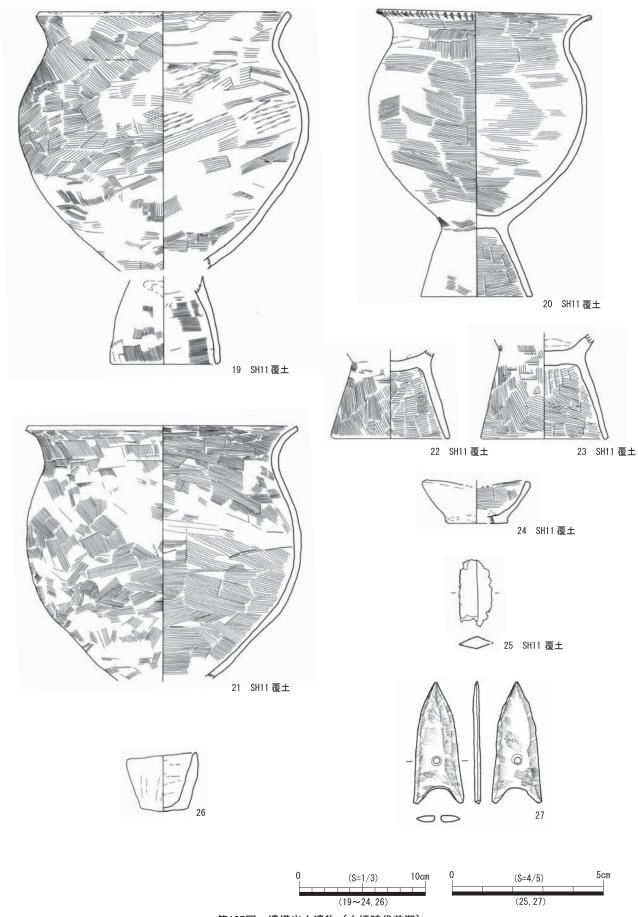
27は有孔磨製石鏃である。石材は珪質頁岩である。鏃身部両面を研磨した後、側縁部を研磨して刃部を作り出している。両面ともに研磨痕が明瞭に観察される。基部には円弧状の抉りを入れている。胴部の下方にある円孔は両面から穿孔している。(岩崎)



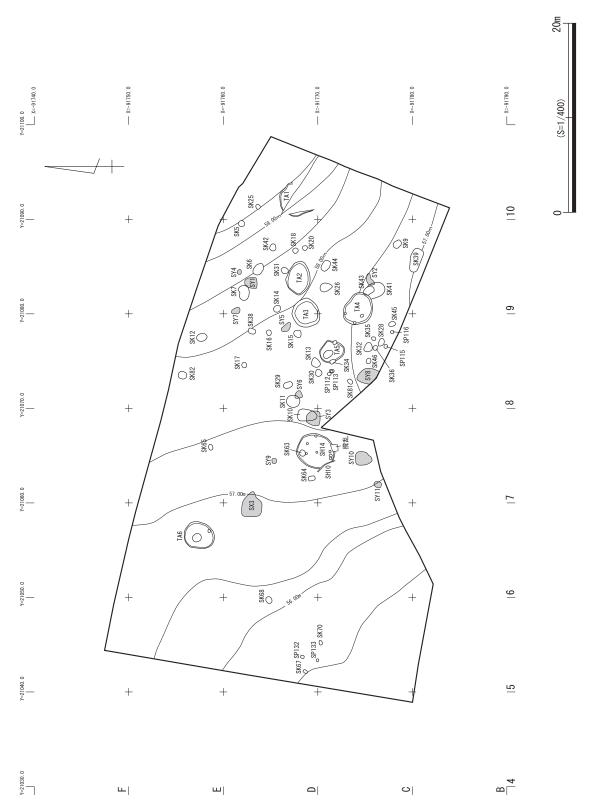
第105図 遺構出土土器(古墳時代前期) 1



第106図 遺構出土土器(古墳時代前期)2



第107図 遺構出土遺物(古墳時代前期)



第5節 縄文時代の遺構と遺物

1 遺 構

縄文時代の遺構は第3遺構面の第5層上面で検出された。検出された遺構の内訳は、竪穴住居跡1軒、 竪穴状遺構6基、集石11基、土坑40基、小穴6基、性格不明遺構1基である。

(1) 竪穴住居跡 SH14 (第109·110図·第27表)

 $C-7 \cdot D-7$ グリッド、調査区中央南側に位置する。

構造 平面形は楕円形を呈している。主柱穴は不明な点があるものの、P5、P6の2基がそれにあたると考えられる。柱穴の平面形は楕円形である。第4層は床面構築土で、掘方は平坦に掘り込まれている。石囲炉は中央のやや北側寄りに設けられており、炉内に炭化物と焼土があった。P4は埋甕である。埋甕 掘方の平面形は不整形な円形で長径34cm、短径30cm、検出面から底面までの深さは20cmである。埋甕は口縁部を欠いた深鉢を正位で埋めている。埋甕の上から長径30cm、短径20cmの扁平な礫が埋甕の掘方から少々ずれた状態で出土した。蓋石の可能性が考えられる。

遺物出土状況 床面直上から、土器片、磨石、台石が出土している。また、東側にはクリの炭化材が出土しており、樹種同定では建築部材の可能性が指摘されている。石囲炉と埋甕があり、出土遺物から中期後葉、曽利式期の竪穴建物であると判断できる。

(2) 竪穴状遺構 (第28表)

竪穴住居跡の可能性があるものの、遺構プランが不整形であるなど、積極的に竪穴住居跡とできない ものを竪穴状遺構として報告する。

ア TA1 (第111図・第28表)

D-10グリッド、調査区北東側に位置する。遺構の上面は削平を受け、さらに撹乱を受けているため、本来の平面形は不明である。周辺の地形は東から西側へ向かって斜面になっていることから、地形に合わせて東側から西側へ向かって掘り込みが深くなっている。コナラ節の炭化材が出土したが、土器などの出土はなかった。

イ TA2 (第112図・第28表)

D-9 グリッド、調査区中央東寄りに位置する。平面形は不整楕円形である。単層の覆土中からは土器片が出土している。土器は前期前葉のII群1類gの関山II式、II群1類eの木島式である。

ウ TA3 (第112図・第28表)

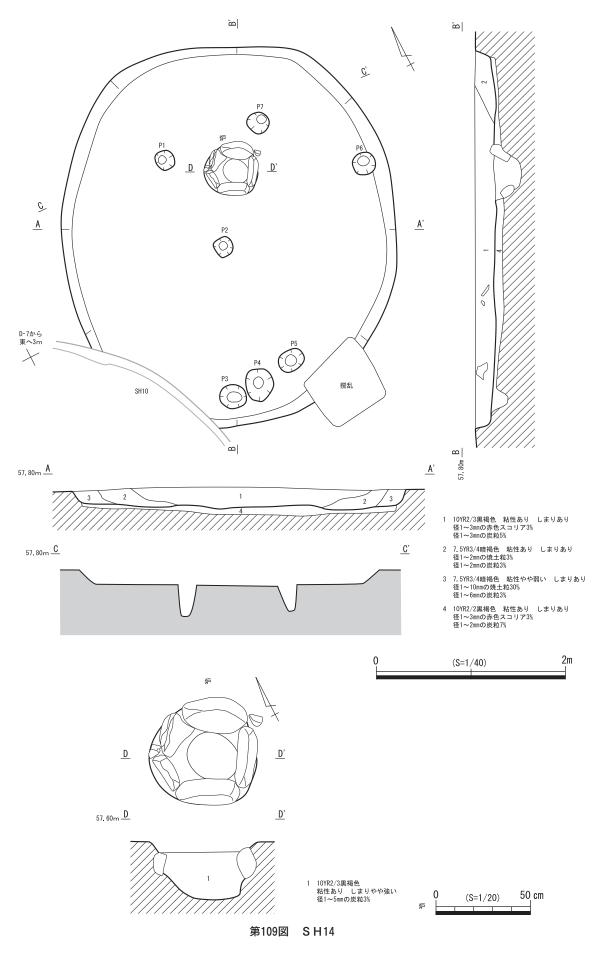
 $D-8 \cdot D-9$ グリッド、調査区中央東寄りに位置する。平面形はやや不整形な円形である。覆土の上面から II 群 1 類 b の土器片、打製石斧、磨石、石皿が出土している。その他、クリの炭化材が出土している。

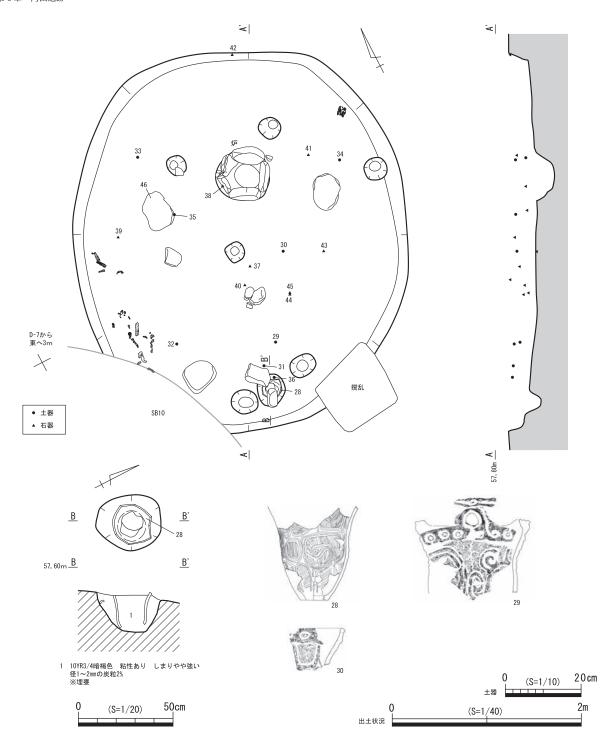
エ TA4 (第113図・第28表)

C-8・C-9グリッド、調査区南東に位置する。平面形は不整形な楕円形である。遺構内からは小穴を3基検出していることから、竪穴建物である可能性がある。絡条体を施す土器と、早期後葉の土器片と、磨石が出土した。出土遺物は流れ込みによるものと考えられ、出土遺物から遺構の時期は特定できない。

オ TA5 (第113図・第28表)

C-8グリッド、調査区中央南側に位置する。竪穴状遺構として報告するが、竪穴建物であった可能性がある。平面形は不整形な楕円形をなしている。遺構の北西寄りに長径1.1m、短径0.7mの土坑が掘り込まれており、炉として機能していた可能性がある。出土遺物は、図示するには至らなかったが、早





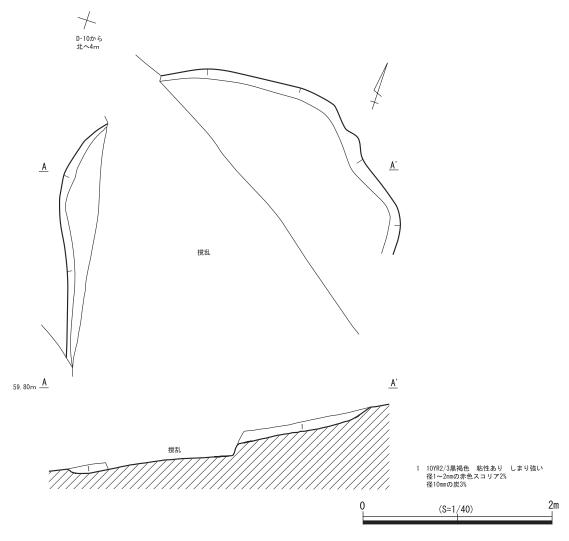
第110図 SH14遺物出土状況

期の撚糸文を施した土器の小片が出土している。流れ込みである可能性があり、遺物から遺構の時期を 特定することはできない。その他クリの炭化材が出土した。

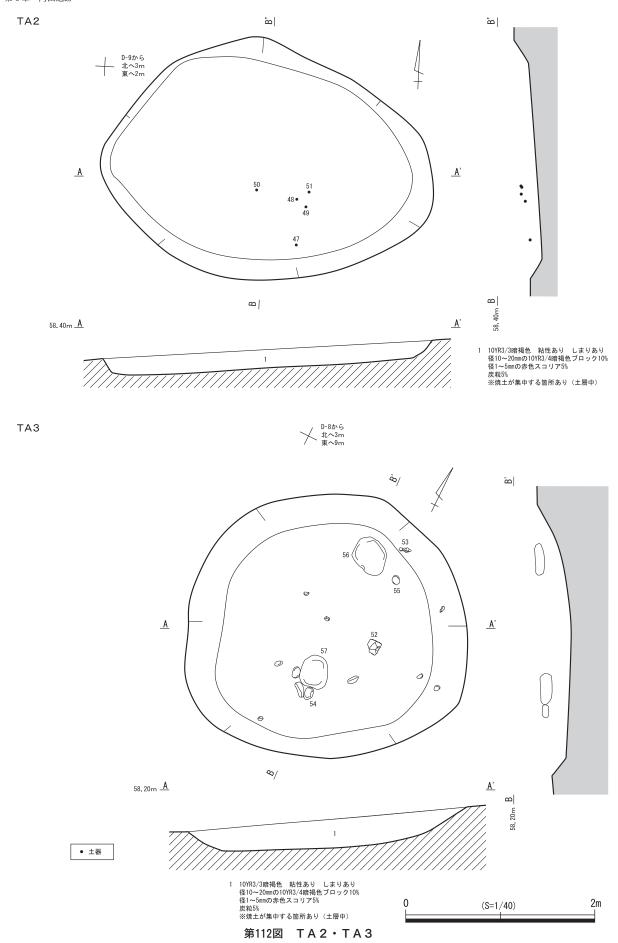
カ TA6 (第114図・第28表)

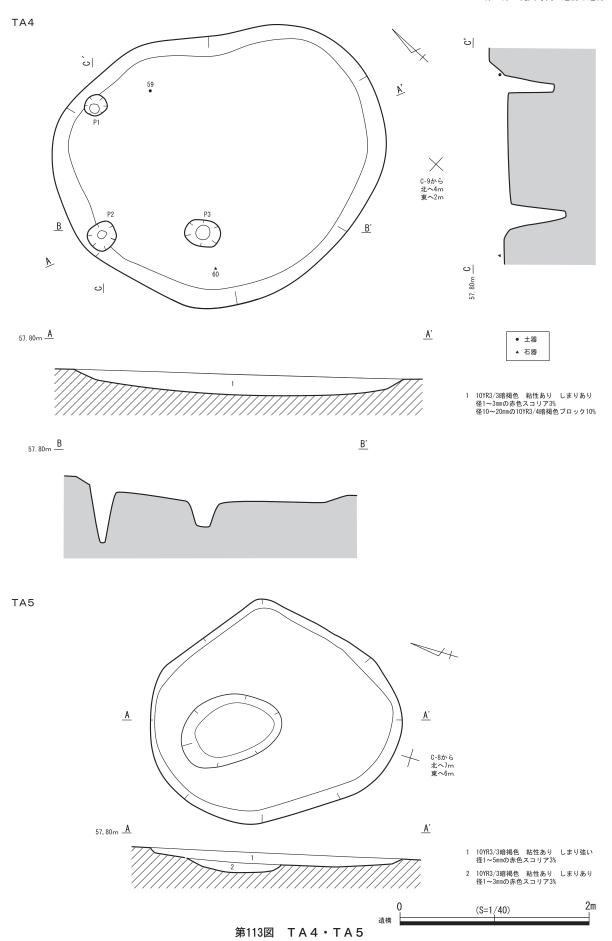
E-6グリッド、調査区北西寄りに位置する。平面形は楕円形を呈する。遺構の中央、やや北西寄りからは、長径 $1\,\mathrm{m}$ 、短径 $0.9\,\mathrm{m}$ の炉が出土している。また、南側からは小穴が検出された。遺構覆土および遺構底面からは II 群 $2\,\mathrm{M}$ c 土器と、石匙、磨石等が出土した。

出土遺物から、TA6は前期後葉の諸磯c式期の遺構である。

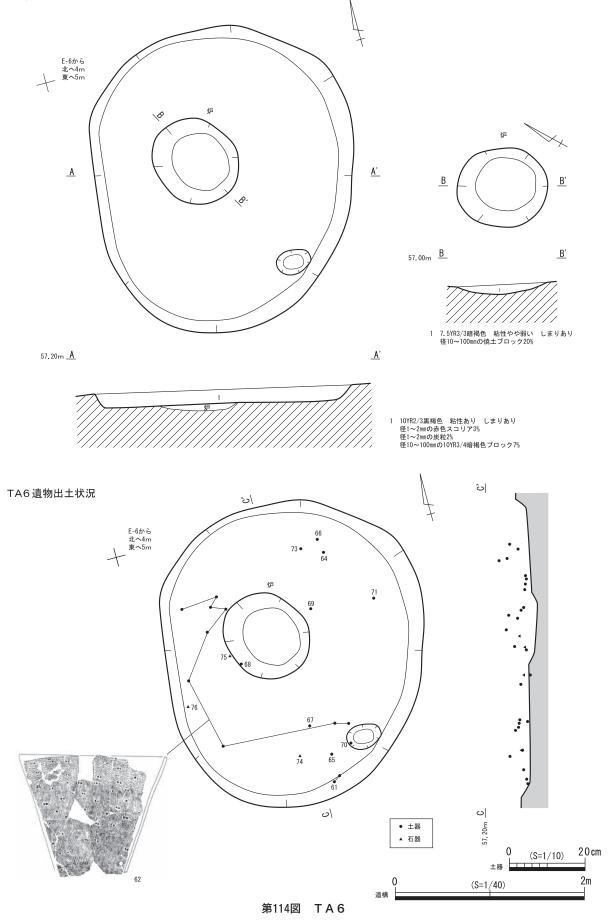


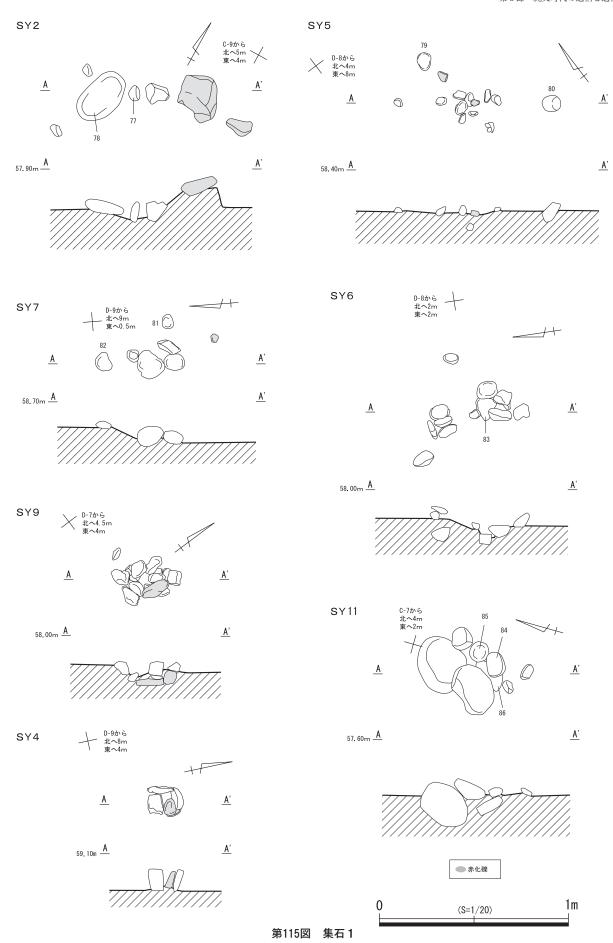
第111図 TA1



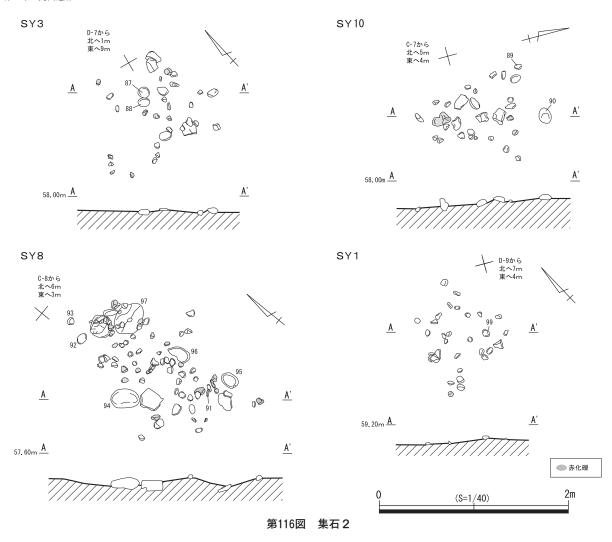


TA6





-149 -



(3) 集石(第115・116図・第31表)

集石は11基検出された。検出面は第6層~第7層の間で、竪穴状遺構の周辺で検出した。全て掘り込みを有さない集石である。第31表の赤化比率の割合からもわかる様に、受熱により赤化した礫の数は少なかった。集石内から出土した礫は5個~72個と様々であり、礫の大きさもそれぞれ異なる。調理施設としてひとくくりにできない用途があったと考えられる。

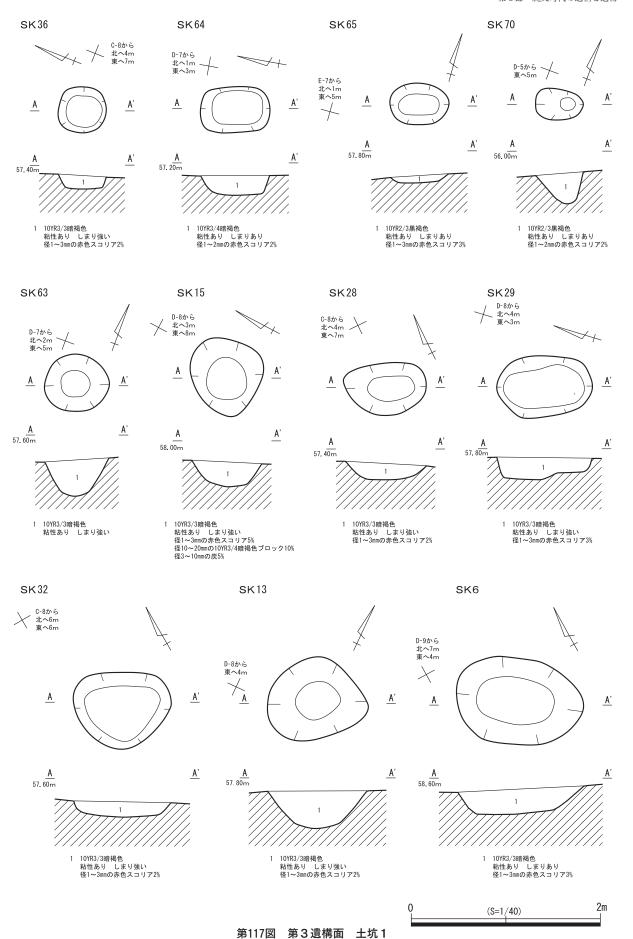
(4) 土坑 (第117・118図・第32表)

土坑とした遺構は40基ある。調査区の中でも東側の緩やかな斜面上に集中している。平面形や深さの違いや断面形に違いが認められる。壁面の立ち上がりの急なもの、皿状、擂鉢状のものなどが存在する。遺物の出土はS K $29 \cdot S$ K $36 \cdot S$ K $13 \cdot S$ K $15 \cdot S$ K $70 \cdot S$ K $28 \cdot S$ K $32 \cdot S$ K $11 \cdot S$ K $10 \cdot S$ K $43 \cdot S$ K 41 で認められた。

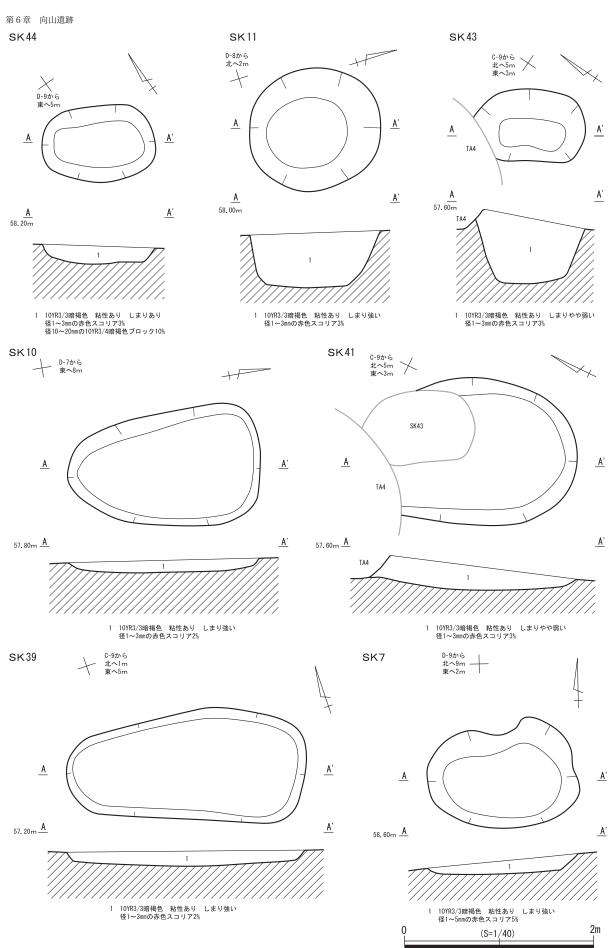
中でも S K 11・ S K 43は掘り込みが深く、断面形は台形状である。 S K 10・ S K 41・ S K 39・ S K 7 は平面形が不整形の土坑で、削平されたのか掘り込みも浅い。比較的大型の土坑であるが、用途は不明である。 S K 41は I 群 2 類 a の土器が出土していることから、早期後葉の粕畑式期の遺構の可能性がある。

(5) 小穴(第32表)

小穴とした遺構は6基ある。調査区の南側と西側で検出した。平面形や深さの違い、断面形に違いが認められる。壁面の立ち上がりの急なもの、皿状もの、擂鉢状のものが認められた。遺物の出土はSP



-151-



第118図 第3遺構面 土坑2

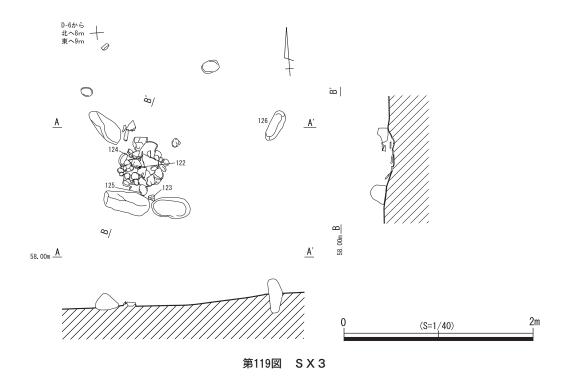
81で認められた。

(6) 性格不明遺構 SX3 (第119図)

D-6・D-7グリッド、調査区中央西寄りに位置する。

礫の並びが検出され若干の遺物が出土した。炭化物や焼土の広がりがなく、周辺からは柱穴等建物の 痕跡も検出できなかった。

遺構は、径2m30cmの範囲に礫が設置されていた。この範囲内からは、石皿・土器が出土した。南側の2点の並べられた礫の脇からはⅢ群3類a土器が出土している。曽利Ⅲ式期の遺構と考えられ、竪穴住居跡の炉部分のみが検出されたか、または独立した屋外炉の可能性が考えられる。(西田)



2 遺物

(1) 遺構出土遺物 (第36・38表)

ア S H14出土遺物 (第120図28~第122図46 図版44・45)

28は埋甕に使用されたIII群 3 類 a の深鉢である。低い隆帯と半截竹管状工具で渦巻、楕円、逆U字状の区画をつくり、中に半截竹管状工具で沈線を縦位と斜位に付けている。29から34はIII群 3 類 a の土器である。29は口唇部に沈線で渦巻文を施し、口縁に環状把手を付け、沈線で楕円形の区画を作り、中に棒状工具で刺突を付ける。胴部は渦巻文で縦位に区画し、中に半截竹管状工具で縦波状垂下沈線と斜位の沈線を付けている。30と31はいずれも隆帯で区画を作り、中に半截竹管状工具で沈線を付けている。32から34はいずれも隆帯と半截竹管状工具による沈線で渦巻文を施し、中に半截竹管状工具で沈線を縦位に付けている。35は曽利式の中でも特殊な器形を持つものである。口唇部は半截竹管状工具の沈線を楕円形に付けている。36はIII群 3 類 e の土器である。外面は口縁に沿って波状文を付け、下にLの撚糸文を施し、半截竹管状工具で沈線を弧状に付けている。

37から39は石鏃である。37と38は II A 2類である。37は側縁を鋸歯状に加工している。38は基部に逆 U字状の抉りを入れている。39は II B 1 類である。側縁を鋸歯状に加工している。40は横型の石匙である。ほぼ左右対称で、両側縁に両面から平坦剥離を加えてつまみを作り出している。刃部も両面から平坦剥離を加えている。41はスクレイパーである。板状剥片の表裏両面を打ち欠いて楕円形の製品を作り出している。42と43は打製石斧である。42はIV類で、刃部が弧状をなす。楕円形の礫の表皮付き剥片の形状を生かして作り出している。43は II 類で、刃部が直線的である。44は断面がレンズ状になる乳棒状磨製石斧である。刃部を欠損している。基部は尖り、打痕が見られる。45は I 類の磨石である。46は II 類の石皿である。

イ TA2出土遺物 (第122図47~51 図版44)

47と48はⅡ群1類gの土器である。ともに胎土に繊維を含み、LRの縄文を施文している。47は口縁 部直下にLRの原体端部を回転施文している。49から51は地文沈線のⅡ群1類eの土器である。

ウ TA3出土遺物 (第123図52~57 図版44・45)

52は木島Ⅷ式でⅡ群1類 b の土器である。口縁部と胴部の境に指頭の摘み痕を付け、地文に沈線が施されている。器面には外内面ともに指頭痕が付いている。

53は打製石斧である。刃部の先端が尖る矢印形の形状を呈する。54は I 類、55は II 類の磨石である。56と57は I 類の石皿である。

エ TA4出土遺物 (第124図58~60 図版44)

58は I 群 1 類 g の土器である。口縁に沿って絡条体を横位に付けている。59は前期末の土器である。60は I 類の磨石である。

オ TA6出土遺物(第124図61~76 図版44・45)

出土した土器はすべて諸磯 c 式で II 群 2 類 c に分類される。61は波状口縁に沿って結節浮線文を付け、半截竹管状工具による綾杉状の沈線と円形貼付文を施してから結節浮線文を付ける。胴部は縦矢羽根状の沈線を施し、円形貼付文を付けている。62は平縁の深鉢である。口縁部に沿って半截竹管状工具で結節浮線文を付ける。胴上部は地文に綾杉状の集合沈線を施してから縦位の結節浮線文を付けて方形の区画を作り出している。胴下部は縦綾杉状、底部付近は横位の集合沈線を付けている。器面に 1 個または2 個 1 単位の円形貼付文を付けている。63から65は綾杉状、66は横位の半截竹管状工具による集合沈線を付けている。67は斜格子状の集合沈線を付けて、一部に菱形文を作っている。68は胴部の括れの位置に当たり、半截竹管状工具で結節浮線文を横位に付けている。69は半截竹管状工具で横位と斜位の集合沈線を付け、さらに斜位の結節浮線文を施している。70から72は底部である。70は半截竹管状工具で斜

位の集合沈線を付け、円形貼付文を付けている。71と72はともに横位の集合沈線を付けている。73は有 孔無文浅鉢である。

74と75は横型の石匙である。74は小型で、石材は赤玉石である。ほぼ左右対称で、平坦剥離を加えてつまみを作り出している。刃部も両面から剥離を加えている。75の石材はチャートである。つまみの位置がやや右に片寄る。つまみは左側が両面に、右側は表面に平坦剥離を加えて作り出している。刃部は表面に急角度の剥離を加えて作り出している。76は I 類の磨石である。

カ SY2出土遺物(第125図77・78)

77は I 類の磨石である。78は I 類の石皿である。

キ SY5出土遺物(第125図79・80)

79は I 類の磨石である。80は V 類の敲石である。

ク SY7出土遺物(第125図81・82)

81と82は I 類の磨石である。

ケ SY6出土遺物 (第125図83)

83はⅡ類の石皿である。小型の製品である。

コ SY11出土遺物(第125図84~86)

84は I 類の磨石である。85はV 類の敲石である。断面形が半球形の礫を用い、礫全体に敲打痕が見られる。86は II 類の石皿である。小型の製品である。

サ SY3出土遺物 (第126図87・88)

87は I 類の磨石である。88はIV類の磨敲石である。側縁に強い敲打による欠損が見られる。

シ S Y10出土遺物 (第126図89・90)

89は I 類の磨石である。90は I 類の石皿である。小型の製品である。

ス SY8出土遺物(第126図91~第127図98)

91と92は I 類の磨石である。93はIV類の磨敲石である。94から98は I 類の石皿である。96は磨面が凹み、その他の石皿は平坦な磨面を持つ。

セ SY1出土遺物(第127図99)

99は I 類の磨石である。

ソ S K 29出土遺物 (第127図100)

100は I 類の磨石である。

タ SK36出土遺物 (第127図101~103 図版44)

いずれも I 群 2 類 I の土器である。101は竹管状工具で刻みを横位に付けている。

チ SK13出土遺物(第127図104)

104はⅡ群1類 e の木島式土器であり指頭痕と擦痕が施されている。

ツ S K 15出土土器 (第127図105 図版44)

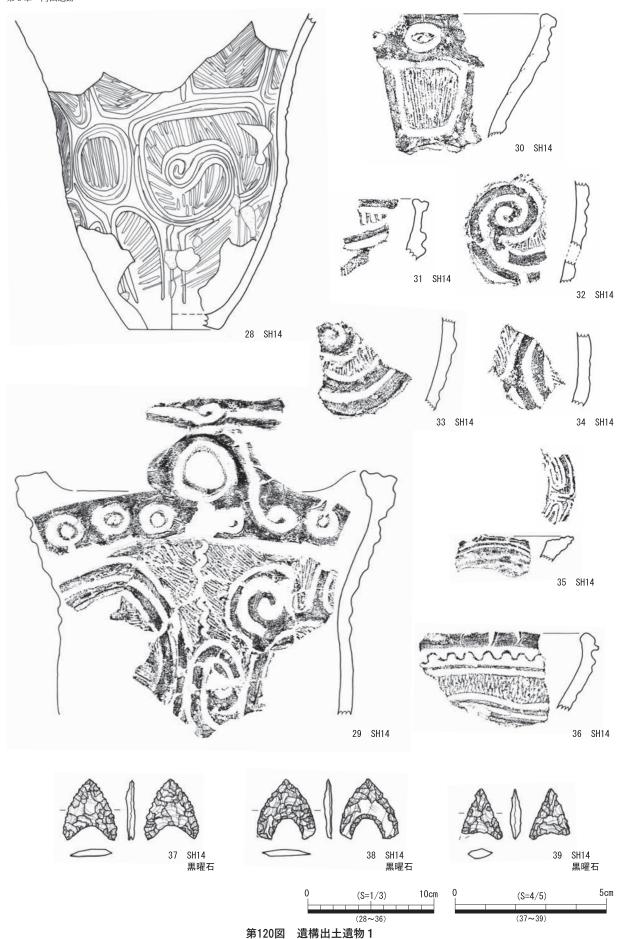
105は入海II式の土器である。口唇部に棒状工具で刻みを付ける。波状の口縁に沿って粘土紐を貼り付け、粘土紐上に棒状工具で斜位の刻みを施している。

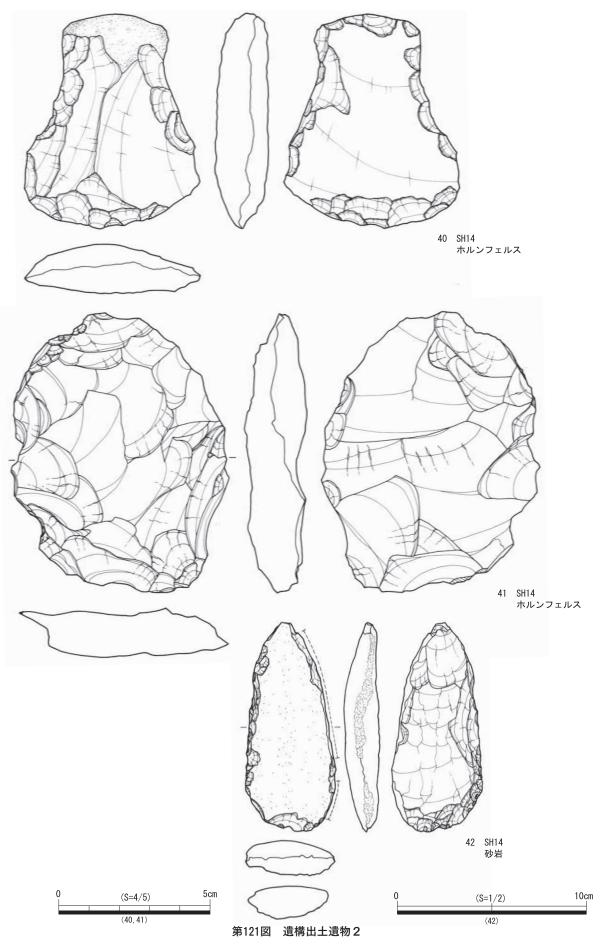
テ SK70出土遺物(第127図106・107 図版44)

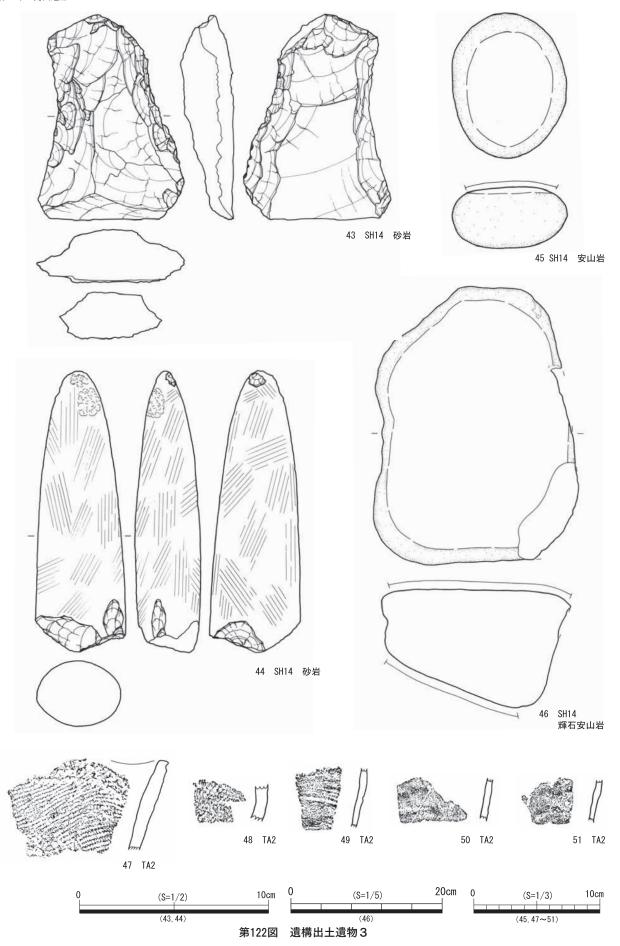
ともにⅢ群1類aの五領ヶ台式土器である。107はRLの縄文を付け、半截竹管状工具で密接蒲鉾平行 沈線を斜位に施している。

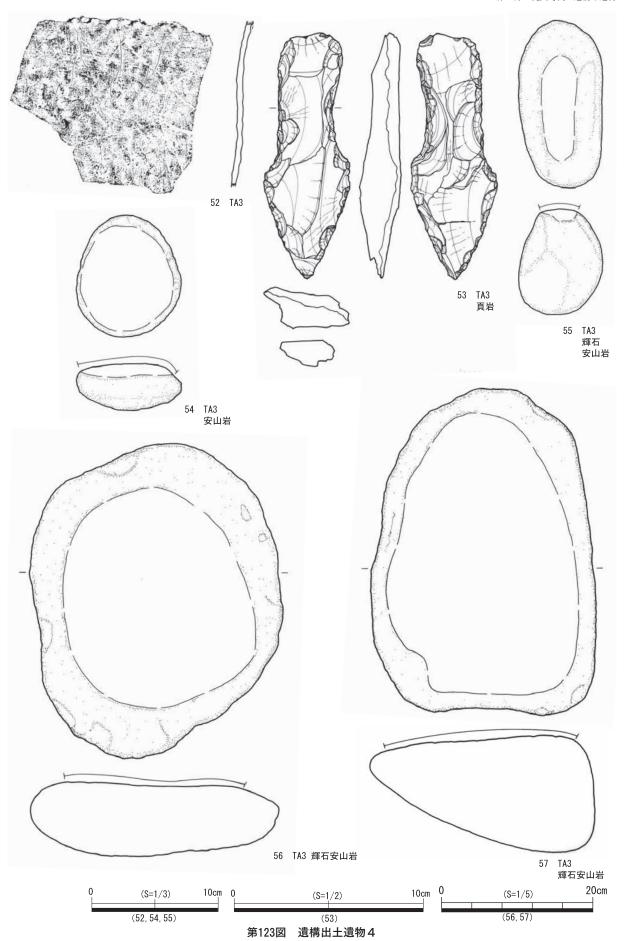
ト SK28出土遺物(第127図108)

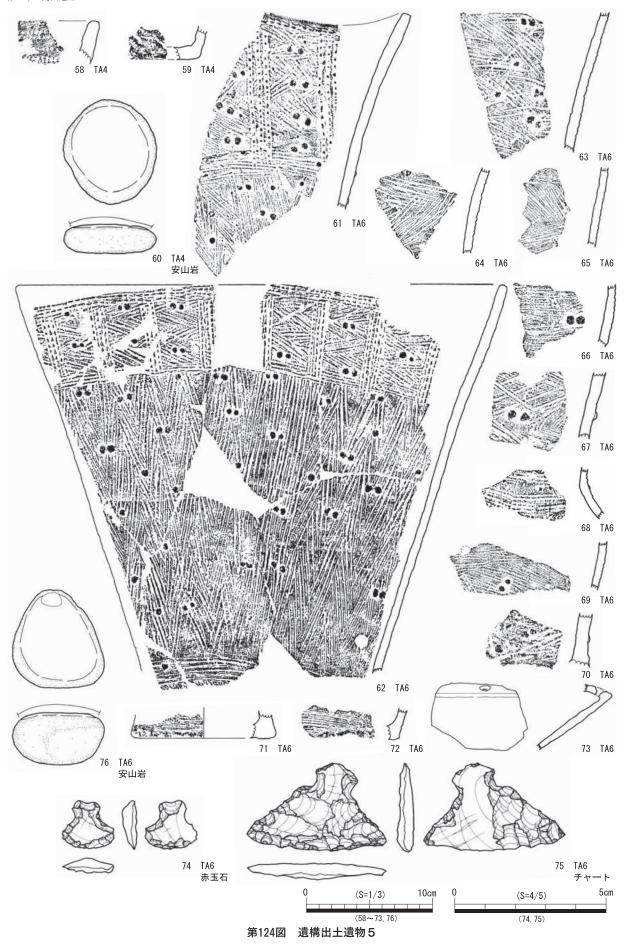
108はⅡ群1類 e の土器である。表面に擦痕が横位に付いている。

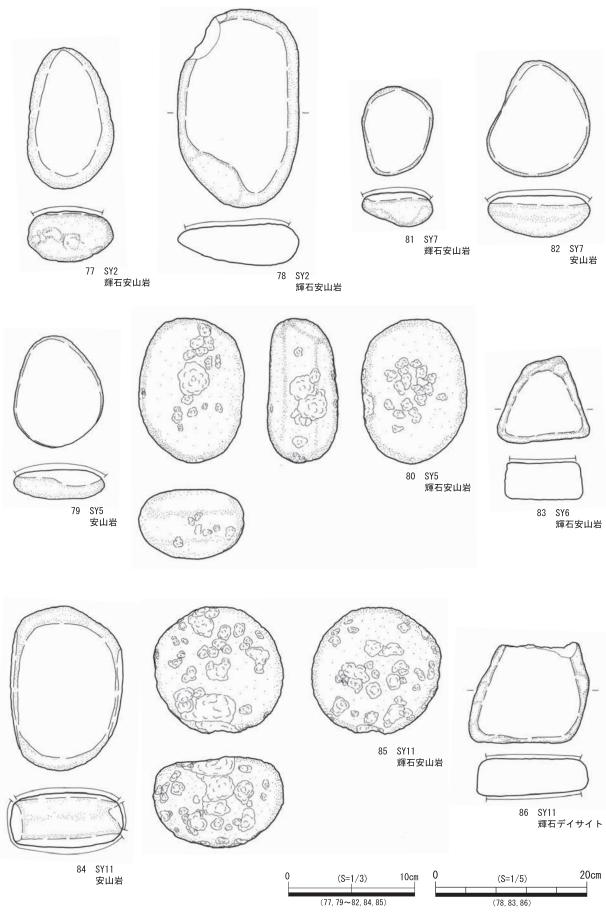




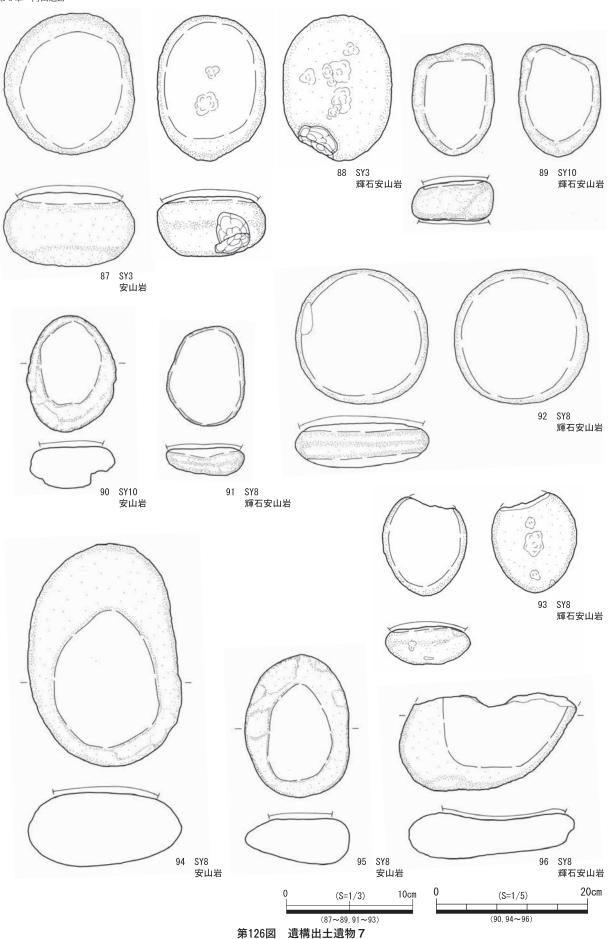


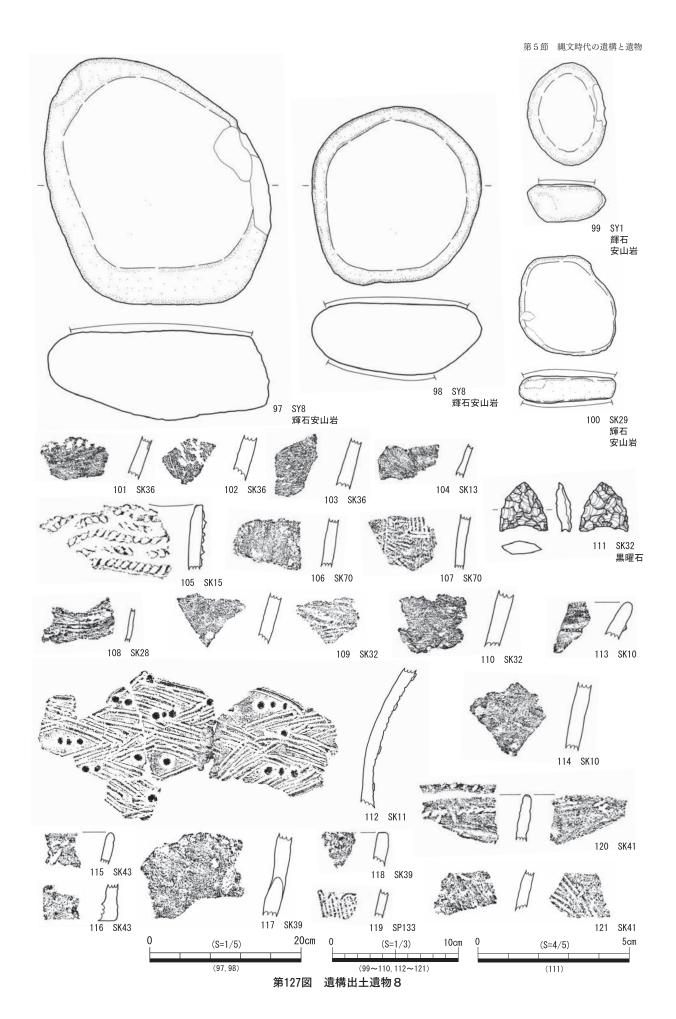


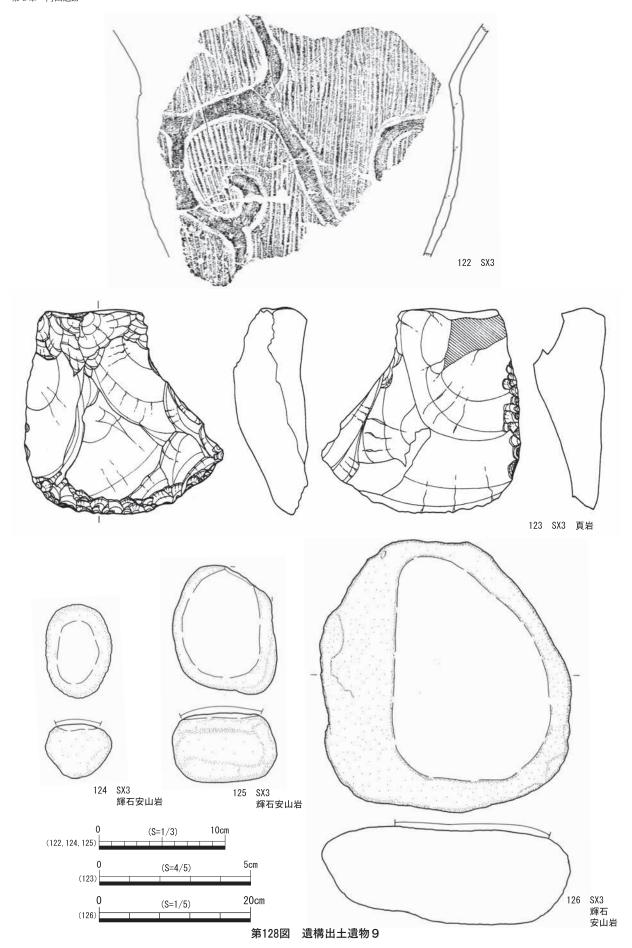




第125図 遺構出土遺物 6







ナ SK32出土遺物(第127図109~111 図版45)

109と110はともに I 群 2 類 I の土器である。109は内面に条痕が付いている。

111は II A 2 類の石鏃である。基部の抉りが浅い。

二 SK11出土遺物(第127図112 図版44)

Ⅱ群2類cの土器である。半截竹管状工具による集合沈線で菱形文を施す。円形貼付文を3個1単位で菱形の区画内に付けている。

ヌ SK10出土遺物(第127図113・114 図版44)

ともに I 群 1 類 g の土器である。113は口縁に沿って粘土紐を横位に貼り付け、粘土紐上に刻みを付けている。

ネ SK43出土遺物 (第127図115・116 図版44)

ともにⅡ群2類gの土器である。115は口縁部に沿って斜位の刻みを2段付けている。

ノ SK39出土遺物(第127図117・118 図版44)

ともに I 群 2 類 1 の土器である。118は口唇部直下から絡条体圧痕文を斜位に付けている。

ハ SK41出土遺物(第127図120・121 図版44)

ともに粕畑式で、I群2類aの土器である。120は口縁に沿って棒状工具で刻みを付けている。口唇部も同一原体で刻みを付けている。121は内面に条痕が付いている。

ヒ S P133出土遺物 (第127図119 図版44)

Ⅲ群1類aの土器である。粘土紐をY字状に貼り付け、粘土紐上に半截竹管状工具で密接蒲鉾状平行 沈線を斜位に施し、ヘラ状工具で浅い沈線を交差するように付けている。

フ SX3出土遺物 (第128図122~126 図版44・45)

122はⅢ群3類aの土器である。口縁下部から胴部に低い隆帯を渦巻状に付けて区画を作り、中に半截竹管状工具で平行沈線を縦位と斜位に施している。

123はスクレイパーである。左側縁は裏面から、下部は表面から剥離を加えて刃部を作り出している。 124と125は I 類の磨石である。126は II 類の石皿である。(岩崎)

(2) 包含層出土土器 (第36表)

I 群 1 類 a (第129図127~134 図版46)

127は口唇部から約2cm下にRの撚糸文を縦位に付けている。形状、胎土から見て若宮型の土器で「軽しょう」な胎土(註)である。

128から134も若宮型の深鉢である。128は口唇部から約2cm下にRの撚糸文を縦位に回転施文している。129から134もRの撚糸文を縦位に付けている。

Ⅰ群1類c (第129図135~159 図版46)

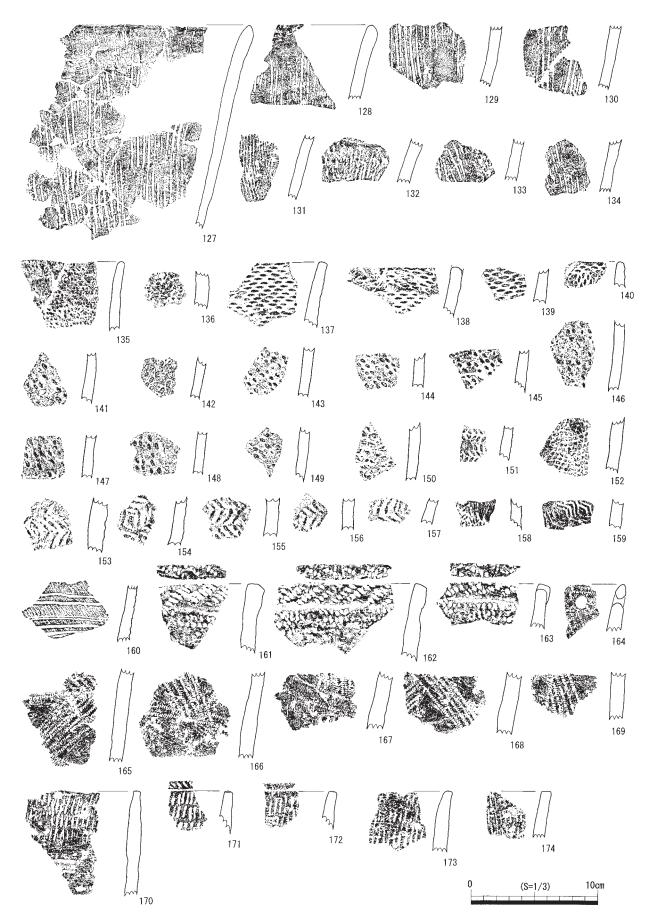
本型式の土器はいずれも細久保式に併行するものである。

135から152は楕円押型文を施文した一群である。135と136の施文は浅く、小さな粒の押型文を付けている。135は直立する口縁部、136は底部付近の破片である。137から139は細長い押型文を付けている。140は口縁部直下に押型文を横位に付け、下に同じ原体で押型文を縦位に付けている。141は押型文を斜位に付けている。142から150の施文は浅く、押型文を縦位や斜位に付けている。151は山形風、152は格子目に近い形状の楕円押型文を付けている。

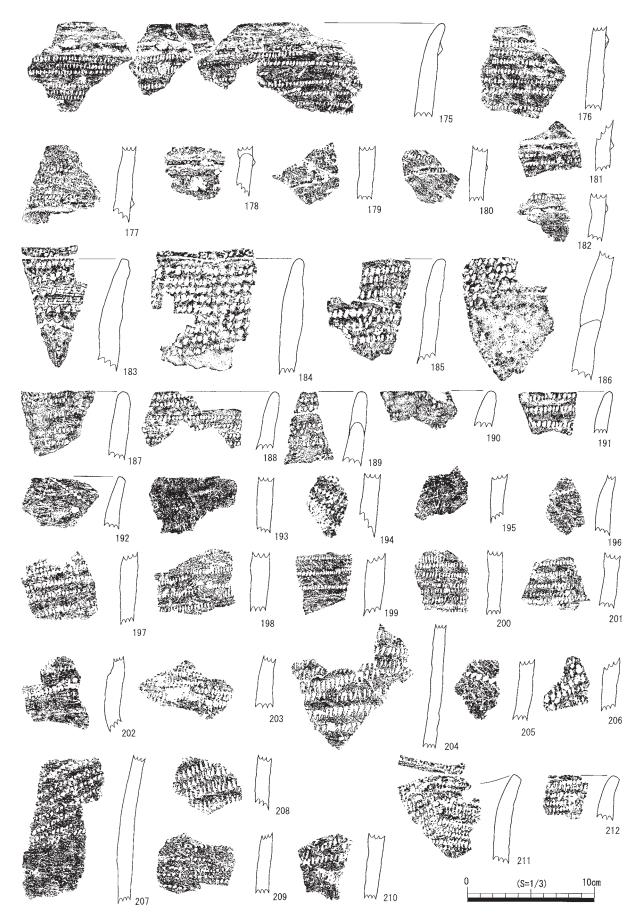
153から159は山形押型文を施文した一群である。153から157は縦位、158、159は斜位に施文していると思われる。

I 群 1 類 d (第129図160)

地文に沈線を斜位に付け、半截竹管状工具で太い横位沈線を施している。



第129図 包含層出土土器 1



第130図 包含層出土土器 2

I 群 1 類 e (第129図161~169 図版46)

いずれの土器も胎土に繊維と約2~5 mm大の白色粒子を含む。161から163は有段口縁を持つ一群である。口唇部に絡条体圧痕文を斜位に付ける。有段部に161と163は1、162は r の絡条体圧痕文を斜位に施し、段の下に161と162は横位、163は横位と斜位の絡条体圧痕文を付けている。164から169は細かい絡条体圧痕文を付けた一群である。164は r の絡条体圧痕文を横位と斜格子状に付けている。165から169は同一個体の可能性がある。1 の絡条体圧痕文を斜位に付けている。

Ⅰ群1類f (第129図170~174 図版46)

形状や胎土が子母口式に似るが、口縁部の施文方法が異なるものを本類とした。

170から174は口縁に沿って長さ 1 cm程度の絡条体圧痕文を縦位に付けた一群である。170は r の絡条体圧痕文を 3 段付けている。171は口唇部も l 、172は r の絡条体圧痕文を斜位に付けている。173と174は r の絡条体圧痕文を付けている。

I群1類g(第130図175~212 図版46)

175から182は微隆起線を横位に施し、粘土紐上と体部に絡条体圧痕文を横位と斜位に付けた一群である。いずれの土器も胎土に繊維と約2~5mm大の白色粒子を含む。175は口縁に沿って断面三角形の粘土 紐を貼り付け、粘土紐上に1の絡条体圧痕文を施している。微隆起線の下は同一原体で絡条体圧痕文を横位と斜位に付けている。175と177と181は1、180と182はrの絡条体圧痕文を付けている。

183から186は胎土に繊維を含み、胴上部に長さ約6 mm、幅が太めの1の絡条体圧痕文を横位と斜位に付けた一群である。183と184は口唇部にも絡条体圧痕文を付けている。183は絡条体の軸が梯子状に付いている。

187から191は短く細い 1 の絡条体圧痕文を付けた一群である。190は太さ約0.5mmの絡条体圧痕文を横位と斜位に付けている。187、188、189、191は太さ約1 mmの絡条体圧痕文を横位に付けている。

192から196は絡条体の軸の片面が圧痕される一群である。192は口唇部直下に1の絡条体圧痕文を山形に付けている。193と195は非常に細い絡条体圧痕文を横位に付けている。194は1の絡条体圧痕文を斜位に付けている。196は絡条体圧痕文を横位と斜位に付けている。

197から203は短く細い絡条体圧痕文を横位に付けた一群である。197、198、200、201は r、199、202、203は l の絡条体圧痕文を付けている。

204から206は太い 1 の絡条体圧痕文を付けている一群である。204は横位、205と206は斜位に絡条体圧痕文を付けている。207から210は絡条体圧痕文を斜位や横位に付ける一群である。207、209、210は r、208は 1 の絡条体圧痕文を付けている。

211と212は絡条体圧痕文を密に付けている。211は波状口縁を有する。口唇部に絡条体圧痕文を施し、口縁部の形状に沿って同一原体の絡条体圧痕文を付けている。212は平縁で、1の絡条体圧痕文を横位に付けている。

I群1類h (第131図213)

半截竹管状工具で縦矢羽根状に沈線を施し、竹管状工具で円形刺突文を付けている。

I群2類a (第131図214~232 図版47)

粕畑式土器で、214は平縁で表面に擦痕を施し、竹管状工具で刻みを横位と斜位に付けている。215から218は波状口縁を有し、胎土に繊維を含む。外内面ともに条痕を付け、口唇部に竹管状工具で両面から刻みを施し、胴上部に爪状の刻目文を横位に付けている。219は平縁で口唇部に竹管状工具で刻みを施し、外面の口縁部に同一原体の刻目文を横位に付けている。

220から222は波状口縁に付けた突起である。いずれも胎土に繊維を含んでいる。220の突起は魚尾状の 形状を呈する。突起の角に爪状または竹管状工具で刻みを付け、外面に爪状の刻目文を施している。221 と222の突起は楕円形を呈し、中央が凹む。221は地文に条痕を施し、竹管状工具で爪状の刻目文を横位に付けている。222は突起の角に竹管状工具で刻みを付け、口唇部に貝殻で刻みを施す。内面は口縁に沿って連続刺突文状の貝殻腹縁文を横位に付けている。

223と224は平縁で、口唇部と外面口縁部に竹管状工具で刻目文を横位に付けている。

225から232は胎土に繊維を含む。外内面に条痕を施し、竹管状工具で横位と斜位の刻目文を付けている。

I群2類b (第131図233~第132図259 図版47)

入海 I・II 式土器で、233から238は薄手で、口縁部の形状に沿って粘土紐を貼り付け、粘土紐上に刻みを施した一群である。233は波状口縁を有し、口唇部と粘土紐上に棒状工具で刻みを付けている。234 は平縁で、口唇部に刻みを付け、粘土紐上に半截竹管状工具で刻みを施している。235から237は粘土紐上に棒状工具で刻みを付けている。238は粘土紐上にヘラ状工具で浅い刻みを付けている。

239から245は胎土が精緻で、外面に微隆起状の粘土紐を横位に貼り付け、粘土紐上に棒状工具で刻みを施した一群である。239は口唇部に半截竹管状工具で沈線を斜位に付けている。

246から250は、施文方法が233から238に似るが、器壁がやや厚い一群である。246は波状口縁を有し、口唇部に棒状工具で刻みを付け、外面は口縁に沿って粘土紐を一部断続的に貼り付け、粘土紐上に同一工具で刻みを施している。247と248は平縁で、口唇部を指でつまんでいる。外面の施文方法は233とほぼ同じである。

251から255は胎土に繊維を含み、低い粘土紐上に貝殻で刻みを施した一群である。251は波状口縁を有する。口唇部に貝殻で刻みを付け、外面は低い粘土紐を横位に貼り付け、粘土紐上に貝殻で刻みを施している。口唇部と粘土紐の間の区画内は竹管状工具で刻目文を横位に付けている。252は弧状の粘土紐を断続的に貼り付けている。254と255は入海II式の土器である。254は波状口縁を有する。口唇部に刻みを付け、粘土紐を弧状に貼り付ける。口唇部と粘土紐の間の区画内は竹管状工具で刻目文を横位に施している。255は幅広の粘土紐を貼り付けている。

256は胴上部に半截竹管状工具で刺突文を横位に付けている。257から259は胴部に擦痕が付いている。

I群2類c (第132図260~267 図版47)

入海Ⅰ・Ⅱ式併行の土器で、いずれも厚手で胎土に繊維を含んでいる。

260から263は口唇部直下に貝殻腹縁文を付けた一群である。260は入海 I 式併行と考えられる。口唇部に貝殻腹縁文を付け、外面口唇部直下に貝殻腹縁文を斜位に付け、下に条痕を横位に付けている。内面も条痕を横位に付けている。261から263は入海 II 式併行と考えられる。261は貝殻腹縁文を斜位に付けている。262は口唇部に貝殻腹縁文を付け、外面口唇部直下に貝殻腹縁文を斜位に付けている。263は貝殻腹縁文を斜位に付けている。

264から267は口唇部直下に平坦な幅広の粘土紐を横位に貼り付けた一群である。264は粘土紐上に貝殻腹縁文を斜位に付けている。265と266は粘土紐上に貝殻腹縁文を斜位にずらしながら付けている。267は貝殻状工具と指頭で圧痕を横位に付けている。

I 群 2 類 d (第132図268・269 図版47)

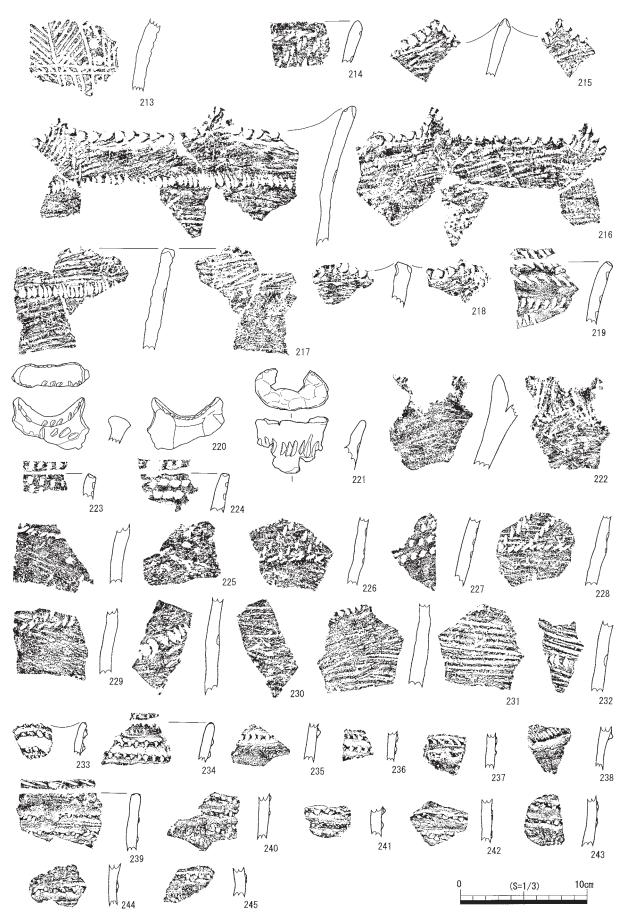
石山式土器で、268は口縁部に沿って木端状工具で刻目文を横位に付けている。269は竹管状工具で刻目文を菱形に付けている。

I群2類e (第132図270~272 図版48)

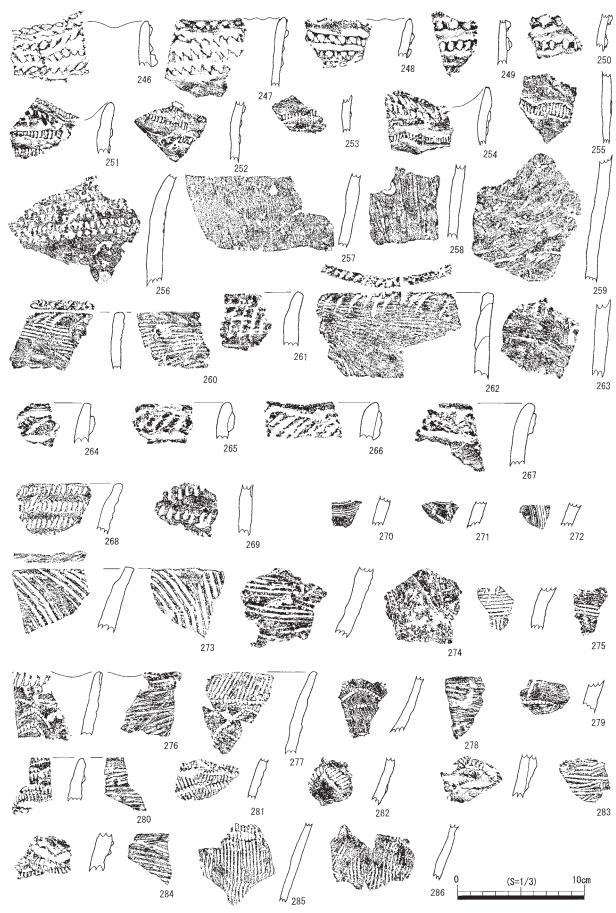
いずれも櫛歯状工具で沈線を弧状に付けている天神山式土器である。

I 群 2 類 f (第132図273~275 図版48)

273は平縁で口唇部、外内面ともに条痕を斜位に付けている。274は外面に条痕を斜位に付け、内面は



第131図 包含層出土土器3



第132図 包含層出土土器 4

擦痕を斜位に施している。275は外面に条痕を横位と縦位に付け、内面も条痕を斜位に施している。

I群2類g (第132図276~286 図版48)

打越式で、276から279は貝殻腹縁文を付けた一群である。276は波状口縁を有し、口唇部直下に沈線を 斜位に施している。外面胴上部に貝殻腹縁文を横位と鋸歯状に付け、内面は条痕を斜位に施している。 277は平縁で口唇部に条痕を付けている。胴上部に貝殻腹縁文を横位と菱形に施している。278は外面に 貝殻腹縁文を鋸歯状に施し、内面は条痕を横位に付けている。

280から285は原体を引きずって貝殻腹縁文を付けた一群である。280は平縁で、口唇部に貝殻圧痕を付けている。外面には貝殻腹縁文を密に施している。内面も条痕を横位に付けている。281は地文に条痕を斜位に付け、貝殻腹縁文を地文と交差するように施している。282から284は貝殻腹縁文を鋸歯状に付けている。283と284は内面に条痕を横位に施している。285と286は条痕を縦位に付けている。

I群2類h (第133図287~291 図版48)

287と288は神之木台 I 式、289から291は神之木台 II 式である。287は波状口縁を有し、口縁に沿って粘土紐を貼り付け、粘土紐上と口唇部に刻みを施している。外面は竹管状工具で沈線を格子状に付けている。288は平縁で外面に高めの粘土紐を弧状に貼り付け、粘土紐上に刻みを施している。289も平縁である。口唇部に刻みを付け、外面に断面三角形の粘土紐を横位に貼り付け、ヘラ状工具で刻みを施している。290と291は外面に断面三角形の粘土紐を横位に貼り付け、粘土紐上に刻みを施している。

I 群 2 類 i (第133図292 図版48)

木島Ⅱ式で、口縁部に低い粘土紐を横位と波状に貼り付け、粘土紐上に貝殻で刻みを施している。

Ⅰ群2類k (第133図293~298)

293から295は平縁である。293は口唇部に刻みを付ける。297と298は内面に条痕を施している。

Ⅱ群1類a (第133図299~302 図版48)

下吉井式で、299は平縁で、外面に断面三角形の粘土紐を横位に貼り付け、粘土紐上にヘラ状工具で刻みを施している。300も平縁である。口唇部に棒状工具で刻みを施し、外面に断面三角形の粘土紐を貼り付け、粘土紐上に刻みを施している。内面には条痕が見られる。301、302は外面に櫛歯状工具で沈線を弧状と横位に付けている。301は内面に条痕が見られる。

Ⅱ群1類b (第133図303~307 図版48)

いずれも器壁が薄く、口縁部と胴部の境に摘み痕を横位に施し、内面には指頭痕が付いている。303は緩やかな波状口縁を有し、口縁部がやや弯曲しており、口縁部と胴部の境に摘み痕を横位に施している。器面全体に指頭痕が付いている。304は上に、305から307は下に地文の沈線を斜位に付ける。

Ⅱ群1類c (第133図308~311 図版48)

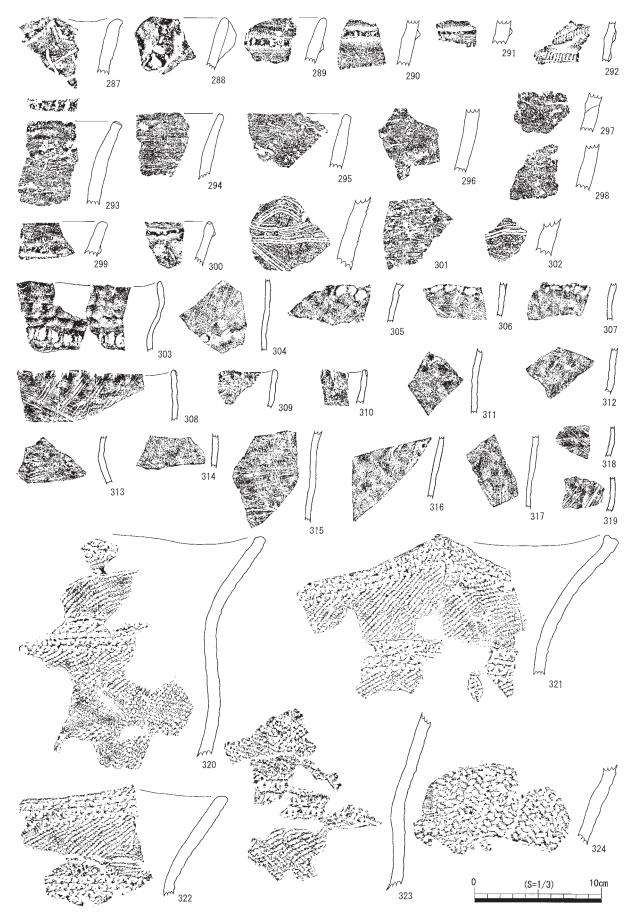
木島IX式で、いずれも器壁が薄く、内面に指頭痕が付いている。308から310は緩やかな波状口縁を有する。308は口唇部に爪状の刻みを付け、胴部は櫛歯状工具で斜格子状に沈線を施している。309と310は口唇部に爪状の刻みを付けている。

Ⅱ群1類d (第133図312~319 図版48)

いずれも器壁が薄く、内面に指頭痕が付いている。312は外面に細線を斜位に施している。315は横位の調整痕が付き、細線を斜位に施している。318と319は櫛歯状工具で沈線を斜位に付けている。

II類1群g(第133図320~第134図330 図版49)

関山II式で、320から323は胴上部が開き、波状口縁を有し、器面全体に縄文を付け、口縁部と胴上部のくびれの位置に縄文原体のループを2~4段回転施文している一群である。320と321は器面全体にLRの縄文を付け、口唇部直下と胴上部のくびれの位置に0段多条のLRの縄文原体のループを回転施文している。322は口唇部直下と胴上部のくびれの位置にLRの縄文原体のループを回転施文している。323



第133図 包含層出土土器5



第134図 包含層出土土器 6

は器面全体に羽状縄文を付け、胴上部のくびれの位置にLRの縄文原体のループを回転施文している。 324は多条縄文の組紐を回転施文している。

325から330は地文に正反の合の縄文を付け、半截竹管状工具で沈線を施した一群である。325は平縁で、地文に正反の合の縄文を付け、口縁に沿って半截竹管状工具で沈線を施し、下に同一工具による沈線で三角形と菱形の区画を作っている。326は地文に正反の合の羽状縄文を付けている。328は沈線の一部に同一工具による爪形の刺突を付けている。

Ⅱ類1群i (第134図331~352 図版49)

上の坊式で、331から337は口縁部に竹管状工具で刻目文を付けた一群である。331は緩やかな波状口縁を有する。外面は斜位の擦痕が付き、口縁に沿って半截竹管状工具で刻目文を2段付けている。3段目は同一工具で部分的に浅い刻目文を付けている。332から337は平縁である。332から334、337は竹管状工具で、335は木端状工具で、336は半截竹管状工具の刻目文を横位に施している。

338は半截竹管状工具で浅い爪形を押引しながら横位に付けている。339と340は平縁で、先端が2つに割れた竹管状工具で刻目文を横位に3段付けている。

341から345は幅約1cmの工具で刻目文を付ける一群である。341と344は平縁で、口縁に沿って木端状工具で刻目文を付ける。342は外面の口縁部と胴上部の境に段を有し、段の直上に木端状工具で刻目文を付けている。343は平縁で口縁部に沿って楔状工具で刻目文を横位に付け、口縁部と胴部の境にも同一工具で刻目文を横位に施し、内面には横位の擦痕が付いている。

346から352は幅1cmを超える工具で刻目文を付けている一群である。346、349、350は平縁で、口縁部に沿って幅の違う2つの木端状工具を組み合わせて刻目文を付けている。いずれも内面には横位の擦痕が付いている。347は平縁で、口縁に沿って木端状工具で矢羽根状の刻目文を付けている。351は爪状の刻目文を施している。348は平縁で、口縁に沿って刻目文を2段付けている。352は木端状工具で刻目文を横位に付けている。

Ⅱ群1類k (第134図353 図版48)

釈迦堂Z式で、LRの縄文とRLの縄文で羽状縄文を付けており、補修孔を施している。

Ⅱ類2群a (第135図354~364 図版50)

354から357は地文にRLの縄文を施し、ヘラ状工具で浅い斜位の刻みを付け、浮線文を弧状に貼り付けている。358は浮線文を梯子状に貼り付け、下にはヘラ状工具で浅い斜位の刻みを施した浮線文を横位に貼り付け、円形刺突を施している。359から362は地文にRLの縄文を施し、半截竹管状工具で沈線を横位に付けている。363は地文に上部はL、下部はRLの縄文を施し、沈線を横位に付けている。

II 群 2 類 b (第135図365~373 図版50)

北陸系の蜆ヶ森式に似た土器を本類とした。いずれも外面に横位または斜位の擦痕が付いている。

II群2類c (第135図374~第140図430 図版50~52)

諸磯 c 式で、374は緩やかな波状口縁を有する。器面全体に半截竹管状工具で沈線を横位と斜位に重ねて施し、口縁部にボタン状の貼付文を 2 個付けている。

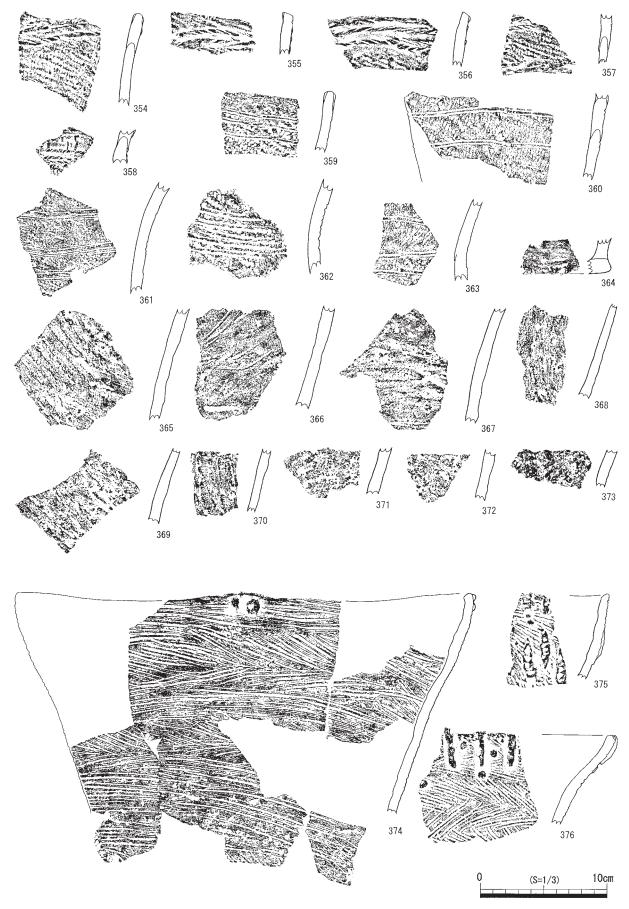
375から385は地文に半截竹管状工具で斜位の集合沈線を施し、両端を尖らせた棒状の粘土紐を縦位に貼り付け、粘土紐上に刻みを施している一群である。375はゆるやかな波状口縁を有し、口唇部から棒状の粘土紐を貼り付けている。376、377、379、380は平縁で、胴上部が外弯気味に大きく開く。いずれも口唇部に棒状の粘土紐を貼り付けている。376、379、380は口唇部直下に半截竹管状工具で爪形文を施し、地文に同一工具で横矢羽根状の集合沈線を付け、棒状の粘土紐とともに円形貼付文を施している。

386から405は地文に半截竹管状工具で集合沈線を付け、単独または2個1対の円形貼付文を施している一群である。器面全体に綾杉状の集合沈線を付けるものが主体であるが、胴中央部から下部の集合沈

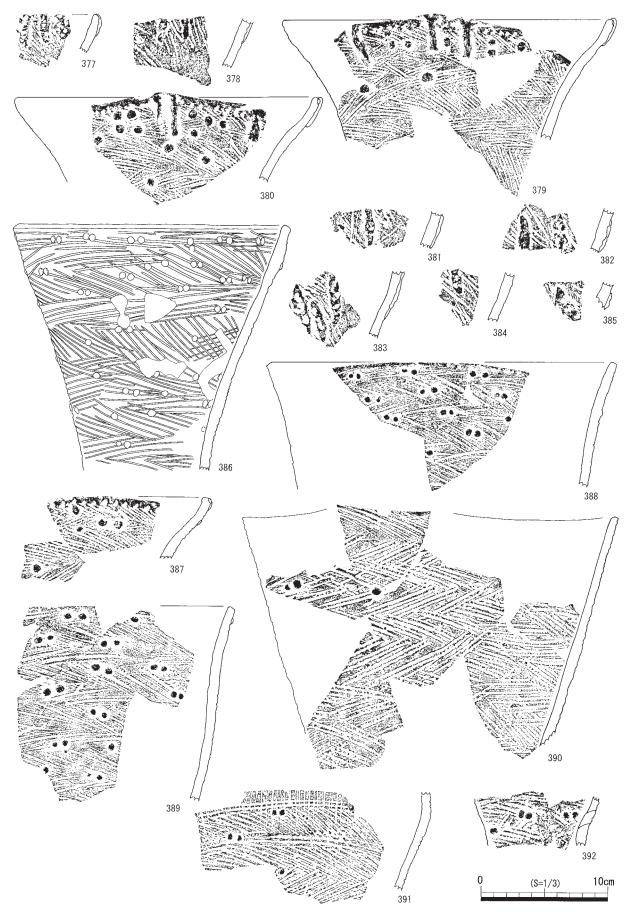
線が縦位と縦矢羽根状になるもの、底部付近の集合沈線が横位となるものも見られる。386は平縁で胴下部から口縁部にかけて直線的に開く。口唇部直下に横位の集合沈線を付け、器面全体に綾杉状沈線を施し、円形貼付文を付けている。387は平縁で胴上部が外弯気味に大きく開く。口唇部に沿って半截竹管状工具で爪形文を付け、地文に同一工具で横矢羽根状の集合沈線を施し、円形貼付文を付けている。388と389は平縁で、胴部がわずかに膨らみ、口縁部の開きは小さい。390は緩やかな波状口縁を有し、円形貼付文は胴上部のみ見られる。391は胴部が膨らみ、この位置を境に、胴上部は半截竹管状工具で横位の区画を作り、中に沈線を縦位に施し、同一工具で沈線を斜位に付けている。胴下部は横矢羽根状の集合沈線を施している。393は平縁で口縁部が直線的にわずかに開く。集合沈線を細かく付けている。394は縦位の集合沈線で区画した中に、同一工具による縦矢羽根状の集合沈線を付けて菱形や流線形の無文部を残している。395は胴上部が内側に屈曲し、この屈曲を境に、胴上部は斜位、胴下部は縦位と縦矢羽根状の集合沈線を施している。396は胴上部を横位の集合沈線で区画し、中に鋸歯状の集合沈線を付け、縦位の結節浮線文を施している。胴下部は縦位と縦矢羽根状の集合沈線を付けている。

406から421は器面全体に半截竹管状工具で結節浮線文を付けている一群である。406から412は4単位 の大波状口縁を有する。406は口縁部に沿って細い粘土紐を貼り付け、粘土紐上に結節浮線文を施してい る。胴中央部に横位の結節浮線文を付け、上半部は左右対称の渦巻状の結節沈線文を施している。下半 部は縦位、縦矢羽根状、弧状の結節浮線文を付けている。407と408は結節浮線文を左右対称の渦巻状に 付けている。409はまばらな結節浮線文を左右対称の渦巻状に付けている。410は口縁部が外傾し、内面 に稜を有する。口縁部と胴部の境に無文帯を有し、無文帯から上は渦状または弧状に結節浮線文を付け ている。無文帯から下は左右対称の渦巻状の結節浮線文を付けている。411は口縁部に沿って結節浮線文 を施し、地文に斜位の沈線を付けてから、流線形と左右対称の渦巻状の結節浮線文を重ねている。412も 411と類似した施文を施している。413は横位の集合沈線を付け、上下に左右対称の渦巻状の集合沈線を 付けている。414は口唇部に結節浮線文を付けている。地文に半截竹管状工具で斜位の沈線を付け、波頂 部に棒状貼付文を垂下し、棒状貼付文全体に結節浮線文を付けている。415と416は鋸歯状、弧状の結節 浮線文を付け、菱形や三日月形の無文部を残している。417は破片の上部は渦巻状の結節浮線文、中央部 は横位と弧状の結節浮線文、下部は縦矢羽根状の沈線を付けている。418は立ち上がりが大きく内側に屈 曲する底部である。結節浮線文を流線形や弧状に付けている。419は小形の底部であり、結節浮線文を横 位、斜位、弧状に付けている。420は地文に横位の集合沈線を付け、その上に粘土紐をV字形の入れ子 状、流線形に貼り付け、粘土紐上に結節浮線文を施している。421は平縁の深鉢であり、地文に横位の集 合沈線を付け、その上に粘土紐を横位、流線形、左右対称の渦巻状に貼り付け、粘土紐上に結節浮線文 を施している。422は胴上部に半截竹管状工具で横位の線2本を施し、下段の線の直下に粘土紐を貼り付 けて区画を作る。中に綾杉状の集合沈線を地文として施し、粘土紐を菱形、弧状に貼り付け、粘土紐上 に結節浮線文を施している。菱形の中には同じ技法で縦位の結節浮線文を付けている。胴中央部から下 部は縦位の集合沈線で区画し、中に流線形の集合沈線を付けている。423から425は大波状口縁を有し、 口縁部を折り返しており、口唇部に角状の突起が付く。口縁に沿って結節浮線文を付け、胴部は左右対 称の渦巻状に結節浮線文を付けている。426は図上復元で最大径が60㎝を超える大型品である。胴上部は 地文に半截竹管状工具で沈線を横位に付け、結節浮線文を施した横位の粘土紐を貼り付けて区画を2段 作る。2段とも区画内に粘土紐を左右対称の渦巻状、弧状、鋸歯状に貼り付け、粘土紐上に結節浮線文 を施している。胴下部は半截竹管状工具で縦位と縦矢羽根状の集合沈線を施し、器面全体に2個1単位 の円形貼付文を付けている。

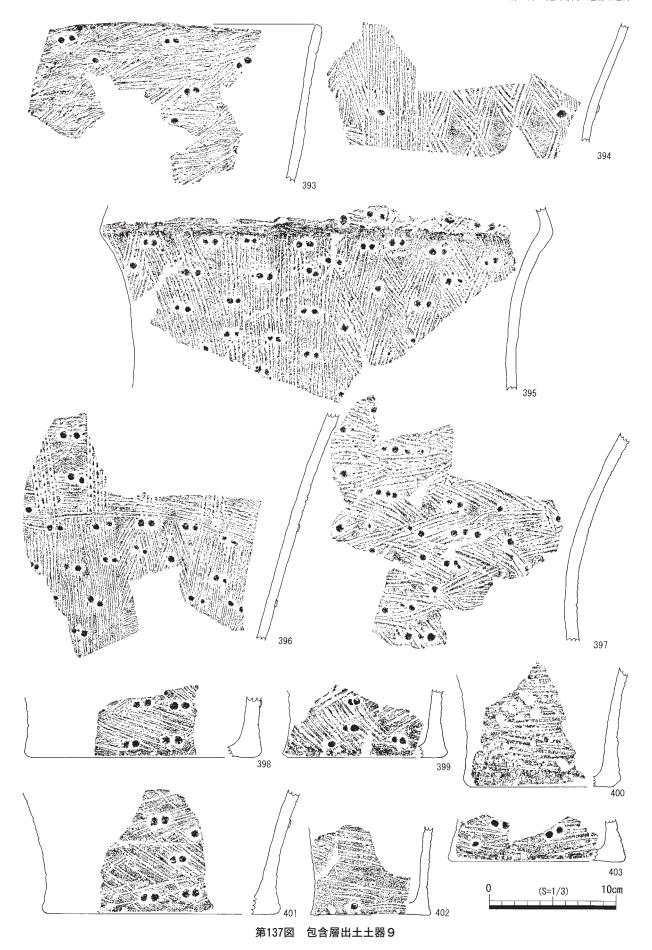
427から430は無文の浅鉢形土器であり、427が口縁部で直立する。428は胴部に段を有し、肩部と胴部の境はくの字状に屈曲している。429は補修孔が見られる。430は肩部に円孔を穿っている。



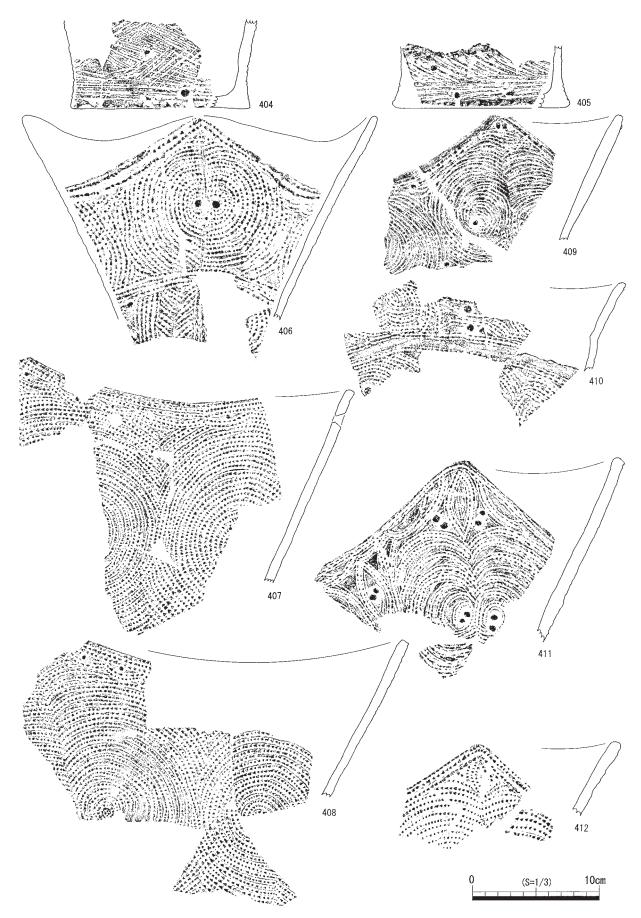
第135図 包含層出土土器7



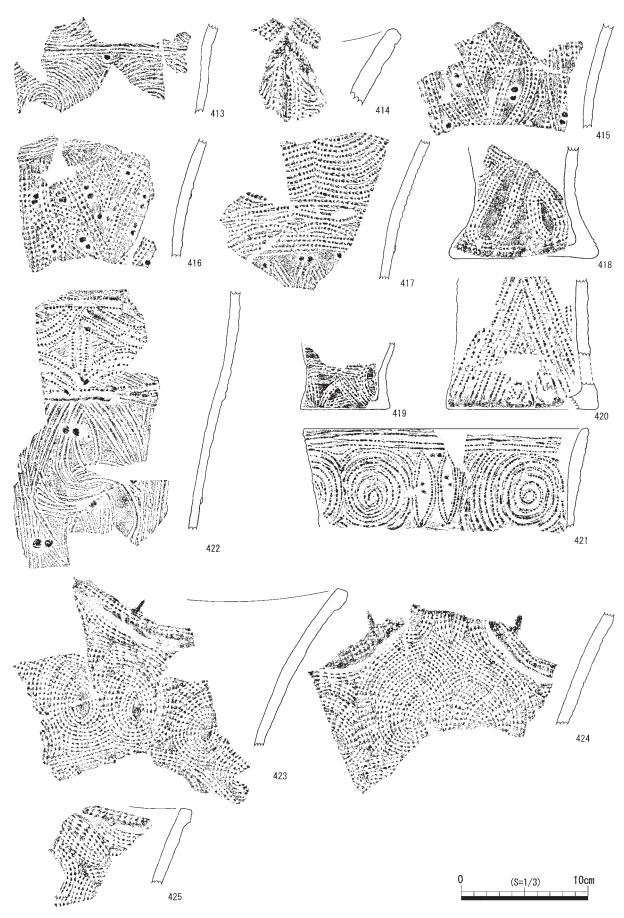
第136図 包含層出土土器8



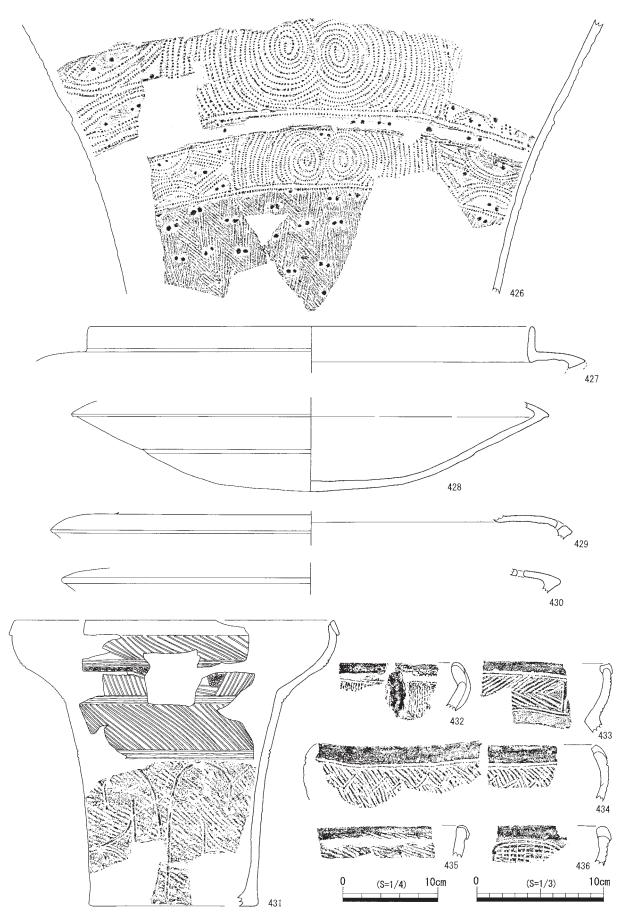
- 179 **-**



第138図 包含層出土土器10



第139図 包含層出土土器11



第140図 包含層出土土器12

II類2類d (第140図431~第142図469 図版52)

十三菩提式土器で、431から437は平縁で、口唇部に粘土紐を貼り付け、外面口唇部直下に無文帯をつくる一群である。431は胴上部から口縁部にかけて大きく弯曲して開く深鉢である。胴上半は沈線を横位に引いて3段の区画を作り、1段目と3段目の中に半截竹管状工具による密接蒲鉾状平行沈線を斜位に付けている。2段目は地文にRLの多条縄文を施文し、密接蒲鉾状平行沈線を縦位に付けている。胴下半は地文にRLの縄文を施文し、同一原体でY字状、U字状、弧状の沈線を付けている。432は口縁部が内弯する。口縁部に無文帯を作り、棒状の粘土紐を貼り付けて区画を作り、中に半截竹管状工具で縦位の沈線を付けている。433は頸部がくの字状に屈曲し、口縁部は内弯する。口縁部の無文帯の下は横位と縦位の沈線で区画し、中に横矢羽根状の沈線を付けている。434は口縁部が内弯する。口縁部の無文帯の下に横位の沈線を付けている。435は口縁部が直線的に立ち上がる。口唇部に粘土帯を貼り付け、下にRLの縄文を付ける。436は口縁部がわずかに内傾する。口縁部の無文帯の下に沈線で楕円形の区画を作り、中に横位と縦位の沈線を付けている。437は口縁部の無文帯の下に沈線で楕円形の区画を作り、中に横位と縦位の沈線を付けている。6437は口縁部の無文帯を包むように粘土紐を突起状に貼り付け、無文帯の下にRLの縄文を付ける。

438から442は波状口縁を有し、口唇部に粘土帯を断面形が三角形になるように筒状に貼り付けた一群である。438は口唇部に半截竹管状工具で密接蒲鉾状平行沈線を斜位に付ける。口縁部は三角形の印刻文を施し、周囲を粘土紐で縁取る。胴部は横位の沈線を付けて区画を作り、上に密接蒲鉾状平行沈線を斜位に付け、下は地文にRLの縄文を施し、鋸歯状の沈線を2段付けている。439は口唇部に密接蒲鉾状平行沈線を斜位に施し、粘土紐2本を橋状に貼り付けている。胴部も密接蒲鉾状平行沈線を斜位に施している。440は口唇部の外縁部に沈線を付けてから密接蒲鉾状平行沈線を斜位に施している。胴部は横位の沈線で区画し、中に密接蒲鉾状平行沈線を斜位に付けている。441は外面に粘土帯を貼り付けて口唇部に突起を施している。口縁部の粘土帯は沈線を斜位に付け、三角形の連続印刻文を施している。粘土帯の下はRLの縄文を付けている。442は口唇部に橋状把手を付けて楕円形の区画を作り、中に密接蒲鉾状平行沈線を縦位に施している。胴部は密接蒲鉾状平行沈線を斜位に付け、横位の沈線で区画している。

443から446は平縁で、口唇部が内側に屈曲し、外面全体に縄文を付ける一群である。445以外は口唇部にも縄文を付けている。447は口唇部に突起を付けているが欠損している。外面にはLの縄文を付けている。

448はRLの縄文を付け、半截竹管状工具による沈線で縦位の区画を作り出している。449と451は、上部に密接蒲鉾状沈線文、下部に縄文を付けている。

452は口唇部に粘土紐を貼り付け、無文帯を包むように粘土紐を突起状に貼り付ける。地文にRLの縄文を付け、口縁直下に鋸歯状の密接蒲鉾状平行沈線文を付ける。その下には横位の密接蒲鉾状沈線文を付け、同一工具による沈線で菱形文を付けている。

453から459までは印刻文を付けている一群である。半截竹管状工具による沈線で区画を作り、区画内に横位の密接蒲鉾状平行沈線文を付け、さらに格子状にヘラ状工具で沈線を施している。

460から462は横位の密接蒲鉾状平行沈線を付け、同一工具による沈線で縦位や鋸歯状の文様を施している。

465は口縁部に付けた大型の把手である。側縁部などに密接蒲鉾状平行沈線を付けている。

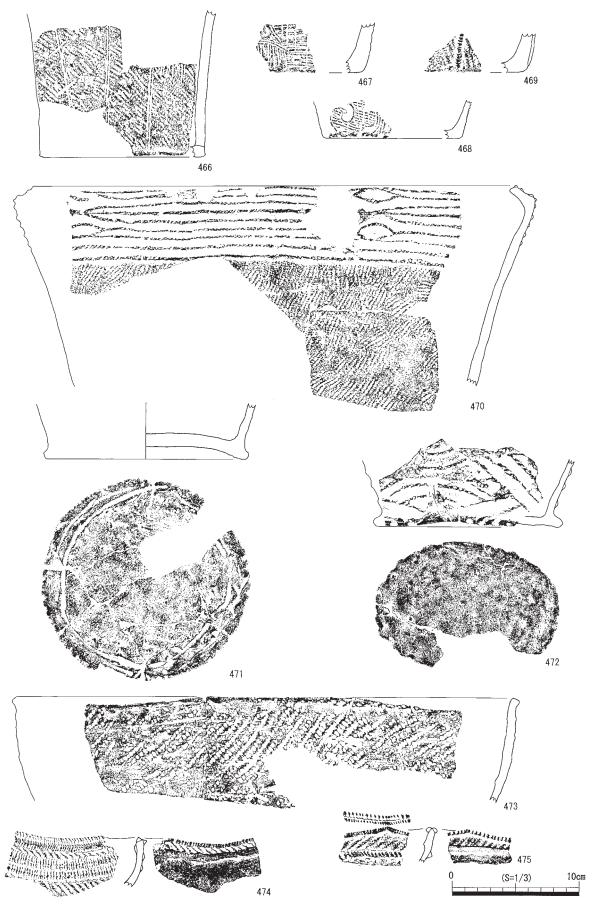
466から469は底部である。466は地文にRLの縄文を付け、半截竹管状工具で縦位の沈線を施している。467と468は印刻文と格子状の沈線が見られる。469は地文にRLの縄文を施し、粘土紐を貼り付け、粘土紐上に結節浮線文を施している。

Ⅱ群2類f (第142図470~473 図版53)

北白川Ⅲ式で、470は口縁部がくの字状に内側に折れる。上から見た胴部の形状は楕円形を呈する。口



第141図 包含層出土土器13



第142図 包含層出土土器14

縁部に沿って粘土紐を付け、粘土紐の一部を流線形に交差させる。粘土紐の上と胴部はLRの縄文を施している。471は470の底部であり、円形を呈し、上げ底である。底部は外に張り出し、刻みを付けている。底面には半截竹管状工具で沈線を施している。472は楕円形を呈する底部であり、底部は外に張り出し、貝殻状の圧痕を付けている。胴部は弧状に粘土紐を貼り付け、その上にLRの縄文を施している。473は器面や口唇部の調整が粗い個体でLRの縄文を施している。

II 群 2 類 g (第142図474~第143図488 図版53)

大歳山式で、474は緩やかな波状口縁を有し、口唇部にΣ字状の連続刺突を付け、内面にRLの多条 縄文を施している。外面は地文に同一原体で縄文を施し、粘土紐を2本弧状に貼り付け、粘土紐上に竹 管状工具で連続爪形文を施している。475から482は口唇部に竹管状工具でΣ字状の連続刺突を付け、内 面口唇部直下に多条縄文を施し、外面は器面全体に地文に多条縄文を付け、断面三角形の粘土紐を貼り 付けている。476は平縁で、475、477から482が緩やかな波状口縁を有する。475は地文の上に口縁に沿っ て波状と横位の粘土紐を貼り付け、V字状浮線文を施している。476は頸部がくの字状に屈曲し、口縁部 が開く。地文の上に口縁に沿って粘土紐を貼り付け、粘土紐上に竹管状工具で浮線文を付けている。胴 部は粘土紐を弧状や直線状に貼り付け、V字状の浮線文を付けている。477は口縁部が内弯して立ち上が り、波頂部で緩やかに外反する。器面全体に粘土紐を口縁に沿って貼り付け、V字状浮線文を施してい る。478から482は内弯する口縁部を有する。478は口縁に沿って2段、下には弧状に粘土紐を貼り付け、 浮線文を施している。479は口縁に沿って粘土紐を貼り付け、V字状の浮線文を施している。480と481は 頸部がくの字状に屈曲し、口縁部は内弯する。口縁部に沿って粘土紐を貼り付け、半截竹管状工具で浮 線文を施している。頸部付近と胴部は、口縁部の粘土紐より細い粘土紐をΩ状または弧状に貼り付け、 竹管状工具で浮線文を施している。482は粘土紐を弧状に2段貼り付け、浮線文を付けている。483は地 文に 0 段多条の R L の縄文を施し、粘土紐を弧状に貼り付け、浮線文を施している。484から487は地文 に多条縄文を施し、粘土紐を横位または弧状に貼り付け、浮線文を付けている。488は底部である。地文 にRLの多条縄文を付け、粘土紐を縦位に貼り付け、上部に圧痕を施している。底面は指頭で多角形を 作っている。

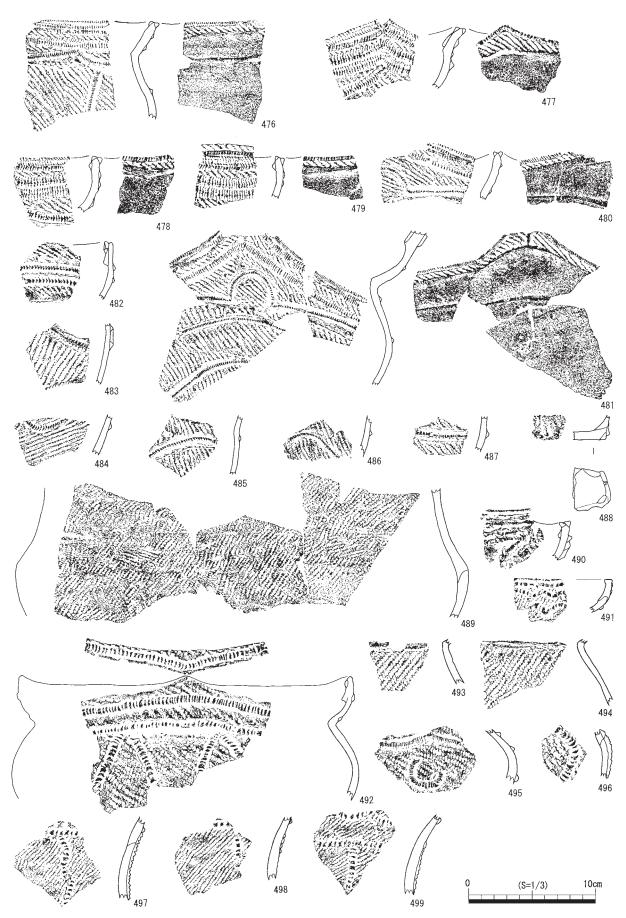
II 群 2 類 h (第143図489・490 図版53)

489は胴部が張った深鉢である。形状は大歳山式土器に似るが、器壁に厚みがある。外面全体にLRの縄文を付けている。490は波状口縁を有し、口唇部に連続刺突を施している。外面は粘土紐を横位または弧状に貼り付け、棒状工具で連続刺突文を施している。

II 群 2 類 i (第143図491~第144図515 図版53)

形状は大歳山式土器に似るが、粘土紐の施文方法が異なるものなどを本類とした。

491は平縁で、内弯する口縁部である。地文にLRの縄文を施し、横位の粘土紐を1段、横波状の粘土 紐を2段貼り付け、粘土紐上に半截竹管状工具で結節浮線文を施している。492は緩やかな波状口縁を有する。内面はRLの縄文を施し、口縁部に沿って粘土紐を貼り付け、粘土紐上に結節浮線文を施している。外面は器面全体にRLの縄文を付け、口縁部は横位に2本、胴部はハの字状に粘土紐を貼り付け、粘土紐上に結節浮線文を施している。493と494は頸部がくの字状に屈曲する。495は弯曲する胴上部である。地文にRLの縄文を施し、粘土紐を弧状と円形に貼り付け、粘土紐上に結節浮線文を施している。496から506は地文に縄文を施し、粘土紐を貼り付け、粘土紐上に結節浮線文を施している。507から510は地文に縄文を施し、断面三角形の粘土紐を貼り付け、粘土紐の下半部のみに竹管状工具で連続爪形文を施している。511は胴部に粘土紐を横位に貼り付け、粘土紐の下半部のみに竹管状工具で連続爪形文を施している。512は地文にRLの縄文を施し、丁字状に粘土紐を貼り付け、横位の粘土紐に片側のみ連続刺突文を施している。縦位の粘土紐には圧痕が残る。513は地文にRLの縄文を付け、粘土紐で方形の区画を作り



第143図 包含層出土土器15

出している。514と515は底部である。いずれも地文にRLの縄文を施し、縦位の粘土紐を貼り付け、粘土紐上に結節浮線文を施している。

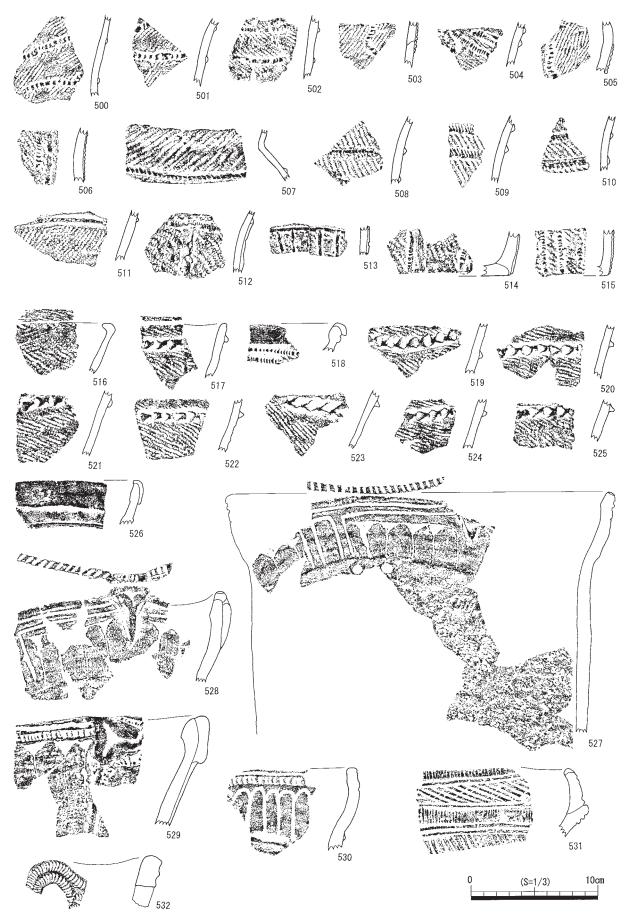
II 群 2 類 j (第144図516~526)

516は平縁で、口縁部をくの字状に内側に曲げている。器面全体にRLの羽状縄文を付けている。517は緩やかな波状口縁を有する。口唇部と器面全体にRLの縄文を付け、断面三角形の粘土紐を横位に貼り付け、粘土紐上に棒状工具で刻みを施している。518は口縁部を折り返している。地文にRLの縄文を施し、粘土紐を横位に貼り付け、粘土紐上に半截竹管状工具で結節浮線文を施している。519から525は器面全体にRLの縄文を付け、断面三角形の粘土紐を横位に貼り付け、粘土紐上に棒状工具で刻みを施している。526は口縁部を折り返し、無文帯の下に半截竹管状工具で横位の沈線を施している。

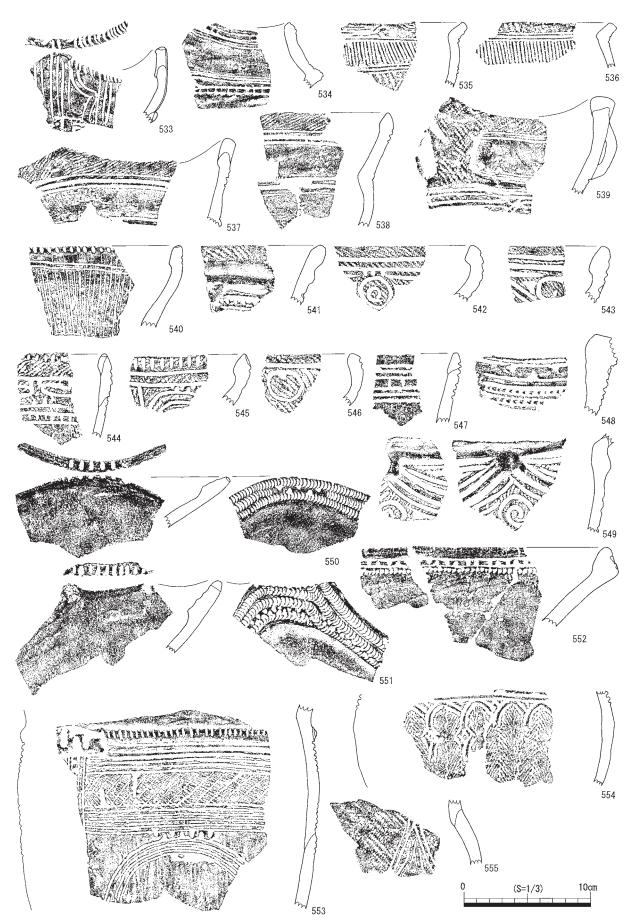
Ⅲ群 1 類 a (第144図527~第146図574 図版54)

五領ヶ台式で、527から529は胴上部に三角印刻文を付けた一群である。いずれも三角印刻文の下端から沈線を垂下させている。527は平縁で、胴上部がわずかに開く。口唇部に半截竹管状工具で刻み状の沈線を施し、胴上部を沈線で区画し、区画内に三角印刻文を付けている。胴中央部より下は粗く削っている。528は口縁部に粘土紐で三叉状の突起を貼り付けている。口唇部は半截竹管状工具で刻み状の沈線を施している。口縁に沿って沈線を付け、下に三角印刻文を施している。529は緩やかな波状口縁を有する。波頂部に粘土紐で三叉状の突起を貼り付け、下端に細い粘土紐を垂下させている。口唇部に沿って横位沈線と竹管状工具で連続爪形文を施し、下に三角印刻文を付けている。突起の右側は連続爪形文で縁取る。

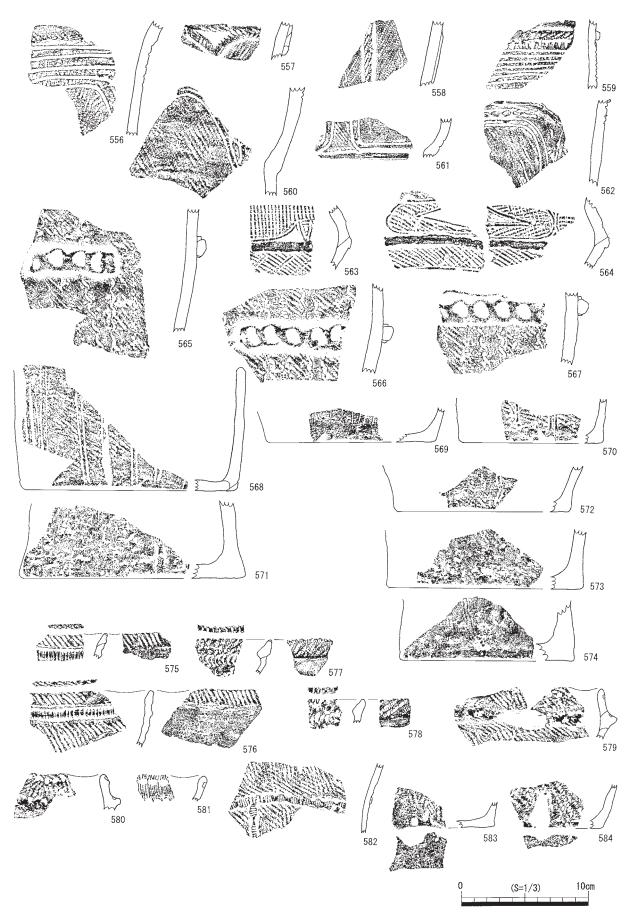
530は平縁で、口縁に沿って沈線と連続爪形文を施し、細い押引沈線を逆U字状に付けている。その下 には断面三角形の粘土紐を貼り付けている。531は緩やかな波状口縁を有し、口縁部は内弯する。口唇部 に半截竹管状工具で連続爪形文を施している。口縁の張り出した位置に粘土紐を横位に貼り付け、粘土 紐上に連続爪形文を付けている。口縁直下と粘土紐の上下に蒲鉾状沈線で区画した中に密接蒲鉾形平行 沈線を斜位に付け、浅い平行沈線を交差させる。粘土紐から下は地文に縄文を付け、密接蒲鉾形平行沈 線を斜位に付けている。532は把手であり、孔を作出している。外面に竹管状工具による連続爪形文を2 段付けている。533と534はともに波状口縁を有する。533は口唇部に半截竹管状工具で連続爪形文を付け ている。胴上部には沈線を縦位と逆くの字状に付け、胴上部と中央部のくびれ部に粘土板を貼り付けて いる。534は口縁部がくの字状に内傾する。口唇部直下と屈曲する位置に半截竹管状工具による沈線と押 引沈線を付けている。535と536は平縁で、口縁部が短く外傾する。535は口唇部直下に蒲鉾状沈線を弧状 に付けている。胴部は蒲鉾状沈線で横位に区画し、中に密接蒲鉾状集合沈線を斜位に付けている。区画 の下にはLRの縄文を付けている。536は口縁部に0段多条のLR縄文を付け、くびれの位置には横位の 蒲鉾状沈線、胴部には斜位の密接蒲鉾状平行沈線を施している。537から539は地文に縄文を付け、蒲鉾 状沈線で横位の区画を作り、中の縄文を磨り消す一群である。537は波状口縁、538は平縁を有する。539 は緩やかな波状口縁を有し、波頂部の口唇部直下には橋状把手を貼り付ける。地文に口唇部直下はLR、 橋状把手から下はRLの縄文を施している。胴上部の区画内に三角形の刺突を付けている。540は平縁 で、口唇部に棒状工具で刻みを付けている。外面に半截竹管状工具で沈線を縦位に施してから口縁に沿っ て沈線を付けている。541は口縁部に沿ってRLの縄文を付け、太い沈線で区画し、中に粘土紐を貼り付 け、粘土紐上に半截竹管状工具で刻みを付けている。542から546はいずれも平縁で、地文に縄文を付け、 半截竹管状工具で横位、円形、弧状の沈線と刻みを付けている一群である。543は三角印刻文が見られ る。545は弧状沈線の上部に相互刺突が見られる。547は平縁で、口縁部に沿って半截竹管状工具で押引 沈線を横位に付け、細い竹管状工具で相互刺突を施している。548は口唇部が一部欠損するが肥厚させて いる。胴上部に半截竹管状工具で沈線を弧状に施し、中に三角形の刻目で相互刺突を付け、下に押引沈



第144図 包含層出土土器16



第145図 包含層出土土器17



第146図 包含層出土土器18

線を施している。549は胴上部に橋状把手を貼り付け、下にハの字状に貼り付けた粘土紐と一体化させる。地文にLRの縄文を施し、半截竹管状工具で沈線を三角形状、渦巻状に付けている。

550から552は直線的に外側に大きく開く浅鉢の口縁部である。550は平縁で、口唇部の一部に半截竹管 状工具で刻みを付けている。内面は口縁部に沿って連続爪形文を施し、一部に三角形刻目で相互刺突を 付けている。551は波状口縁を有し、波頂部に平坦面を持つ。内面に口縁部に沿って連続爪形文を3段付 けている。552は口縁部が肥厚し、口唇部と一体化する。口縁に沿って半截竹管状工具で沈線を横位に付 け、相互刺突を施しており、下に細い棒状工具で刻目文を付けている。

553は胴上部に粘土紐を貼り付け、粘土紐上に半截竹管状工具で刻みを施している。粘土紐の下は半截竹管状工具で垂下する沈線を施し、中央の沈線に相互刺突を付けている。粘土紐の下は半截竹管状工具による沈線を横位に施して区画し、中に斜格子状の沈線を施す。胴下部は沈線文を弧状に付けている。554は半截竹管状工具で沈線を横位に付けて区画し、地文に結節縄文を縦位に施し、アーチ形に沈線を付けている。555は地文にRLの縄文を施し、半截竹管状工具で沈線を付けている。556から559は器面に貼り付けた粘土紐上に縄文を施している。556は厚みの少ない粘土紐を横位に貼り付け、地文にRLの多条縄文を施し、半截竹管状工具で横位と弧状の沈線を付けている。557は粘土紐を三叉状に貼り付け、RLの縄文を施している。558はRLの結節縄文を縦位に付けている。559は粘土紐を模位に貼り付け、地文にLRの縄文を付け、粘土紐の直下に竹管状工具で横位の連続刺突文を施し、半截竹管状工具で横位の沈線を付けている。560と561は沈線区画内に縄文を付ける。560は地文にRLの縄文を付け、半截竹管状工具で沈線を弧状に施している。561は半截竹管状工具で区画し、中にLの縄文を付けている。563と564はくの字状に内反した胴部である。半截竹管状工具による沈線で区画し、中に印刻や密接蒲鉾状平行沈線を斜位に付け、さらに斜位の沈線を交差させる。屈曲する部分に粘土紐を横位に貼り付けている。565から567は地文に2連のLRの結節縄文を縦位に付け、粘土紐を横位に貼り付け、粘土紐の上を指でつまんでいる。

568から574は底部である。568と570は地文にRLの縄文を付け、半截竹管状工具で沈線を縦位に施している。572は地文にRLの縄文を施し、沈線を鋸歯状に付けている。

Ⅲ群1類c (第146図575~584 図55)

575と576は緩やかな波状口縁を有する。内面は口縁に沿って0段多条のRLの縄文を付ける。口唇部にも同一原体の縄文を施している。外面は地文に同一原体で縄文を付け、低い粘土紐を口縁に沿って貼り付け、粘土紐上に竹管状工具で連続爪形文を施している。577と578は平縁で、口唇部にヘラ状工具で刻みを付ける。内面口縁部が肥厚し、段を有する。内面は口縁に沿ってLRの多条縄文を付ける。外面は地文に同一原体で縄文を施し、下に半截竹管状工具で連続爪形文を付けている。579と580は緩やかな波状口縁を有し、上方へ摘み上げた横位の粘土紐を付けている。地文に0段多条のRL縄文を付け、口唇部直下と粘土紐の直上に円形竹管状工具による連続刺突文を施している。581は緩やかな波状口縁を有する。地文に竹管状工具で沈線を縦位に付け、口縁に沿って円形竹管状工具による連続刺突文を2段付けている。

582は地文に 0 段多条の R L 縄文を施し、粘土紐を T 字状に貼り付け、粘土紐上に二枚貝の貝殻で圧痕を施している。

583と584は底部である。ともに底面付近で側面を花弁状に凹め、RLの縄文を付けている。

Ⅲ群 1 類 d (第147図585~595 図版55)

北裏c式で、585は魚尾形の波頂部を有する。口縁に沿って粘土紐を貼り付け、粘土紐上に半截竹管状工具で連続爪形文を施す。連続爪形文を付けた粘土紐で三角形状の区画を作り、中に地文の縄文を施してから竹管状工具で沈線を縦位に付けている。586と587は波状口縁に沿って粘土紐を2本密接して貼り

付け、それぞれの粘土紐上に連続爪形文を付ける。上下の粘土紐の境に横位の刺突を付けている。588は 波状口縁に沿って粘土紐を2条、一部は3条密接して貼り付け、それぞれの粘土紐上に連続爪形文を施している。589は平縁で、内弯する口縁部である。地文にLRの縄文を施し、口縁部に沿って半截竹管状工具による蒲鉾状沈線で区画し、中に相互刺突を付けている。

590は太い半截竹管状工具による沈線を横位に付けて区画し、中に粘土紐で楕円形の区画を複数個作り、粘土紐上に連続爪形文を施している。楕円形区画の中は細い半截竹管状工具で沈線をX字状に付けている。それぞれの楕円形区画の間には三角印刻文を付けている。591は粘土紐を横位に貼り付け、粘土紐上に連続爪形文を付ける。粘土紐の上下に縦位と横位の蒲鉾状平行沈線で区画を作り、中に竹管状工具で円形の連続刺突文を施している。592は地文にLRの縄文を施し、粘土紐を横位に貼り付け、連続爪形文を施した粘土紐の際に蒲鉾状沈線を引いている。594は粘土紐を2本密接して横位に貼り付け、粘土紐上に連続爪形文を施す。下にRLの縄文を地文として付け、縦位の沈線を施している。595は地文にRLの縄文を付け、粘土紐を弧状に貼り付け、粘土紐の際に蒲鉾状沈線を施している。

Ⅲ群2類a (第147図596~598 図版55)

596は平縁で、口縁に沿って角押文を2条付け、下に同一工具で角押文を縦位に施している。597は粘土紐を横位に貼り付け、両際に角押文を施し、上下に同一工具による角押文を小波状に付けている。598は粘土紐を横位に貼り付け、両際に角押文を施し、下に同一工具による角押文を鋸歯状に付けている。

Ⅲ群2類b (第147図599~601 図版55)

新道式で、599は粘土紐を縦位と横位に貼り付けて区画し、内側の際に三角押文を施している。600は 粘土紐を楕円形に貼り付けて区画し、内側の際に角押文を付けている。区画の中には角押文を小波状に 付けている。601は粘土紐を横位に貼り付け、上下の際に三角押文を付けている。

Ⅲ群2類c (第147図602~605 図版55)

阿玉台式で、602と603は粘土紐を楕円形に貼り付けて区画し、粘土紐の内側の際に三角押文を付けている。603は区画の中に三角押文を鋸歯状に付けている。604は粘土紐を弧状に貼り付け、外側の際に角押文を付けている。605は横位、Y字状、弧状の粘土紐を付けている。

Ⅲ群 2 類 d (第147図606 図版55)

勝坂式で、低い粘土紐を縦位に貼り付け、際に沈線を施している。

Ⅲ群3類a (第147図607~第148図634 図版55·56)

曽利Ⅲ式であるが、607から612は曽利Ⅱ式期まで遡る可能性もある。607から611は低い隆帯で区画を作り、中に棒状工具で刺突を付けており、同一個体と思われる。612は隆帯で区画を作り、中に棒状工具による刺突文を付けている。

613は波頂部に平坦面を有する。外面口縁部直下に隆帯を貼り付けて口唇部に凹みを作り出している。 波状口縁に沿って隆帯と竹管状工具による沈線で渦巻文と隅丸方形の区画を作り、中に縦位の沈線を付ける。下に半截竹管状工具による蒲鉾状平行沈線を縦位に施して区画し、中に同一工具による斜位沈線を付けている。614は平縁で、口縁部は低い隆帯と半截竹管状工具による沈線で楕円形に区画し、中に円形の刺突を施している。胴部は低い隆帯と沈線で方形、円形などに区画し、細い竹管状工具による粗い斜位の沈線を付けている。615は口唇部に半截竹管状工具で沈線を施している。口縁部は波状口縁に沿って隆帯と沈線で楕円形に区画し、中に半截竹管状工具による沈線を縦位に付ける。波頂部は渦巻状の文様を作り、中心に円形の孔を穿っている。胴部は沈線で縦位に区画し、中に斜位と縦波状の沈線を付けている。616は口縁部に隆帯で方形の区画と渦巻状の文様を作り、中に半截竹管状工具で縦位の沈線を付ける。胴部は細い竹管状工具で沈線を縦位に施している。617は波状口縁を有する。内面口縁部に隆帯を貼り付ける。外面口縁部は粘土紐と半截竹管状工具による沈線で弧状の区画を作り、沈線を縦位に施し



第147図 包含層出土土器19



第148図 包含層出土土器20

ており、胴部に細い半截竹管状工具で粗い斜位の沈線を付けている。618は口唇部に半截竹管状工具で沈線を付けている。口縁部は隆帯と沈線で楕円形に区画し、中に沈線を縦位に施している。619は外面口唇部直下に半截竹管状工具で沈線を施しており、口縁部は隆帯と沈線で楕円形に区画し、中に刺突を施している。620は口縁部に隆帯を弧状に貼り付け、下に細い斜位と縦波状の沈線を施している。621から623は同一個体と思われ、地文に細い半截竹管状工具で沈線を縦位に施し、口縁部に断面三角形の隆帯を波状に貼り付けている。621は縦波状の隆帯を垂下させている。623は断面三角形の隆帯を隅丸方形状に垂下させて区画し、中に上部は円形貼付文を、隆帯上に半截竹管状工具で刻みを施している。624は胴上部に隆帯を波状口縁に沿って貼り付け、隆帯の直下に半截竹管状工具による沈線で区画し、棒状工具で刺突文を付けている。625は口縁部に隆帯をX字状に貼り付けて区画し、中に半截竹管状工具で沈線を縦位に施している。626と627は隆帯と半截竹管状工具による沈線で弧状の区画を作り、中に沈線を縦位に付けている。

628は低い隆帯と太い沈線で区画を作り、中に細い竹管状工具で沈線を斜位に付けている。629から632 は隆帯と半截竹管状工具による沈線で区画を作っている一群である。631は区画内に沈線を斜位に付けている。632は隆帯と沈線で渦巻文を付けている。633と634は地文に竹管状工具の沈線を縦位に付けている。633は地文に沈線を付け、上に縦波状の沈線を2条付けている。

Ⅲ群3類b (第148図635 図版56)

635は吊手土器の把手である。上部に沈線を渦巻状に付け、橋部にも沈線を付ける。

Ⅲ群3類c (第148図636 図版56)

曽利IV式で、636は平縁の深鉢である。器面全体に半截竹管状工具で沈線を斜位に付け、口縁部に同一工具による沈線を横位に付ける。7方に底部から同一工具を引き上げて縦位の沈線を付け、口縁部付近で折れ曲がって縦波状の沈線を胴下部まで引いている。

Ⅲ群 3 類 d (第148図637~645 図版56)

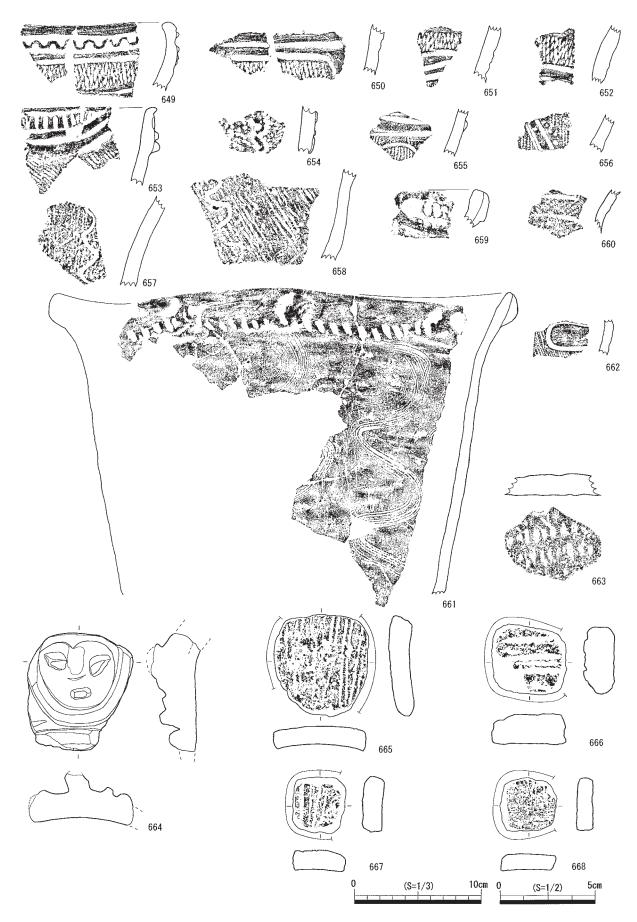
曽利IV・V式で、637と638は口縁部に沈線を横位に施し、下に沈線で楕円形の区画を作り、中に細い竹管状工具で沈線を縦位に付けている。

639と640はハの字状沈線を付けている。641は太い沈線で区画を作り、中に細い竹管状工具で沈線を斜位に付けている。642と643は沈線を渦巻状に付けている。644は低い隆帯で区画を作り、中に半截竹管状工具で沈線を斜位に付けている。645は地文に細い沈線を縦位に付け、太い沈線で縦波状文を施している。

Ⅲ群3類e (第148図646~第149図659 図版56)

加曽利E 3 式で、646から648は口縁部に幅広い粘土を貼り付け、半截竹管状工具で渦巻文を付けた一群である。646は平縁で、渦巻文と併せて楕円形の区画を作り、中に棒状工具で刺突を付けている。647は内弯する口縁部に粘土を厚く貼り付け、波頂部を作り出している。波頂部に渦巻文を付け、下に作られた区画の中にLRの縄文を施している。648は渦巻文の下にLRの縄文を付けている。649から652は同一個体の可能性がある。649は平縁で、口縁部に沿って棒状工具による交互刺突を付け、下に半截竹管状工具で横位の区画を作り、中にLの撚糸文を施している。653は平縁で、口縁部に半截竹管状工具による沈線を施した粘土紐を弧状に貼り付けて区画し、中に沈線を縦位に施している。区画の下にはRLの縄文を付けている。654は地文にLRの縄文を付け、細い粘土紐を縦波状に付けている。655は粘土紐で横位の区画を作り、中にRLの縄文を施し、半截竹管状工具で沈線を付けている。656は粘土紐で区画を施し、RLの縄文を付けている。657と658は同一個体の可能性がある。地文にLの撚糸文を付け、半截竹管状工具で沈線を縦波状に施している。

659は加曽利E4式期まで時期が下る可能性がある。口縁部に粘土紐で楕円形の区画を作り、中に半截



第149図 包含層出土土器21

竹管状工具で縦位の沈線を付けている。

Ⅳ群 a (第149図660 図版56)

加曽利B式で、半截竹管状工具で区画を作り、中にLRの縄文を付けている。

Ⅳ群 b (第149図661・662 図版56)

堀之内式で、661は緩やかな波状口縁を有する。口縁部に幅が広い粘土帯を貼り付け、一部を橋状把手 状につまんで肥厚させている。粘土の接合部は半截竹管状工具で斜位の刺突を連続して弧状に施す。胴 部は6本単位の櫛歯状工具で雑な縦波状の沈線を付けている。662は地文にRの撚糸文を付け、半截竹管 状工具で楕円形の区画を作り、中の文様を磨り消している。

型式不明の底部(第149図663)

底面に網代痕が付いている。

土製品 (第149図664~668・第37表 カラー図版4)

664はⅢ群2類d(勝坂式)土器の胴部に付けた顔面文の部分である。粘土帯で顔の輪郭を作り、中に ハート形に粘土を貼り付け、竹管状工具で目と口を彫刻し、鼻の部分に粘土を貼り付けている。665から 668はいずれもⅢ群1類aの土器片を使用した土製円板である。(岩崎)

(3) 包含層出土石器・石製品(第38表)

有茎尖頭器 (第150図669 図版57)

先端部が欠損している。逆刺が発達せず、細形で長い身部をもつと推定される。

石鏃(第150図670~682 図版57)

670と671は I 類である。670は幅が長さを凌駕する。671は小型で細長い。周縁加工で素材剥離面を残している。672は大型の石鏃である。周縁加工で素材剥離面を残している。

673は II A 1 類である。幅が長さを凌駕する。674は II A 2 類である。675と676は II B 1 類である。676は周縁加工で素材剥離面を残している。677は大型の石鏃で、側縁を鋸歯状に加工している。678は小型の製品である。側縁がやや内弯し、逆刺の部分の開きが小さい。679は小型の II B 2 類である。680は II B 3 類である。左側縁のみ逆刺が見られる。

681はチャート製の五角形鏃である。682は先端部に突起がある特殊な形状の石鏃である。

石匙 (第150図683~第152図691 図版57)

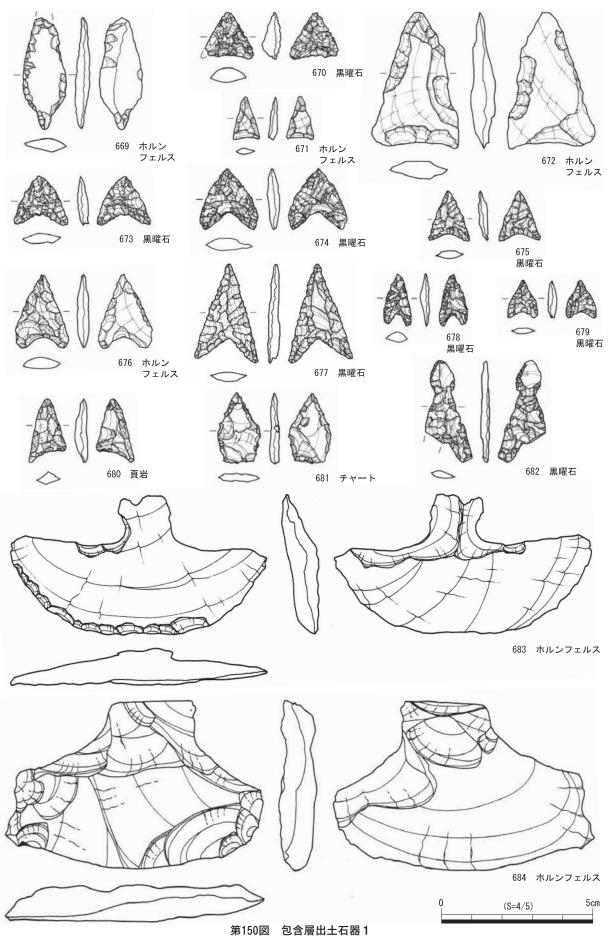
683から686は比較的対称的な平面形を呈する横型の石匙である。石材はいずれもホルンフェルスである。683は刃部が弧状を呈し、表面に剥離を施している。684は素材剥片の形状を生かして刃部としている。685は表皮付き剥片を素材とし、刃部と左辺に剥離を施している。刃部は比較的直線的である。686は円形の剥片の裏面に平坦剥離を施してつまみを作り出している。刃部は弧状で、剥片の裏面に急斜度の剥離を施している。

687から690は左右非対称な横型の石匙である。687はつまみの位置はやや右に片寄る。頁岩を素材とし、表面を中心に精緻な加工を施している。刃部は表面が急斜度の剥離、裏面は平坦剥離を施している。688はつまみの位置は左に片寄る。刃部は素材剥片の形状を生かし、表面に急斜度の剥離を施している。689はつまみが極端に細く、位置は右に片寄る。刃部の形状は688とほぼ同じである。690はつまみの位置が極端に右に片寄る。刃部は直線的で、表面に細かい急斜度の剥離を施している。

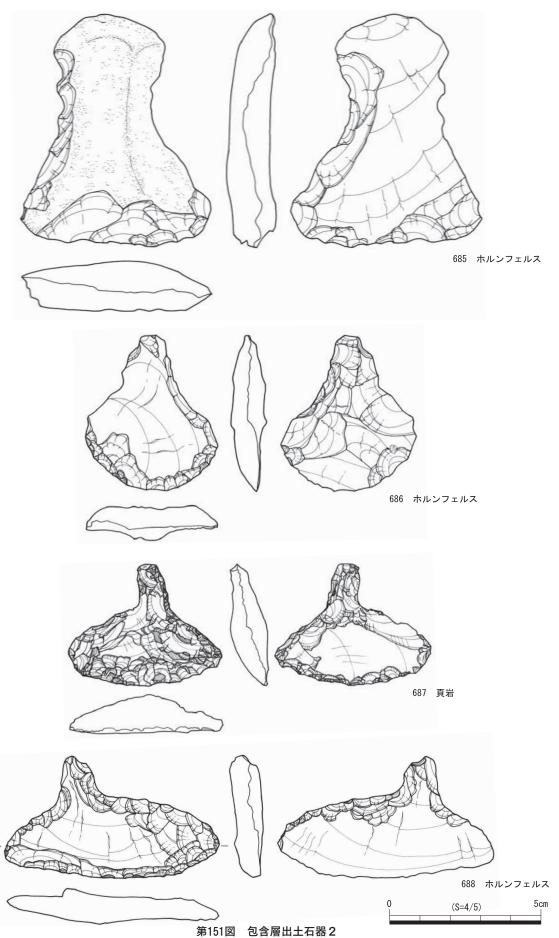
691は左右非対称の縦型の石匙である。剥片の打点の位置をつまみとし、表面の右側縁に平坦剥離を施している。刃部は加工を加えず、剥片の形状を生かしている。

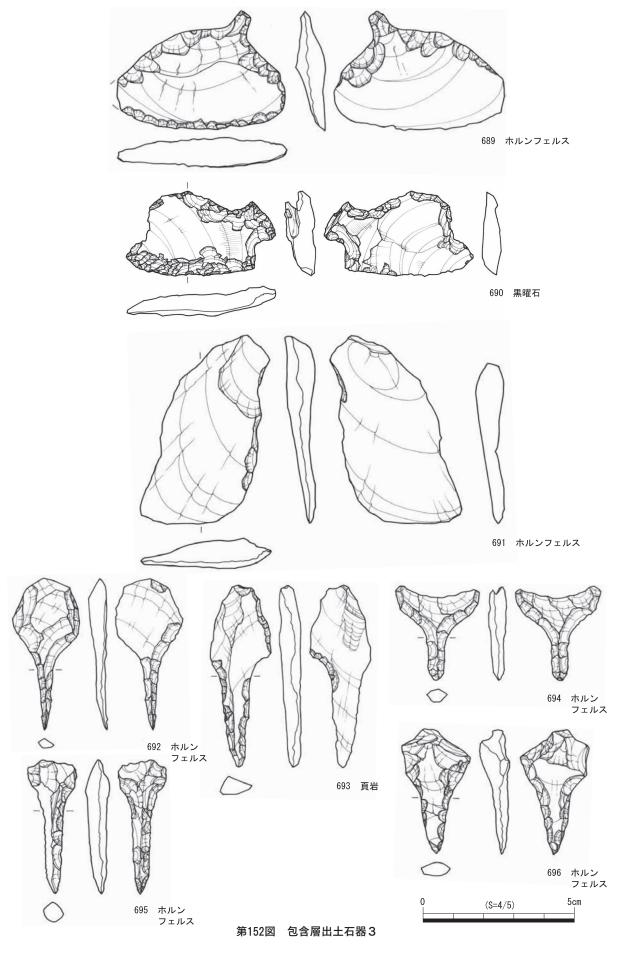
石錐(第152図692~第153図697 図版58)

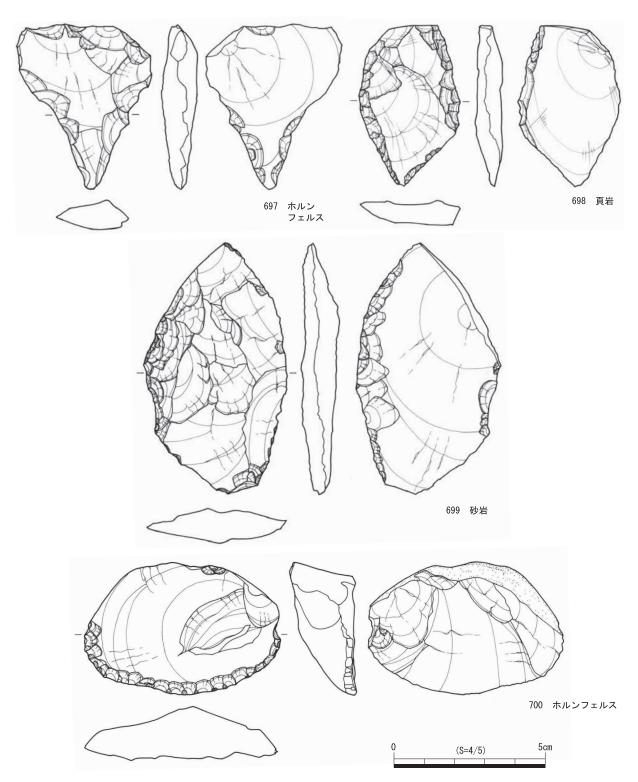
692は円形の基部に細長く、先端が尖った尖頭部が付く。693は楕円形の基部を持ち、基部と尖頭部の間には括れを有する。表面は基部の右側縁と尖頭部、裏面は基部と尖頭部の境の右側面に剥離を施して



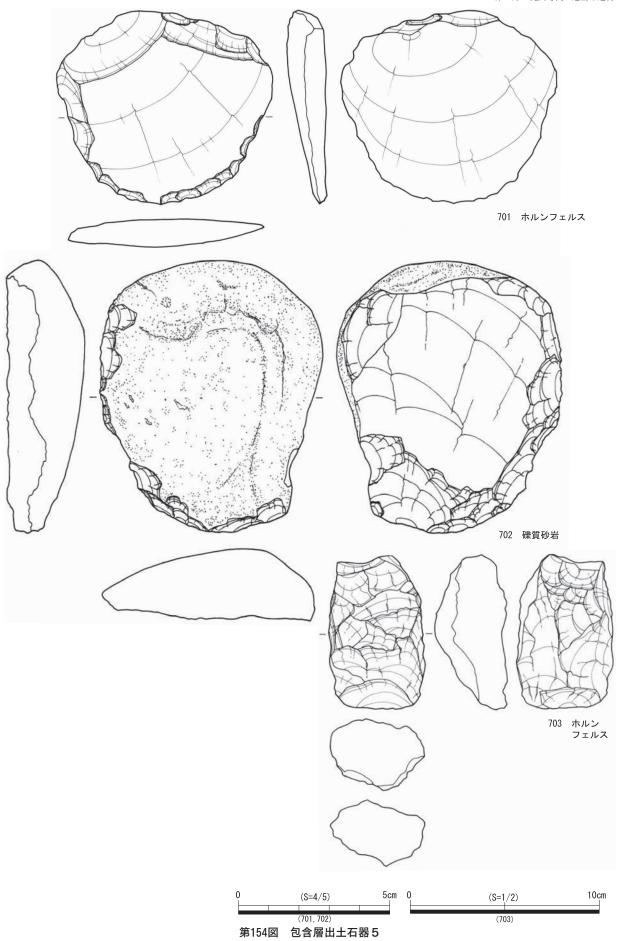
- 199 -

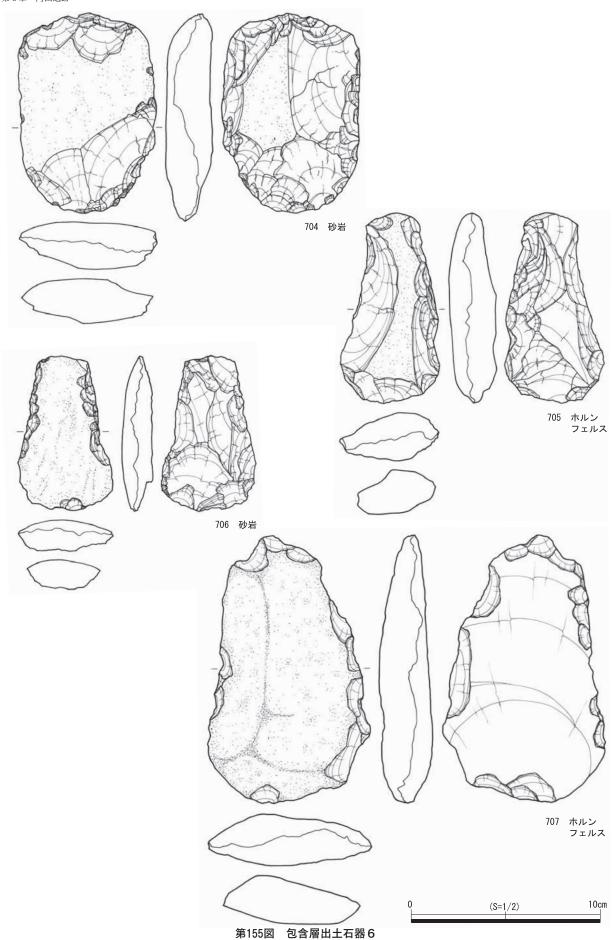


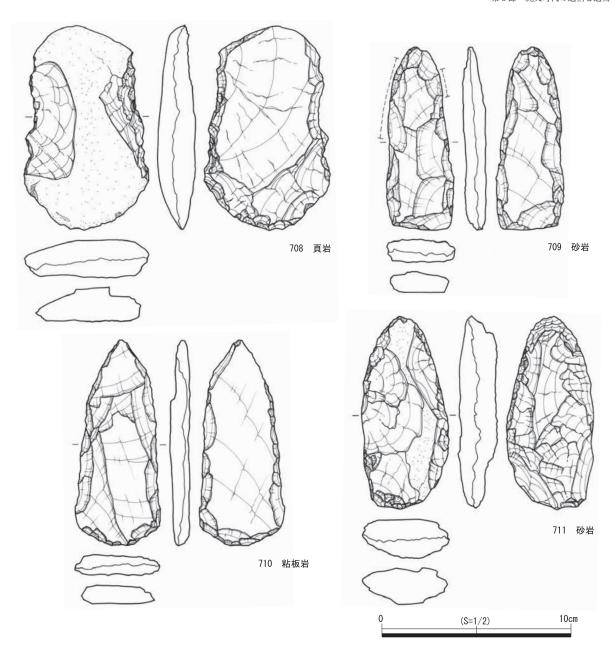




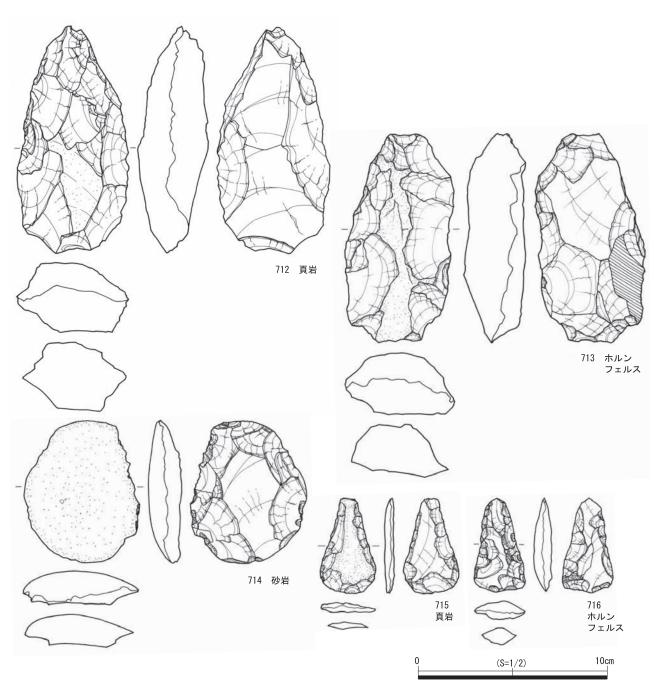
第153図 包含層出土石器4



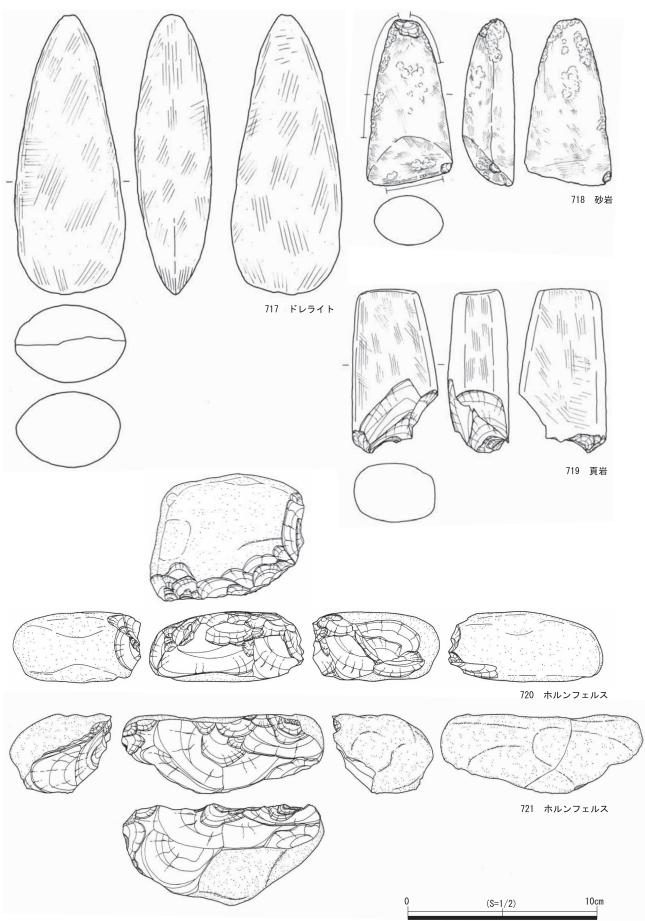




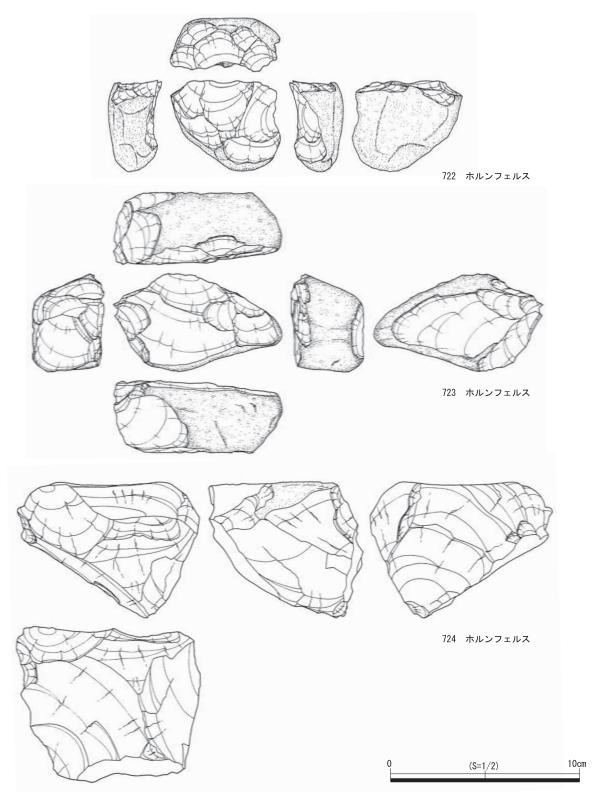
第156図 包含層出土石器7



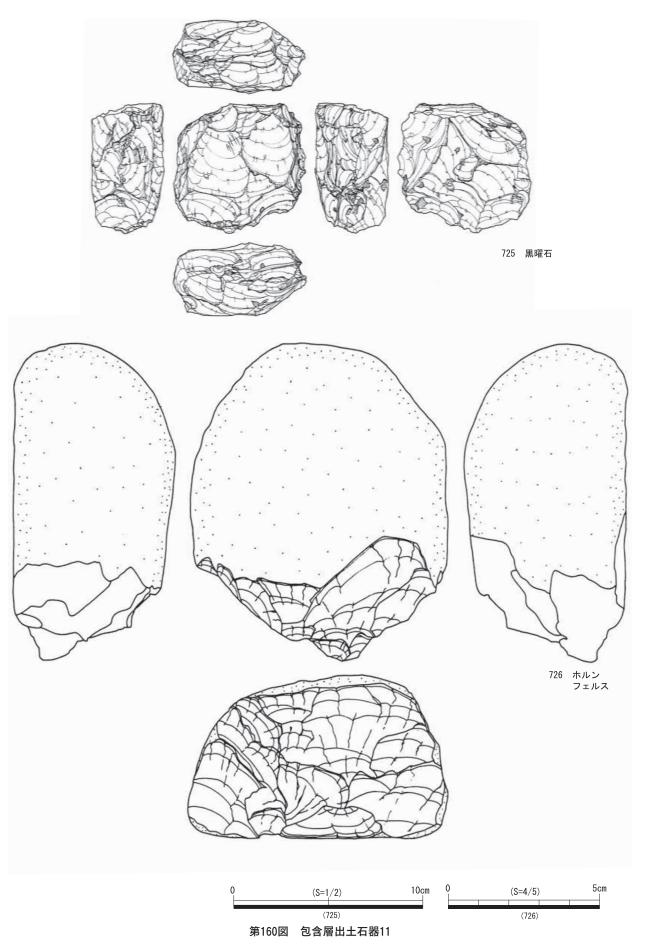
第157図 包含層出土石器8



第158図 包含層出土石器 9



第159図 包含層出土石器10



-209-

いる。694は基部に抉りが入り、T字またはY字状の形状を呈する。両面とも側縁部から尖頭部にかけて 剥離を施している。695の形状は棒状に近い二等辺三角形を呈する。696と697の形状は五角形を呈する。 ともに両面に剥離を施して尖頭部を作り出している。

スクレイパー (第153図698~第154図702 図版58)

698と699は五角形のサイドスクレイパーである。698は横長剥片の右辺を切断し、表面は両側縁に平坦剥離を施し、裏面は右側縁となる切断部に急斜度の剥離を施している。699は横長剥片の打点を左側縁とし、表面は左側縁に急角度の剥離を施し、裏面は剥片の端部となる右側縁に平坦剥離を施している。700から702はラウンドスクレイパーである。700は厚手の表皮付き剥片の打点を右に置き、素材剥片の裏面に急角度の剥離を施して刃部を作り出している。701は素材剥片の形状を生かし、表面に平坦剥離を施して刃部を作り出している。702は薄い円礫の形状を生かして整形した後、表面の左側縁から下部にかけて急角度の剥離を施して刃部を作り出している。

打製石斧 (第154図703~第157図716 図版58)

703と704は I 類である。ともに刃部の幅に比して長さが短い。703は厚手で刃部が直線的である。704は薄い円礫を素材とし、刃部が弧状をなしている。

705から707はⅡ類である。いずれも刃部は弧状をなしている。705と706は表皮付き剥片に周縁加工を施している。707は大型の製品である。表皮付き剥片の形状を生かし、表裏面とも外縁部にわずかに剥離が見られる。

708はⅢ類である。刃部は弧状をなしている。表面の両側縁を抉るように剥離を施して分銅形の形状を作り出している。

709から713はIV類である。709と710は側縁部の形状が I 群に類似し、薄手の板状の剥片を素材としている。刃部の形状は、709は直線状、710は弧状をなしている。711から713は側縁部の形状が II 類に類似し、厚手の表皮付き剥片を素材としている。

714は円形の表皮付き剥片の裏面のみに階段状の剥離を施している。715と716は小型の撥型の石斧である。715は薄い頁岩の剥片の周縁に平坦剥離を施している。716は厚手のホルンフェルスの剥片の周縁に平坦剥離を施している。

磨製石斧 (第158図717~719 図版58)

717は両刃の乳棒状磨製石斧である。刃部は弧状である。718は片刃の乳棒状磨製石斧である。刃部は直線的で、斜めに傾く。719は定角式磨製石斧である。刃部は破損している。

石核(第158図720~第160図725 図版58)

いずれも大型の石核である。石材は720から724はホルンフェルス、725は黒曜石である。720は図中の表面と右側面、721は表面と左側面、722は表面と打面が主たる作業面となっている。723は図中の表面、左側面、裏面が主たる作業面となっている。724は下面が尖っており、図中の表面、右側面、裏面が主たる作業面となっている。725は表面と裏面が主たる作業面となっており、あとの4面は打面調整を行っている。

礫器 (第160図726 図版58)

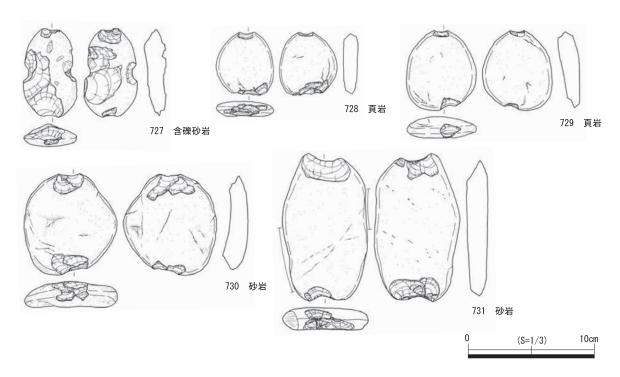
片面に平坦面を持つホルンフェルスの円礫の一辺に錐状の刃部を設けている。

石錘(第161図727~731)

727は楕円礫の上下左右4方向に紐掛け部を設けている。728から730は円礫の両端を打ち欠いて紐掛け部を設けている。731は楕円礫の両端を打ち欠いて紐掛け部を設けている。両側縁に磨痕が見られる。

磨石・敲石・凹石・石皿(第162図732~第167図777)

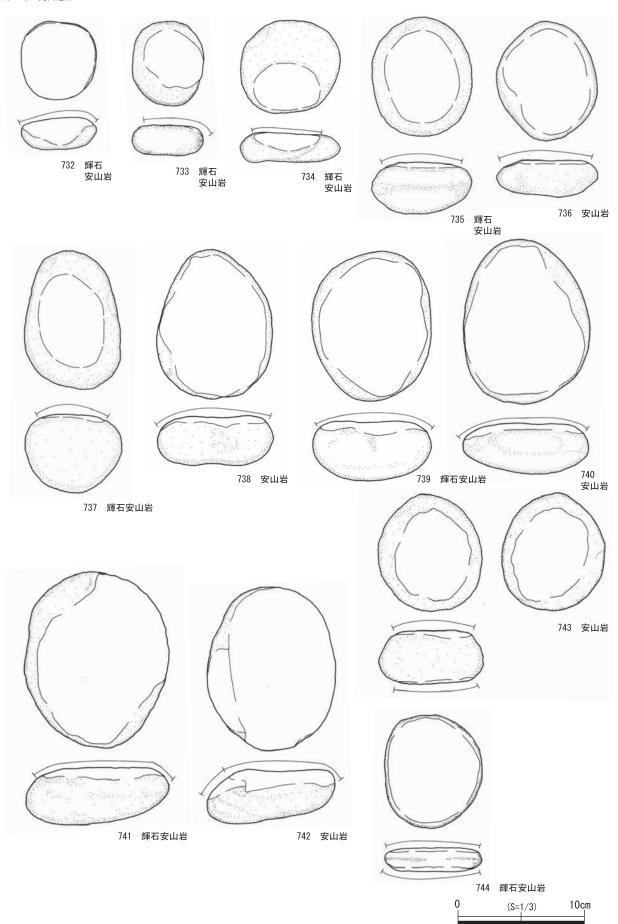
732から748は I 類の磨石である。732から742は片面のみ磨面がある。733と734は磨面がやや側縁に片



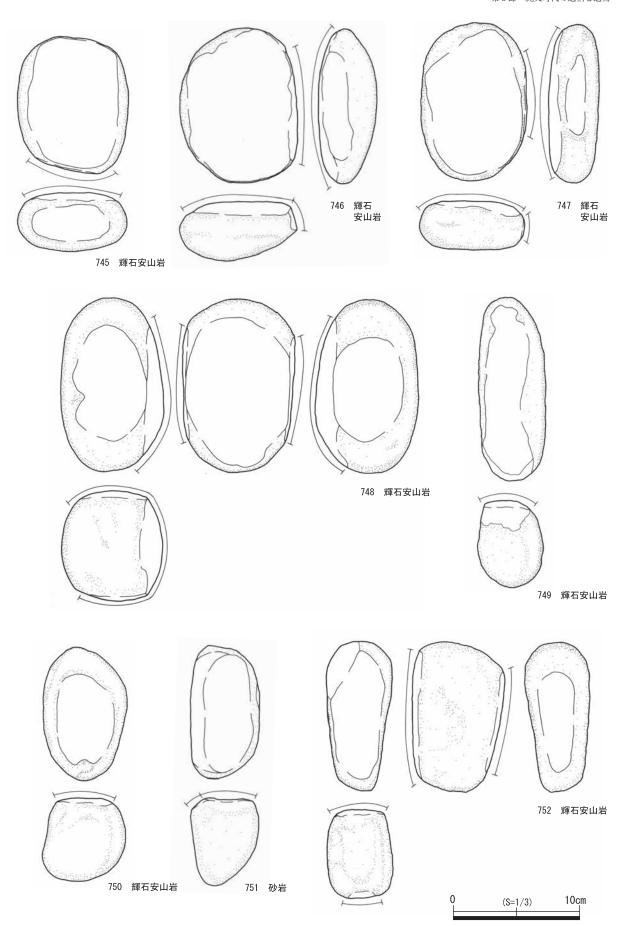
第161図 包含層出土石器12

寄る。742は側縁部に近い部分を磨った後に平坦面を磨っている。743と744は表裏両面に磨面がある。745から748は表裏両面と側縁に磨面がある。749から752は II 類の磨石である。752は磨面が上下にある。753から755は III 類の磨石である。753は円柱状の礫を素材とし、側縁 1 箇所のみ磨面が見られる。755は四角柱の礫の角すべてに磨面が見られる。756から764は IV 類の磨敲石である。756から758は I 類の磨石の磨面に敲打痕がある。759は磨面の裏に敲打痕がある。760から763は側縁部に敲打痕が見られる。764は側縁の一部を強く磨り、さらに敲打して使用したものと考えられる。765から767は V 類の敲石である。766は歪んだ円盤状の礫を素材としている。歪んだ部分に集中して敲打痕が見られる。768から770は VI 類の凹石である。

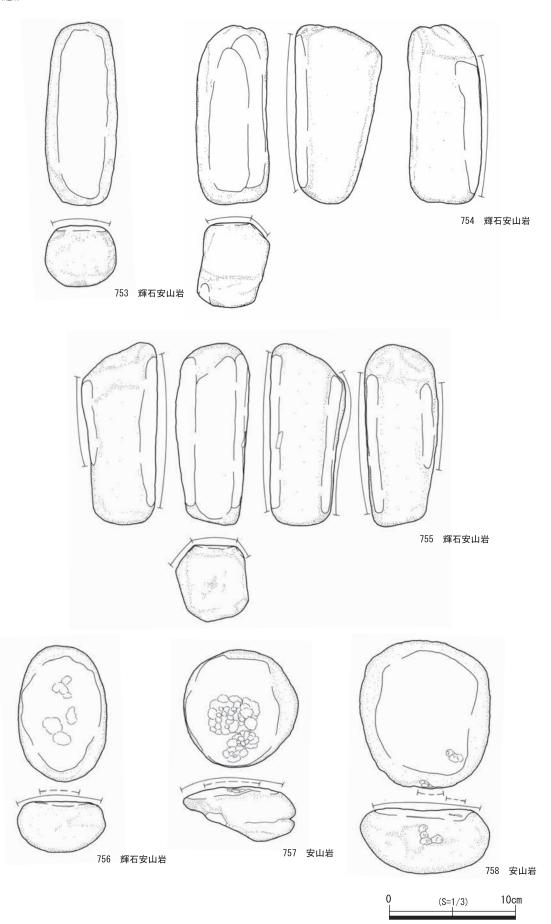
771から774はⅠ類の石皿である。775から777はⅡ類の石皿である。



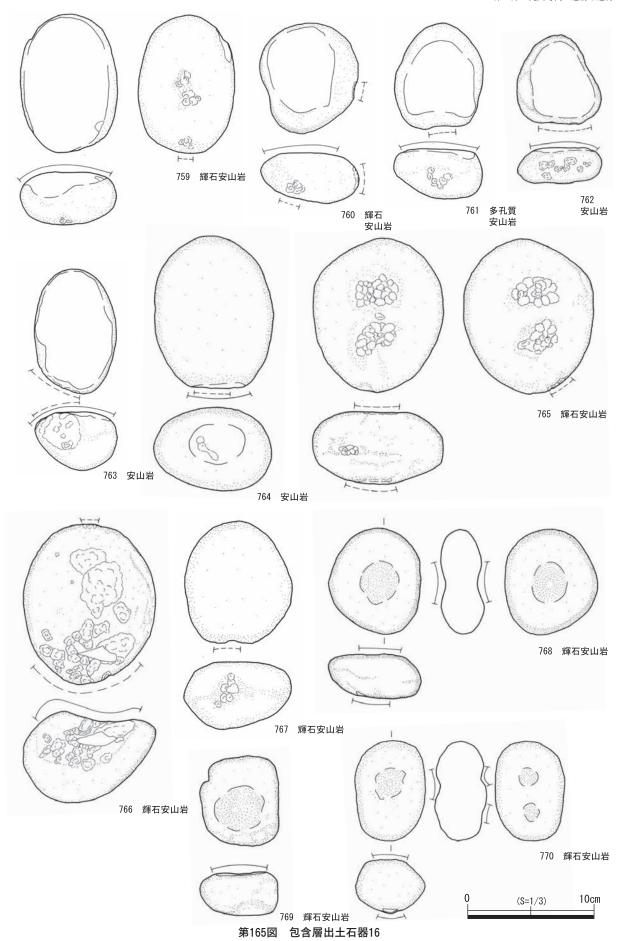
第162図 包含層出土石器13

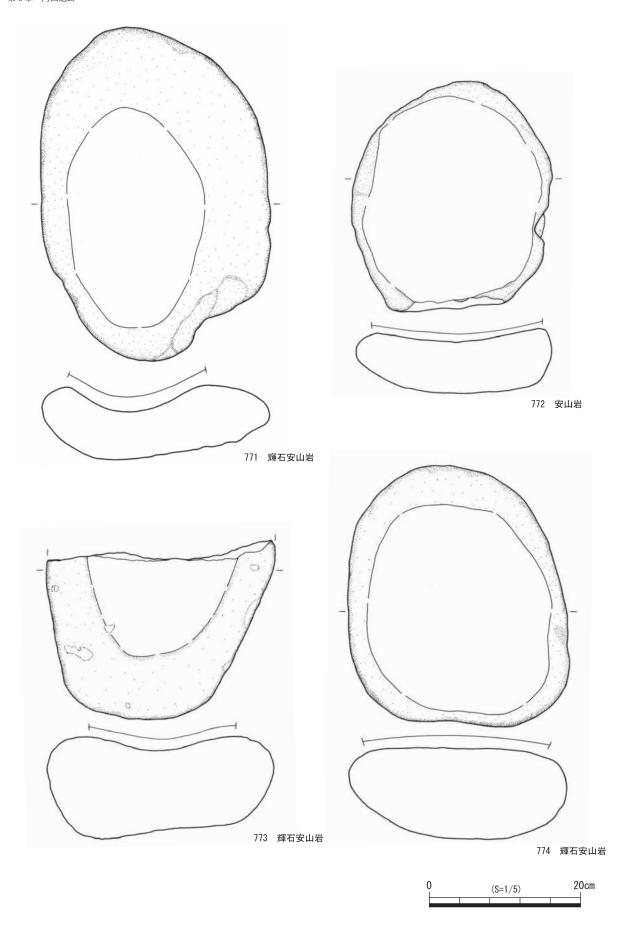


第163図 包含層出土石器14

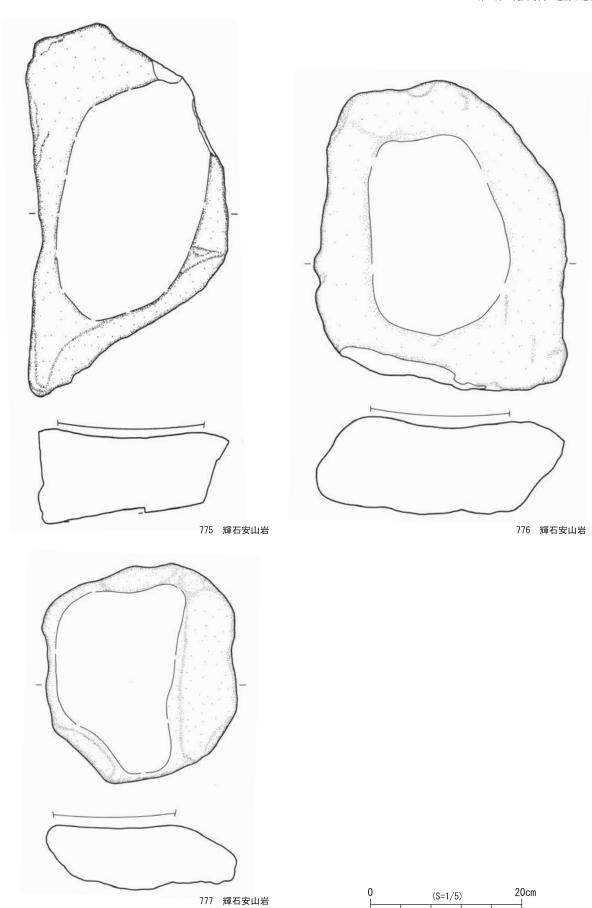


第164図 包含層出土石器15

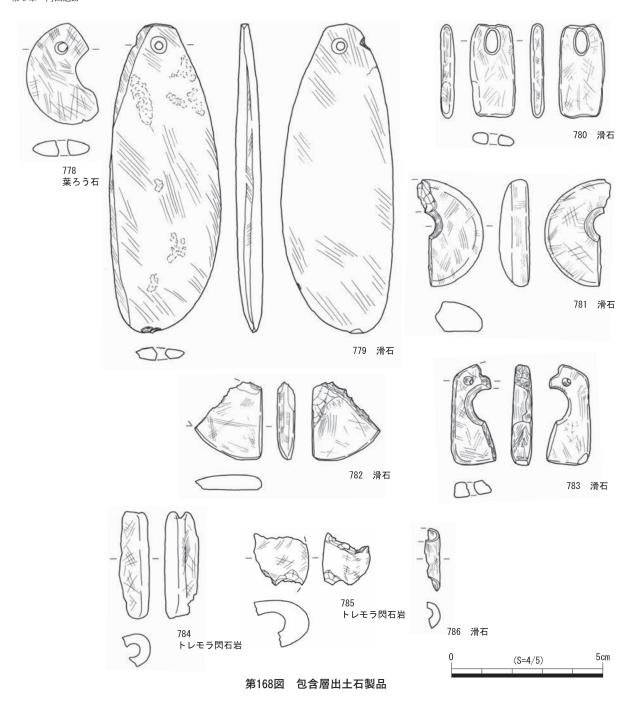




第166図 包含層出土石器17



第167図 包含層出土石器18



石製品(第168図778~786・第39表 図版59)

石材は778が葉ろう石、784と785がトレモラ閃石岩、その他の製品は全て滑石である。

778は勾玉である。形状は金環型の玦状耳飾に似る。孔は両面から穿たれており、穿孔後全面を研磨して仕上げている。

779と780は垂飾である。779は長さ12cmを測る大型品で、形状は長いティアドロップ形を呈する。孔は両面から穿たれており、穿孔後全面を研磨して仕上げている。780の形状は扁平な短冊状を呈する。孔の形状は楕円形を呈し、上部には紐状のものを通して使用したと思われる擦れが確認できる。孔の穿孔後全面を研磨して仕上げている。

781から783は玦状耳飾である。781は金環形を呈する。切れ目の長さが中央孔の径より長い。中央孔は 両面から穿たれており、穿孔後全面を研磨して仕上げている。断面形は表面の中央部が盛り上がり、裏 面は平坦である。782は破損しているが、781と同じ形態のものと考えられる。783は中央部を切った扁平な短冊状の玦状耳飾である。中央孔の上に小孔が穿たれている。

784から786は管玉である。784と785は断面形が楕円形を呈する。784には上部に抉りが見られる。785と786は断面の厚みが一定ではない。3点とも穿孔後全面を研磨して仕上げている。(岩崎)

第6節 旧石器時代の遺物

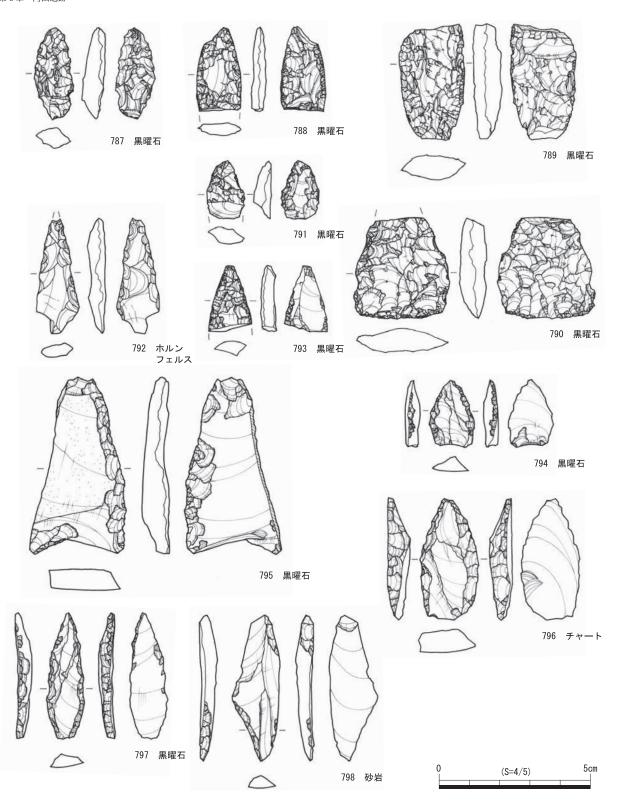
本遺跡で出土した旧石器時代の遺物は、第7層休場層より上位の遺物包含層から出土したものである。 **尖頭器(第169図787~795・第40表 図版59)**

787から789は両面加工の尖頭器である。787は小型で厚みがある。788と789は先端部と基部を欠損しているが、柳葉形のものと考えられる。788は両面、789は表面に、周縁を主体に剥離を加えて整形している。790は形状が三角形であると考えられる両面加工の尖頭器である。791と792は半両面加工の尖頭器である。791は基部を欠損している。787とほぼ同じ形状であると考えられる。792は縦長剥片を用いている。裏面の周縁に剥離を施している。793は素材剥片の表面は丁寧な平坦剥離で、裏面は大きく割って先端部を作出している。周縁には両面とも細かい剥離が見られる。794は片面加工の尖頭器である。丁寧な周縁加工を施している。795は未製品である。表面に自然面を残していることから、石核から早い段階で得られた縦長剥片を用いていると考えられる。先端部となる打面と右側縁に剥離を施している途中で制作を止めている。

ナイフ形石器 (第169図796~798・第40表 図版59)

796から798は二側縁加工のナイフ形石器である。796は縦長の剥片を用い、打面側を基部として、両側縁に丁寧なブランティングを施している。797と798は縦長の剥片を用い、打面側を先端として、両側縁にブランティングを施している。797は右側縁のブランティングは丁寧であるが、左側縁のブランティングは途中で止めている。798は左側縁下位と右側縁上位にブランティングを施している。(岩崎)

(註) 戸田哲也氏の御教示による。



第169図 包含層出土石器(旧石器)

第27表 向山遺跡竪穴建物の概要

() は残存値

遺構名	挿 図	図版	検出面	グリッド	主軸方位	平面形態	規模(m) 長軸×短軸	主柱 穴数	掘方	炉形態	出土遺物
SH1	94, 95	31, 34	KU~FB	D-8	N-33°-W	楕円形	6.6×5.6	4	円形?	地床炉	第105図2,3
SH2	94, 96	31, 34	KU∼FB	C, D-8	N-14°-W	隅丸方形	3.8×3.5	4	円形	置石炉	
SH10	94, 97, 108	32, 34	KU∼FB	C, D-6, 7	N-15°-E	楕円形	6.6×5.7	4	円形	地床炉の可能性	第105図4~12
SH11	94, 98, 99	32~34	KU~FB	D, E-7, 8	N-15°-W	楕円形	7.8×6.7	4	円形	置石炉の可能性	第106図13~18 第107図19~25
SH14	108~110	36	YLU上面	C, D-7	N-6°-E	円形	4.0×3.6	6	平坦	石囲炉	第120図28~39 第121図40~42 第122図43~46

第28表 向山遺跡竪穴状遺構の概要

() は残存値

遺構名	挿 図	図版	検出面	グリッド	主軸方位	規模(m) 長軸×短軸	深さ (m)	ピット数	出土遺物
TA1	108, 111	37	YLU上面	D-10	_	$3.6 \times (1.3)$	0.1	0	
TA2	108, 112	37	YLU上面	D-9	_	3.5×2.6	0.2	0	第122図47~51
TA3	108, 112	37	YLU上面	C, D-8, 9	_	2.9×2.8	0.3	0	第123図52~57
TA4	108, 113	38	YLU上面	C-8,9	N-47°-W	3.5×2.9	0.2	3	第124図58~60
TA5	108, 113	38	YLU上面	C-8	_	2.7×2.4	0.1	1	
TA6	108, 114	38	YLU上面	E-6	_	3.2×2.7	0.2	1	第124図61~76
TA7	94, 100	33	KU	E, F-6	_	$(4.5) \times (1.3)$		3	

第29表 向山遺跡掘立柱建物の概要

遺構名	挿 図	図版	検出面	グリッド	主軸方位	柱間規模	桁行(m)	梁間(m)	柱穴平面形態
SB1	94, 101	_	KU	D, E-5, 6	N-30°-E	1間×2間	2.5	2.6	楕円形・隅丸方形

第30表 向山遺跡溝状遺構の概要

() は残存値

遺構名	挿図	図版	検出面	グリッド	全長(m)	最大幅 (m)	最大深(m)	遺物
SD2	94, 102	_	KU	E-6, 7	(5.4)	0.7	0.1	
SD1	89, 90	30	クロ	B-9, 10, C-8~10	(17.7)	1.4	0.2	第93図1 第107図27
SD3	89, 90	_	クロ	C, D-7	(7.6)	1.1	0.1	

第31表 向山遺跡集石の概要

遺構名	挿 図	図版	検出面	グリッド	規模(m) 長径×短径	礫数	赤化比率	遺物
SY1	108, 116	42	KU∼FB	D-9	1.0×1.0	30	0.03%	第127図99
SY2	108, 115	39	KU∼FB	C-9	0.9×0.7	6	0.33%	第125図77, 78
SY3	108, 116	41	KU∼FB	C, D-7	1.4×1.1	30	0.23%	第126図87,88
SY4	108, 115	41	KU∼FB	D-9	0.2×0.2	5	0.40%	
SY5	108, 115	39	KU∼FB	D-8	0.7×0.7	13	0.15%	第125図79,80
SY6	108, 115	40	YLU上面	D-8	0.7×0.6	13	0%	第125図83
SY7	108, 115	39	KU∼FB	D-9	0.7×0.3	5	0.20%	第125図81,82
SY8	108, 116	42	KU∼FB	C-8	2.2×1.4	72	0.26%	第126図91~96 第127図97,98
SY9	108, 115	40	YLU上面	D-7	0.4×0.3	15	0.20%	
SY10	108, 116	41	KU∼FB	C-7	1.4×1.0	28	0.14%	第126図89,90
SY11	108, 115	40	YLU上面	C-7	0.6×0.4	5	0%	第125図84~86

第32表 向山遺跡土坑・小穴の概要

() は残存値

	THEM I		1	1	1	I			()	は残存値
遺構名	挿 図	図版	検出面	グリッド	種 類	規模(m) 長径×短径	最大深 (m)	平面形態	遺	物
SK1	89, 91		obs	D-8	土坑	3.6×3.6	0.2	円形		
SK2	89, 91		obs	D-8	土坑	1.0×1.0	0.1	円形		
SK3	89, 91	30	obs	E-8	土坑	1.1×1.0	0.1	円形		
SK47	89, 91		obs	E-6	土坑	1.2×1.2	0.1	円形		
SK48 SK49	89, 91 89, 91	30	クロ クロ	E, F-5 E-6	土坑	1.1×1.0	0.3	円形 佐田形		
		30	クロ	E-6 E-5	土坑	1.3×1.0				
SK50 SK51	89, 91 89, 91		クロ	E-6	土坑 土坑	1.2×1.2 1.2×1.0	0.1	円形 楕円形		
SK52	89, 91		obs	E-6	土坑	1.2 × 1.0 1.1 × 1.0	0.3	作口形 楕円形		
SK52 SK53	89, 92		クロ	F-6	土坑	1.1×1.0 1.3×1.2	0.1	円形		
SK55	89, 92		クロ	F-5	土坑	0.9×0.9	0.2	円形		
SK56	89, 92		クロ	D-7	土坑	1.2×1.1	0.2	円形		
SK57	89, 92		obs	C-7	土坑	1.1×1.1	0.1	円形		
SK4	94, 102	35	KU~FB	D-10	土坑	$(1.3) \times (0.8)$	0.1	不整形		
SK72	94	00	KU~FB	D-8, 9	土坑	1.0×0.5	0.3	長楕円形		
SK73	94		KU~FB	D-8	土坑	0.8×0.5	0.1	不整形		
SK74	94		KU~FB	D-8	土坑	0.7×0.6	0.3	<u></u>		
SK75	94		KU~FB	D-8	土坑	0.9×0.4	0.1	長楕円形		
SK76	94		KU~FB	D-8	土坑	0.6×0.4	0.4	権円形		
SK77	94		KU~FB	C-9	土坑	0.7×0.6	0.8	不整形		
SK78	94		KU~FB	C-9	土坑	0.6×0.4	0.8	長楕円形		
SK79	94		KU~FB	C-9	土坑	0.6×0.5	0.9	<u></u>		
SK134	94, 103	35	KU~FB	E-5	土坑	_	_	楕円形		
SK134	94, 103	35	KU~FB	E-5	土坑	_	_	<u></u>		
SK80	94	- 00	KU~FB	D-8	土坑	0.7×0.5	0.4	長楕円形		
SP1	94		KU~FB	E-8	小穴	0.4×0.4	0.2	円形		
SP3	94		KU~FB	E-8	小穴	0.6×0.5	0.2			
SP4	94		KU~FB	D-8	小穴	0.4×0.3	0.4	円形		
SP7	94		KU~FB	D-9	小穴	0.3×0.3	0.3	円形		
SP9	94		KU~FB	D-9	小穴	0.4×0.3	0.8	円形		-
SP12	94		KU~FB	D-8	小穴	0.5×0.4	0.1			
SP13	94		KU~FB	D-8	小穴	0.4×0.4	0.6	円形		
SP19	94		KU~FB	D-7	小穴	0.4×0.4	0.3	楕円形		
SP21	94		KU~FB	C-8	小穴	0.4×0.3	0.6	<u>精円形</u>		
SP22	94		KU~FB	C-8	小穴	0.4×0.3	0.4	円形		
SP23	94		KU~FB	C-8	小穴	0.3×0.3	0.3	円形		
SP26	94		KU~FB	C-8	小穴	0.4×0.4	0.3	楕円形		
SP27	94		KU~FB	C-8	小穴	0.4×0.3	0.5	円形		
SP29	94		KU~FB	C-8	小穴	0.3×0.3	0.6	円形		
SP30	94		KU~FB	C-8	小穴	0.5×0.4	0.6	楕円形		
SP32	94		KU~FB	C-8	小穴	0.4×0.3	0.4	楕円形		
SP33	94		KU∼FB	C-9	小穴	0.4×0.3	0.1	楕円形		
SP34	94		KU∼FB	C-9	小穴	0.2×0.2	0.1	楕円形		
SP37	94		KU∼FB	D-9	小穴	0.5×0.4	0.9	楕円形		
SP38	94		KU∼FB	D-9	小穴	0.4×0.3	0.2	楕円形		
SP39	94		KU∼FB	D-9	小穴	0.5×0.3	0.1	長楕円形		
SP40	94		KU~FB	D-9	小穴	0.3×0.3	0.2	楕円形		
SP42	94	İ	KU∼FB	C-9	小穴	0.5×0.4	0.2	不整形		
SP44	94		KU∼FB	D-9	小穴	0.3×0.3	0.2	楕円形		
SP45	94		KU~FB	D-9	小穴	0.4×0.3	0.7	楕円形		
SP46	94	İ	KU∼FB	D-9	小穴	0.4×0.3	0.8	楕円形		
SP47	94	Ì	KU∼FB	C, D-9	小穴	0.2×0.2	0.2	円形		
SP48	94		KU∼FB	C-9	小穴	0.4×0.3	0.6	楕円形		
SP52	94		KU∼FB	C-9	小穴	$0.5 \times (0.3)$	(0.3)	楕円形		
SP53	94		KU∼FB	C-9	小穴	0.4×0.4	0.1	楕円形		
SP54	94		KU∼FB	C-9	小穴	0.3×0.3	0.2	円形		
SP55	94		KU∼FB	D-9	小穴	0.3×0.3	0.8	円形		
SP57	94		KU∼FB	C-9	小穴	0.4×0.3	0.6	楕円形		
SP59	94		KU∼FB	C-9	小穴	0.3×0.3	0.4	楕円形		
SP61	94		KU∼FB	C-9	小穴	0.4×0.4	0.2	楕円形		
SP62	94		KU∼FB	C-9	小穴	0.3×0.3	0.3	楕円形		
SP65	94		KU~FB	C-9	小穴	0.4×0.3	0.8	楕円形		
SP66	94		KU~FB	D-8	小穴	0.5×0.4	0.3	楕円形		
SP67	94	İ	KU∼FB	D-8	小穴	0.4×0.4	0.9	円形		
SP70	94		KU~FB	D-8	小穴	0.3×0.3	0.3	円形		
SP72	94		KU∼FB	C-9	小穴	0.4×0.4	0.5	楕円形		

遺構名	挿 図	図版	検出面	グリッド	種類	規模(m) 長径×短径	最大深 (m)	平面形態	遺物
SP76	94		KU~FB	В, С-9	小穴	0.4×0.4	0.5	楕円形	
SP77	94		KU∼FB	C-9	小穴	0.4×0.4	0.5	楕円形	
SP80	94		KU∼FB	C-9	小穴	0.4×0.5	0.5	楕円形	
SP81	94		KU∼FB	C-9	小穴	0.4×0.3	0.2	楕円形	
SP82	94		KU~FB	C-9	小穴	0.4×0.3	0.1	楕円形	
SP85	94		KU∼FB	C-10	小穴	0.3×0.3	0.2	楕円形	
SP90	94		KU~FB	D-10	小穴	0.4×0.3	0.3	楕円形	
SP94	94		KU~FB	D-9	小穴	0.5×0.4	0.2	楕円形	
SP95	94		KU~FB	C-8	小穴	0.4×0.4	0.4	円形	
SP96 SP99	94		KU∼FB KU∼FB	C-9 D-9, 10	小穴 小穴	0.3×0.3 0.3×0.3	0.2	円形 楕円形	
SP101	94		KU~FB	D-9, 10 D-9	小穴	0.3 × 0.3 0.4 × 0.4	0.4	円形	
SP102	94		KU~FB	D-9	小穴	0.4×0.4 0.2×0.2	0.4	円形	
SP103	94		KU~FB	D-9	小穴	0.3×0.2	0.5	円形	
SP104	94		KU~FB	D-9	小穴	0.3×0.3	0.7	円形	
SP108	94		KU~FB	E-8	小穴	0.3×0.3	0.6	<u></u>	
SP111	94		KU∼FB	E-8, 9	小穴	0.6× (0.2)	0.1	長楕円形	
SP119	94		KU∼FB	D-7	小穴	0.4×0.4	0.1	楕円形	
SP120	94		KU∼FB	E-6	小穴	0.2×0.2	0.1	円形	
SP122	94		KU∼FB	E-6	小穴	0.4×0.4	0.3	円形	
SP127	94		KU∼FB	E-5	小穴	0.4×0.3	0.2	楕円形	
SP129	94		KU~FB	E-6	小穴	0.3×0.2	0.2	楕円形	
SK5	108		YLU上面	D-9	土坑	0.6×0.6	0.2	円形	
SK6	108, 117		YLU上面	D-9	土坑	1.3×0.9	0.3	長楕円形	
SK7	108, 118		YLU上面	D-9	土坑	1.6×1.2	0.2	不整形	
SK9	108		YLU上面	C-9	土坑	1.0×0.7	0.3	精円形 E 接田形	₩107₩110 114
SK10	108, 118 108, 118		YLU上面	D-7 D-8	土坑	2.0×1.3 1.4×1.3	0.1	長楕円形 円形	第127図113, 114 第127図112
SK11 SK12	108, 118		YLU上面 YLU上面	D-8 E-8	土坑 土坑	1.4×1.3 1.1×0.8	0.6		弗127凶112
SK12 SK13	108, 117		YLU上面	C, D-8	土坑	1.1×0.8 1.1×0.9	0.2	<u> </u>	第127図104
SK13	108		YLU上面	D-9	土坑	0.8×0.7	0.4	<u></u>	別127回10年
SK14 SK15	108, 117		YLU上面	D-8	土坑	0.8×0.8	0.3		第127図105
SK16	108		YLU上面	D-8	土坑	0.6×0.5	0.3	楕円形	улгаты
SK17	108		YLU上面	D-8	土坑	0.6×0.5	0.3	円形	
SK18	108		YLU上面	D-9	土坑	0.6×0.5	0.1	楕円形	
SK20	108		YLU上面	D-9	土坑	0.5×0.5	0.2	楕円形	
SK25	108		YLU上面	D-10	土坑	0.5×0.4	0.2	楕円形	
SK26	108		YLU上面	C-9	土坑	1.3×0.9	0.3	長楕円形	
SK28	108, 117		YLU上面	C-8	土坑	0.9×0.6	0.2	楕円形	第127図108
SK29	108, 117		YLU上面	D-8	土坑	1.0×0.7	0.2	長楕円形	第127図100
SK30	108		YLU上面	C, D-8	土坑	0.7×0.7	0.2	楕円形	
SK31	108		YLU上面	D-9	土坑	0.8×0.6	0.3	楕円形	Maria
SK32	108, 117		YLU上面	C-8	土坑	1.0×0.8	0.2	楕円形	第127図109~111
SK34	108		YLU上面	C-8	土坑	0.6×0.4	0.1	楕円形 楕円形	
SK35 SK36	108 108, 117		YLU上面 YLU上面	C-8 C-8	土坑	0.5×0.4 0.5×0.5	0.1		第127図101~103
SK36 SK38	108, 117		YLU上面	D-8	土坑土坑	0.5×0.5 0.8×0.6	0.1	梅円形 長楕円形	为121囚101~103
SK39	108, 118		YLU上面	В, С-9	土坑	2.5×1.2	0.4	長楕円形	第127図117, 118
SK41	108, 118		YLU上面	C-9	土坑	2.0×1.6	0.3	長楕円形	第127図120, 121
SK42	108		YLU上面	D-9	土坑	0.8×0.7	0.2	楕円形	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
SK43	108, 118		YLU上面	C-9	土坑	1.1×0.8	0.7	長楕円形	第127図115, 116
SK44	108, 118		YLU上面	C-9	土坑	1.2×0.8	0.2	長楕円形	
SK45	108		YLU上面	C-8	土坑	0.7×0.5	0.2	長楕円形	
SK46	108		YLU上面	C-8	土坑	0.6×0.5	0.1	楕円形	
SK63	108, 117		YLU上面	D-7	土坑	0.7×0.6	0.4	円形	
SK64	108, 117		YLU上面	D-7	土坑	0.7×0.5	0.2	長楕円形	
SK65	108, 117		YLU上面	E-7	土坑	0.6×0.4	0.1	長楕円形	
SK67	108		YLU上面	D-5	土坑	0.5×0.3	0.2	長楕円形	
SK68	108		YLU上面	D-5, 6	土坑	0.7×0.6	0.3	楕円形	tota a na maria
SK70	108, 117		YLU上面	C-5	土坑	0.5×0.3	0.3	長楕円形	第127図106, 107
SK82	108		YLU上面	E-8	土坑	0.9×0.8	0.1	円形	
SK81	108		YLU上面	C-8	小穴	0.6×0.4	0.7	長楕円形	
SP112	108		YLU上面	C-8	小穴	0.4×0.3	0.2	楕円形 梅田形	
SP113	108		YLU上面 YLU上面	C-8 C-8	小穴 小穴	0.5×0.4 0.4×0.4	0.5		
QD11=	100				/11//	u.4 ∧ U.4	U.4	ロルシ	t contract to the contract to
SP115 SP116	108				-				
SP115 SP116 SP132	108 108 108		YLU上面 YLU上面	C-8 D-5	小穴	0.4×0.4 0.4×0.3	0.2	円形 楕円形	

第33表 向山遺跡中世·古墳時代土器観察表

挿図 番号		出土位置	種別	器種	部 位	残存率 (%)	器高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	色調	調整	備考
1	田力	SD1覆土	陶磁器	埦	底部	95	(2.9)	(cm)	(6.4)	10YR7/4にぶい黄橙	外面:回転ナデ 貼付高台 底部糸切り痕 内面:回転ナデ	
2		SH1覆土	土師器	壺	底部		(2.1)			10YR5/3にぶい黄褐	外面:縦ハケ後横ヘラミガキ 内面:横ハケ後ナデ	
3		SH1覆土	土師器	小型鉢			(2.55)	(6.5)	(5.2)	10YR7/4灰黄褐	外面:横ヘラミガキ 内面:横ヘラミガキ	
4	43	SH10床面	土師器	壺		70	18.4	(10.9)	7.5	5YR6/4にぶい橙	外面:口縁部斜めハケ 胴部横へラミガキ 内面:胴部横ハケ	外内面磨滅
5	43	SH10床面	土師器	壺	口縁部~頸部		(11.0)	(13.6)		2.5Y7/2灰黄	外面: 不明 内面: 横ハケ後ナデ	外内面磨滅
6	43	SH10床面	土師器	壺	口縁部~頸部		(8.7)	(15.5)		10YR6/4にぶい黄橙	外面:縦ヘラミガキ 内面:横ヘラミガキ	内面磨滅
7	43	SH10床面	土師器	壺	口縁部~胴部		(11.0)	(17.2)		5YR6/4にぶい橙	外面:口縁部〜頸部縦ヘラミガキ 胴部 LR縄文2段 円形浮文 内面:頸部横ヘラミガキ 口縁部LR縄文	
8	43	SH10床面	土師器	壺	胴部~底部		(16.9)		9.8	5YR7/6橙	外面:斜めハケ後ヘラミガキ? 内面:横ハケ・斜めハケ	外面磨滅 底部木葉痕
9		SH10床面	土師器	壺	胴部~底部		(7.9)		9.0	7.5YR7/6橙	外面:横ヘラミガキ 内面:横ハケ後ナデ	底部木葉痕
10		SH10覆土	土師器	壺	底部		(4.9)		(11.2)	7.5YR6/6橙	外面:斜めハケ後ナデ 内面:斜めハケ後ナデ	
11		SH10覆土	土師器	壺	底部		(2.4)		(9.6)	10YR4/2灰黄褐	外面:横ヘラミガキ 内面:横ハケ	
12		SH10床面	土師器	甕	口縁部		(4.5)	(17.4)		7.5YR6/6橙	外面:横ハケ後横へラミガキ 内面:横ハケ後横へラミガキ	
13	43	SH11覆土	土師器	壺		80	21.3	(12.0)	8.6	7.5YR7/4にぶい橙	外面:縦ヘラミガキ 胴部円形浮文 底部 斜めハケ 内面:横ハケ	外内面磨滅 底部木葉痕
14	43	SH11覆土	土師器	壺		90	28.2	(15.5)	8.8	7.5YR7/6橙	外面:口縁部~頸部縦ヘラミガキ 胴上 部斜めヘラミガキ 胴下部横ヘラミガキ 内面:口縁部横ハケ後横ヘラミガキ 頸 部ナデ 胴部横ハケ後ナデ	底部木葉痕
15	43	SH11覆土	土師器	壺		95	20.4	9.1	9.1	7.5YR6/3にぶい褐	外面:横ヘラミガキ 内面:口縁部横ヘラミガキ 胴部横ハケ 後ナデ	
16	43	SH11覆土	土師器	壺	口縁部		(12.3)	(24.0)		10YR7/4にぶい黄橙	外面:縦ヘラミガキ 内面横ハケ	外内面磨滅
17		SH11覆土	土師器	壺	底部		(2.5)		(10.2)	7.5YR5/3にぶい褐	外面:縦ハケ後横ヘラミガキ 内面:斜めハケ	
18		SH11覆土	土師器	壺	底部		(2.1)		(11.4)	7.5YR6/4にぶい橙	外面:横ヘラミガキ 内面:横ハケ	
19	43	SH11覆土	土師器	台付甕			(28.3)	(20.5)		5YR7/8橙	胴部外面:口縁部斜めハケ 胴部横ハケ 胴部内面:横ハケ 脚部外面:縦ハケ 脚部内面:横ハケ	
20	43	SH11覆土	土師器	台付甕		80	23.1	17.2	9.0	7.5YR7/4にぶい橙	胴部外面:口縁部横ハケ 頸部縦ハケ 胴部横ハケ後ナデ 口唇部キザミ 胴部内面:横水ケ 脚部外面:横水ケ後ナデ 脚部内面:横八ケ後ナデ	
21	44	SH11覆土	土師器	甕	口縁部~胴部		(20.5)	21.9		7.5YR7/4にぶい橙	外面:口縁部縦ハケ 胴部横ハケ 内面:横ハケ	
22	44	SH11覆土	土師器	台付甕	脚部		(7.2)		9.6	7.5YR6/4にぶい橙	外面:縦ハケ 内面:横ハケ	
23	44	SH11覆土	土師器	台付甕	脚部		(8.4)		(10.3)	7.5YR7/6橙	外面:横ハケ後縦ハケ 内面:横ハケ	
24		SH11覆土	土師器	小型鉢		25	3.5	(8.7)	(5.0)	10YR6/3にぶい黄橙	外面:ナデ 内面:横ハケ	
26	44	KU	土師器	小型鉢		100	4.8	5.5	3.8	5YR5/6明赤褐	外面:指頭ナデ 内面:指頭ナデ	

第34表 向山遺跡古墳時代金属製品属性表

挿図番号	図版番号	出土遺構	層位	器 種	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)
25	44	SH11	覆土	銅鏃	(2.20)	(1.05)	(0.30)

第35表 向山遺跡古墳時代石製品属性表

挿図番号	図版番号	出土遺構	層位	器 種	石 材	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
27	44	SD1		磨製石鏃	珪質頁岩	4.00	1.65	0.2	1.68

第36表 向山遺跡縄文時代土器観察表

7500		1 3 11 12		てんれていても	1 10000 20		
挿図 番号	図版 番号	遺構 番号	位置	分 類	色 調	胎土	文 様・調 整 等
28	44	SH14 P1	覆土	Ⅲ群3類 a	5YR4/6橙	長石·灰色·黒色砂粒	渦巻状・楕円形・逆U字状の隆帯と沈線の区画内に縦位・斜位の沈線
29	44	SH14	覆土	Ⅲ群3類 a	7.5YR5/4にぶい褐	長石·石英	口唇部渦巻状の沈線、口縁に環状把手を付け、円形の沈線区画内に刺 突、胴部渦巻状の隆帯と沈線の区画内に縦波状垂下沈線・斜位沈線
30	44	SH14	覆土	Ⅲ群3類 a	5YR5/6明赤褐	長石·石英	楕円形の沈線、台形の隆帯と沈線の区画内に縦位沈線
31	44	SH14	覆土	Ⅲ群3類 a	10YR7/4にぶい黄橙	長石·石英	隆帯と沈線の区画内に縦位沈線
32	44	SH14	覆土	Ⅲ群3類 a	5YR5/6明赤褐	長石•石英	渦巻状の隆帯と沈線の区画内に縦位沈線
33	44	SH14	覆土	Ⅲ群3類 a	5YR6/6橙	長石•石英	渦巻状の隆帯と沈線の区画内に縦位沈線
34	44	SH14	覆土	Ⅲ群3類 a	7.5YR5/4にぶい褐	長石•石英	渦巻状の隆帯と沈線の区画内に縦位・斜位の沈線
35	44	SH14	覆土	Ⅲ群3類	10YR5/4にぶい黄褐	長石•石英	口唇部楕円形の沈線、外面横位沈線、特殊な器形
36	44	SH14	覆土	Ⅲ群3類 e	7.5YR5/4にぶい褐	長石•石英	相互刺突、横位波状沈線、L撚糸文、弧状沈線
47	44	TA2	覆土		7.5YR4/3褐	長石•石英	LR縄文とLRの環付縄文
48	44	TA2	覆土		10YR4/3にぶい黄褐	長石•石英	LR縄文
49	44	TA2	覆土		5YR5/6明赤褐	長石·石英	外面擦痕、内面指頭痕
50	44	TA2	覆土		10YR5/4にぶい黄褐	長石·石英	指頭痕
51	44	TA2	覆土	II 群1類 e	7.5YR4/4褐	長石•石英	外面無文、内面指頭痕
52	44	TA3	覆土		10YR6/4にぶい黄橙	長石·石英	横位の摘み痕、擦痕、指頭の調整痕
58	44	TA4	覆土		7.5YR5/4にぶい褐	長石•石英	横位の絡条体圧痕、内面擦痕
59	44	TA4	覆土	II 群2類 j	5YR5/6明赤褐	長石•石英	RL縄文
61	44	TA6	_	II 群2類 c	7.5YR4/2灰褐	長石·石英	波状口縁、口唇部直下に連続爪形文、横位の沈線区画、上段は横位矢羽 根状沈線、縦位結節浮線文、下段は縦位矢羽根状沈線、2個1個単位の円 形貼付文、
62	44	TA6	_		7.5YR4/3褐	長石•石英	口唇部直下に連続爪形文、横位の沈線区画、上段は横位矢羽根状沈線、 縦位結節浮線文、下段は縦位矢羽根状沈線、2個1個単位の円形貼付文
63	44	TA6	_		7.5YR5/4にぶい褐	長石·石英	矢羽根状沈線、円形貼付文
64	44	TA6			7.5YR4/4褐	長石·金雲母	横位矢羽根状沈線、円形貼付文
65	44	TA6	_		7.5YR5/4にぶい褐	長石•石英	矢羽根状沈線
66	44	TA6			7.5YR4/4褐	長石・金雲母	横位沈線、円形貼付文
67	44	TA6	_		7.5YR4/3褐	長石•石英	横位矢羽根状沈線、一部に菱形文、円形貼付文
68	44	TA6	_		7.5YR5/4にぶい褐	長石・金雲母	横位結節浮線文、円形貼付文
69	44	TA6			10YR4/3にぶい黄褐	長石•石英	横位・斜位の沈線、斜位の結節浮線文、円形貼付文
70	44	TA6	_		7.5YR5/4にぶい褐	長石・金雲母	斜位沈線、円形浮線文
71	4.4	TA6			7.5YR4/3褐	長石・金雲母	横位沈線
72	44	TA6	_		7.5YR4/3褐	長石・金雲母	横位沈線
73	44	TA6 SK36			7.5YR4/4褐	長石·石英 長石·赤色粒子·細砂·繊維	無文、円孔
101	44	SK36		I 群2類 l	5YR5/6明赤褐 5YR5/6明赤褐	長石・細砂	外面横位の刻目、内面調整痕 外面斜位の擦痕、内面調整痕
102		SK36	_	I 群2類 I	5YR6/6橙	石英·長石·細砂	外面横位・斜位の擦痕、内面擦痕
103		SK13	_	II群1類 e	7.5YR4/3褐	長石•黒雲母	外面擦痕、内面指頭痕
105	44	SK15	_	I 群2類 b	7.5YR6/6橙	長石・細砂	波状口縁、口縁に沿った粘土紐に斜位の刻目
106	77	SK70	_	Ⅲ群1類 a	7.5YR5/4にぶい褐	長石•雲母•黒色粒子	縦位調整痕
107	44	SK70			5YR5/6明赤褐	石英·雲母·細砂	地文にRL縄文、斜位の蒲鉾状沈線
108	**	SK28	_		5YR5/6明赤褐	石英·細砂	横位擦痕
109		SK32	_	I 群2類 I	7.5YR5/4にぶい褐	細砂・長石	外面横位擦痕、内面条痕
110		SK32	_	I 群2類 I	7.5YR6/6橙	長石·細砂	内面擦痕
112	44	SK11			5YR4/3にぶい赤褐色		菱形状沈線、3個1単位の円形貼付文
113	44	SK10	_	I 群1類 g		長石•赤褐色粒子•繊維	横位の微隆起線に刻目
114	A-X	SK10	_		7.5YR6/6橙	長石•雲母•細砂	外面斜位調整痕、内面擦痕
115	44	SK43	_		10YR3/2黒褐	長石・細砂	横位の刻目
116		SK43	_	II 群2類 g	7.5YR5/4にぶい褐	長石•黒色粒子•細砂	風化のため文様不明
117		SK39	_	I 群2類 l	7.5YR6/6橙	長石•繊維	外面斜位調整痕、内部擦痕
118	44	SK39	_	I 群2類 1	10YR7/4にぶい黄橙	長石·細砂	斜位の絡条体圧痕
119	44	SP133	_	Ⅲ群1類 a	7.5YR4/4褐	長石·石英	Y字状の粘土紐に密接蒲鉾状平行沈線と沈線の斜格子文
120	44	SK41	_	I 群2類 a	10YR7/4にぶい黄橙	長石·石英·細砂	口唇部刻目、外面横位の刻目、内面擦痕
121		SK41	_	I 群2類 a	7.5YR6/6橙	長石·石英·細砂	外面擦痕、内面斜位条痕
122	44	SX3	KU	Ⅲ群3類 a	7.5YR5/4にぶい褐	長石·石英·灰色砂粒	渦巻状の隆帯と沈線の区画内に縦位沈線
127	46		KU	I 群1類 a	10YR5/3にぶい黄褐	長石·雲母	縦位のR撚糸文
128	46		KU	I 群1類 a	10YR5/3にぶい黄褐	長石·雲母	縦位のR撚糸文
129	46		KU	I 群1類 a	10YR5/3にぶい黄褐	長石·雲母	縦位のR撚糸文
130	46		KU	I 群1類 a	10YR5/3にぶい黄褐	長石·雲母	縦位のR撚糸文
131	46		KU	I 群1類 a	10YR5/3にぶい黄褐	長石·雲母	縦位のR撚糸文
132	46		KU	I 群1類 a	7.5YR6/4にぶい橙	長石·雲母·礫	縦位のR撚糸文
133	46		KU	I 群1類 a	10YR6/4にぶい黄橙	長石·雲母	縦位のR撚糸文
134	46		KU	I 群1類 a	10YR6/3にぶい黄橙	長石·雲母	縦位のR撚糸文
135			KU		10YR6/4にぶい黄橙	長石	楕円押型文
136			KU		7.5YR5/3にぶい褐	長石	楕円押型文
137	46		KU	I 群1類 c	10YR6/4にぶい黄橙	長石·雲母	楕円押型文
138	46		KU	I 群1類 c	10YR6/4にぶい黄橙	長石·雲母	楕円押型文
139	46		KU	I 群1類 c	10YR6/4にぶい黄橙	石英·黒色粒子	楕円押型文

挿図	図版	遺構	/± 190	V *2	. Δ. ∃E	86 1	
番号	番号	番号	位置	分類	色調	胎 土	文様・調整等
140	46		KU	I 群1類 c	7.5YR4/2灰褐	長石•雲母	横位と縦位の楕円押型文
141	46		KU	I 群1類 c	5YR5/6明赤褐	長石	楕円押型文
142			KU	I 群1類 c	10YR6/3にぶい黄橙	長石	楕円押型文
143	46		KU	I 群1類 c	10YR6/3にぶい黄橙	長石・小礫	楕円押型文
144	46		KU	I 群1類 c	10YR6/3にぶい黄橙	長石	楕円押型文
145	46 46		KU	I 群1類 c	10YR6/4にぶい黄橙	長石	楕円押型文
146 147	40		KU KU	I 群1類 c	10YR7/4にぶい黄橙 10YR7/4にぶい黄橙	長石	楕円押型文 楕円押型文
148	46		KU	I 群1類 c	10TR7/4にふい黄檀 10YR6/3にぶい黄橙	長石	· 精円押型文
149	46		KU	I 群1類 c	5YR5/2灰褐	長石	楕円押型文
150			KU	I 群1類 c	10YR6/3にぶい黄橙	長石	· 精円押型文
151	46		KU	I 群1類 c	10YR5/3にぶい黄褐	長石	山形風に彫刻した楕円押型文
152	46		KU	I 群1類 c	10YR6/4にぶい黄橙	長石	楕円押型文
153	46		KU	I 群1類 c	7.5YR6/4にぶい橙	長石	縦位の山形押型文
154	46		KU	I 群1類 c	7.5YR5/3にぶい褐	長石	縦位の山形押型文
155	46		KU	I 群1類 c	10YR7/4にぶい黄橙	長石·小礫	縦位の山形押型文
156	46		KU	I 群1類 c	10YR7/4にぶい黄橙	長石	縦位の山形押型文
157	46		KU	I 群1類 c	10YR6/4にぶい黄橙	小礫	縦位の山形押型文
158			KU	I 群1類 c	7.5YR6/4にぶい橙	赤褐色粒子	斜位の山形押型文
159			KU	I 群1類 c	7.5YR7/4にぶい橙	長石	斜位の山形押型文
160			KU	I 群1類 d	5YR4/3にぶい赤褐	長石•金雲母	地文に斜位沈線、横位沈線
161			KU	I 群1類 e	7.5YR6/4にぶい橙	長石・小礫・白色粒子・繊維	口縁部に段、口唇部斜位の1絡条体圧痕、有段部斜位の1絡条体圧痕、下 に横位の1絡条体圧痕
162	46		KU	I 群1類 e	5YR4/6赤褐	長石・小礫・白色粒子・繊維	口縁部に段、口唇部斜位のr絡条体圧痕、有段部斜位のr絡条体圧痕、下 に横位のr絡条体圧痕
163	46		KU	I 群1類 e	5YR6/6橙	長石・小礫・黒色・白色粒子・繊維	口縁部に段、口唇部斜位の1絡条体圧痕、有段部斜位の1絡条体圧痕、下 に横位の1絡条体圧痕
164			KU	I 群1類 e	7.5YR6/6橙	長石・小礫・白色粒子・繊維	斜格子状のr絡条体圧痕、補修孔
165	46		KU	I 群1類 e	7.5YR6/6橙	長石・小礫・白色粒子・繊維	鋸歯状の1絡条体圧痕
166	46		_	I 群1類 e	7.5YR6/6橙	長石・小礫・白色粒子・繊維	斜位の1絡条体圧痕
167			KU	I 群1類 e	7.5YR6/6橙	長石・小礫・白色粒子・繊維	斜位の1絡条体圧痕
168			KU	I 群1類 e	7.5YR6/6橙	長石・小礫・白色粒子・繊維	鋸歯状の1絡条体圧痕
169			KU	I 群1類 e	7.5YR6/6橙	長石·小礫·白色粒子·繊維	斜位の1絡条体圧痕
170	46		KU	I 群1類 f	5YR5/6明赤褐	長石・小礫・繊維	縦位のr絡条体圧痕
171			KU	I 群1類 f	5YR6/6橙	長石	口唇部斜位の1絡条体圧痕、縦位の1絡条体圧痕
172	4.0		KU	I 群1類 f	5YR5/6明赤褐	長石・小礫	口唇部r絡条体圧痕、縦位のr絡条体圧痕
173	46		KU	I 群1類 f	7.5YR6/6橙	長石・小礫	縦位のr絡条体圧痕
174				I 群1類 f	5YR5/6明赤褐	長石・小礫 長石・黒色・赤褐色・白色粒	縦位のr絡条体圧痕
175	46		KU	I 群1類 g	5YR6/8橙	子•繊維 長石•黒•赤褐色•白色粒子•	横位の微隆起線に1絡条体圧痕、下に横位・斜位の1絡条体圧痕
176 177	46		- KU	I 群1類 g I 群1類 g	7.5YR6/6橙 7.5YR6/6橙	繊維 長石·黒色·白色粒子·繊維	横位の微隆起線、下に横位の1絡条体圧痕 横位の微隆起線に1絡条体圧痕、上に横位・斜位の1絡条体圧痕
178			KU	I 群1類 g	5YR6/6橙	長石・小礫・白色粒子・繊維	横位の微隆起線、上に絡条体圧痕
179			KU	I 群1類 g	5YR6/6橙	長石・小礫・白色粒子・繊維	横位の微隆起線、上に横位の絡条体圧痕
180			KU		5YR6/6橙	長石・石英・赤褐色・白色粒子・繊維	
181			KU	I 群1類 g	5YR6/6橙	長石·赤褐色·白色粒子·繊維	横位の微隆起線、下に横位の1絡条体圧痕
182			KU	I 群1類 g	5YR5/3にぶい赤褐	長石·赤褐色·白色粒子·繊維	横位の微隆起線、上に横位のr絡条体圧痕
183			KU	I 群1類 g	5YR5/6明赤褐	長石・白色粒子・繊維	口唇部1絡条体圧痕、横位の絡条体圧痕、一部絡条体の軸が梯子状に付く
184	46		KU	I 群1類 g	7.5YR6/6橙	長石・小礫・白色粒子・繊維	^ 口唇部絡条体圧痕、横位・斜位の1絡条体圧痕、内面調整痕
185	46		KU	I 群1類 g	5YR6/6橙	長石·白色粒子·繊維	横位の1絡条体圧痕
186	46		KU	I 群1類 g	5YR5/6明赤褐	長石·小礫·白色粒子·繊維	横位の1絡条体圧痕
187			KU	I 群1類 g	7.5YR4/4褐	長石・黒色・白色粒子・小礫・ 繊維	横位の1絡条体圧痕
188			KU	I 群1類 g	7.5YR6/4にぶい橙	長石・白色粒子・小礫・繊維	横位の1絡条体圧痕
189			KU	I 群1類 g	7.5YR6/6橙	石英·黒色·白色粒子·繊維	横位の1絡条体圧痕
190			KU	I群1類g	5YR6/4にぶい橙	長石・黒色・白色粒子・小礫・ 繊維	横位・斜位の1絡条体圧痕
191	46		KU	I 群1類 g	7.5YR7/4にぶい橙	長石・黒色・白色粒子・小礫・ 繊維	横位の1絡条体圧痕
192	46		KU	I 群1類 g	5YR5/6明赤褐	長石・黒色・白色粒子・繊維	への字状の1絡条体の軸の片面圧痕
193			KU	I群1類g	5YR6/6橙	長石·赤褐色·白色粒子·小礫·繊維	横位の絡条体の軸の片面圧痕
194			KU	I 群1類 g	7.5YR7/6橙	長石·白色粒子·繊維	斜位の1絡条体の軸の片面圧痕
195			KU	I 群1類 g	5YR6/6橙	長石·赤褐色·白色粒子·小礫·繊維	横位の絡条体の軸の片面圧痕
196			_	I 群1類 g	5YR5/6明赤褐	長石·白色粒子·繊維	横位・斜位の絡条体の軸の片面圧痕
197			KU	I 群1類 g	7.5YR6/4にぶい橙	長石・小礫・白色粒子・繊維	横位のr絡条体圧痕
198			KU	I 群1類 g	7.5YR6/6橙	長石・黒色・白色粒子・繊維	横位のr絡条体圧痕
199	46	7	KU	I群1類g	7.5YR6/6橙	長石·白色粒子·繊維	横位のl絡条体圧痕

		3 May 2 atts			Υ	1	
挿図 番号	図版 番号	遺構番号	位置	分 類	色 調	胎 土	文 様 ・ 調 整 等
200	щ 5	Щ 5	KU	I 群1類 g	7.5YR6/6橙	長石・小礫・白色粒子・繊維	横位のr絡条体圧痕、内面横位の調整痕
201			KU	I群1類g	7.5YR6/6橙	長石·小礫·白色粒子·繊維	横位のr絡条体圧痕
202			KU	I 群1類 g	7.5YR6/6橙	長石·小礫·白色粒子·繊維	横位のl絡条体圧痕
203			KU	I 群1類 g	7.5YR6/6橙	長石・小礫・白色粒子・繊維	横位の1絡条体圧痕
204	46		KU	I群1類g	7.5YR5/4にぶい褐	長石·黒色·白色粒子·繊維	横位の1絡条体圧痕
205			KU		5YR6/6橙	長石•白色粒子•繊維	斜位擦痕、斜位の1絡条体圧痕
206			KU		7.5YR7/6橙	長石・白色粒子・繊維	斜位の1絡条体圧痕
207	46		KU	I 群1類 g	7.5YR6/6橙	長石·雲母·白色粒子·繊維	斜位のr絡条体圧痕
208			KU	I 群1類 g	7.5YR5/4にぶい褐	長石·黒色·白色粒子·小礫· 繊維	斜位の1絡条体圧痕
209			KU	I 群1類 g	5YR6/6橙	長石·白色粒子·繊維	 斜位のr絡条体圧痕
210			KU		10YR7/4にぶい黄橙	長石·雲母·白色粒子·繊維	斜位のr絡条体圧痕
211	46		KU	I群1類g	7.5YR6/6橙	長石・白色粒子・小礫・繊維	波状口縁、口唇部に絡条体圧痕、口縁に沿った絡条体圧痕、内面擦痕
212			KU	I群1類g	10YR6/4にぶい黄橙	長石·白色粒子·小礫·繊維	口唇部に絡条体圧痕、横位の1絡条体圧痕
213			KU	I 群1類 h	5YR5/4にぶい赤褐	長石•雲母	縦矢羽根状の沈線、円形刺突文
214	47		KU		10YRにぶい黄橙	長石	横位・斜位の刻目
215			KU		7.5YR7/6橙	長石•繊維	波状口縁、外内面に条痕、外内面口唇部に刻目
216	47		KU		7.5YR6/6橙	長石・繊維	波状口縁、外内面に条痕、外内面口唇部に刻目、横位の刻目文
217	47				7.5YR6/4にぶい橙	長石•石英•繊維	外内面に条痕、口唇部に刻目、横位の刻目文
218 219	47		KU		5YR6/6橙 5YR6/6橙	長石·繊維 長石·石英	波状口縁、外内面口唇部に刻目 口唇部に刻目、横位の刻目文
219	47		KU		5YR6/6橙	長石・繊維	口唇部に刻日、傾位の刻日文 波頂部の楕円形の突起に刻目、横位の刻目文
221	47		KU		7.5YR7/4にぶい橙	長石•繊維	波頂部の楕円形の突起、地文に条痕、横位の刻目文
222	47		KU		2.5YR4/4にぶい赤褐	長石・小礫・繊維	波頂部の突起に刻目、口唇部貝殻腹縁の刻目、内面横位の貝殻腹縁文
223			KU		5YR5/6明赤褐	長石	口唇部刻目、横位の刻目文
224			KU		7.5YR4/6褐	長石	口唇部刻目、横位の刻目文
225	47		KU	I 群2類 a	10YR7/4にぶい黄橙	長石•繊維	外内面斜位の条痕、横位の刻目文
226	47		KU	I 群2類 a	10YR7/4にぶい黄橙	長石·石英·繊維	外面擦痕、横位・斜位の刻目文
227	47		KU	I 群2類 a	5YR6/6橙	長石·黒色粒子·小礫·繊維	斜位の刻目文
228	47		KU	I 群2類 a	10YR4/2灰黄褐	長石·石英·繊維	横位擦痕、横位・斜位の刻目文
229	47		KU		7.5YR7/6橙	長石·繊維	外内面条痕、横位の刻目文
230	47		KU		7.5YR7/6橙	長石·繊維	外内面条痕、斜位の刻目文
231					7.5YR6/4にぶい橙	長石•石英•繊維	外内面横位の条痕、斜位の刻目文
232	45		KU	I 群2類 a	10YR6/4にぶい黄橙	長石・繊維	斜位条痕、横位の刻目文
233	47		KU		10YR6/4にぶい黄橙	長石・黒色粒子	波状口縁、口唇部に刻目、弧状の粘土紐に刻目
234	47		KU		10YR8/3浅黄橙 10YR7/4にぶい黄橙	長石・小礫	口唇部に刻目、横位の粘土紐に刻目 横位の粘土紐に刻目
236			KU		101R7/4にぶい黄檀 10YR7/4にぶい黄橙	長石	横位の粘土紐に刻目
237			KU		2.5Y8/3淡黄	長石	横位の粘土紐に刻目
238			KU		5YR6/6橙	長石	横位の粘土紐に浅い刻目
239	47		KU		7.5YR5/6明褐	長石・小礫	口唇部に斜位の沈線、横位の微隆起線状の粘土紐に刻目
240			KU		5YR5/6明赤褐	長石	横位の微隆起線状の粘土紐に刻目
241			KU	I 群2類 b	5YR4/6赤褐	長石	横位の微隆起線状の粘土紐に刻目
242	47		KU	I 群2類 b	5YR5/6明赤褐	長石	横位の微隆起線状の粘土紐に刻目
243			KU	I 群2類 b	5YR5/6明赤褐	長石	横位の微隆起線状の粘土紐に刻目
244			KU		5YR5/4にぶい赤褐	長石	横位の微隆起線状の粘土紐に刻目
245			KU		5YR5/4にぶい赤褐	長石	横位の微隆起線状の粘土紐に刻目
246	<u> </u>		KU		7.5YR5/6明褐	長石	波状口縁、口唇部に刻目、口縁部に沿った粘土紐に刻目
247	47		KU	I 群2類 b	10YR6/4にぶい黄橙	長石	口唇部を指で摘む、横位の粘土紐に刻目
248	477		KU	I群2類b	10YR6/4にぶい黄橙	長石	口唇部を指で摘む、横位の粘土紐に刻目
249 250	47		KU	I 群2類 b	7.5YR6/6橙 7.5YR6/4にぶい橙	長石	横位の粘土紐に刻目
251			KU	I 群2類 b	10YR7/3にぶい恒	長石・繊維	順位の位工証に列目 波状口縁、口唇部に貝殻背圧痕、横位の低い粘土紐に貝殻背圧痕、区画 内に刻目文
252	$\vdash \vdash$		KU	I 群2類 b	10YR8/3浅黄橙	長石・繊維	弧状の低い粘土紐に貝殻腹縁圧痕
253			KU	I 群2類 b	7.5YR7/3にぶい橙	長石・繊維	弧状の低い粘土紐に貝殻背圧痕
254	47		KU	I 群2類 b	7.5YR6/3にぶい褐	長石・繊維	波状口縁、口唇部に貝殻背圧痕、狐状の低い粘土紐に貝殻背圧痕、区画 内に刻目文
255	47		KU	I 群2類 b	7.5YR7/4にぶい橙	長石・繊維	弧状の低い粘土紐に貝殻背圧痕
256	47		KU	I 群2類 b	5YR6/6橙	長石·小礫·繊維	横位の刻目、内面擦痕
257			KU	I 群2類 b	10YR8/4浅黄橙	長石	外面斜位擦痕、内面横位擦痕
258			KU	I 群2類 b	10YR6/4にぶい黄橙	長石·黒色粒子·小礫	外面縱位調整痕、内面橫位条痕、補修孔
259			KU	I 群2類 b	7.5YR7/6橙	長石·黒色粒子	外面斜位擦痕、内面横位擦痕
260			KU	I 群2類 c	5YR3/4明赤褐	長石·繊維	口唇部に貝殼腹縁文、外面地文に斜位条痕、口唇部直下に斜位の連続 貝殼腹縁文、内面横位条痕
261			KU	I 群2類 c	5YR6/6橙	長石·繊維	口唇部直下に斜位の連続貝殻腹縁文
262	47		KU	I 群2類 c	7.5YR4/3褐	長石·石英·繊維	口唇部に貝殼腹縁文、外面地文に斜位条痕、口唇部直下に斜位の連続 貝殼腹縁文、内面横位条痕
263	47		KU	I 群2類 c	5YR6/6橙	小礫・繊維	斜位の連続貝殻腹縁文
264			KU		7.5YR6/6橙	長石·繊維	横位の粘土紐に斜位の連続貝殻腹縁文
265			KU		5YR6/6橙	長石·繊維	横位の粘土紐に斜位の連続貝殻腹縁文
	$\overline{}$				-		

挿図	図版	遺構	/-t- 1993.	V #55	左 細	B/s I	-t- 1% 38 ## ///
番号	番号	番号	位置	分類	色調	胎土	文様・調整等
266	47		KU	I 群2類 c	7.5YR6/6橙	長石•繊維	横位の粘土紐に斜位の連続貝殻腹縁文
267			KU	I 群2類 c	5YR6/6橙	長石·繊維	横位の粘土紐に斜位の連続貝殻腹縁文
268	47		KU	I 群2類 d	7.5YR4/2灰褐	長石・雲母	横位の刻目文
269	47		KU		5YR6/6橙	黒色粒子・小礫	菱形の刻目文 (株は4人工 日の加州4の社会)
270	48 48		KU クロ		2.5Y6/3にぶい黄	長石	櫛歯状工具の弧状の沈線
271	48		KU	I 群2類 e I 群2類 e	2.5Y7/3浅黄 2.5Y7/3浅黄	長石	櫛歯状工具の弧状の沈線 櫛歯状工具の弧状の沈線
273	48		KU	I 群2類 f	7.5YR5/6明褐	長石·礫	四唇部に斜位条痕、外内面に斜位条痕
274	48		KU	I 群2類 f	5YR4/6明赤褐	長石•礫	外面斜位条痕、内面斜位擦痕
275			_	I 群2類 f	7.5YR6/6橙	長石•黒色粒子	外面横位·縦位条痕、内面斜位条痕
	40		121.1		5YR5/4にぶい赤褐	巨工用品數了	波状口縁、口唇部直下に刻目状の斜位沈線、横位・鋸歯状の貝殻腹縁文、
276	48		KU		, , , , , , ,	長石·黒色粒子	内面横位条痕
277	48		KU	I 群2類 g	7.5YR2/1黒	長石・礫	口唇部直下に斜位条痕、横位・菱形の貝殻腹縁文
278	48		KU		7.5YR5/4にぶい褐	長石•黒色粒子	鋸歯状の貝殻腹縁文、内面横位条痕
279	48		KU		5YR4/3にぶい赤褐	長石	貝殼腹緣文 口唇如片目如尾痘 从天地片。海绵目如腹绳子 由天地片久痘
280	48 48		KU KU		5YR5/6明赤褐	長石•礫	口唇部に貝殻圧痕、外面横位の連続貝殻腹縁文、内面横位条痕
281	48		KU		5YR2/1黒褐 5YR5/4にぶい赤褐	長石·礫	斜位の連続貝殻腹縁文 鋸歯状の貝殻腹縁文
283	48		KU		5YR5/6明赤褐	黒色粒子	外面鋸歯状の貝殻腹縁文、内面横位条痕
284	48		KU		5YR5/8明赤褐	黒色粒子•礫	外面鋸歯状の貝殻腹縁文、内面横位条痕
285	48		KU		5YR5/4にぶい赤褐	長石•礫	縦位条痕
286	48		_		5YR4/6赤褐	長石・礫	縦位条痕
287	48		KU		7.5YR6/4にぶい橙	長石·雲母	波状口縁、口縁に沿った粘土紐と口唇部に刻目、外面格子状の沈線
288	48		クロ	I 群2類 h	10YR7/3にぶい黄橙	長石·雲母	弧状の粘土紐に刻目
289	48		KU	I 群2類 h	5YR6/4にぶい橙	長石·雲母	口唇部に刻目、横位の粘土紐に刻目
290	48		KU	I 群2類 h	5YR6/6橙	長石·雲母	横位の断面三角形の粘土紐に刻目
291	48		_	I 群2類 h	5YR6/4にぶい橙	長石·雲母·礫	横位の断面三角形の粘土紐に刻目
292	48		KU	I 群2類 i	10YR7/2にぶい黄橙	長石·雲母·礫	横位・波状の低い粘土紐に貝殻背圧痕
293			KU	I 群2類 k	10YR4/3にぶい黄褐	長石·雲母	口唇部に刻目
294					5YR4/3にぶい赤褐	長石·雲母	横位擦痕
295			KU		5YR5/4にぶい赤褐	長石・雲母	横位擦痕
296 297				I 群2類 k	5YR5/6明赤褐 5YR5/4にぶい赤褐	長石·雲母·砂粒 長石·雲母	内面調整痕 内面横位条痕
298				I 群2類 k	7.5YR6/6橙	長石·雲母	外面調整痕、内面横位条痕
299	48		KU	Ⅱ群1類 a	7.5YR6/6橙	長石•雲母	横位の粘土紐に刻目
300	48		KU	II群1類 a	7.5YR5/4にぶい褐	長石•雲母	口唇部に刻目、横位の粘土紐に刻目、内面斜位条痕
301	48		KU	II群1類 a	7.5YR5/4にぶい褐	長石·雲母·黒色粒子	外面櫛歯状工具の弧状・斜位・横位沈線、内面調整痕
302	48		KU	II 群1類 a	7.5YR5/3にぶい褐	長石·雲母·礫	櫛歯状工具の波状沈線
303	48		KU	II群1類 b	2.5Y4/2暗灰黄	長石•雲母	波状口縁、口縁部と胴部の境に横位の摘み痕、外内面に指頭痕
304	48		KU	II群1類 b	10YR7/4にぶい黄橙	長石·雲母	口縁部と胴部の境に横位の摘み痕、斜位沈線
305	48		KU	II 群1類 b	10YR8/4浅黄橙	長石•雲母	口縁部と胴部の境に横位の摘み痕、斜位沈線、内面に指頭痕
306	48		KU	II 群1類 b	10YR7/4にぶい黄橙	長石·雲母	口縁部と胴部の境に横位の摘み痕、斜位沈線、内面に指頭痕
307	48		KU	II群1類 b	2.5Y7/4浅黄	長石·雲母·黒色粒子	口縁部と胴部の境に摘み痕、下に斜位沈線
308	48		KU	II群1類c	10YR7/4にぶい黄橙	長石·雲母	波状口縁、口唇部爪状の刻目、櫛歯状工具の斜格子状沈線、内面に指頭 痕
309	48		クロ	II 群1類c	2.5Y7/4浅黄	長石•雲母	波状口縁、口唇部爪状の刻目、内面に指頭痕
310	48		_	II群1類c	10YR7/4にぶい黄橙	長石·雲母	波状口縁、口唇部爪状の刻目
311	48		KU	II群1類c	10YR7/6明黄褐	長石·雲母	口縁部と胴部の境に圧痕
312	48		KU	II群1類 d	2.5Y6/3にぶい黄	長石·雲母	外面斜位調整痕、内面に指頭痕
313	48		KU	II 群1類 d	7.5YR6/6橙	長石•雲母	外面斜位調整痕、内面に指頭痕
314	48			II群1類 d	2.5Y7/4浅黄	長石•雲母	外面斜位調整痕、内面に指頭痕
315	48		KU	II群1類 d	2.5Y7/4浅黄	長石•雲母•黒色粒子	外面櫛歯状工具の斜位沈線、内面に指頭痕
316	48		KU	II群1類d	10YR6/4にぶい黄橙	長石•雲母•礫	内面に指頭痕
317	48		KU KU	II群1類d	10YR7/6明黄褐 2.5Y3/2黒褐	長石・雲母・礫	外面斜位調整痕、内面に指頭痕
318	48		KU	II群1類 d II群1類 d	2.5 Y 3/2黒橋 10YR6/4にぶい黄橙	長石·雲母 長石·雲母	外面櫛歯状工具の斜位沈線、内面に指頭痕 外面櫛歯状工具の斜位沈線、内面に指頭痕
							波状口縁、器面全体にLR縄文、口唇部に沿って0段多条のLR縄文の
320	49		KU	Ⅱ群1類g	7.5YR5/4にぶい褐	長石•雲母	ループを2段、胴部のくびれに同一のループを4段回転施文
321	49		KU	II群1類g	7.5YR4/3褐	長石•雲母	波状口縁、器面全体にLR縄文、口唇部に沿って0段多条LR縄文のループも2段 帰来の人びれた屋、のループも2段屋転換立
							プを3段、胴部のくびれに同一のループを3段回転施文 波状口縁、器面全体にLR縄文、口唇部に沿って0段多条LR縄文のルー
322	49		KU	Ⅱ群1類 g	7.5YR5/4にぶい褐	長石·雲母	プを3段、胴部のくびれに同一のループを4段回転施文
323	49		KU	Ⅱ群1類g	5YR5/3にぶい赤褐	長石·石英	器面全体にRLとLRの羽状縄文、胴部のくびれにLR縄文のループを2 段回転施文
324	49		KU	Ⅱ群1類 g	7.5YR5/4にぶい褐	長石•雲母	多条縄文の組紐
325	49		KU	II群1類g	7.5YR6/4にぶい橙	長石•石英	地文に正反の合の縄文、口唇部直下に沈線、三角形と菱形の沈線区画
326	49		KU	II群1類g	7.5YR5/6明褐	長石·雲母	地文に正反の合の羽状縄文、菱形の沈線区画
327	49		KU	Ⅱ群1類 g	7.5YR6/6橙	長石·雲母	地文に正反の合の縄文、菱形の沈線区画
328	49		KU	II 群1類 g	7.5YR6/4にぶい橙	長石•雲母	地文に正反の合の縄文、三角形と菱形の沈線区画、一部の沈線に刺突
329	49		KU	Ⅱ群1類 g	10YR6/4にぶい黄橙	長石·雲母	地文に正反の合の縄文、菱形の沈線区画
330	49		KU	Ⅱ群1類 g	7.5YR6/6橙	長石·雲母	地文に正反の合の縄文、弧状・斜位の沈線
331	49		KU	Ⅱ群1類 i	7.5YR4/2灰褐	長石•雲母	波状口縁、斜位擦痕、横位の刻目文2段、3段目は浅く部分的

挿図	図版	遺構	 上 里	八米百	A 38		· 技 · 湖 · 脚 · 放			
番号	番号	番号	位置	分類	色調	胎土	文 様 ・ 調 整 等			
332	49		KU	Ⅱ群1類 i	10YR4/2灰黄褐	長石•雲母	横位の刻目文3段			
333	49		KU	Ⅱ群1類 i	10YR4/2灰黄褐	長石・雲母	外面斜位擦痕、横位の刻目文2段、内面横位擦痕			
334 335	49 49		KU	Ⅱ群1類 i Ⅱ群1類 i	7.5YR6/6橙 10YR6/4にぶい黄橙	長石·雲母·砂粒 長石·雲母	横位の刻目文2段 横位の刻目文3段			
336	49		KU	Ⅱ群1類 i	101R0/4にぶい黄檀 10YR5/4にぶい黄褐	長石•雲母	横位の刻目文3段			
337	49		KU	Ⅱ群1類 i	7.5YR6/6橙	長石·雲母·黒色粒子	横位の刻目文2段			
338	49		KU	II群1類 i	7.5YR5/4にぶい褐	長石•雲母	横位の刻目文1段			
339	49		KU	II群1類 i	10YR5/3にぶい黄褐	長石•雲母	横位の刻目文3段			
340	49		_	Ⅱ群1類 i	7.5YR5/4にぶい褐	長石·雲母	横位の刻目文3段			
341	49		KU	Ⅱ群1類 i	7.5YR5/4にぶい褐	長石•雲母	横位・斜位の擦痕、横位の刻目文2段			
342	49		KU	Ⅱ群1類 i	7.5YR5/4にぶい褐	長石·雲母	横位擦痕、胴部の段に横位の刻目文			
343	49		KU	Ⅱ群1類 i	10YR4/3にぶい黄褐	長石•雲母	口縁部横位の刻目文3段、胴部のくびれに横位の刻目文1段、内面横位 擦痕			
344	49		KU	Ⅱ群1類 i	7.5YR5/4にぶい褐	長石•雲母	横位の刻目文			
345	49		KU	II 群1類 i	7.5YR4/3褐	長石·雲母	横位の刻目文			
346	49		KU	Ⅱ群1類 i	7.5YR5/4にぶい褐	長石·雲母	口唇部に圧痕、幅の違う木端状工具を組み合わせた原体で横位の刻目 文2段、内面擦痕			
347	49		KU	II群1類 i	10YR5/3にぶい黄褐	長石·雲母	横位の矢羽根状刻目文			
348	49		KU	Ⅱ群1類 i	7.5YR5/4にぶい褐	長石·雲母	横位の刻目文2段			
349	49		KU	Ⅱ群1類 i	10YR5/4にぶい黄褐	長石•雲母	幅の違う木端状工具を組み合わせた原体で横位の刻目文2段、内面擦 痕			
350	49		KU	Ⅱ群1類 i	7.5YR4/3褐	長石·雲母	幅の違う木端状工具を組み合わせた原体で横位の刻目文2段、内面擦 痕			
351	49		KU	Ⅱ群1類 i	7.5YR6/4にぶい橙	長石•雲母	爪状の横位の刻目文			
352	49		KU	II群1類 i	7.5YR6/4にぶい橙	長石·雲母·褐色砂粒	横位の刻目文			
353	48		KU	II 群1類 k	7.5YR4/4褐	長石・金雲母・礫	LR・RLの羽状縄文、補修孔開けかけている			
354	50 50		KU	II 群2類 a II 群2類 a	5YR5/6明赤褐 7.5YR6/8橙	長石·石英·金雲母 長石·石英·金雲母	地文にRL縄文、弧状の扁平な浮線文 地文にRL縄文、弧状の扁平な浮線文			
355 356	50		KU	II 群2類 a	7.5YR5/4にぶい褐	長石•石英•金雲母	地文にRL縄文、弧状の扁平な浮線文			
357	50			II 群2類 a	7.5YR5/4にぶい褐	長石·金雲母	地文にRL縄文、弧状の扁平な浮線文			
358	50		KU	II 群2類 a	7.5YR5/3にぶい褐	長石	梯子状の扁平な浮線文、円形刺突			
359	50		KU	II 群2類 a	7.5YR4/4褐	長石·石英	地文にRL縄文、横位の沈線文			
360	50		KU	II 群2類 a	5YR4/6赤褐	長石·石英	地文にRL縄文、横位の沈線文			
361	50		KU	II 群2類 a	5YR4/6赤褐	長石•石英•金雲母	地文にRL縄文、横位の沈線文			
362	50		KU	II 群2類 a	7.5YR4/3褐	長石·石英·金雲母	地文にRL縄文、横位の沈線文			
363			KU	II 群2類 a	5YR5/6明赤褐	長石•石英	地文にL縄文とRL縄文、横位の沈線文			
364			KU	II 群2類 a	5YR4/6赤褐	長石	爪状の圧痕			
365	50		KU	II 群2類 b	7.5YR6/7橙	長石·雲母·礫	斜位擦痕			
366	50		KU	II 群2類 b	10YR6/6明黄褐	長石・黒色粒子・礫	斜位擦痕			
367	50		KU	II 群2類 b	10YR5/4にぶい黄褐	長石·雲母·礫	横位・斜位の擦痕			
368 369	50 50		KU	II 群2類 b II 群2類 b	7.5YR5/4にぶい褐 7.5YR5/6明褐	長石·雲母 長石·雲母·黒色粒子	縦位・斜位の擦痕 斜位擦痕			
370	50		KU	Ⅱ群2類 b	7.5YR4/4褐	長石・黒色粒子	縦位擦痕			
371	50		KU	Ⅱ群2類 b	7.5YR5/4にぶい褐	長石·雲母·礫	斜位擦痕			
372	50		KU	II 群2類 b	10YR4/2灰黄褐	長石·雲母·礫	斜位擦痕			
373	50		クロ	II 群2類 b	5YR5/6明赤褐	長石	斜位擦痕			
374	50		KU	II 群2類 c	5YR4/3にぶい赤褐	長石·石英·金雲母	波状口縁、横位・斜位の沈線、口縁部にボタン状貼付文2個			
375	52		KU	II 群2類 c	10YR4/3にぶい黄褐	長石•雲母	波状口縁、地文に斜位沈線、縦位棒状貼付文に刻目			
376	51		KU	II 群2類 c	7.5YR4/4褐	長石•雲母	口唇部に連続爪形文、地文に横矢羽根状集合沈線、縦位棒状貼付文、円 形貼付文			
377	52		クロ	II 群2類 c	10YR6/4にぶい黄橙	長石·雲母·砂粒	地文に斜位沈線、縦位棒状貼付文に刻目			
378	52		KU	II 群2類 c	10YR5/4にぶい黄褐	長石·石英	地文に斜位沈線、縦位棒状貼付文に刻目			
379	51		KU	II 群2類 c	10YR4/3にぶい黄褐	長石•黒雲母	口唇部に連続爪形文、地文に横矢羽根状集合沈線、縦位棒状貼付文、円 形貼付文			
380	51		KU	II 群2類 c	7.5YR4/4褐	長石•雲母	口唇部に連続爪形文、地文に横矢羽根状集合沈線、縦位棒状貼付文、円 形貼付文			
381	52		KU	II 群2類 c	5YR5/6明赤褐	長石·雲母	地文に斜位沈線、縦位棒状貼付文			
382	52		KU	II 群2類 c	7.5YR5/4にぶい褐	長石·雲母	地文に斜位沈線、縦位棒状貼付文			
383	52		KU	II 群2類 c	10YR3/2黒褐	長石·石英	地文に斜位沈線、縦位棒状貼付文に刻目			
384	52		KU	II 群2類 c	10YR4/3にぶい黄褐	長石·雲母	地文に斜位沈線、縦位棒状貼付文に刻目			
385	52		KU	II 群2類 c	7.5YR5/4にぶい褐	長石•砂粒	地文に斜位沈線、縦位棒状貼付文に刻目			
386	50		KU	II 群2類 c	5YR6/4にぶい橙	長石•石英	地文に横矢羽根状の集合沈線、2個1単位の円形貼付文			
387	51		KU	Ⅱ群2類 c	7.5YR4/4褐	長石・黒雲母・金雲母	口唇部に連続爪形文、地文に横矢羽根状集合沈線、円形貼付文			
388	51		KU	Ⅱ群2類 c	7.5YR4/3褐色 7.5YP3/3腔堤	長石・金雲母	地文に横矢羽根状集合沈線、2個1単位の円形貼付文 地立に横矢羽根状集合沈線、2個1単位の円形貼付文			
389	51 50		KU	II 群2類 c II 群2類 c	7.5YR3/3暗褐 7.5YR6/4にぶい橙	長石·雲母 長石·雲母	地文に横矢羽根状集合沈線、2個1単位の円形貼付文 波状口縁、地文に横矢羽根状集合沈線、円形貼付文			
390	50		KU	II 群2類 c	7.5YR6/4にぶい位 7.5YR5/4にぶい褐	長石·霊母	波状口縁、地叉に懐矢羽根状集合沈線、円形貼付又 横位の沈線区画内に縦位・斜位・横矢羽根状集合沈線、円形貼付文			
392	91		KU	II 群2類 c	5YR5/6明赤褐	長石•金雲母	横矢羽根状集合沈線、円形貼付文			
393	51		KU	Ⅱ 群2類 c	7.5YR4/3褐色	長石•金雲母	横矢羽根状集合沈線、2個1単位の円形貼付文			
							縦位沈線、縦矢羽根状集合沈線で菱形・流線形の無文部を作る、円形貼			
394	51		KU	II 群2類 c	7.5YR4/3褐	長石•雲母	付文			
395	50		KU	II 群2類 c	7.5YR5/4にぶい褐	長石·雲母·黒色粒子	斜位・縦位・縦矢羽根状の集合沈線、2個1単位の円形貼付文			

挿図 番号	図版 番号	遺構番号	位置	分 類	色 調	胎土	文 様 ・ 調 整 等
396	52	щ	KU	II 群2類 c	7.5YR4/3褐	長石•雲母	横位沈線より上は鋸歯状の集合沈線、縦位の結節浮線文、下は縦位・縦 矢羽根状・弧状の集合沈線、2個1単位の円形貼付文
397	51		KU	II 群2類 c	5YR5/4にぶい赤褐	長石·雲母·黒色粒子	粗い横矢羽根状集合沈線、円形貼付文
398			KU	II 群2類 c	7.5YR5/4にぶい褐	長石·金雲母·黒色粒子	斜位沈線、2個1単位の円形貼付文
399			KU	II 群2類 c	10YR5/4にぶい黄褐	長石·雲母	斜位沈線、2個1単位の円形貼付文
400			KU	II 群2類 c	7.5YR4/3褐	長石・雲母・砂粒	横位沈線、2個1単位の円形貼付文
401			KU	II 群2類 c	7.5YR5/4にぶい褐	長石·石英·金雲母	横矢羽根状沈線、2個1単位の円形貼付文
402			KU	II 群2類 c	5YR5/4にぶい赤褐	長石·雲母	横位沈線、円形貼付文
403	50		KU	II 群2類 c	5YR5/4にぶい赤褐	長石・雲母	横位沈線、2個1単位の円形貼付文
404	52		KU	Ⅱ 群2類 c	5YR5/4にぶい赤褐	長石・金雲母	斜格子状·横位沈線、円形貼付文
405	50		KU	Ⅱ 群2類 c Ⅱ 群2類 c	7.5YR5/4にぶい褐 7.5YR5/4にぶい褐	長石·雲母 長石·雲母	横矢羽根状・横位沈線、円形貼付文 大波状口縁に沿った粘土紐に結節浮線文、左右対称の渦巻状の粘土紐 に結節浮線文、中心に円形貼付文、横位・縦矢羽根状・弧状の粘土紐に 結節浮線文
407	51		KU	II 群2類 c	10YR4/3にぶい黄褐	長石·金雲母·砂粒	大波状口縁、左右対称の渦巻状の粘土紐に結節浮線文、円形貼付文、補 修孔
408	51		KU	II 群2類 c	7.5YR4/4褐	長石·雲母·黒色粒子	大波状口縁、左右対称の渦巻状の粘土紐に結節浮線文、円形貼付文
409	51		KU	II 群2類 c	7.5YR5/4にぶい褐	長石·石英	大波状口縁、左右対称の渦巻状のまばらな結節浮線文、円形貼付文
410			KU	II 群2類 c	7.5YR4/4褐	長石·金雲母	縦位・横位・弧状・左右対称の渦巻状の粘土紐に結節浮線文、円形貼付 文、胴上部に無文帯
411	51		KU	II 群2類 c	7.5YR4/3褐	長石·石英·雲母	大波状口縁、口縁に沿って結節浮線文、地文に斜位沈線、流線形・左右 対称の渦巻状の結節浮線文、2個1単位の円形貼付文
412			KU	II 群2類 c	7.5YR4/3褐	長石·金雲母·雲母	大波状口縁、流線形・左右対称の渦巻状の粘土紐に結節浮線文
413			KU	II 群2類 c	7.5YR5/4にぶい褐	長石•雲母	横位・左右対称の渦巻状の集合沈線、円形貼付文
414			KU	II 群2類 c	7.5YR4/4褐	長石・金雲母・砂粒	波状口縁、口唇部に結節浮線文、地文に斜位沈線、波頂部の棒状貼付文に結節浮線文
415	52		KU	II 群2類 c	5YR5/4にぶい赤褐	長石·金雲母	鋸歯状・弧状の結節浮線文で菱形・三日月形の無文部を作る、2個1単位 の円形貼付文
416	52		KU	II 群2類 c	5YR4/3にぶい赤褐色	長石·金雲母	胴上部に横位沈線、鋸歯状・弧状の結節浮線文で菱形・三日月形の無文 部を作る、2個1単位の円形貼付文
417	52		KU	II 群2類 c	7.5YR4/3褐	長石、金雲母	地文に沈線、左右対称の渦巻状の結節浮線文、横位・弧状の結節浮線文、 縦位矢羽根状沈線、2個1単位の円形貼付文
418	52		KU	II 群2類 c	5YR5/4にぶい赤褐	長石·金雲母	流線形・弧状の結節浮線文
419	52		KU	II 群2類 c	5YR5/4にぶい赤褐	長石•雲母	横位・斜位・弧状の結節浮線文
420	52		KU	II 群2類 c	7.5YR5/4にぶい褐	長石·石英·金雲母	地文に横位集合沈線、V字形の入れ子状・流線形の粘土紐に結節浮線 文、円形貼付文
421	51		KU	II 群2類 c	7.5YR4/4褐	長石•石英•金雲母	地文に横位集合沈線、横位・流線形・左右対称の渦巻状の粘土紐に結節 浮線文、2個1単位の円形貼付文
422	52		KU	II 群2類 c	7.5YR5/4にぶい褐	長石•雲母	胴上部地文に綾杉状の集合沈線、横位の粘土紐に結節浮線文、同じ技法で付けた弧状の結節浮線文で菱形の無文部を作り、縦位の結節浮線文、順下部縦位の集合沈線の区画内に流線形の集合沈線、2個1単位の円形貼付文
423	51		KU	II 群2類 c	7.5YR4/3褐	長石·金雲母	折り返し大波状口縁、口唇部に角状の突起、口縁に沿った結節浮線文、 左右対称の渦巻状の結節浮線文
424	51		KU	II 群2類 c	7.5YR4/3褐	長石•金雲母	折り返し大波状口縁、口唇部に角状の突起、口縁に沿った結節浮線文、 左右対称の渦巻状の結節浮線文
425			KU	II 群2類 c	7.5YR4/3褐	長石·金雲母	折り返し大波状口縁、口縁に沿った結節浮線文、弧状の結節浮線文
426	50		KU クロ	II 群2類 c	5YR5/4にぶい赤褐	長石・雲母・黒色粒子	地文に横位沈線、胴上部左右対称の渦巻状・弧状・鋸歯状の粘土紐に結 節浮線文を付けた文様帯2段、胴下部縦位・縦矢羽根状の集合沈線、2個 1単位の円形貼付文
427			KU	II 群2類 c	5YR5/4にぶい赤褐	長石·金雲母	無文の浅鉢、口縁部直立
428			KU	II 群2類 c	5YR5/6明赤褐	長石・雲母・黒色粒子	無文の浅鉢、胴部に段、肩部と胴部の境をくの字状に屈曲
429			KU	II 群2類 c	5YR5/6明赤褐	長石·雲母	無文の浅鉢、補修孔
430			KU	II 群2類 c	5YR5/4にぶい赤褐	長石·黒色粒子·金雲母	無文の浅鉢、肩部に円孔
431	52		KU	II 群2類 d	7.5YR6/4にぶい橙	長石·石英·黒色粒子	口縁部粘土紐の無文帯、胴上部横位の沈線区画3段、1・3段目は斜位の 密接蒲鉾状平行沈線、2段目は地文にRL多条縄文、縦位の密接蒲鉾状 平行沈線、胴下部地文にRL縄文、Y字状・U字状の弧状沈線
432	52		クロ	II 群2類 d	10YR6/3にぶい黄橙	長石•石英	口縁部粘土紐の無文帯、縦位貼付文、縦位沈線
433	52		KU	II 群2類 d	7.5YR5/4にぶい褐	長石·石英	口縁部粘土紐の無文帯、縦位・横位の沈線区画内に横矢羽根状沈線
434	52		KU	II 群2類 d	7.5YR4/4褐	長石·金雲母	口縁部粘土紐の無文帯、横位の沈線区画内に斜位・鋸歯状沈線
435			KU	II 群2類 d	7.5YR5/6明褐	長石•石英•金雲母	口縁部粘土紐の無文帯、RL縄文
436 437	52 52		KU KU	II 群2類 d II 群2類 d	5YR5/6明赤褐 10YR6/4にぶい黄橙	長石·石英·黒雲母 長石·金雲母	口縁部粘土紐の無文帯、楕円形の沈線区画内に格子状沈線 口縁部粘土紐の無文帯に粘土紐の突起、RL縄文
438	52		KU	II 群2類 d	10YR6/2灰黄褐	長石·黒雲母	波状口縁、口縁部粘土紐を断面三角形の筒状に貼り付け、口唇部斜位の密接蒲鉾状平行沈線、口唇部直下は三角印刻文を粘土紐で縁取る、横位の沈線区画内に上段は斜位の密接蒲鉾状平行沈線、下段はRL縄文に鋸歯状の蒲鉾状沈線
439	52		KU	II 群2類 d	7.5YR6/4にぶい橙	長石·石英·金雲母	波状口縁、口縁部粘土紐を断面三角形の筒状に貼り付け、粘土紐2本を 橋状に貼り付け、口唇部斜位の密接蒲鉾状平行沈線、外面斜位の密接 蒲鉾状平行沈線
440	52		KU	II 群2類 d	7.5YR5/4にぶい褐	長石·石英	波状口縁、口縁部粘土紐を断面三角形の筒状に貼り付け、口唇部斜位 の密接蒲鉾状平行沈線、外面地文に縄文、横位の沈線区画内に傾きを 変えた斜位の密接蒲鉾状平行沈線
441	52		KU	II 群2類 d	7.5YR5/6明褐	長石•石英	波状口縁、波頂部に突起を貼り付け、外面口縁部に粘土紐を貼り付け 斜位沈線、三角印刻文、RL縄文
442	52		KU	II 群2類 d	7.5YR5/4にぶい褐	長石•金雲母	波状口縁、口縁部粘土紐を断面三角形の筒状に貼り付け、口唇部縦位 の密接蒲鉾状平行沈線、橋状突起、外面横位の沈線区画内に縦位の密 接蒲鉾状平行沈線

	図版	遺構	位置	分 類	色 調	胎土	文様・調整等
	番号	番号					
443	52		KU KU	II 群2類 d II 群2類 d	10YR6/4にぶい黄橙 10YR6/4にぶい黄橙	長石	口唇部LR縄文、外面LR縄文 口唇部RL縄文、外面RL縄文、補修孔
444	52		KU	II 群2類 d	101R6/4にぶい黄檀 10YR7/4にぶい黄橙	長石	LR縄文
446	52		KU	II 群2類 d	7.5YR6/6橙	長石	口唇部LR縄文、外面LR縄文
447	52		KU	II 群2類 d	7.5YR6/6橙	長石•石英	口唇部突起の痕跡、外面L縄文
448	52		クロ	Ⅱ 群2類 d	5YR5/4にぶい赤褐	長石	RL縄文、縦位沈線
				11 251 11	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		横位の蒲鉾状沈線の区画3段、上段は三角形の区画内に縦位と横位の
449			KU	Ⅱ 群2類 d	7.5YR5/4にぶい褐	長石·雲母·小礫	密接蒲鉾状平行沈線、中段は縦位の密接蒲鉾状平行沈線、下段はRL縄 文
450	52		KU	Ⅱ群2類 d	7.5YR6/4にぶい橙	長石•石英•黒雲母	横位の蒲鉾状平行沈線区画内に上段は斜位、下段は縦位の密接蒲鉾状平行沈線
451	52		KU	Ⅱ群2類 d	10YR6/4にぶい黄橙	長石·金雲母	横位の蒲鉾状沈線区画内に上段は斜位の密接蒲鉾状平行沈線、下段は LR縄文 口縁部粘土紐の無文帯、縦位の突起、地文にRL縄文、鋸歯状・横位の密
452	52		KU	II 群2類 d	7.5YR5/4にぶい褐	長石·黒雲母	日本市中工社会の派人市、城市の大売いる人にいた時代、新国内、坂田の山 接蒲鉾状平行沈線、菱形文 渦巻状・方形の蒲鉾状沈線区画内に密接蒲鉾状平行沈線と沈線の格子
453	52		クロ	Ⅱ群2類 d	7.5YR4/3褐	長石•黒雲母	同され、カルの相手へんがた回げて、面弦相手へ下げんがそんがの相り 目文、無文部は印刻 蒲鉾状沈線区画内に密接蒲鉾状平行沈線と沈線の格子目文、無文部は
454	52		KU	Ⅱ群2類 d	7.5YR5/4にぶい褐	長石	印刻
455	52		KU	II 群2類 d	7.5YR5/4にぶい褐	長石•石英•黒雲母	蒲鉾状沈線区画内に密接蒲鉾状平行沈線と沈線の格子目文、無文部は 印刻
456	52		KU	Ⅱ 群2類 d	7.5YR5/4にぶい褐	長石·金雲母	三角印刻文、上段は密接蒲鉾状平行沈線と沈線の格子目文、下段は同一技法の斜格子文 「発験」が展現ませた。
457	52		KU	II 群2類 d	5YR4/6赤褐	長石•石英•黒雲母	蒲鉾状沈線区画内に密接蒲鉾状平行沈線と沈線の格子目文、無文部は 印刻
458	52		KU	II 群2類 d	7.5YR4/3褐	長石•石英	蒲鉾状沈線区画内に密接蒲鉾状平行沈線と沈線の格子目文、無文部は 印刻
459	52		KU	II 群2類 d	7.5YR5/4にぶい褐	長石•石英	密接蒲鉾状平行沈線と沈線の格子目文、無文部は印刻
460	50		KU	II 群2類 d	5YR5/6明赤褐	長石・黒雲母	横位の密接蒲鉾状平行沈線、縦位の蒲鉾状沈線
461	52		KU	II 群2類 d	5YR5/6明赤褐	長石・黒雲母	横位の密接蒲鉾状平行沈線、縦位鋸歯状の蒲鉾状沈線
462	52 52		KU	II 群2類 d II 群2類 d	5YR6/6橙 7.5YR6/6橙	長石 長石·石英·金雲母·黒雲母	横位の密接蒲鉾状平行沈線、縦位と横位鋸歯状の蒲鉾状沈線 地文にRL多条縄文、密接蒲鉾状平行沈線と沈線の格子目文、V字状の
					,		蒲鉾状沈線、円形貼付文
464	52		KU	II 群2類 d	7.5YR6/6橙	長石•石英•黒雲母	地文にRL縄文、蒲鉾状沈線区画内に横位の密接蒲鉾状平行沈線
465	52 52		KU KU	II 群2類 d II 群2類 d	7.5YR6/4にぶい橙 7.5YR5/4にぶい褐	長石·金雲母	大型の把手、側縁部に密接蒲鉾状平行沈線 地文にRL縄文、縦位蒲鉾状沈線
467	52		KU	II 群2類 d	7.5YR5/6明褐	長石•石英	電子に いた。 、 就位 個 野 いた は 新 コ 新 会 状 沈 線 と で は に は 会 は に は に は に な ま な は に は に は に は に は に は に は に は に は に は
468	52		KU	II 群2類 d	7.5YR4/3褐	長石•黒雲母	渦巻状の蒲鉾状沈線区画内に密接蒲鉾状平行沈線と沈線の格子目文、 無文部は印刻
469	52		KU	II 群2類 d	5YR4/4にぶい赤褐	長石·金雲母	RL縄文、縦位の粘土紐に結節浮線文
470	53		KU	II 群2類 f	10YR5/3にぶい黄褐	長石•雲母	胴部楕円形、胴上部横位の粘土紐9本貼付、一部流線形に交差、粘土紐 と胴部全体にRL縄文、471と同一個体
471			KU	Ⅱ群2類 f	10YR5/3にぶい黄褐	長石·雲母·礫	上げ底、外に張り出し刻目、底面に沈線、470と同一個体
472	53		KU	II 群2類 f	10YR5/3にぶい黄褐	長石•雲母	楕円形の底部、外に張り出し貝殻状の圧痕、胴部弧状の粘土紐にLR縄 文
473	53		KU	II 群2類 f	10YR6/4にぶい黄橙	長石•雲母•黒色粒子	C LR縄文、内面に指頭痕
474	53		KU	II 群2類 g	10YR5/4にぶい黄褐色		波状口縁、口唇部に Σ字状刺突、外内面RL多条縄文、弧状の粘土紐に V字状浮線文
475	53		KU	II 群2類 g	2.5Y7/2灰黄	長石·雲母·砂粒	波状口縁、口唇部にΣ字状刺突、外内面LR多条縄文、横位の粘土紐に V字状浮線文
476	53		KU	Ⅱ群2類 g	7.5YR6/4にぶい橙	長石·雲母·砂粒	口唇部にΣ字状刺突、外内面RL多条縄文、口縁に沿った粘土紐に連続 爪形文、胴部弧状・直線状の粘土紐にV字状の浮線文
477	53		KU	II 群2類 g	10YR6/4にぶい黄橙	長石•細砂	波状口縁、口唇部にΣ字状刺突、外内面RL多条縄文、波状の粘土紐に V字状浮線文
478	53		KU	II 群2類 g	7.5YR7/4にぶい橙	長石•砂粒	波状口縁、口唇部にΣ字状刺突、外内面RL多条縄文、横位・弧状の粘土 紐に浮線文
479			KU	II 群2類 g	10YR6/3にぶい黄橙	長石·砂粒	波状口縁、口唇部に Σ字状刺突、外内面RL縄文、弧状の粘土紐に浮線 文
480	53		KU	Ⅱ群2類 g	2.5Y6/2灰黄	長石•雲母•砂粒	波状口縁、口唇部にΣ字状刺突、外内面RL多条縄文、口縁に沿った粘土紐に浮線文、胴部Ω字状の細い粘土紐に浮線文
481	53		KU	II 群2類 g	10YR7/3にぶい黄橙	長石•雲母•砂粒	波状口縁、口唇部にΣ字状刺突、外内面RL多条縄文、口縁に沿った粘土紐に浮線文、胴部Ω字状・弧状の細い粘土紐に浮線文
482	53		KU	II 群2類 g	10YR6/4にぶい黄橙	長石•砂粒	波状口縁、口唇部に Σ 字状刺突、外内面RL 多条縄文、弧状の粘土紐に 浮線文
483	53		KU	II 群2類 g	7.5YR6/4にぶい橙	長石·砂粒	0 段多条のRL縄文、弧状の粘土紐に浮線文
484	53		KU	II 群2類 g	2.5Y6/3にぶい黄	長石•雲母•砂粒	LR多条縄文、弧状の粘土紐に浮線文
485	53		KU	II 群2類 g	7.5YR7/4にぶい橙	長石•砂粒	RL多条縄文、弧状の粘土紐に浮線文
486	53		KU	II 群2類 g	10YR7/4にぶい黄橙	長石・砂粒	RL多条縄文、弧状の粘土紐に浮線文
487			-	II 群2類 g	7.5YR5/4にぶい褐	長石・砂粒	RL多条縄文、弧状の粘土紐に浮線文
488			KU	II群2類g	10YR7/3にぶい黄橙	長石・雲母・砂粒	RL多条縄文、縦位の粘土紐に圧痕、底部に花弁状の凹み
489	53		KU KU	II 群2類 h II 群2類 h	10YR6/4にぶい黄橙 10YP7/3に かい苦橙	長石·砂粒	上R縄文 カラス ロラス は 対日 接位・前半の料上紙に 対日
490	53		KU	II 群2類 h II 群2類 i	10YR7/3にぶい黄橙 10YR5/4にぶい黄褐色		波状口縁、口唇部に刻目、横位・弧状の粘土紐に刻目 LR縄文、横位・波状の粘土紐に結節浮線文
TJI	53		クロ	Ⅱ 群2類 i	10YR6/4にぶい黄梅巴 10YR6/3にぶい黄橙	長石·石英·金雲母	波状口縁、外内面RL縄文、外面横位の粘土紐に結節浮線文、胴部ハの
492			KU	ユエカT=バス 1	~~************************************	ヘロ・ロヘ エエサ	字状の粘土紐に結節浮線文、内面口縁部に沿った粘土紐に結節浮線文

挿図	図版	遺構	位置	分 類	色調	胎土	文様・調整等				
番号	番号	番号									
494	53		KU	Ⅱ 群2類 i	10YR4/6にぶい黄橙	長石•石英•砂粒	LR縄文				
495	53		KU	Ⅱ群2類i	10YR6/4にぶい黄橙	長石•石英	RL縄文、円形・弧状の粘土紐に結節浮線文				
496	F9		KU	Ⅱ群2類i	10YR6/4にぶい黄橙	長石•砂粒	RL縄文、弧状の粘土紐に結節浮線文				
497 498	53		KU KU	Ⅱ 群2類 i Ⅱ 群2類 i	7.5YR6/6橙 10YR6/4にぶい黄橙	長石	LR縄文、縦波状の粘土紐に結節浮線文 LR縄文、T字状の粘土紐に結節浮線文				
498	53		KU	II 群2類 i	7.5YR6/6橙	長石	LR縄文、T字状の桁工紙に結即存線文 LR縄文、T字状・波状の粘土紐に結節浮線文				
500	53		KU	II 群2類 i	7.51 KO/O恒 10YR6/4にぶい黄橙	長石•石英	LR縄文、紅色の粘土紐に結節浮線文				
501	- 55		KU	II 群2類 i	7.5YR6/6橙	長石	LR縄文、弧状の粘土紐に結節浮線文				
502			KU	II 群2類 i	5YR5/6明赤褐	長石•砂粒	RL縄文、弧状の粘土紐に結節浮線文				
503			KU	II 群2類 i	7.5YR6/6橙	長石	LR縄文、縦波状の粘土紐に結節浮線文				
504			KU	II 群2類 i	7.5YR5/4にぶい褐	長石	RL縄文、弧状の粘土紐に結節浮線文				
505			KU	II 群2類 i	7.5YR5/6明褐	長石•雲母	LR縄文、縦波状の粘土紐に結節浮線文				
506			KU	II 群2類 i	10YR5/3にぶい黄褐	長石•黒雲母	RL縄文、縦位の粘土紐に結節浮線文				
507	53		KU	II 群2類 i	10YR3/2黒褐	長石•砂粒	LR縄文、横位の粘土紐の下半部に連続爪形文				
508			KU	Ⅱ群2類 i	7.5YR5/4にぶい褐	長石·砂粒	RL多条縄文、横位の粘土紐の下半部に連続爪形文				
509			KU	Ⅱ群2類 i	7.5YR6/4にぶい橙	長石·細砂	RL多条縄文、横位の粘土紐の下半部に連続爪形文				
510			_	II 群2類 i	10YR6/4にぶい黄橙	長石	RL多条縄文、横位の粘土紐の下半部に連続爪形文				
511			KU	II 群2類 i	10YR6/3にぶい黄橙	長石•砂粒	横位の粘土紐を含めてLR縄文				
512			KU	Ⅱ群2類 i	10YR6/4にぶい黄橙	長石•石英•砂粒	RL縄文、T字状の粘土紐、横位の粘土紐の片側に連続刺突文、縦位の粘				
							土紐に圧痕				
513	53		KU	II 群2類 i	7.5YR4/6褐	長石・砂粒	RL縄文、横位と縦位の粘土紐				
514			KU	Ⅱ群2類i	5YR5/6明赤褐	長石・金雲母	RL縄文、縦位の粘土紐に結節浮線文				
515			KU	II 群2類 i	7.5YR5/6明褐	長石・金雲母	RL縄文、縦位の粘土紐に結節浮線文				
516			KU	Ⅱ群2類 j	10YR4/1褐灰	長石・砂粒	RL羽状縄文				
517			KU	Ⅱ 群2類 j	2.5Y3/1黒褐	長石・金雲母	波状口縁、口唇部RL縄文、外面RL縄文、横位の粘土紐に刻目				
518			KU KU	Ⅱ 群2類 j	10YR4/3にぶい黄褐 2.5Y3/2黒褐	長石・金雲母	口縁部粘土紐の無文帯、地文にRL縄文、横位の粘土紐に結節浮線文 RL縄文、横位の粘土紐に刻目				
519 520			KU	Ⅱ 群2類 j Ⅱ 群2類 j	2.513/2無悔 10YR6/4にぶい黄橙	長石·金雲母 長石·金雲母	RL縄文、横位の粘土紐に刻目				
521			KU	II 群2類 j	7.5YR5/6明褐	長石•金雲母	RL縄文、横位の粘土紐に刻目				
522			KU	Ⅱ群2類 j	10YR3/2黒褐	長石•金雲母	RL縄文、横位の粘土紐に刻目				
523			KU	II 群2類 j	10YR5/6黄褐	長石•金雲母	RL縄文、横位の粘土紐に刻目				
524			KU	II 群2類 j	2.5Y3/2黒褐	長石·金雲母·礫	RL縄文、横位の粘土紐に刻目				
525			KU	II 群2類 j	7.5YR5/6明褐	長石・金雲母	RL縄文、横位の粘土紐に刻目				
526			KU	II 群2類 j	10YR5/3にぶい黄褐	長石・金雲母	口縁部粘土紐の無文帯、横位沈線				
527			クロ	Ⅲ群1類 a	10YR4/3にぶい黄褐	長石・金雲母・黒色粒子	口唇部刻目状の沈線、外面横位の沈線区画内に細沈線を垂下させた三 角印刻文、補修孔2個				
528	54		クロ KU	Ⅲ群1類 a	7.5YR5/3にぶい褐	長石•金雲母	波状口縁、波頂部に粘土紐の三叉状突起、口唇部刻目状の沈線、外面横位の沈線区画内に細沈線を垂下させた三角印刻文				
529	54		クロ	Ⅲ群1類 a	7.5YR5/4にぶい褐	長石•金雲母	波状口縁、波頂部に粘土紐の三叉状突起、先端から粘土紐垂下、外面横位沈線、横位連続爪形文、細沈線を垂下させた三角印刻文、突起の右際 に連続爪形文				
530	54		クロ	Ⅲ群1類 a	5YR5/6明赤褐	長石•金雲母	横位沈線、横位連続爪形文、逆U字状の押引沈線、横位の粘土紐				
531	54		KU	Ⅲ群1類 a	5YR5/6明赤褐	長石•金雲母	波状口縁、口縁部内弯、口唇部と胴部の張り出した位置に横位の連続 爪形文、際に蒲鉾状沈線、上段の区画内に密接蒲鉾状平行沈線と沈線 の斜格子文、下段は地文に縄文、斜位の密接蒲鉾状平行沈線				
532			KU	Ⅲ群1類 a	5YR5/6明赤褐	長石•金雲母	円孔を穿った把手、連続爪形文2段				
533	54		KU	Ⅲ群1類 a	5YR5/6明赤褐	長石•金雲母	波状口縁、口唇部連続爪形文、外面縦位・逆くの字状沈線、胴部のくび れの位置に粘土板				
534	54		KU	Ⅲ群1類 a	2.5YR3/4暗赤褐	長石	波状口縁、くの字状に屈曲、口縁に沿った沈線と押引沈線、弧状の沈線、 横位の押引沈線				
535	54		KU	Ⅲ群1類 a	7.5YR5/4にぶい褐	長石•金雲母	口縁部弧状沈線、胴部横位の蒲鉾状沈線区画2段、上段は斜位の密接蒲 鉾状平行沈線、下段はLR縄文				
536	54		KU	Ⅲ群1類 a	7.5YR5/4にぶい褐	長石・金雲母	口縁部0段多条のLR縄文、胴部横位の蒲鉾状沈線、斜位の密接蒲鉾状平行沈線				
537	54		KU	Ⅲ群1類 a	7.5YR4/2灰褐	長石・金雲母・黒色粒子	波状口縁、LR縄文、横位の沈線区画内の縄文を擦り消す				
538	54		KU	Ⅲ群1類 a	10YR5/3にぶい黄褐	長石・黒色粒子	LR縄文、横位の沈線区画内の縄文を擦り消す 波状口縁、口唇部直下はLR縄文、橋状把手から下はRL縄文、横位の沈				
539	54		KU	Ⅲ群1類 a	5YR5/4にぶい赤褐	長石•金雲母	線区画内の縄文を擦り消す、三角刺突文				
540	54		KU	Ⅲ群1類 a	7.5YR5/4にぶい褐	長石・金雲母	口唇部に刻目、縦位・横位沈線				
541	54		クロ	Ⅲ群1類 a	2.5YR4/3にぶい赤褐	長石·金雲母	RL縄文、太い横位の沈線区画内の粘土紐に刻目				
542	54		KU	III群1類 a	5YR6/6橙	長石・金雲母	地文にRL縄文、横位・円形沈線、刺突文				
543	54		KU	Ⅲ群1類 a	2.5YR4/3にぶい赤褐	長石・金雲母	地文にRL縄文、横位・斜位・渦巻状沈線、三角印刻文				
544 545	54		KU KU	Ⅲ群1類 a Ⅲ群1類 a	5YR5/4にぶい赤褐 5YR5/6明赤褐	長石 長石·金雲母	口唇部に刻目、LR縄文、横位の沈線区画内に弧状沈線、刺突文 口唇部直下刺突状の沈線文、地文にLR縄文、縦位・横位・弧状沈線、相				
							互刺突 株				
546	54		KU	Ⅲ群1類 a	2.5YR4/4にぶい赤褐	長石・金雲母	地文にRL縄文、横位・円形沈線				
547	54		KU	Ⅲ群1類 a	5YR5/4にぶい赤褐	長石・金雲母	横位押引沈線、相互刺突				
548	54 54		KU	Ⅲ群1類 a	5YR4/4にぶい赤褐 5YR4/4に かい赤褐	長石・石英・金雲母	横位沈線に三角形の刻目の相互刺突、横位の結節浮線文地立にIP組立 構体・ハの字状・過去状況 様状 押手				
549 550	54 54		KU KU	Ⅲ群1類 a Ⅲ群1類 a	5YR4/4にぶい赤褐 5YR5/4にぶい赤褐	長石·金雲母·黒色粒子 長石·金雲母	地文にLR縄文、横位・ハの字状・渦巻状沈線、橋状把手 口唇部の一部に刻目、内面連続爪形文3段、一部三角形刻目の相互刺突				
551	54		KU	Ⅲ群1類 a	7.5YR5/4にぶい赤褐	長石・金雲母	一谷部の一部に刻日、内国連続爪形文3段、一部三角形刻日の相互刺突 波状口縁、波頂部の口唇部に刻目、内面連続爪形文3段、三角形の刺突				
552	54		KU	Ⅲ群1類 a	5YR4/6赤褐	長石•石英•金雲母	仮払口縁、仮頂部の口管部に刻日、内国連続爪形又3段、三角形の利矢 口唇部横位沈線に相互刺突、横位の連続刻目文				
							胴上部横位の粘土紐に刻目、縦位の沈線に相互刺突、横位の沈線区画				
553	54		KU	Ⅲ群1類 a	5YR5/6明赤褐	長石·金雲母	内に斜格子状沈線、胴下部弧状沈線、相互刺突				

挿図 番号	図版 番号	遺構 番号	位置	分 類	色 調	胎土	文 様・調 整 等
554	新り 54	田ケ	KU	Ⅲ群1類 a	5YR5/6明赤褐	長石•金雲母	地文に結節縄文を縦位施文、横位・アーチ形の蒲鉾状沈線
555			KU	Ⅲ群1類 a	5YR4/3にぶい赤褐	長石·金雲母	地文にRL縄文、山形沈線
556			KU	Ⅲ群1類 a	5YR4/4にぶい赤褐	長石·金雲母	横位の幅広の粘土紐を含めて地文にRL多条縄文、横位・弧状の沈線
557			KU	Ⅲ群1類 a	10YR6/4にぶい黄橙	長石·金雲母	三又状の粘土紐を含めてRL縄文
558			KU	Ⅲ群1類 a	5YRにぶい赤褐	長石·金雲母	縦位の粘土紐を含めてRL結節縄文を縦位施文
559	54		KU	Ⅲ群1類 a	7.5YR4/4褐	長石•金雲母	横位の粘土紐を含めて地文にLR縄文、横位の連続刺突文、横位沈線
560			KU	Ⅲ群1類 a	7.5YR5/4にぶい褐	長石•金雲母	地文にRL縄文、弧状沈線
561			KU	Ⅲ群1類 a	7.5YR5/4にぶい褐	長石・黒色粒子	横位・弧状の沈線区画内にL縄文
562			KU	Ⅲ群1類 a	5YR4/4にぶい赤褐	長石•金雲母	地文にLR縄文、弧状沈線
563	54		KU	Ⅲ群1類 a	5YR5/6明赤褐	長石•金雲母	横位の粘土紐の上段は弧状の蒲鉾状沈線区画内に密接蒲鉾状平行洗線と沈線の格子目文、下段は密接蒲鉾状平行沈線と沈線の斜格子文、 無文部は印刻
564	54		KU	Ⅲ群1類 a	5YR5/6明赤褐	長石•金雲母	横位の粘土紐の上段は弧状の蒲鉾状沈線区画内に密接蒲鉾状平行沙線と沈線の格子目文、下段は密接蒲鉾状平行沈線と沈線の斜格子文、無文部は印刻
565	54		KU	Ⅲ群1類 a	7.5YR5/6明褐	長石•金雲母	地文に2連LR結節縄文を縦位施文、横位の粘土紐を指でつまむ
566			KU	Ⅲ群1類 a	5YR4/4にぶい赤褐	長石·金雲母	地文に2連LR結節縄文を縦位施文、横位の粘土紐を指でつまむ
567			クロ	Ⅲ群1類 a	5YR4/4にぶい赤褐	長石•金雲母	地文に2連LR結節縄文を縦位施文、横位の粘土紐を指でつまむ
568			KU	Ⅲ群1類 a	7.5YR6/6橙	長石•金雲母	RL縄文、縦位沈線
569			KU	Ⅲ群1類 a	10YR6/4にぶい黄橙	長石	縦位沈線
570			KU	Ⅲ群1類 a	10YR6/4にぶい黄橙	長石•金雲母	RLの0段多条縄文、縦位沈線
571			KU	Ⅲ群1類 a	7.5YR5/4にぶい褐	長石·金雲母·黒色粒子	縦位の粘土紐、横位の粗い調整痕
572			KU	Ⅲ群1類 a	7.5YR5/6明褐	長石・金雲母	RL多条縄文、縦位鋸歯状沈線
573			KU	Ⅲ群1類 a	7.5YR5/6明褐	長石・金雲母・黒色粒子	L縄文
574			KU	Ⅲ群1類 a	7.5YR5/4にぶい褐	長石•金雲母	縦位の調整痕
575			_	Ⅲ群1類 c	7.5YR5/4にぶい褐	長石•雲母•礫	波状口縁、口唇部0段多条RL縄文、外内面0段多条RL縄文、外面横位の 粘土紐に連続爪形文 波状口縁、口唇部0段多条RL縄文、外内面0段多条RL縄文、外面横位の
576	55		KU	Ⅲ群1類 c	7.5YR5/3にぶい褐	長石·雲母·礫	粘土紐に連続爪形文
577	55		KU	Ⅲ群1類 c	10YR7/4にぶい黄橙	長石•雲母	口唇部に刻目、外内面LR多条縄文、連続爪形文
578			KU	Ⅲ群1類 c	7.5YR7/4にぶい橙	長石•雲母	口唇部に刻目、外内面0段多条LR縄文、連続爪形文
579	55		KU	Ⅲ群1類 c	7.5YR4/3褐	長石•雲母	波状口縁、横位の断面三角形の粘土紐を含めて地文に0段多条RL縄文口縁に沿って円形竹管状工具の横位の連続刺突文、580と同一個体
580	55		KU	Ⅲ群1類 c	10YR6/3にぶい黄橙	長石・雲母・礫	579と同一個体
581			KU	Ⅲ群1類 c	7.5YR5/4にぶい褐	長石·雲母	波状口縁、縦位沈線、円形竹管状工具の横位の連続刺突文
582	55		KU	Ⅲ群1類 c	10YR6/4にぶい黄橙	長石•金雲母	地文に0段RL多条縄文、T字状の粘土紐に二枚貝貝殻の圧痕
583			KU KU	Ⅲ群1類 c	10YR5/2灰黄褐	長石·雲母	RL縄文、底部に花弁状の凹み
584 585	55		KU	Ⅲ群1類 c Ⅲ群1類 d	10YR5/3にぶい黄褐 5YR6/6橙	長石·雲母 長石·金雲母	RL縄文、底部に花弁状の凹み 波状口縁、口縁に沿った粘土紐に連続爪形文、三角形状の連続爪形文 を付けた粘土紐の区画内に縄文、縦位沈線
586	55		KU	III群1類 d	7.5YR6/6橙	長石•礫	波状口縁、口縁に沿った粘土紐に連続爪形文2段
587			KU	Ⅲ群1類 d	7.5YR6/6橙	長石•礫	口縁に沿った粘土紐に連続爪形文2段
588	55		KU	Ⅲ群1類 d	5YR5/4にぶい赤褐	長石·金雲母	波状口縁、口縁に沿った粘土紐に連続爪形文3段、3段目は部分的
589	55		KU	Ⅲ群1類 d	10YR5/3にぶい黄褐	長石•礫	地文にLR縄文、蒲鉾状沈線区画内に相互刺突
590	55		KU	Ⅲ群1類 d	7.5YR5/3にぶい褐	長石・黒色粒子・礫	機位の沈線区画内に楕円形の連続爪形文を付けた粘土紐の小区画を作る、中にX字状沈線、小区画外に三角印刻文
591 592	55 55		KU	Ⅲ群1類 d Ⅲ群1類 d	2.5Y6/4にぶい黄 2.5Y6/3にぶい黄	長石·黒色粒子·礫 長石·礫	横位の粘土紐に連続爪形文、縦位・横位の蒲鉾状沈線区画内に円形の連続刺突文 地文にLR縄文、横位の蒲鉾状沈線、横位の粘土紐に連続爪形文
593	55		_	Ⅲ群1類 d	2.5Y5/3黄褐	長石・礫	横位の粘土紐に連続爪形文
594	55		KU	III群1類 d	2.5Y7/3浅黄	長石・礫	横位の粘土紐に連続爪形文、RL 縄文、縦位沈線
595	55		KU	III群1類 d	7.5YR6/6橙	長石·金雲母·礫	地文にRL縄文、弧状の粘土紐、粘土紐に沿った蒲鉾状沈線
596	55		KU	Ⅲ群2類 a	5YR6/4にぶい橙	長石·雲母	横位角押文2条、縦位角押文
597	55		KU	III群2類 a	5YR4/3にぶい赤褐	長石·雲母	横位の粘土紐、粘土紐の際に角押文、上下に小波状角押文
598			KU	Ⅲ群2類 a	5YR5/4にぶい赤褐	長石·雲母	横位の粘土紐、粘土紐の際に角押文、鋸歯状の角押文
599	55		_	Ⅲ群2類 b	5YR5/6明赤褐	長石·黒雲母·礫	横位・縦位の粘土紐の区画内に三角押文
600	55		KU	Ⅲ群2類 b	5YR5/4にぶい赤褐	長石·雲母	楕円形の粘土紐の区画内に角押文・小波状角押文
601			KU	Ⅲ群2類 b	5YR5/4にぶい赤褐	長石•黒雲母	横位の粘土紐の際に三角押文
602			KU	III群2類 c	5YR5/4にぶい赤褐	長石•雲母	楕円形の粘土紐の区画内に三角押文
603	55		KU	III群2類 c	7.5YR5/4にぶい褐	長石・雲母	楕円形の粘土紐の区画内に三角押文
604	55		KU	Ⅲ群2類 c	5YR5/4にぶい赤褐	長石•雲母	弧状の粘土紐の際に角押文
605	55		KU	Ⅲ群2類 c	7.5YR5/4にぶい褐	長石・金雲母	横位・Y字状・弧状の粘土紐
606	55			Ⅲ群2類 d	5YR5/4にぶい赤褐	長石・雲母	縦位の粘土紐の際に沈線
607	55		KU	Ⅲ群3類 a	2.5Y3/1黒褐	長石・金雲母	横位・弧状の隆帯と沈線の区画内に刺突文
608	55		KU	Ⅲ群3類 a	10YR7/4にぶい黄橙	長石・黒色粒子	隆帯と沈線の区画内に刺突文
609	55		KU	Ⅲ群3類 a	10YR6/3にぶい黄橙	長石・金雲母	弧状の隆帯と沈線の区画内に刺突文
	55 55		KU	Ⅲ群3類 a Ⅲ群3類 a	2.5Y6/3にぶい黄 2.5Y6/3にぶい黄	長石	楕円形の隆帯と沈線の区画内に刺突文 隆帯と沈線の区画内に刺突文
	່ວວ		クロ	Ⅲ群3類 a	2.516/3にぶい _更 10YR5/3にぶい黄褐	<u> </u>	
611	5.E			i III #手み乗り A	ロロエハロ/ひにふい 男物	長石・金雲母	横位の隆帯の区画内に連続刺突文
	55 55		KU	Ⅲ群3類 a	5YR5/6明赤褐	長石•黒色粒子	波状口縁、渦巻文・隅丸方形の隆帯と沈線の区画内に縦位沈線、縦位清 鉾状沈線区画内に斜位沈線

挿図 番号	図版 番号	遺構 番号	位置	分類	色 調	胎土	文 様・調 整 等
615	55		KU	Ⅲ群3類 a	7.5YR5/4にぶい褐	長石・礫	波状口縁、口唇部に沈線、渦巻文・楕円形の隆帯と沈線の区画内に縦位 沈線、渦巻文の中心に円孔、縦位の沈線区画内に斜位・縦位波状沈線
616	55		KU	Ⅲ群3類 a	10YR6/4にぶい黄橙	長石·礫·黒色粒子	波状口縁、口縁部渦巻文・方形の隆帯と沈線の区画内に縦位沈線、胴部 縦位沈線
617	55		KU	Ⅲ群3類 a	10YR5/4にぶい黄褐	長石·礫	波状口縁、口縁部弧状の隆帯と沈線の区画内に縦位沈線、胴部斜位沈 線、内面に隆帯
618	55		KU	Ⅲ群3類 a	10YR6/4にぶい黄橙	長石	横位沈線、楕円形の隆帯と沈線の区画内に縦位沈線
619	55		KU	Ⅲ群3類 a	10YR6/4にぶい黄橙	長石	横位沈線、楕円形の隆帯と沈線の区画内に刺突
620	55		KU	Ⅲ群3類 a	10YR7/6明黄褐	長石·黒色粒子	弧状の隆帯、斜位・縦波状の沈線
621	55		KU	Ⅲ群3類 a	7.5YR7/6橙	長石·礫	地文に縦位沈線、口縁部断面三角形の横位波状隆帯、縦位波状隆帯
622	55		KU	Ⅲ群3類 a	2.5Y7/4浅黄	長石•礫	地文に縦位沈線、口縁部断面三角形の横位波状隆帯
623	55		KU	Ⅲ群3類 a	7.5YR7/6橙	長石•礫	地文に縦位沈線、口縁部断面三角形の横位波状隆帯、隅丸方形の隆帯 の区画内に円形貼付文、隆帯に刻目
624	56		KU	Ⅲ群3類 a	2.5Y6/4にぶい黄	長石·礫·黒色粒子	波状口縁、横位隆帯、沈線、刺突
625	56		KU	Ⅲ群3類 a	7.5YR5/6明褐	長石	X字状の隆帯の区画内に縦位沈線
626	56		KU	Ⅲ群3類 a	10YR7/4にぶい黄橙	長石	弧状の隆帯と沈線の区画内に縦位沈線
627	56		クロ	Ⅲ群3類 a	7.5YR5/3にぶい褐	長石•黒色粒子	弧状の隆帯と沈線の区画内に縦位沈線
628	56		KU	Ⅲ群3類 a	5YR5/4にぶい赤褐	長石	弧状の隆帯と沈線の区画内に斜位沈線、区画外は斜位・縦位波状沈線
629			KU	Ⅲ群3類 a	5YR5/4にぶい赤褐	長石	隆帯と沈線の区画
630	56		KU	Ⅲ群3類 a	2.5Y6/4にぶい黄	長石	隆帯と沈線の区画
631	56		KU	Ⅲ群3類 a	7.5YR3/1黒褐	長石	隆帯と沈線の区画内に斜位沈線
632	56		KU	Ⅲ群3類 a	5YR5/4にぶい赤褐	長石·礫	隆帯と沈線の渦巻文
633	56		KU	Ⅲ群3類 a	7.5YR5/3にぶい褐	長石·礫	地文に縦位沈線、縦位波状沈線
634	56		KU	Ⅲ群3類 a	10YR6/4にぶい黄橙	長石·礫	縦位沈線
635	56		KU	Ⅲ群3類 b	10YR5/4にぶい黄褐	長石•金雲母	吊手土器の把手、上部に渦巻状沈線、橋部に沈線
636	56		KU	Ⅲ群3類 c	2.5Y6/4にぶい黄	長石•砂粒	口縁部横位沈線、器面全体ハの字状沈線、縦位から縦位波状に変化す る沈線7方
637	56		_	Ⅲ群3類 d	7.5YR6/3にぶい褐	長石·黒色粒子	横位沈線、楕円形の沈線区画内に縦位沈線
638	56		_	Ⅲ群3類 d	7.5YR6/6橙	長石	横位沈線、楕円形の沈線区画内に縦位沈線
639	56		クロ	III群3類 d	7.5YR5/6明褐	長石	縦位の隆帯の区画内にハの字状沈線
640	56		KU	III群3類 d	10YR5/4にぶい黄褐	長石	ハの字状沈線
641			クロ	Ⅲ群3類 d	7.5YR5/4にぶい褐	長石•礫	隆帯の区画内に斜位沈線
642	56		KU	Ⅲ群3類 d	10YR5/3にぶい黄褐	長石•黒色粒子	渦巻状沈線
643			_	Ⅲ群3類 d	5YR6/6橙	長石•黒色粒子	渦巻状沈線
644	56		KU	III群3類 d	10YR7/4にぶい黄橙	長石	隆帯の区画内に斜位沈線
645	56		クロ	Ⅲ群3類 d	2.5Y5/3黄褐	長石	地文に縦位沈線、縦位波状沈線
646	56		KU	Ⅲ群3類 e	7.5YR5/3にぶい褐	長石•礫	横位沈線、弧状・渦巻状・楕円形の隆帯と沈線の区画内に刺突
647	56		_	Ⅲ群3類 e	5YR5/6明赤褐	長石	波状口縁、弧状・渦巻状の隆帯と沈線の区画内にLR縄文
648	56		KU	Ⅲ群3類 e	7.5YR5/4にぶい褐	長石•礫	渦巻状の隆帯と沈線の区画内にLR縄文
649	56		_	Ⅲ群3類 e	5YR5/4にぶい赤褐	長石	横位交互刺突、横位の沈線区画内にL撚糸文
650	56		_	Ⅲ群3類 e	5YR4/4にぶい赤褐	長石	横位・楕円形の沈線区画内にL撚糸文
651	56		KU	Ⅲ群3類 e	7.5YR5/6明褐	長石	L撚糸文、横位沈線
652	56		KU	Ⅲ群3類 e	5YR5/4にぶい赤褐	長石	L撚糸文、横位沈線
653	56		KU	Ⅲ群3類 e	7.5YR4/2灰褐	長石	弧状の粘土紐と沈線の区画内に縦位沈線、区画外LR縄文
654	56		KU	Ⅲ群3類 e	5YR5/6明赤褐	長石	地文にLR縄文、縦波状の粘土紐
655	56		KU	Ⅲ群3類 e	5YR5/4にぶい赤褐	長石	横位の粘土紐の区画内にRL縄文、弧状沈線
656	56		KU	Ⅲ群3類 e	7.5YR5/6明褐	長石	粘土紐の区画内にRL縄文
657	56		クロ	Ⅲ群3類 e	10YR7/4にぶい黄橙	長石·礫	地文にL撚糸文、縦波状沈線
658	56		クロ	Ⅲ群3類 e	7.5YR6/6橙	長石·礫	撚りの戻ったL撚糸文、縦波状沈線
659	56		クロ	Ⅲ群3類 e	10YR5/4にぶい黄褐	長石·礫	楕円形の粘土紐の区画内に縦位沈線
660	56		_	IV群 a	10YR7/4にぶい黄橙	長石	沈線区画内にLR縄文
661	56		KU	IV群b	2.5Y7/3浅黄	長石・礫	波状口縁、口縁部の粘土紐の一部を橋状把手状に摘む、弧状の連続刻 目文、雑な櫛歯状の縦波状沈線
662			KU	IV群 b	5YR5/6明赤褐	長石·黒色粒子	地文にR撚糸文、楕円形の沈線区画内の文様を擦り消す
663			クロ	底部	7.5YR5/4にぶい褐	長石•黒色粒子	底面網代痕

第37表 向山遺跡縄文時代土製品観察表

挿図 番号	図版 番号	位置	分 類	色調	胎土	文様・調整等	長径 (cm)	短径 (cm)	厚さ (cm)
664	カラー4	KU	III群2類 d	5YR4/4にぶい赤褐	長石	胴部に粘土紐で顔の輪郭を付け、その中 にハート形に粘土板を貼り、目・口を彫 刻、鼻貼付	6.2	5.5	2.3
665		KU	Ⅲ群1類 a	5YR4/6赤褐	石英・長石・雲母	縦位沈線	5.3	4.9	1.2
666		クロ	Ⅲ群1類 a	7.5YR5/6明褐	石英・長石・雲母	横位沈線	3.9	3.4	1.6
667		KU	Ⅲ群1類 a	5YR7/8橙	石英・雲母	縦位沈線	3.0	2.8	1.1
668		_	Ⅲ群1類 a	7.5YR4/3褐	石英・長石・雲母	縦位沈線	3.0	2.8	0.9

第38表 向山遺跡縄文時代石器属性表

挿図番号	図版番号	出土遺構	層位	器種	分類	石材	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
37	45	SH14	覆土	石鏃	II A 2	黒曜石	2.00	1.80	0.30	0.62
38	45	SH14	覆土	石鏃	II A 2	黒曜石	1.95	1.90	0.25	0.65
39	45	SH14	覆土	石鏃	II B 1	黒曜石	1.65	1.32	0.35	0.52
40	45	SH14	覆土	石匙	横型	ホルンフェルス	7.10	5.80	1.70	79.27
41	45	SH14	覆土	スクレイパー		ホルンフェルス	9.27	7.22	2.08	137.84
42	45	SH14	覆土	打製石斧	IV	砂岩	11.00	4.75	1.85	108.40
43	45	SH14	覆土	打製石斧	II	砂岩	10.80	7.72	2.80	221.80
44	45	SH14	覆土	磨製石斧		砂岩	14.85	4.77	3.50	384.20
45		SH14	覆土	磨石	I	安山岩	11.50	9.10	4.80	645.00
46		SH14	覆土	石皿	II	輝石安山岩	36.30	27.00	15.50	24900.00
53	45	TA3	覆土	打製石斧	V	頁岩	12.95	4.53	2.31	93.00
54		TA3	覆土	磨石	I	安山岩	13.10	6.70	8.30	1003.70
55		TA3	覆土	磨石	II	輝石安山岩	9.60	8.40	3.70	408.50
56		TA3	覆土	石皿	I	輝石安山岩	40.90	32.90	10.50	18800.00
57		TA3	覆土	石皿	I	輝石安山岩	42.30	29.90	15.50	28000.00
60		TA4	覆土.	磨石	I	安山岩	8.30	7.40	2.30	198.00
74	45	TA6	覆土	石匙	横型	赤玉石	1.60	1.70	0.50	11.30
75	45	TA6	覆土	石匙	横型	チャート	3.90	4.60	0.55	5.64
76		TA6	覆土.	磨石	I	安山岩	7.70	7.20	4.10	329.30
77		SY2		磨石	I	輝石安山岩	11.20	6.80	4.00	353.20
78		SY2		石皿	I	輝石安山岩	26.30	16.10	5.50	3250.00
79		SY5		磨石	I	安山岩	8.90	7.10	2.30	190.00
80		SY5		敲石	V	輝石安山岩	11.40	8.30	5.50	622.40
81		SY7		磨石	I	輝石安山岩	7.10	5.70	2.70	130.10
82		SY7		磨石	I	安山岩	9.20	8.10	3.30	325.90
83		SY6		石皿	II	輝石安山岩	11.00	12.40	5.00	1178.80
84		SY11		磨石	I	安山岩	13.00	8.90	4.30	740.40
85		SY11		敲石	V	輝石安山岩	10.00	10.10	7.20	812.00
86		SY11		石皿	II	輝石デイサイト	13.00	16.10	5.00	1900.00
87		SY3		磨石	I	安山岩	11.20	10.50	5.90	831.70
88		SY3		磨敲石	IV	輝石安山岩	11.50	8.60	4.70	603.20
89		SY10			I	輝石安山岩	8.70	6.50	3.20	290.10
90		SY10 SY10		磨石 石皿	I	安山岩	15.40	11.90	5.40	1210.00
91				磨石	I	輝石安山岩	7.90		2.20	136.60
92		SY8				輝石安山岩		6.30		575.40
		SY8		磨石	I		10.70	10.70	3.50	
93		SY8		磨敲石	IV	輝石安山岩	7.50	6.80	3.00	189.00
94		SY8		石皿	I	安山岩	29.50	20.00	10.70	8500.00
95		SY8		石皿	I	安山岩	18.90	13.80	6.30	2500.00
96		SY8		石皿	I	輝石安山岩	12.40	22.00	6.00	2190.00
97		SY8		石皿	I	輝石安山岩	32.30	29.40	12.30	18100.00
98		SY8		石皿	I	輝石安山岩	23.20	22.50	10.10	8325.00
99		SY1		磨石	I	輝石安山岩	7.70	6.30	3.00	202.30
100		SK29	覆土	磨石	I	輝石安山岩	7.90	7.70	2.20	228.80
111	45	SK32	覆土	石鏃	II A 2	黒曜石	1.60	1.60	0.50	0.84
123	45	SX3		スクレイパー		頁岩	6.76	6.19	2.40	84.30
124		SX3		磨石	I	輝石安山岩	7.40	5.20	4.30	200.70
125		SX3		磨石	I	輝石安山岩	9.30	8.00	5.50	653.60
126		SX3		石皿	II	輝石安山岩	35.50	42.90	12.40	22800.00
669	57		KU	有茎尖頭器		ホルンフェルス	3.70	1.42	0.51	2.01
670	57		KU	石鏃	I	黒曜石	1.52	1.59	0.60	1.00
671	57		KU	石鏃	I	ホルンフェルス	1.42	0.90	0.30	0.30
672	57		KU	石鏃	I	ホルンフェルス	4.50	2.90	0.80	8.04
673	57		KU	石鏃	II A 1	黒曜石	1.60	1.75	0.35	0.63
674	57		KU	石鏃	II A 2	黒曜石	2.00	1.90	0.40	0.94
675	57		撹乱	石鏃	II B 1	黒曜石	1.65	1.35	0.30	0.42
676	57		KU	石鏃	II B 1	ホルンフェルス	2.42	1.75	0.38	1.37
677	57		KU	石鏃	II B 1	黒曜石	3.25	2.10	0.40	1.58
678	57		KU	石鏃	II B 1	黒曜石	1.70	0.90	0.30	0.32
679	57		KU	石鏃	II B 2	黒曜石	1.23	0.99	0.28	0.24
680	57		KU	石鏃	II B 3	頁岩	2.09	1.22	0.43	0.77
681	57		KU	石鏃	IV	チャート	2.30	1.37	0.32	0.96
682	57		KU	石鏃	IV	黒曜石	3.35	1.55	0.30	0.99
683	57		KU	石匙	横型	ホルンフェルス	4.60	8.50	1.20	29.17
684	57		KU	石匙	横型	ホルンフェルス	5.60	8.51	1.25	53.93
685	57		KU	石匙	横型	ホルンフェルス	7.70	6.30	1.60	68.66
686	57		KU	石匙	横型	ホルンフェルス	5.15	4.40	1.12	18.57
687	57		KU	石匙	横型	頁岩	4.01	5.05	1.25	16.84
688	57		KU	石匙	横型	ホルンフェルス	4.06	7.06	1.10	21.31
689	57		KU	石匙	横型	ホルンフェルス	3.90	5.53	0.95	15.74
000										
690	57		KU	石匙	横型	黒曜石	2.80	4.90	1.00	8.93

挿図番号	図版番号	出土遺構	層位	器種	分類	石材	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
692	58		KU	石錐		ホルンフェルス	5.00	2.20	0.60	4.74
693	58		KU	石錐		頁岩	6.00	2.00	0.70	5.47
694	58		KU	石錐		ホルンフェルス	3.10	2.80	0.60	2.88
695	58		クロ	石錐		ホルンフェルス	4.38	1.60	0.82	3.11
696	58		KU	石錐		ホルンフェルス	4.09	2.27	0.90	4.91
697	58		KU	石錐		ホルンフェルス	5.48	4.43	1.25	22.80
698	58		KU	スクレイパー		頁岩	5.30	3.35	0.90	14.80
699	58		KU	スクレイパー		砂岩	8.28	4.70	1.30	43.30
700	58		KU	スクレイパー		ホルンフェルス	4.39	6.46	2.20	58.73
701	58		KU	スクレイパー		ホルンフェルス	6.40	7.10	1.30	58.69
702	58		KU	スクレイパー		礫質砂岩	9.00	7.40	2.60	212.60
703	58		KU	打製石斧	I	ホルンフェルス	8.10	5.06	3.80	177.85
704	58		KU	打製石斧	I	砂岩	10.52	7.28	2.50	211.70
705	58		KU	打製石斧	II	ホルンフェルス	10.06	5.27	2.50	142.74
706	58		クロ	打製石斧	II	砂岩	8.20	5.00	1.60	74.10
707	58		表土	打製石斧	II	ホルンフェルス	14.20	8.60	2.80	367.66
708	58		KU	打製石斧	III	頁岩	10.77	6.62	2.00	173.00
709	58		KU	打製石斧	IV	砂岩	9.65	3.60	1.20	55.60
710	58		KU	打製石斧	IV	粘板岩	10.80	4.50	1.10	63.40
711	58		KU	打製石斧	IV	砂岩	11.17	4.58	2.10	111.40
712	58		KU	打製石斧	IV	頁岩	11.91	5.92	3.70	274.00
713	58		KU	打製石斧	IV	ホルンフェルス	11.00	5.80	3.30	225.33
714	58		KU	打製石斧	V	砂岩	7.49	6.10	1.75	97.00
715	58		KU	打製石斧	V	頁岩	5.00	2.90	0.50	8.05
716	58		KU	打製石斧	V	ホルンフェルス	4.91	2.66	0.95	11.11
717	58		KU	磨製石斧		ドレライト	14.73	5.85	4.10	486.70
718	58		クロ	磨製石斧		砂岩	8.85	4.60	0.28	156.80
719	58		KU	磨製石斧		頁岩	8.67	4.59	3.25	217.30
720	58		KU	石核		ホルンフェルス	3.72	8.08	6.69	299.39
721	58		KU	石核		ホルンフェルス	4.19	10.66	5.30	254.59
722	58		KU	石核		ホルンフェルス	4.80	5.80	2.80	90.49
723	58		KU	石核		ホルンフェルス	5.20	8.90	3.80	222.86
724	58		KU	石核		ホルンフェルス	7.20	9.59	8.20	606.40
725	58 58		クロ	石核		黒曜石	6.90	7.00	3.85	210.34 687.40
726	58		KU クロ	礫器		ホルンフェルス	10.50 7.13	8.50	5.35	60.00
727 728			KU	石錘 石錘		含礫砂岩 頁岩	5.00	4.30	1.80	43.80
729			KU	石錘		頁岩 頁岩	6.40	5.60	1.70	78.20
730			KU	石錘		砂岩	8.10	7.50	2.10	169.70
730			KU	石錘		砂岩	11.83	6.85	1.80	233.50
732			撹乱	磨石	I	輝石安山岩	7.10	6.80	2.90	215.70
733			KU	磨石	I	輝石安山岩	6.80	5.80	2.50	128.40
734			撹乱	磨石	I	輝石安山岩	7.40	8.00	2.40	226.30
735			撹乱	磨石	I	輝石安山岩	9.60	8.10	4.10	423.40
736			KU	磨石	I	安山岩	9.70	8.20	3.00	316.30
737			撹乱	磨石	I	輝石安山岩	11.00	7.80	6.30	745.20
738			KU	磨石	I	安山岩	12.00	9.30	3.90	650.00
739			KU	磨石	I	輝石安山岩	11.90	9.50	4.70	724.50
740			KU	磨石	I	安山岩	13.20	10.20	4.00	724.50
741			KU	磨石	I	輝石安山岩	14.00	11.00	4.60	930.50
742			KU	磨石	I	安山岩	13.10	9.50	4.40	850.00
743			KU	磨石	I	安山岩	9.40	8.40	4.30	481.60
744			KU	磨石	I	輝石安山岩	9.10	7.90	1.90	229.10
745			KU	磨石	I	輝石安山岩	10.50	8.80	4.70	750.30
746			KU	磨石	I	輝石安山岩	12.40	9.50	4.70	771.50
747			KU	磨石	I	輝石安山岩	12.70	8.50	4.00	648.20
748			KU	磨石	I	輝石安山岩	13.90	8.20	9.00	1300.00
749			KU	磨石	II	輝石安山岩	14.70	5.40	7.00	820.00
750			KU	磨石	II	輝石安山岩	10.50	6.30	6.70	710.00
751			KU	磨石	II	砂岩	10.60	5.50	7.00	635.40
752			KU	磨石	II	輝石安山岩	11.90	5.20	7.10	630.00
753			KU	磨石	III	輝石安山岩	14.70	5.80	4.90	647.90
754			KU	磨石	III	輝石安山岩	14.40	5.30	6.70	950.00
755			KU	磨石	III	輝石安山岩	14.50	5.60	6.10	930.80
756			クロ	磨敲石	IV	輝石安山岩	10.90	7.10	4.10	425.90
757			KU	磨敲石	IV	安山岩	9.50	8.50	4.30	385.20
758			KU	磨敲石	IV	安山岩	11.80	10.30	5.00	987.40
759			KU	磨敲石	IV	輝石安山岩	11.10	7.20	4.20	504.80
760			KU	磨敲石	IV	輝石安山岩	8.80	7.70	4.00	412.60
761			KU	磨敲石	IV	多孔質安山岩	8.20	7.10	4.00	310.80
762			撹乱	磨敲石	IV	安山岩	7.10	6.80	2.90	215.70
763			KU	磨敲石	IV	安山岩	9.80	6.60	4.70	406.60
100					IV	安山岩	12.20			

挿図番号	図版番号	出土遺構	層位	器種	分類	石材	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
765			KU	敲石	V	輝石安山岩	12.40	10.50	5.70	923.40
766			撹乱	敲石	V	輝石安山岩	12.80	10.70	7.30	1310.00
767			KU	敲石	V	輝石安山岩	9.70	8.40	5.30	529.90
768			KU	凹石	VI	輝石安山岩	8.40	7.00	3.60	247.00
769			KU	凹石	VI	輝石安山岩	7.20	6.30	3.50	256.70
770			KU	凹石	VI	輝石安山岩	8.10	5.60	4.40	227.70
771			KU	石皿	I	輝石安山岩	43.90	30.30	8.10	15300.00
772			KU	石皿	I	安山岩	30.00	26.20	7.00	9400.00
773			撹乱	石皿	I	輝石安山岩	21.70	30.10	13.40	12650.00
774			KU	石皿	I	輝石安山岩	33.70	29.10	11.90	17400.00
775			KU	石皿	II	輝石安山岩	47.00	25.10	12.40	20600.00
776			KU	石皿	II	輝石安山岩	40.00	33.50	11.90	23000.00
777			KU	石皿	II	輝石安山岩	28.40	25.60	8.10	8450.00

第39表 向山遺跡縄文時代石製品属性表

挿図番号	図版番号	層位	器 種	石 材	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
778	59	KU	勾玉	葉ろう石	3.37	2.40	0.57	5.89
779	59	KU	垂飾	滑石	12.00	3.72	0.87	48.82
780	59	撹乱	垂飾	滑石	3.08	1.50	0.45	3.24
781	59	KU	玦状耳飾	滑石	3.43	2.32	1.00	9.05
782	59	KU	玦状耳飾	滑石	2.59	2.24	0.60	4.31
783	59	KU	玦状耳飾	滑石	3.34	1.49	0.73	4.69
784	59	KU	管玉	トレモラ閃石岩	3.58	1.02	1.14	4.17
785	59	KU	管玉	トレモラ閃石岩	1.72	1.82	1.55	4.12
786	59	KU	管玉	滑石	2.08	0.53	0.95	0.93

第40表 向山遺跡旧石器時代石器属性表

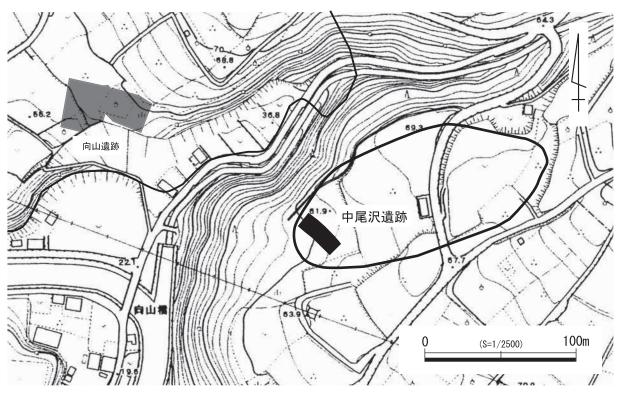
挿図番号	図版番号	層位	器 種	石 材	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
787	59	表土	尖頭器	黒曜石	3.01	1.28	0.80	2.30
788	59	KU	尖頭器	黒曜石	2.77	1.46	0.49	1.91
789	59	KU	尖頭器	黒曜石	3.81	2.17	0.93	8.39
790	59	KU	尖頭器	黒曜石	3.34	3.17	0.91	8.68
791	59	KU	尖頭器	黒曜石	1.91	1.24	0.58	1.05
792	59	KU	尖頭器	ホルンフェルス	3.78	1.41	0.58	2.56
793	59	KU	尖頭器	黒曜石	2.17	1.41	0.52	1.23
794	59	KU	尖頭器	黒曜石	2.20	1.50	0.50	1.40
795	59	撹乱	尖頭器未製品	黒曜石	5.82	3.20	0.90	15.38
796	59	KU	ナイフ形石器	チャート	3.97	1.95	0.75	5.81
797	59	KU	ナイフ形石器	黒曜石	4.15	1.21	0.55	2.24
798	59	YL	ナイフ形石器	砂岩	4.80	1.62	0.60	3.30

第7章 中尾沢遺跡

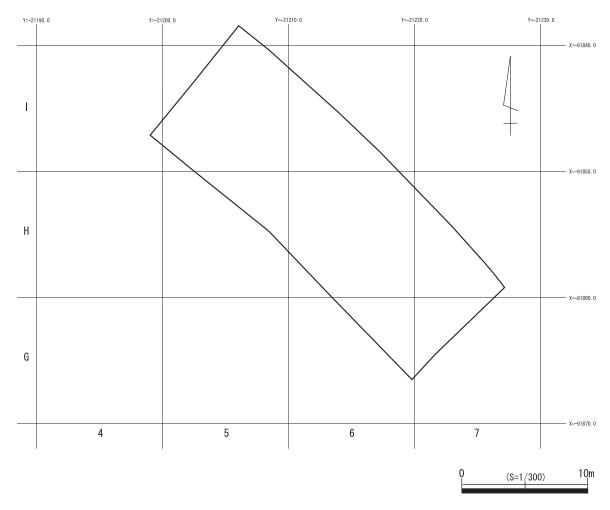
第1節 基本土層と土層の堆積状況

本遺跡の大淵スコリア層は粒子の量によって2層に分層できる。上層は粒子を多く含んだ腐食土層、下層は粒子の密集した層である。クロボク土層も発達しており、3層に分層できる。土中に混じるスコリアの量は下層に進むほど少なくなり、色調も濃くなってゆく。

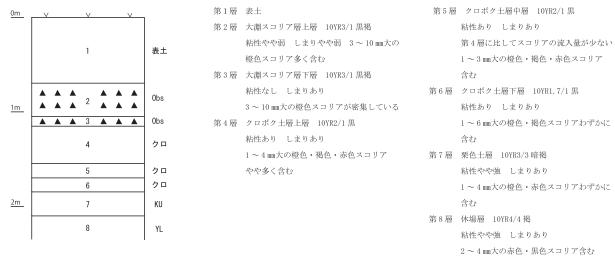
堆積状況を見ると、調査区南東側は大淵スコリア層及びクロボク土層の堆積が厚く、北西側は薄い。 北西側ではBBI層より上層の土は削平されている。また、ニセローム層以下の愛鷹上部ロームの発色 は不明瞭である。(岩崎)



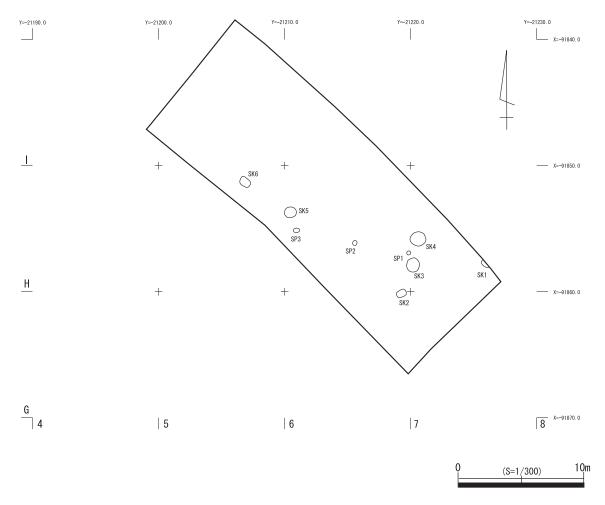
第170図 調査区位置図



第171図 グリッド配置図



第172図 基本土層柱状図



第173図 第1遺構面遺構配置図

第2節 古墳時代前期以降の遺構

第4層クロボク土層上面にて、土坑6基と小穴3基が検出された。柱穴などの可能性を指摘できるものはなく、性格は不明である。これらの土坑・小穴は大淵スコリアを覆土とする事を特徴とする。

(1) 土坑

円形・楕円形を呈するものが検出された。

ア SK1・SK2・SK6 (第174図・第44表)

平面形が楕円形の土坑をまとめた。平面規模は長径 $0.8\sim0.9$ m、短径 $0.6\sim0.7$ m、残存する深さは $20\sim26$ cmを測る。断面形は底面の平坦面が広く立ちあがっている逆台形状である。

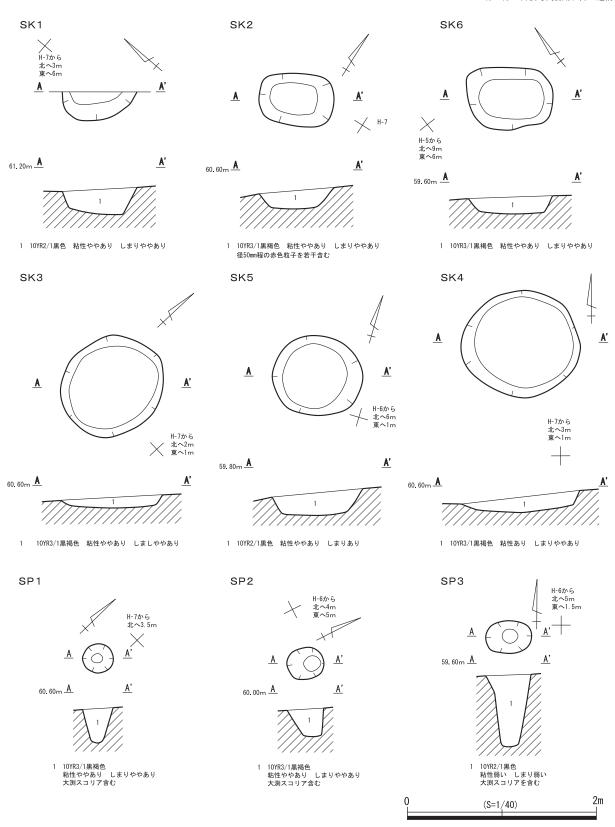
イ SK3~5 (第174図・第44表)

円形を呈する土坑である。平面規模は径 $0.7\sim1.1$ m、残存する深さは $10\sim24$ cmである。断面形は底面の平坦面が広く立ちあがっている逆台形状である。

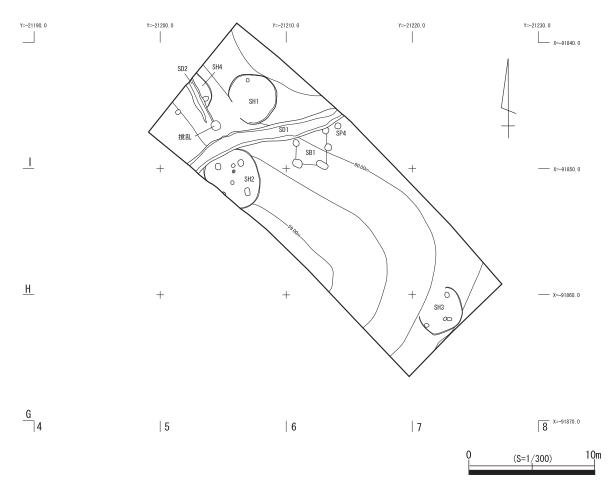
(2) 小穴 SP1~3 (第174図・第44表)

H7グリッドからH6グリッドにかけての、調査区南側で検出された3基の小穴である。

遺構底面の標高値の違いから、建物の柱穴や柵列とするには考えにくい。平面形は全て円形を呈し、 断面形は立ち上がりが急な逆台形状である。(西田)



第174図 第1遺構面 土坑・小穴



第175図 第2遺構面遺構配置図

第3節 古墳時代の遺構と遺物

1 遺 構

古墳時代の遺構は本来の掘り込み面であるクロボク土層と遺構覆土の判別が困難であるため、第7層 栗色土層上面にて検出した。

遺構は緩斜面上に竪穴建物4基、掘立柱建物1基、溝2基、小穴1基を検出した。

(1) 竪穴建物 (第41表)

ア SH1 (第176図)

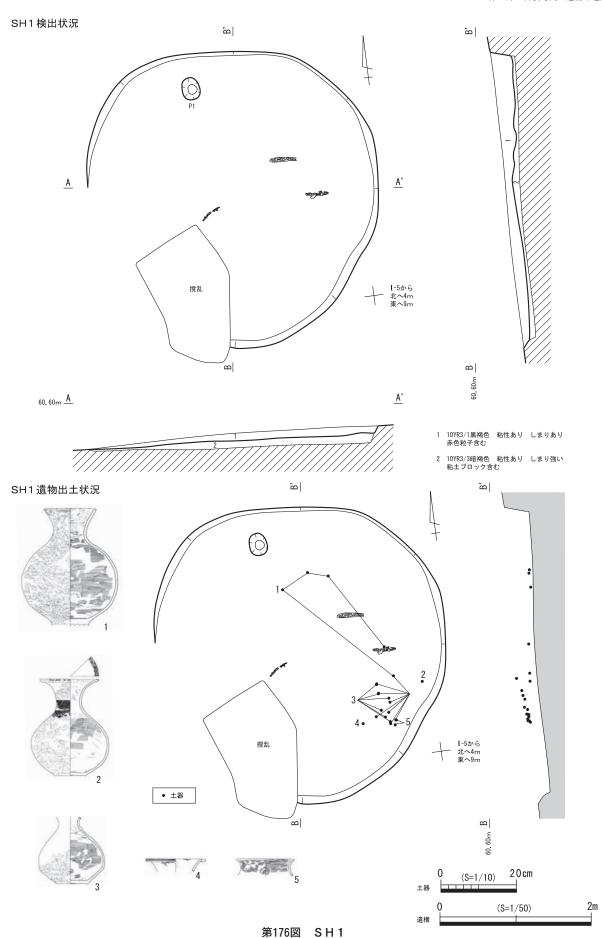
I-5グリッド中央東寄り、調査区北側に立地する。削平と撹乱の影響を受けている。

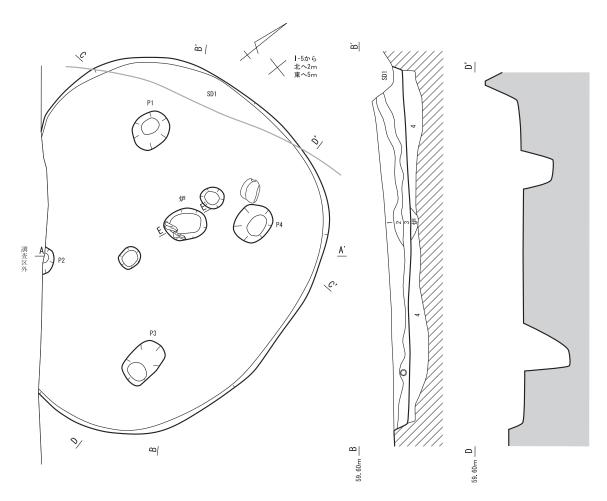
構造 平面形は不整形な円形をなす。床面は、建物の南西部分は削平と撹乱により、本来の面を失っている。床面構築土が認められており、その厚さは $4\sim12\,\mathrm{cm}$ と薄い。掘方は平坦に作られている。柱穴なのか判断がつかないが、小穴を1基検出している。平面形は楕円形で、長径 $30\,\mathrm{cm}$ 、短径 $22\,\mathrm{cm}$ 、床面からの深さは $38\,\mathrm{cm}$ であった。

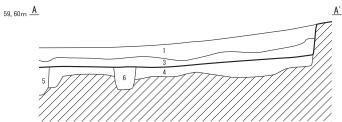
遺物出土状況 遺物は床面直上からサカキの炭化材が出土した他、壺が建物南東側で出土している(第 183図)。古墳時代前期の遺構である。

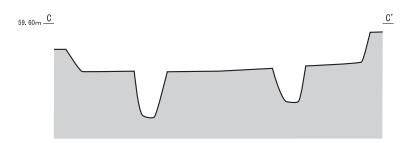
イ SH2 (第177・178図)

H-5グリッド北寄り、調査区北西に位置する。北側部分の壁面と覆土の一部はSD1に切られてい





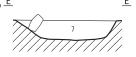




- 1 10YR3/1黒褐色 粘性あり しまりやや強い 径1~5mmの橙色・赤色・褐色スコリアを少量含む ロームブロック含む
- 2 10YR2/1黒色 粘性あり しまりやや強い 径1~5mmの橙色・赤色・褐色スコリアを少量含む ロームブロック含む
- 3 10YR2/2黒褐色 粘性あり しまりやや強い 径1~5mmの橙色・赤色・褐色スコリアを少量含む ロームブロック含む
- 4 10YR4/3にぶい黄褐色 粘性あり しまり強い ロームブロック含む
- 5 10YR2/2黒褐色 粘性あり しまりあり
- 6 10YR2/2黒褐色 粘性あり しまりあり

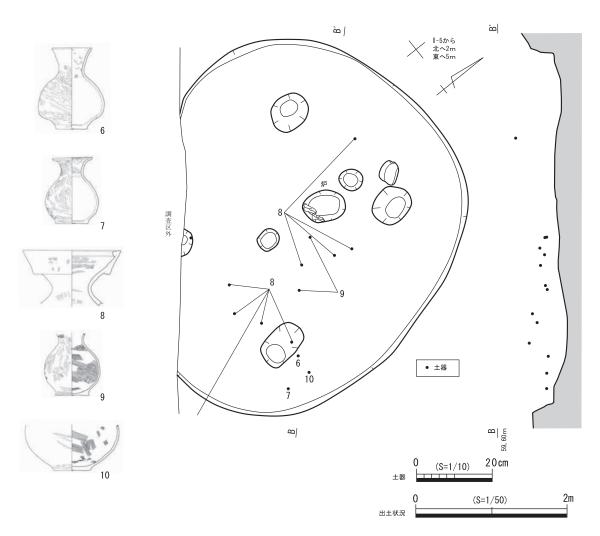


E'
59.00m E
E'



7 10YR3/4暗褐色 粘性あり しまりあり 径1~10mmの焼土ブロックを多く含む





第178図 SH2遺物出土状況

る。

構造 建物の平面形は各辺がやや直線的な楕円形である。床面は平坦に形成されている。第4層は床面構築土で、厚さはおよそ10cm~25cm程度である。掘方は中心部分で平坦面を形成し、外側は円形の溝状に掘り込まれている。

炉は置石炉で中央のやや北寄りで検出された。規模は長径56cm、短径41cm、深さ10cmを測る。置石は 掘方の南側に細長い石を2点据えている。

柱穴は主柱穴が4本確認できる。平面形は楕円形と方形である。

遺物出土状況 遺物は床面直上及び覆土から出土し(第184図 6 \sim 10)、8 は包含層で出土した土器片とも接合関係にある。出土遺物から、S H 2 は古墳時代前期と考えられる。

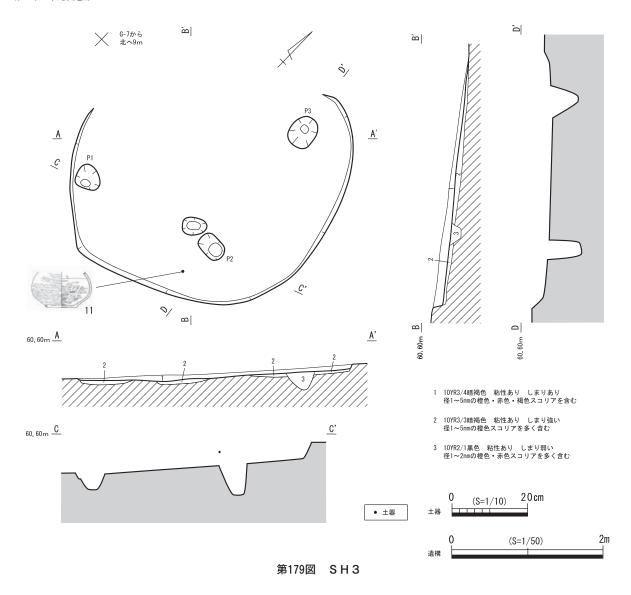
ウ SH3 (第179図)

G-7グリッド北西、調査区南東に立地する。

構造 平面形は不整形な円形をなす。掘方はほぼ平坦に構築されている。掘方に充填されている第2層は床面構築土で、最も厚い箇所で8㎝を測る。

主柱穴としたものは $P1\sim P3$ で、3基確認した。柱穴の平面は不整形で最大径が $32\sim 42$ cmを測る。深さは掘方から $20\sim 42$ cmを測る。

遺物出土状況 壺が覆土中から1点出土している(第184図11)。出土遺物から、古墳時代前期の遺構と



考えられる。

エ SH4 (第180図)

I-5グリッド中央西寄り、調査区北側に位置する。SD2に遺構中央を切られるほか、建物の西側、およそ半分は削平を受けており、柱穴のみの検出となった。

構造 平面形は、残存する北東部でやや直線的な部分があり、コーナーは曲線的にカーブを描くことから、隅丸方形に近い形であったと考えられる。

掘方は平坦に作られ、深さは一番深い箇所で $7\,\mathrm{cm}$ を測る。上面は削平を受けて床面とおぼしき硬化面が確認できなかったため、第 $1\,\mathrm{M}$ 層および第 $3\,\mathrm{M}$ 層が床面構築土であるのかは判断できない。柱穴は $P\,1$ ・ $P\,2\,\mathrm{o}\,2\,\mathrm{M}$ 基が検出されている。平面形が長径 $40\,\mathrm{cm}$ 前後の楕円形で、残存する深さは $30\,\mathrm{cm}$ を測る。炉は検出されていない。

遺物出土状況 遺物の出土はない。時期は不明であるが、ほかの竪穴建物と同じく古墳時代前期の可能性が高いものと考えられる。

(2) 掘立柱建物 SB1 (第181図·第42表)

I − 6 グリッド南西、調査区中央に位置する。

柱間は1間×2間の掘立柱建物で、SD1によって北側部分は切られる。

柱穴の平面形は円形を呈し、P1・4・5は径およそ60cm、P2は径74cm、P3は1mを測る。北側と中央の柱穴P1・4・5の平面規模は近い値を示し均一的であるが、南端右側の柱穴P3は他の柱穴よりも規模が大きく、平面形も隅丸長方形とやや不自然である。これは近接していた2つの小穴を掘削時に一つの土坑として認識し検出したものと思われる。

(3) 溝状遺構(第43表)

ア SD1 (第182図)

 $I-5 \cdot I-6$ グリッドに位置し、調査区北側を横断し調査区外へ続いている。検出できた長さは12.9 m、幅は最大で1.4m、深さは30cmを測る。 SB1を切り、溝は調査区外に続いている。

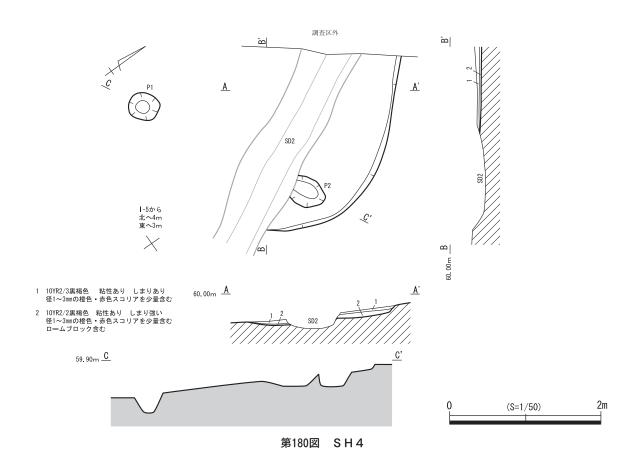
イ SD2 (第182図)

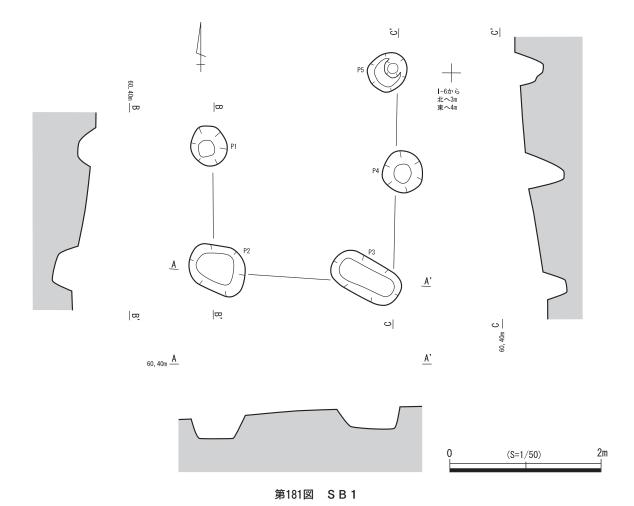
遺物の出土はなく詳しい時期は不明である。

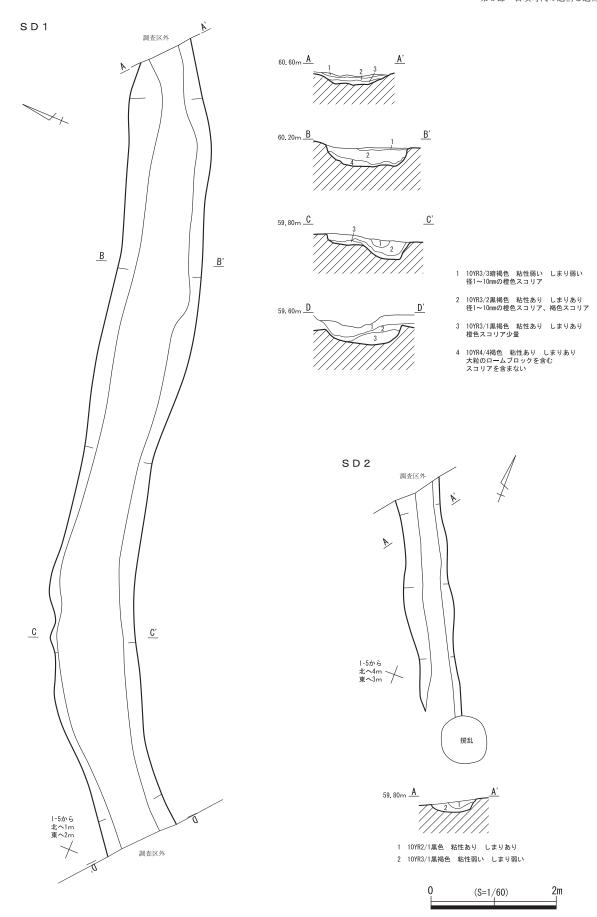
I-5 グリッド西寄り、調査区北側に位置し、南北にのびるが、南側は撹乱により溝が切られ、北側の調査区外へ続いている。長さは $3.9\,\mathrm{m}$ 、最大幅 $80\,\mathrm{cm}$ 、深さ $20\,\mathrm{cm}$ を測る。遺物の出土はなく詳しい時期は不明である。

(4) 小穴 SP4 (第44表)

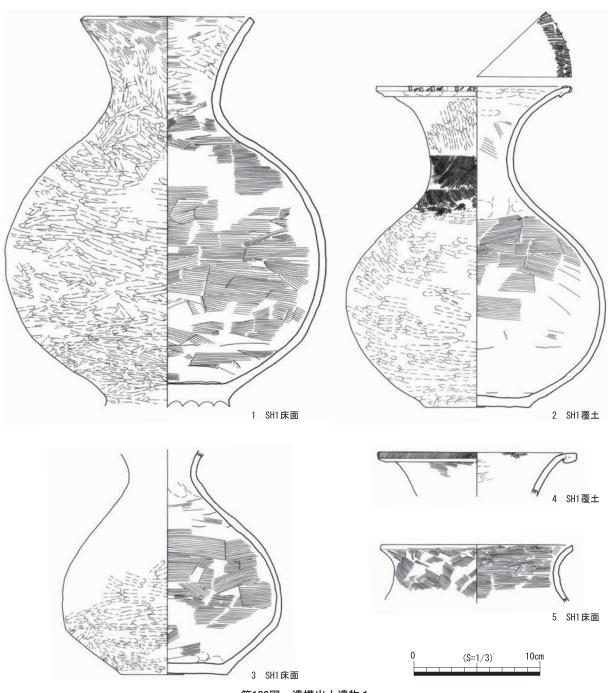
小穴は1基検出されており、I-6グリッド南西、調査区中央北東の掘立柱建物の脇に位置する。 平面形は隅丸方形をなし、径50cm、深さ50cmを測る。断面形は立ち上がりが急角度な逆台形状である。 (西田)







第182図 第2遺構面 溝状遺構



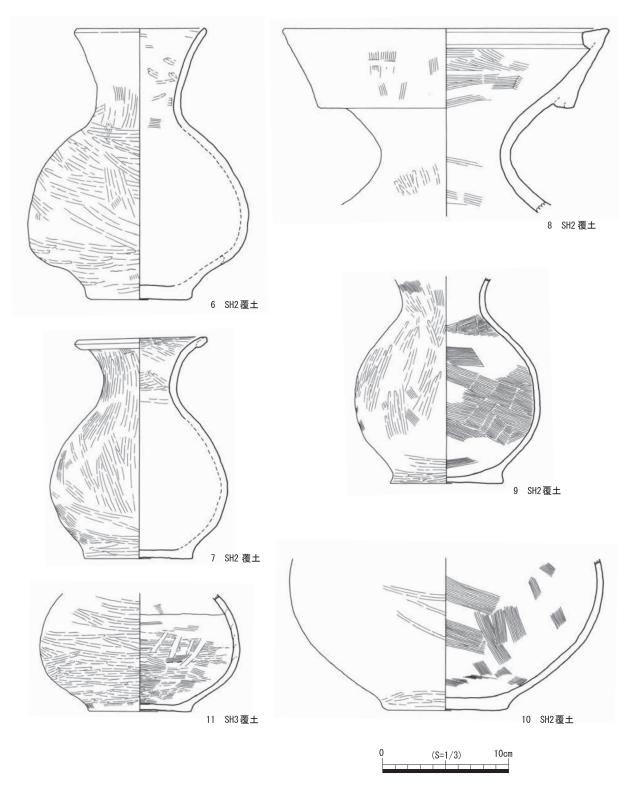
第183図 遺構出土遺物1

2 遺物

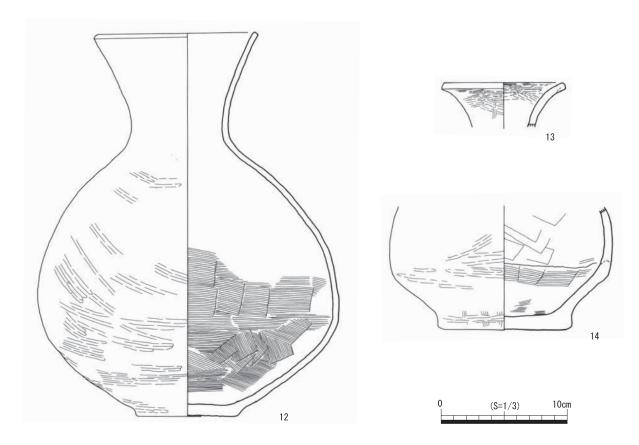
出土した土器の時期は古墳時代前期と考えられる。

(1) SH1出土遺物 (第183図1~5・第45表 図版64)

1は単純口縁壺である。胴部は丸く、中央部に最大径を有する。口縁部は直線的に開く。2は折り返し口縁壺である。胴部の形状は潰れた球形で、中央部に最大径を有する。頸部は細く、口縁部は大きく外反して開く。外面頸部、口唇部、内面口縁部に縄文を施文している。さらに口唇部には棒状浮文、内面口縁部には円形浮文を貼り付けている。3は壺の胴部である。胴下部に最大径を有し、にぶい稜を持つ。頸部は細く、緩やかに屈曲する。4は折り返し口縁壺である。口縁部が外反して開き、口唇部に縄文を施文している。



第184図 遺構出土遺物2



第185図 包含層出土土器 (古墳時代前期)

5 は甕の口縁部である。頸部の屈曲は緩やかである。口縁部は外反して開き、口唇部は面取りしている。

(2) SH2出土遺物(第184図6~10·第45表 図版64)

6 は単純口縁壺である。胴下部に最大径を有する。底部から胴下部にかけては大きく弯曲して開いている。口縁部の開きは1 に類似する。口唇部は磨滅している。7 は折り返し口縁壺である。胴部は丸いが、張りは小さい。口縁部は緩やかに外反して開く。8 は大型の複合口縁壺である。胎土に白色粒を含む。頸部は短く、口縁部は直線的に大きく開く。内面口唇部直下には鈎状の肥厚帯が見られる。9 と10 は壺の胴部である。9 は7 に類似した胴部を有する。

(3) SH3出土遺物(第184図11・第45表 図版64)

11は壺の胴部である。胴下部に最大径を有する。

(4) 包含層出土遺物 (第185図12~14・第45表 図版64)

12、13は単純口縁壺である。12は胴下部に最大径を有する。胴部は丸い。口縁部の開きは1、6 に類似する。頸部は1、6 に比してやや長い。13は口縁部が外反して開く。14は壺の胴部である。(岩崎)

第4節 縄文時代の遺物

1 縄文土器

本遺跡では、縄文時代の遺構は検出されなかったが、第7層から縄文時代の遺物が出土した。 I 群2類 k・II 群2類 a・III 群1類 a 土器が出土している。

(1) I 群 2 類 k (第186図15~20·第46表)

厚手で胎土に繊維を含んでおり、表面に繊維痕と斜位の調整痕、内面には横位の擦痕が付けられている。これらは I 群 2 類 k 種土器で早期末の無文土器とした。

(2) Ⅱ群2類a (第186図21~32·第46表 図版65)

地文に縄文を施し、平行沈線および浮線文を貼り付けた、器厚がやや厚手の諸磯b式土器である。 21は深鉢の口縁部であり、口唇部に沈線を施し、口縁部は半截竹管状工具で斜位沈線と爪形文を付け ながら沈線を施す。地文に縄文、口唇部に円形の突起を付け、弧状沈線を付ける。24は深鉢の口縁部、 27・29他は24と同一個体の体部である。口唇部に棒状工具で刺突をし、地文にはRL縄文を施文する。 半截竹管状工具で横位沈線をやや雑に施文している。32は無文の浅鉢の胴部である。

(3) Ⅲ群 1 類 a (第186図33 · 第46表 図版65)

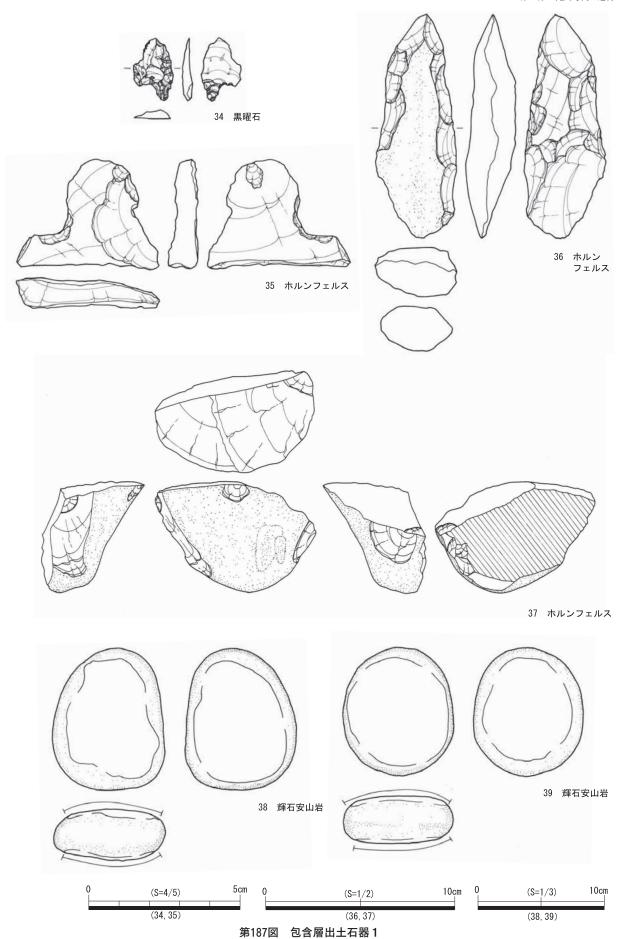
五領ヶ台式土器である。33は口唇部直下にLR縄文を施文し、横位区画内に半截竹管状工具で押引文を施し、橋状把手を口縁部と胴部の境に付ける。胴部上半から結節縄文を垂下した上に、工具でY字状に沈線を付けている。(西田)

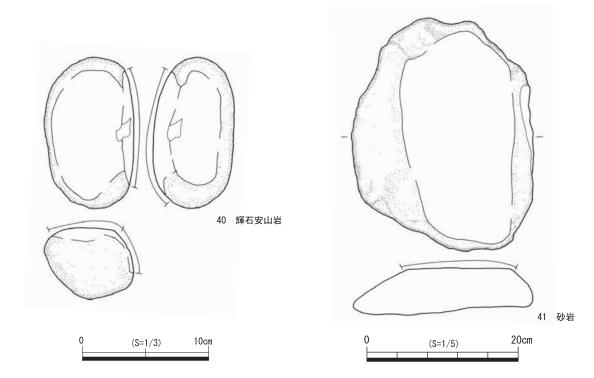
2 包含層出土石器 (第187図34~第188図41・第47表 図版65)

34は石鏃の未製品である。35は石匙のつまみの部分である。36はIV類の打製石斧である。側縁部の形状は刃部の開きが小さいII類に類似する。厚手の表皮付き剥片を素材に用い、比較的大きな剥離で基部と刃部を尖頭状に作り出している。37はホルンフェルスの石核である。38から40は I 類の磨石である。40は側面にも磨痕が見られる。41は II 類の石皿である。(岩崎)



-254-





第188図 包含層出土遺物 2

第41表 中尾沢遺跡竪穴建物の概要

() は残存値

遺構名	挿 図	図版	検出面	グリッド	主軸方位	平面形態	規模(m) 長軸×短軸	主柱 穴数	掘方	炉形態	出土遺物
SH1	175, 176	61	KU	I-5	N-5°-E	円形	3.9×3.9		平坦		第183図1~5
SH2	175, 177, 178	61	KU	H, I-5	N-7°-W	楕円形	4.8×4.2	4	円形	置石炉	第184図6~10
SH3	175, 179	62	KU	G, H-7	N-16°-W	円形	$3.5 \times (3.4)$	3	平坦		第184図11
SH4	175, 180	62	KU	I-5	N-26°-W	_	$(3.2) \times (2.6)$	2	_		

第42表 中尾沢遺跡掘立柱建物の概要

遺構名	挿 図	検出面	グリッド	主軸方位	柱間規模	桁行 (m)	梁間(m)	柱穴平面形態
SB1	175, 181	KU	I-6	N-3°-E	1間×2間	3.4	2.3	円形

第43表 中尾沢遺跡溝状遺構の概要

() は残存値

遺構名	挿図	検出面	グリッド	全長(m)	最大幅 (m)	最大深(m)
SD1	175, 182	KU	H-5, I-5, 6	(12.9)	(1.4)	0.3
SD2	175, 182	KU	I-5	(3.9)	0.8	0.2

第44表 中尾沢遺跡土坑・小穴の概要

() は残存値

遺構名	挿図	検出面	グリッド	種類	規模(m)長径×短径	最大深(m)	平面形態
SK1	173, 174	クロ上層	H-7	土坑	0.8× (0.3)	0.3	楕円形
SK2	173, 174	クロ上層	G, H-6	土坑	0.8×0.6	0.2	楕円形
SK3	173, 174	クロ上層	H-6, 7	土坑	1.1×1.1	0.1	円形
SK4	173, 174	クロ上層	H-7	土坑	1.3×1.1	0.2	円形
SK5	173, 174	クロ上層	H-6	土坑	1.0×0.8	0.2	円形
SK6	173, 174	クロ上層	H-5	土坑	0.9×0.7	0.2	楕円形
SP1	173, 174	クロ上層	Н-6, 7	小穴	0.3×0.3	0.4	円形
SP2	173, 174	クロ上層	H-6	小穴	0.4×0.3	0.3	円形
SP3	173, 174	クロ上層	H-6	小穴	0.5×0.3	0.8	楕円形
SP4	175	KU	I-6	小穴	0.5×0.5	0.5	楕円形

第45表 中尾沢遺跡古墳時代土器観察表

		出土位置	種別	器種	部 位	残存率 (%)	器高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	色 調	調整	備考	
1	64	SH1床面	土師器	壺	口縁部~胴部	90	(31.3)	14.0		5YR7/8橙	外面:口縁部〜頸部斜めハケ後縦ヘラミガキ 胴部横へラミガキ 内面:口縁部〜頸部横ハケ後横へラミガキ 胴部横ハケ		
2	64	SH1覆土	土師器	壺		90	25.7	15.8	8.4	10YR6/4にぶい黄橙	外面:口唇部RL縄文 棒状浮文 口縁部縦へラミガキ 頸部RL縄文・LR縄文・RL縄文・胴部横へラミガキ 内面:口縁部RL縄文 円形浮文 5 箇所 横へラミガキ 頸部斜めハケ 胴部横ハケ	内面口縁部 〜頸部・胴 下部磨滅 底部木葉痕	
3	64	SH1床面	土師器	壺	頸部~底部	75	(17.9)		8.6	7.5YR6/6橙	外面:胴下部横へラミガキ 内面:頸部ナデ 胴上部横ハケ後ナデ 胴中央部 横ハケ 胴下部横ハケ後ナデ	外面磨滅 底部木葉痕	
4		SH1覆土	土師器	壺	口縁部	20	(3.5)	(16.0)		10YR7/4にぶい黄橙	外面:口唇部RL縄文 口縁部横ハケ 内面:横ハケ後横ヘラミガキ	外内面磨滅	
5	64	SH1床面	土師器	甕	口縁部	35	(4.5)	(15.4)		5YR7/8橙	外面:斜めハケ 内面:横ハケ		
6	64	SH2覆土	土師器	壺		100	21.7	10.2	8.4	7.5YR5/4にぶい楊	外面: 頸部縦ハケ後縦ヘラミガキ 胴部縦ハケ 後横ヘラミガキ 内面: 口線部〜頸部横ハケ後横ヘラミガキ 胴 部ナデ?	外内面口縁 部磨滅	
7	64	SH2覆土	土師器	壺		85	17.5	10.3	8.6	5YR6/6橙	外面:口縁部〜胴部縦ハケ後縦ヘラミガキ 底部横へラミガキ 内面:口縁部〜頸部横ヘラミガキ 胴部ナデ?	底部木葉痕	
8		SH2覆土	土師器	壺	口縁部~頸部	40	(14.8)	(26.2)		7.5YR6/6橙	外面:口縁部縦ハケ 頸部縦ヘラミガキ 内面:横ハケ	外内面磨滅	
9	64	SH2覆土	土師器	壺	頸部~底部	70	(16.5)		9.0	10YR7/4にぶい黄橙	外面: 頸部〜胴部縦ハケ・斜めハケ後縦ヘラミガキ 底部横ヘラミガキ 内面:胴部〜底部横ハケ後ナデ 頸部ナデ		
10	64	SH2覆土	土師器	壺	胴部~底部	30	(12.2)		10.0	5YR6/6橙	外面:横へラミガキ 内面:斜めハケ後ナデ	外内面磨滅	
11	64	SH3覆土	土師器	壺	胴部~底部	40	(9.4)		8.2	7.5YR6/3にぶい楬	外面: 横ヘラミガキ 内面: 横ハケ	底部木葉痕 をヘラミガ キで消す	
12	64	KU	土師器	壺		95	30.6	12.5	8.0	7.5YR7/4にぶい橙	外面:胴部横へラミガキ 内面:胴下部横ハケ	外内面磨滅 底部木葉痕	
13		KU	土師器	壺	口縁部	20	(3.6)	(9.6)		7.5YR6/6橙	外面:横ハケ後横へラミガキ 内面:横ハケ後横へラミガキ		
14	64	KU	土師器	壺	胴部~底部	20	(9.9)		10.7	7.5YR7/4にぶい橙	外面:縦ハケ後横ヘラミガキ 内面:胴上部板ナデ 胴下部横ヘラミガキ	外内面磨滅	

第46表 中尾沢遺跡縄文時代土器観察表

挿図番号	分 類	色調	胎 土	文 様 ・ 調 整 等
15	I 群2類 k	5YR5/6明赤褐	石英・白色粒子・細砂・繊維	外面斜位調整痕、内面横位条痕
16	I 群2類 k	5YR4/6赤褐	白色・黒色粒子・細砂・繊維	外面斜位調整痕、内面横位擦痕
17	I 群2類 k	5YR5/6明赤褐	長石・石英・細砂・繊維	外面斜位調整痕、内面横位擦痕
18	I 群2類 k	5YR5/6明赤褐	白色・黒色粒子・繊維	外面斜位調整痕、内面横位擦痕
19	I 群2類 k	5YR5/6明赤褐	長石・赤褐色粒子・細砂・繊維	外面斜位調整痕、内面横位擦痕
20	I 群2類 k	5YR5/6明赤褐	長石・石英・赤褐色粒子・繊維	外面斜位調整痕、内面横位擦痕
21	II 群2類 a	5YR5/6明赤褐	長石・細砂	口唇部斜位沈線、外面地文にRL縄文、爪形文、円形突起、弧 状・縦位沈線
22	II 群2類 a	5YR4/6赤褐	長石・細砂	口唇部斜位刻目、横位の粘土紐を含めて地文にRL縄文、横位 沈線に半截竹管の連続刺突文
23	II 群2類 a	7.5YR4/3褐	長石・雲母・黒色粒子・細砂	地文にRL縄文、弧状の粘土紐
24	II 群2類 a	5YR5/6明赤褐	長石・雲母・細砂	口唇部刻目、地文にRL縄文、横位沈線
25	II 群2類 a	5YR4/6赤褐	長石・細砂	口唇部刻目、横位の粘土紐を含めて地文にRL縄文、粘土紐の間に半截竹管の連続刺突文
26	II 群2類 a	7.5YR5/4にぶい褐	長石・石英・細砂	横位の粘土紐を含めてRL縄文
27	II 群2類 a	5YR5/6明赤褐	長石・雲母・細砂	RL縄文、横位沈線
28	II 群2類 a	5YR5/4にぶい赤褐	長石・細砂	RL縄文、横位沈線
29	II 群2類 a	7.5YR5/4にぶい褐	長石・雲母・細砂	RL縄文、横位沈線
30	II 群2類 a	7.5YR4/6褐	長石・細砂	LR縄文、横位沈線
31	II 群2類 a	5YR5/6明赤褐	長石・雲母・細砂	RL縄文、横位・斜位沈線
32	II 群2類 a	5YR4/4にぶい赤褐	長石・白色粒子・砂粒	無文の浅鉢
33	Ⅲ群1類 b	5YR4/4にぶい赤褐	長石・雲母・細砂	口唇部直下にLR縄文、横位の蒲鉾状沈線区画内に押引文、口 縁部と胴部の境に橋状把手、胴部結節縄文を縦位施文し、Y字 状の沈線

第47表 中尾沢遺跡縄文時代石器属性表

挿図番号	図版番号	層位	器種	分 類	石 材	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
34	65	KU	石鏃未製品		黒曜石	2.06	1.31	0.35	0.56
35	65		石匙	不明	ホルンフェルス	3.60	4.70	1.00	12.12
36	65	KU	打製石斧	IV	ホルンフェルス	11.18	4.30	2.60	130.20
37		KU	石核		ホルンフェルス	5.90	8.50	5.40	223.83
38		KU	磨石	I	輝石安山岩	11.10	8.80	4.10	561.20
39		KU	磨石	I	輝石安山岩	10.20	8.70	3.50	523.40
40		表採	磨石	I	輝石安山岩	11.90	6.70	5.70	627.70
41			石皿	II	砂岩	30.30	24.10	6.00	7680.00

第8章 分地遺跡

第1節 基本土層と土層の堆積状況

本遺跡では第5層栗色土層と第6層~第7層の富士黒色土層が発達している。

調査区の地形は北西から南東へ下る緩斜面となっており、尾根上は撹乱されている。土層は谷部で大淵スコリア層が厚くなる他はほぼ地形に沿って堆積している。(岩崎)

第2節 遺構と遺物

1 遺 構

本遺跡で出土した遺構は、溝状遺構3基、土坑4基、小穴15基である。これらの遺構の検出面は第4層暗褐色土層~第5層栗色土層上面であるが、掘り込み面は3層のクロボク土層である。

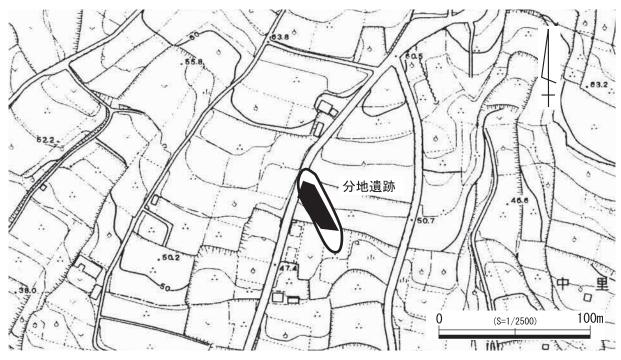
(1) 溝状遺構 (第48表)

ア SD1 (第193図)

SD1は調査区中央の $E-9 \cdot E-10$ グリッドにまたがり、東西に5.6mのびている。削平を受けており、一番深い箇所でも20cmと浅い。

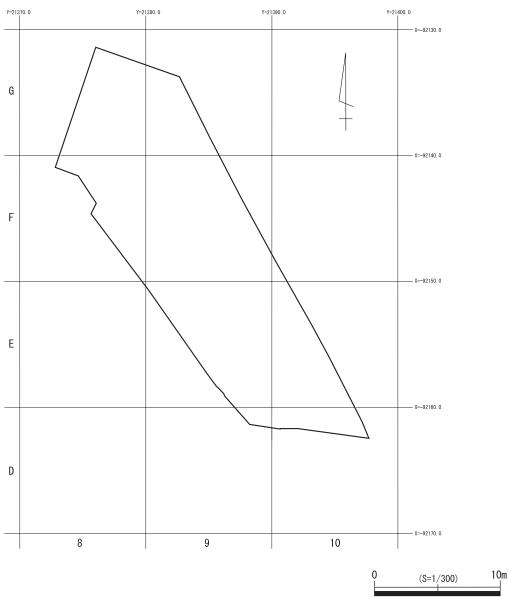
イ SD2 (第193図)

SD2は調査区中央の $E-9 \cdot F-9$ グリッドにまたがり南北に1.6mのびている。断面形は皿状をなし、深さは最も浅い箇所で15cm、深い箇所で30cmである。覆土の黒色土には流れ込みと思われる縄文時代の遺物が出土している(第195図)。

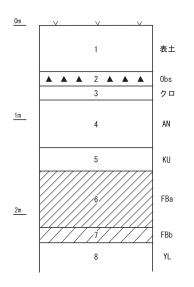


第189図 調査区位置図

第8章 分地遺跡



第190図 グリッド配置図



第1層 表土 第2層 大淵スコリア層 10YR2/1 黒 粘性やや強 しまりあり 1~10 mm大の赤色スコリアが密集

している

第3層 クロボク土層 10YR1.7/1 黒 粘性強 しまりやや強 1~5mm大の赤色スコリア含む

第 4 層 暗褐色土層 10YR3/1 黒褐 粘性強 しまり強 $1\sim3$ mm大の赤色スコリア少量含む

第5層 栗色土層 10YR3/3 暗褐 粘性やや強 しまり強 1~3 mm大の赤色スコリア少量含む 第6層 富士黒色土層 a 10YR2/3 黒褐

粘性あり しまり強

 $1 \sim 3$ mm大の赤色スコリア含む 第 7 層 富士黒色土層 b 10YR2/2 黒褐

粘性あり しまり強

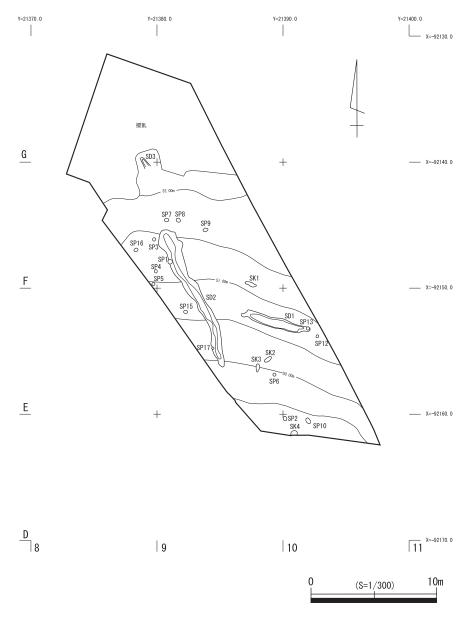
 $1 \sim 5 \text{ mm}$ 大の赤色スコリア含む

第8層 休場層 10YR4/6 褐

粘性強 しまり強

 $1 \sim 2 \, \text{mm}$ 大の赤色スコリア少量含む

第191図 基本土層柱状図



第192図 遺構配置図

ウ SD3 (第193図)

SD3は南側を撹乱によって失っている。残存する長さは $1\,\mathrm{m}$ で、断面形は皿状で立ち上がりが緩やかで、深さは $10\,\mathrm{cm}$ を測る。

(2) 土坑および小穴

土坑・小穴は、土坑墓などの可能性を指摘できるものはなく、性格が不明である。遺物の出土もなく、 時期の特定は困難である。多くは第3層のクロボク土層を覆土としていることから、少なくとも第4層 の縄文時代の層である暗褐色土層よりも新しい時期のものであると言える。

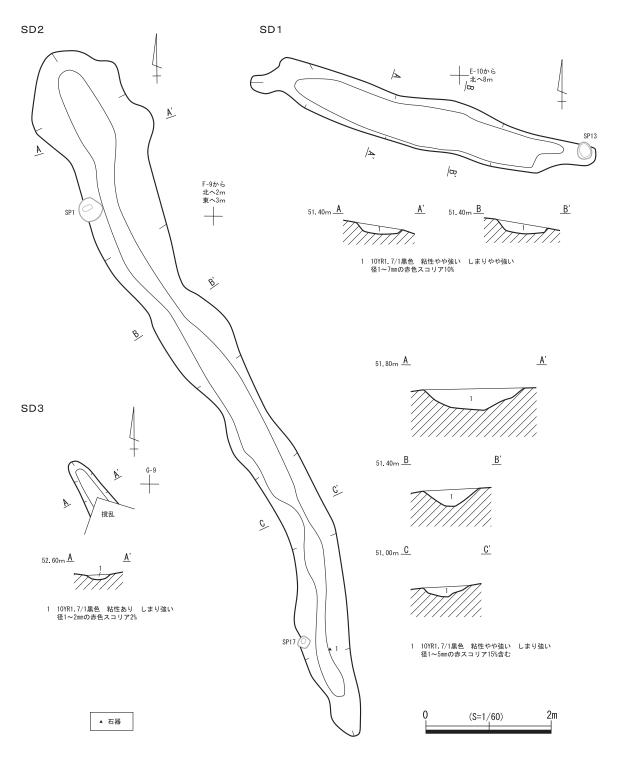
ア 土坑 (第194図・第49表)

土坑とした遺構は4基である。覆土は分層が困難で、堆積の状況は不明である。

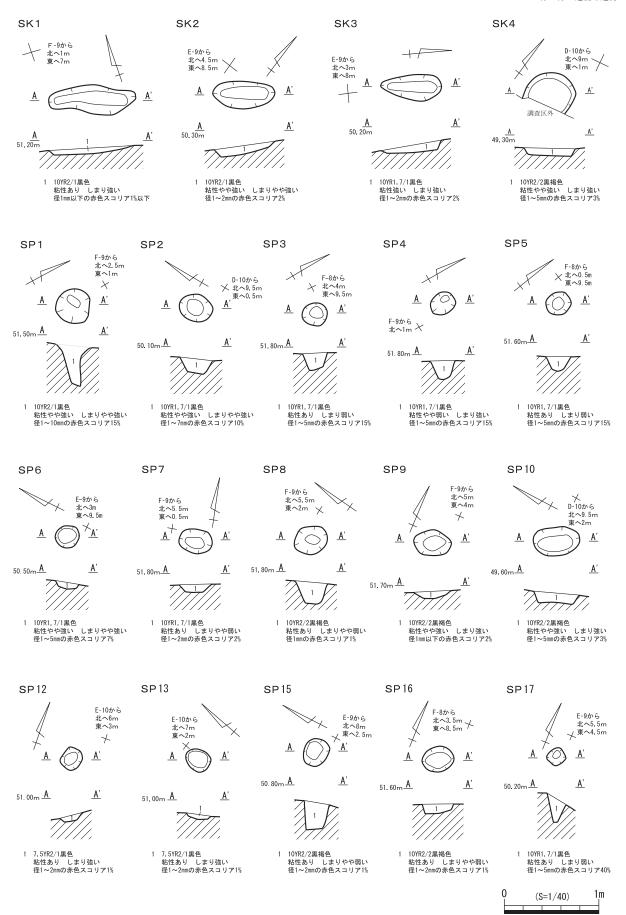
 $SK1 \sim SK3$ は、平面形は細長く明確な形を持たない。断面の立ち上がりも緩やかである。 SK4は一部が調査区外であるために平面形は不明である。

イ 小穴(第194図・第49表)

15基の小穴の平面形は円形である。断面は皿状のもの、擂鉢状のもの、立ち上がりが急なものなどが検出されている。SP1はSD2より後の遺構であり、SP17はSD2に切られている。

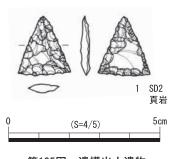


第193図 溝状遺構



第194図 土坑・小穴

2 出土遺物



第195図 遺構出土遺物

(1) SD2出土遺物(第195図1・第51表 図版65)

遺物は石器と土器が出土したが、図化することができたのは1点のみである。これらの遺物は先述のとおり、遺構本来の時期を示す遺物でなく、流れ込みによるものであると考えられる。1は I 類の平基で二等辺三角形を呈する石鏃である。石材は頁岩である。(岩崎・西田)

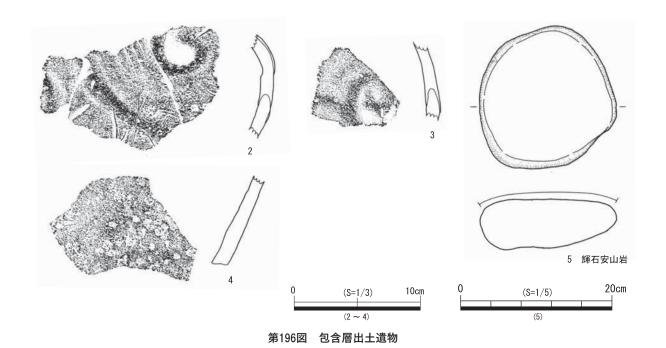
(2) 遺構外出土土器 (第196図2~4 • 第50表 図版65)

2・3・4は全て同一個体である。器面は風化しており、地文の有無は不明である。2・3は胴部で、粘土紐により渦巻文を作出してい

る。 4 は底部付近の胴部の破片である。胎土・文様から、縄文時代中期後葉、曽利式に相当する可能性がある。(西田)

(3) 遺構外出土石器 (第196図5・第51表)

石皿が1点出土している。5は平坦な礫を利用したI類の石皿であり、比較的磨面は平坦である。長さ18.7cm、幅18.1cm、厚さ6.8cmを測る。(岩崎・西田)



-264-

第48表 分地遺跡溝状遺構の概要

() は残存値

遺構名	挿 図	図 版	検出面	グリッド	全長 (m)	最大幅(m)	最大深(m)
SD1	192, 193	63	AN	E-9, 10	5.6	0.8	0.2
SD2	192, 193	63	AN	E, F-9	12.1	1.6	0.3
SD3	192, 193		AN	F, G-8	(1.0)	0.4	0.1

第49表 分地遺跡土坑・小穴の概要

() は残存値

遺構名	挿 図	検出面	グリッド	種 類	規模(m)長径×短径	最大深(m)	平面形態
SK1	192, 194	AN	F-9	土坑	1.0×0.3	0.1	不整形
SK2	192, 194	AN	E-9	土坑	0.7×0.3	0.1	不整形
SK3	192, 194	AN	E-9	土坑	0.6×0.3	0.1	不整形
SK4	192, 194	AN	D-10	土坑	0.5× (0.4)	0.1	_
SP1	192, 194	AN	F-9	小穴	0.4×0.4	0.4	円形
SP2	192, 194	AN	D-10	小穴	0.4×0.3	0.2	円形
SP3	192, 194	AN	F-8	小穴	0.3×0.2	0.2	円形
SP4	192, 194	AN	F-8, 9	小穴	0.3×0.2	0.2	円形
SP5	192, 194	AN	F-8	小穴	0.3×0.2	0.2	円形
SP6	192, 194	AN	E-9	小穴	0.3×0.2	0.1	円形
SP7	192, 194	AN	F-9	小穴	0.4×0.3	0.1	楕円形
SP8	192, 194	AN	F-9	小穴	0.3×0.3	0.2	楕円形
SP9	192, 194	AN	F-9	小穴	0.4×0.3	0.1	楕円形
SP10	192, 194	AN	D-10	小穴	0.5×0.3	0.1	長楕円形
SP12	192, 194	AN	E-10	小穴	0.2×0.2	0.1	楕円形
SP13	192, 194	AN	E-10	小穴	0.3×0.2	0.1	楕円形
SP15	192, 194	AN	E-9	小穴	0.3×0.3	0.3	楕円形
SP16	192, 194	AN	F-8	小穴	0.3×0.3	0.1	楕円形
SP17	192, 194	AN	E-9	小穴	0.2×0.2	0.3	楕円形

第50表 分地遺跡縄文時代土器観察表

挿図番号	図版番号	遺構番号	位 置	分 類	色 調	胎 土	文 様・調整等
2	65		クロ	不明	5YR5/6明赤褐	長石・石英・細砂	低い粘土紐による渦巻文
3	65		クロ	不明	5YR5/6明赤褐	長石・石英・細砂	低い粘土紐による渦巻文
4			Obs	不明	5YR5/6明赤褐	長石・石英・細砂	風化のため文様不明

第51表 分地遺跡縄文時代石器属性表

挿図番号	図版番号	出土遺構	層 位	器 種	分類	石 材	長径 (cm)	短径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
1	65	SD2	覆土	石鏃	I	頁岩	1.95	1.70	0.30	0.74
5			クロ	石皿	I	輝石安山岩	18.70	18.10	6.80	3260.00

第9章 まとめ

1 富士岡1古墳群検出の遺構について

富士岡1古墳群では、二面の遺構面が確認でき、縄文時代と古墳時代の遺構を検出した。出土遺構について報告した内容を要約するとともに、遺構について若干の考察を加えたい。

(1) 縄文時代

富士岡1古墳群では縄文時代に属する竪穴状遺構が1基、集石が5基、性格不明遺構1基等を検出した。竪穴状遺構は前期末の十三菩提式期、性格不明遺構は中期初頭の五領ヶ台式期の遺構と考えられる。性格不明遺構は第1遺構面から出土している点を考慮すると、古墳時代の遺構面によりいくらかの縄文の遺構が破壊されている事が考えられ、遺物の出土量に比べ遺構の検出数が少なかったものとみられる。

(2) 古墳時代前期

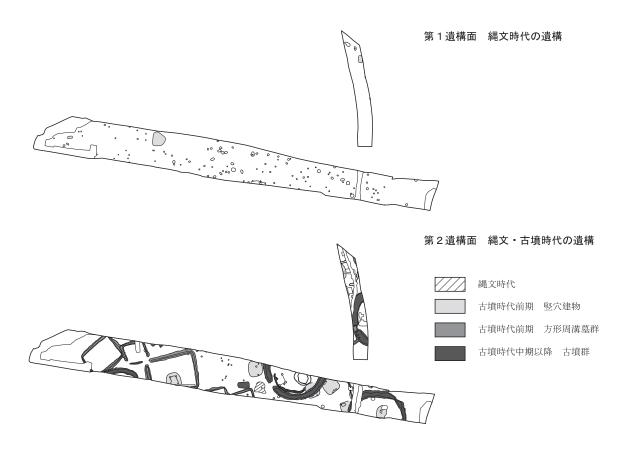
集落跡 竪穴建物 5 軒、掘立柱建物 1 軒、竪穴状遺構 1 基、土坑・小穴を検出した。竪穴建物は出土遺物が少なかったため、出土遺物から建物間の変遷を追う事はできない。しかしながら、SH5 は平面形が隅丸方形を呈し、掘方を円形に掘り込むのに対して、その他の竪穴建物は隅丸方形で掘方を平坦に掘り込んでいる。構築方法に違いが認められる事から、竪穴建物間では時期差が認められる可能性が考えられる。

方形周溝墓群 竪穴建物群が建てられた後、方形周溝墓群が形成される。1区では5基、2区でも方形周溝墓の可能性のある溝状遺構SD22を検出している。出土遺物からは方形周溝墓間では明確に大きな時期差は認められないが、遺構の切り合い関係ではSZ1とSZ2は重複しており、SZ1を切るSZ2が新しい。

(3) 古墳時代中期以降

古墳時代中期以降の遺構は、3基の古墳の周溝と、溝状遺構2基、土坑・小穴である。

2号古墳周溝では、墳丘は削平されていたが、古墳構築の際に掘り込まれたと考えられる墳丘内埋没溝の可能性のある溝を検出した。また、3基の古墳周溝およびその可能性のあるSD13では、溝内の全面から多量の河原石が出土している。3号古墳周溝では河原石の法量を計測したが、長径12~20cm程度の楕円形の石が最も多く、規模がある程度揃っていた。古墳を構成する石材であったものとみられる。古墳周溝の築造年代について 古墳の周溝は、遺物の出土が少量である事から時期の特定はできない。3号古墳周溝の第4層に大淵スコリアが混入している点を考えると、遺構の時期を考察するには、大淵スコリアの噴出時期が重要な鍵となりそうであるが、時期については考古学的な立場から様々な見解がある。これについて大淵スコリア層内から出土した3号古墳周溝の須恵器模倣坏(24頁第15図)と同種の土師器が、富士岡古墳群東の愛鷹山麓に位置する宮添遺跡の大淵スコリアを覆土とする竪穴建物内で出土しているほか、大淵スコリアの降下時期について着目する見解がなされている。同種の土器が出土したのはD地区のSB11で、共伴した須恵器によってMT15併行期と考えられている。SB11に遡る例としては、火山噴火から直接地表に降下した可能性の高いE地区SB24があり、出土遺物からTK47併行期とされる。これにより大淵スコリアの噴出時期はTK23・TK47併行期と考えられている(佐藤2011)。この例を参考にし、第4層を人為的な土層と解釈し、周溝内には大淵スコリア層のみが堆積していた事を考慮するならば、古墳時代後期前半代以降に築造されたことが考えられる。(西田)



第197図 富士岡 1 古墳群遺構変遷図

2 富士岡1古墳群出土の縄文土器について

富士岡1古墳群では、早期前半葉から後期にかけての多様な土器が出土しており、断続的にではあるが、縄文時代の複数の時期に人為が及んでいることがわかった。当該遺跡で最も出土したのは、前期後葉~中期初頭の土器である。これまで愛鷹山麓の発掘調査によって、周辺遺跡では前期後葉~中期初頭にかけての土器が出土しているものの、断片的に捉えられるのみであった。今回の発掘調査により、当該遺跡周辺に、2遺跡にまたがって広範囲に包含層が存在する事が明らかとなった事は今回の調査の成果と言えるだろう。ここでは、富士岡1古墳群出土の各時期の縄文土器の特徴を述べまとめとしたい。早期 早期前葉の表裏縄文土器、中葉の押型文土器が少量出土した。早期後葉では野島式土器が一定量出土した。1区では沈線のみで文様を付ける土器のみが出土し、2区では野島式はほとんど出土しなかったが、1区では出土していない細隆起線文で文様を構成する土器が出土した。

前期前葉~中葉 木島WI式・木島IX式・関山II式を中心として少量出土している。加えて2区では胎土に繊維を含まず、縄文や羽状縄文を施す釈迦堂Z式が出土した。釈迦堂Z式は、前期中葉の諸磯b式と分布が重なる状況が確認できた。

前期後葉~中期初頭 前期後葉の諸磯 b 式、十三菩提式、中期初頭の五領ヶ台式土器等が出土している。 1区の諸磯 b 式は胎土が違う土器片が複数あり、産地の違いが想定される。特に白みがかった黄橙色の胎土を持つ土器の文様は、地文を縄文とし、結節浮線文を施すものに限られる点が指摘できる。また、1区出土の十三菩提式では、三角印刻文を多用した土器が多く出土したほか、真脇式とも呼称され、石川県真脇遺跡に類例のある口縁部が筒型波状を呈する土器が出土したことも重要で、北陸との交流も考えなければいけないであろう(第50図167)。前期末葉の十三菩提式に併行する土器として、東北の要素を持つ大木6式に併行する土器が出土した事は、分布圏として西側の出土資料として注目できる(第50 第9章 まとめ

図168·169)。

五領ヶ台式土器は、半截竹管状工具による沈線区画内に文様を充填した五領ヶ台式古段階の土器が主体をなしている。また、人面把手付土器が出土しており、貴重な資料といえよう。そのほか、五領ヶ台式に併行する時期の土器として、鷹島式、北裏 c 式も少量ではあるが出土した。

また、大歳山式と大歳山併行の土器も少量出土している。本報告書にある大歳山併行の土器とは、大歳山式に類似しているものの、大歳山とするには器厚や隆帯の形が違う土器を便宜的に大歳山併行の土器としている。大歳山式としたものは、貼り付けられた粘土紐の断面が三角形であり、大歳山式としたが、大歳山式に併行するものは断面が蒲鉾状で器厚は厚いという特徴があげられる。

中期後葉~後期前葉 中期後葉では曽利式・加曽利E式、後期前葉では堀之内式土器が少量出土している。堀之内式土器は、特殊な原体を持つ薄手の土器が出土した(第53図262~266)。

3 向山遺跡検出の遺構について

出土遺物の検討によって、第1遺構面は縄文時代の遺構面、第2遺構面は古墳時代前期を中心とした 遺構面であることがわかっている。ここではその結果から、集落を構成する主要遺構の時期と変遷をま とめた。

(1) 縄文時代前期前葉

竪穴状遺構2基を検出した。TA2の時期については、関山II式、木島式土器が出土しており、木島式土器がX式の新段階であると考えられ、関山II式・木島式X新式期の遺構と捉えられる(註1)。関山式期では、小型の竪穴住居が検出される事があるという(註2)。TA3は長軸3.5m、短軸2.6mの不整楕円形の遺構である。TA3は木島VIII式期の竪穴状遺構であり、石皿や磨石といった生活用具が出土している。

その他にも規模が類似する竪穴状遺構が出土しているが、時期は特定できない。 $TA1 \cdot TA5$ は遺物の出土はなく時期は不明である。TA4に関しては前期の土器の小片が出土しているが、遺構の年代は不明な点がある。

(2) 縄文時代前期後葉

前期後葉の遺構は1基である。TA6は諸磯c式期の竪穴状遺構である。ほかSK11が諸磯c式の破片が出土しているが、遺構の年代を示す遺物であるかは根拠に欠ける。包含層からは最も多くこの時期の土器が出土しているが、当該時期の遺構となる可能性のあるものは他に検出されなかった。

(3) 縄文時代中期後葉

中期中葉の遺構は2基検出した。石囲炉を伴うSH14と、性格不明遺構で屋外炉の可能性があるSX 3が検出された。ともに曽利III式期の遺構に位置付けられる。

(4) 古墳時代前期

検出できた遺構は、竪穴建物4軒、掘立柱建物1軒、竪穴状遺構1基、土坑、小穴、性格不明遺構2 基である。遺物からも判明しているが、竪穴建物は、顕著な建て替えや建物の重複が確認できないため、 存続期間は短期間であったと推定できる。富士市が行った過去の調査では、さらに古い古墳時代初頭の 竪穴建物が検出されているが、当該時期は断片的に様相を知る事しかできない。

(5) 古墳時代以降

円形の土坑と溝からなる遺構群である。覆土に大淵スコリアが混入しているが、大淵スコリア層そのものではなく、巻き上げられて上層の土に混入したものが覆土として堆積したものとみられる。愛鷹山で多く類例のある中近世の土坑および溝であると考えられる。(西田)

4 向山遺跡出土の縄文土器について

富士岡1古墳群同様、早期から後期にかけての多様な土器が出土した。

早期の土器は絡条体圧痕文を施文した清水柳 E 類土器が多く出土した。愛鷹山麓では長泉町梅ノ木沢遺跡、沼津市清水柳遺跡、同清水柳北遺跡、同木戸上遺跡、同二ツ洞遺跡、同尾上第 2 遺跡、同秋葉林遺跡などでこの型式の土器が出土している。

前期はⅡ群1類と2類の間に空白期が見られる。諸磯b式土器が少量出土し、諸磯c式、十三菩提式、大歳山式土器が多量に出土した。また、北陸地方の蜆ヶ森式の影響を受けた土器も見られる。本遺跡で出土した諸磯b式土器と諸磯c式土器については、今後系統的な流れについて検討する必要(註1)があろう。

中期前葉の五領ヶ台式土器も多量に出土した。本遺跡では新段階と思われるものも出土した(註2) ことから、中期初頭についても系統的な型式変遷を検討しなければならない。(岩崎)

5 富士岡1古墳群・向山遺跡出土の縄文土器の概観

早期の土器は、富士岡1古墳群では野島式土器、向山遺跡では絡条体圧痕文を施文した清水柳E類土器が多く出土した。逆に富士岡1古墳群では清水柳E類、向山遺跡では野島式土器の出土量が少ない。愛鷹山麓では長泉町梅ノ木沢遺跡、沼津市清水柳遺跡、同清水柳北遺跡、同尾上第2遺跡、同秋葉林遺跡で両型式の土器が揃って出土している。長泉町梅ノ木沢遺跡では出土した地点により、両型式の組み合わせが抽出でき、野島式土器が含まれないグループに細隆起線文を持たない清水柳E類土器が存在し、細隆起線文が含まれる時期には野島式土器の文様構成は単純な沈線となり、また、文様帯に沈線を充填するタイプの野島式土器に清水柳E類土器はほとんど伴わないという結論が出ている(埋文研2008)。両遺跡での出土状況を見ると、周辺の遺跡間で住み分けが行われていたのではないかとも考えられる。

前期の土器は、富士岡1古墳群では諸磯b式、向山遺跡では諸磯c式の有孔浅鉢形土器が出土している。これらの土器は静岡県内での出土例が少なく、今後重要な資料となるであろう。また、富士岡1古墳群、向山遺跡ともに十三菩提式土器と大歳山系土器が揃って出土した。本書では大歳山「系」として扱った土器は、施文方法が通常の大歳山式土器と異なるものが主体である。富士岡1古墳群及び向山遺跡で出土したΣ字状刺突を付けた断面三角形の粘土紐を貼り付けた土器は、当時の地域間交流等を知るうえで貴重な資料となり得るものである。

富士山南麓及び愛鷹山南西麓は平野部から離れた丘陵上に立地する遺跡の調査事例がまだ少ない。今回の調査によってこの地域が縄文時代の一大集落域であったことが明らかになったことは成果のひとつと言ってよいであろう。(岩崎)

6 古墳時代前期の土器について

富士岡1古墳群、向山遺跡、中尾沢遺跡で出土した古墳時代前期の土器について概観を述べてゆく。同一遺跡内における土器の時期差は、遺構ごとに出土量と器種の偏りがあることと、遺物を伴って検出された遺構の中に切り合い関係が認められるものがないため、現状では判断が難しい。しかし、富士岡1古墳群SZ3出土第31図15、同SK1出土第33図24、向山遺跡SH11出土第106図16、中尾沢遺跡SH2出土第184図8といった大型の壺が各遺跡で出土していることから、いずれの遺跡も時期は大廓式期として差し支えないであろう。

各遺跡から出土した土器を観察すると、富士岡1古墳群では口縁部に横ナデを施した甕や鉢が普遍的に出土しているが、向山遺跡、中尾沢遺跡ではこのような調整を施した甕や鉢は出土していない。また、富士岡1古墳群では、沼津市高尾山古墳で出土した大廓Ⅲ式期と考えられる小型壺(渡井2012)とほぼ

同じ形状を呈する遺物集中2(SZ5)出土第32図22と同23が出土している。これらのことから敢えて時期を細分すると、富士岡1古墳群の竪穴建物、向山遺跡、中尾沢遺跡出土土器は大廓II式、富士岡1古墳群の方形周溝墓と遺物集中出土土器が大廓III式であると思われる。

富士市域の遺跡を見ると、富士岡1古墳群と同一丘陵の先端部に立地する祢宜ノ前遺跡は古墳時代前期の竪穴建物が調査されている。在地の土器型式を基本としながら、東海西部系の土器が比較的多く出土している。この他丘陵先端部に立地する遺跡として宮添遺跡と宇東川遺跡があげられる。宮添遺跡は弥生時代後期から中世まで続く集落跡である。古墳時代前期の竪穴建物も検出されており、大廓式土器とともにS字甕が出土している。宇東川遺跡は縄文時代中期と古墳時代前期から平安時代まで続く集落跡である。竪穴建物から大廓式土器とともにS字甕や北陸地方の月影式土器が出土している。平野部を見ると、田子の浦砂丘上に立地する三新田遺跡は古墳時代前期と同後期から平安時代まで続く集落跡である。竪穴建物から大廓式土器とともにS字甕が顕著に出土している。

田方平野まで範囲を広げて見ると、畿内以西の影響が認められる清水町恵ヶ後遺跡、庄内甕の出土が知られる伊豆の国市山木遺跡などの狩野川流域における外来系土器の出土が顕著な遺跡と、愛鷹山南麓に立地する沼津市八兵衛洞遺跡、同植出遺跡(北神馬土手遺跡)などの在地色の強い遺跡が故意に地域を分けるかのように分布している。今回調査した3遺跡とも小型精製土器が出土しておらず、外来系の土器はほとんど出土していない。また、集落の継続期間が短く、古墳時代前期で居住域としての機能がなくなる。よって3遺跡は時期差があるものの愛鷹山南麓の遺跡群に似たあり方を示している。

向山遺跡では平成3年度の富士市教育委員会による発掘調査で古墳時代初頭の竪穴建物が検出された。 富士岡1古墳群から東南東に約2.5km離れた丘陵上に立地する富士市平椎遺跡は弥生時代後期前半と後 期末から古墳時代初頭の集落跡である。富士山南麓及び愛鷹山南西麓においては、前節で述べたように、 平野部から離れた丘陵上に立地する集落遺跡の調査事例が少ないせいか、遺跡ごとに画期のばらつきが ある。今後の資料の増加を待って、この地域の様相について検討を続けたい。(岩崎)

註1 澁谷昌彦氏の御教示による。

註2 谷藤保彦氏の御教示による。

引用・参考文献

赤塩 仁 2008 「十三菩提式土器」『総覧縄文土器』総覧縄文土器刊行委員会

飯塚正治 2008 「貝殻・沈線文系土器」『総覧縄文土器』総覧縄文土器刊行委員会

井鍋誉之 2008 「原分古墳にみる古墳構築過程の復原」『原分古墳 調査報告編』 関 静岡県埋蔵文化財調査研究 所

小川賢之輔 1974 「地質・地形」『富士・愛鷹山麓地域の自然環境保全と土地利用計画調査報告書』

小野正文 1986 『釈迦堂遺跡 I』 山梨県教育委員会

金子直行 2008 「条痕文系土器」『総覧縄文土器』総覧縄文土器刊行委員会

小松原純子・穴倉正展・岡村行信 2007 「静岡県浮島ヶ原低地の水位上昇履歴と富士川河口断層帯の活動」『活 断層・古地震研究報告 7 』

笹津海祥・瀬川裕市郎・関野哲夫・杉山治夫 1976 「清水柳遺跡の土器と石器」『沼津市歴史民俗資料館紀要1』

佐藤祐樹 2011 「E地区における調査成果」『宮添遺跡IV』富士市教育委員会

静岡県考古学会 2009 東部例会ミニシンポジウム『清水柳E類土器を考える』資料集

澁谷昌彦 1982 「木島式土器の研究」『静岡県考古学研究』11 静岡県考古学会

澁谷昌彦 2002 「上の坊式土器と有尾式土器」『平野吾郎先生還暦記念論文集』

遊谷昌彦 2008 「塩屋式・木島式・中越式土器」『総覧縄文土器』総覧縄文土器刊行委員会

澁谷昌彦 2009 「神之木台 I 式土器の研究」『地域と学史の考古学』六一書房

澁谷昌彦 2012 「中越式土器から見た土器型式間の交渉」『縄文時代』第23号

鈴木康二 2008 「特殊凸帯文系土器(北白川Ⅲ式・大歳山式土器)」『総覧縄文土器』総覧縄文土器刊行委員会

関根愼二 2008 「諸磯式土器」『総覧縄文土器』総覧縄文土器刊行委員会

谷藤保彦・関根愼二編 1999 『前期後半の再検討』縄文セミナーの会

谷藤保彦 2006 「二ッ木から関山式へ土器文様の変遷と異系統土器」『第19回縄文セミナー早期末・前期初頭の 諸様相』縄文セミナーの会

谷藤保彦・関根愼二編 2010 『縄文時代前期浅鉢形土器の諸様相』縄文セミナーの会

戸田哲也 1998 「南関東における加曽利E式末期の土器様相」『列島の考古学』渡辺誠先生還暦記念論集刊行会

戸田哲也 2004 「尖底土器とその文化」『第39回企画展 底の尖った土器』笠懸野岩宿文化資料館

富山大学考古学同好会編 1954 『蜆ヶ森貝塚調査報告書』富山県教育委員会

中野国雄・後藤守一 1958 『吉原市の古墳』吉原市教育委員会

山下勝年 2008 「東海条痕文系土器」『総覧縄文土器』総覧縄文土器刊行委員会

山内清男 1979 『日本先史土器の縄紋』

山本典幸 2008 「五領ヶ台式土器」『総覧縄文土器』総覧縄文土器刊行委員会

渡井英誉 2012 「高尾山古墳の出土土器について」『高尾山古墳発掘調査報告書』沼津市教育委員会

财 静岡県埋蔵文化財調査研究所 1997a 『北神馬土手遺跡 他 I 』

関 静岡県埋蔵文化財調査研究所 1997b 『韮山城跡・韮山城内遺跡』

劇 静岡県埋蔵文化財調査研究所 2010a 『秋葉林遺跡Ⅱ』

(財) 静岡県埋蔵文化財調査研究所 2010b 『的場古墳群・的場遺跡』

(財) 静岡県埋蔵文化財調査研究所 2010d 『富士山・愛鷹山麓の古墳群』

清水町教育委員会 2010 『恵ヶ後遺跡』

沼津市教育委員会 1979 『八兵衛洞遺跡発掘調査報告書』

沼津市教育委員会 1985 『埋蔵文化財発掘調査報告書』

沼津市教育委員会 1991 『広合遺跡 (e区)・二ツ洞遺跡 (a区)発掘調査報告書』

沼津市教育委員会 2007 『尾上第2遺跡発掘調査報告書』

沼津市教育委員会 2010 『尾壱遺跡 (第2次) 清水柳北遺跡 (第2次) 発掘調査報告書』

沼津市教育委員会 2012 『高尾山古墳発掘調査報告書』

富士市教育委員会 1983 『三新田遺跡発掘調査報告書』

富士市教育委員会 1991 『宇東川遺跡A・B・C地区発掘調査慨報』

富士市教育委員会 1992 『向山遺跡』

富士市教育委員会 2005 『上ノ山第1号墳』

富士市教育委員会 2009 『祢宜ノ前遺跡』

富士市教育委員会 2010 『宮添遺跡Ⅲ』

富士市教育委員会 2011 『宮添遺跡IV』

富士岡1古墳群、向山遺跡における 放射性炭素年代(AMS測定)

(株) 加速器分析研究所

1 測定対象試料

富士岡1古墳群(SFJO)は、静岡県富士市富士岡(北緯35°10′22″、東経138°43′42″)に所在し、富士山南麓の丘陵上に立地する。測定対象試料は、TA2床面出土木炭(4:IAAA-120976)、包含層の栗色土層(KU)出土土器付着炭化物(16:IAAA-120977)の合計2点である(第52表)。TA2からは縄文土器が少量出土しているが、遺構の時期は不明である。16の土器は、縄文時代前期だが詳細な型式は不明とされる。土器付着炭化物は土器の内面より採取された。

向山遺跡(SMY)は、静岡県富士市中里(北緯35°10′19″、東経138°43′49″)に所在し、愛鷹山南西麓の丘陵上に立地する。測定対象試料は、SH11覆土1出土木炭(8:IAAA-120978)、SH14覆土1出土木炭(13:IAAA-120979)、SK36覆土1出土土器付着炭化物(17:IAAA-120980)の合計3点である(第52表)。遺構の形態と出土土器から、SH11は古墳時代前期、SH14は縄文時代中期と推定されている。17の土器は縄文時代早期末と考えられている。土器付着炭化物は土器の外面より採取された。

なお、4、8、13については樹種同定が行われている(樹種同定報告参照)。

2 測定の意義

富士岡1古墳群出土試料については、4の測定で時期不明の遺構TA2の年代を明らかにし、16の測定で出土遺物の相対年代との比較を行う。

向山遺跡出土試料の測定では、出土遺構・遺物の相対年代との比較を行う。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸一アルカリ一酸(AAA:Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常 $1 \mod / \ell$ (1 M) の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001 Mから 1 Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1 Mに達した時には「AAA」、1 M未満の場合は「AaA」と第52表に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO2) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。
- (6) グラファイトを内径 1 mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした 14 C-AMS専用装置(NEC社製)を使用し、 14 Cの計数、 13 C濃度(13 C/ 12 C)、 14 C濃度(14 C/ 12 C)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOx

Ⅱ)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) δ^{13} Cは、試料炭素の 13 C濃度(13 C/ 12 C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表した値である(第52表)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) 14 C年代(Libby Age:yrBP)は、過去の大気中 14 C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。 14 C年代は δ 13 Cによって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を第52表に、補正していない値を参考値として第53表に示した。 14 C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 14 C年代の誤差(±1 σ)は、試料の 14 C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の 14 C濃度の割合である。 pMCが小さい(14 Cが少ない)ほど古い年代を示し、pMCが 100 以上(14 Cの量が標準現代炭素と 同等以上)の場合Modernとする。この値も δ 13 Cによって補正する必要があるため、補正した値を第52表に、補正していない値を参考値として第53表に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の 14 C濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の 14 C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 14 C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、 14 標準偏差(14 $^$

6 測定結果

富士岡1古墳群出土試料の 14 C年代は、TA2床面出土木炭4が $^{1860\pm20}$ yrBP、包含層の栗色土層(KU)出土土器付着炭化物 16 が4980 ±30 yrBPである。暦年較正年代(1 σ)は、 4 が89~ 21 2cal ADの間に3つの範囲、 16 が3775~3711cal BCの範囲で示される。 4 は弥生時代後期頃に相当する(小林2009)が、後述するように実際よりも古い値が示されている可能性がある。 16 は縄文時代前期後葉頃に相当し(小林編2008)、土器の特徴と矛盾しない。

向山遺跡出土試料の 14 C年代は、SH11覆土1出土木炭8が1870±20yrBP、SH14覆土1出土木炭13が4140±20yrBP、SK36覆土1出土土器付着炭化物17が7900±30yrBPである。暦年較正年代(1 σ)は、8が86~211cal ADの間に3つの範囲、13が2864~2638cal BCの間に5つの範囲、17が6812~6685cal BCの間に2つの範囲で示される。8は弥生時代後期頃に相当し(小林2009)、遺構の形態と出土遺物から推定される古墳時代前期より古い年代値であるが、後述するように実際よりも古い値が示されている可能性がある。13は縄文時代中期後葉頃、17は縄文時代早期中葉から後葉頃に相当する(小林編2008)。13は遺構の形態と出土遺物から推定される縄文時代中期に含まれる年代値であるが、17は推定より古い値と

なっている。

なお、4、8 が含まれる $1\sim3$ 世紀頃の暦年較正に関しては、北半球で広く用いられる較正曲線IntCal09に対して日本産樹木年輪試料の測定値が系統的に異なるとの指摘がある(尾嵜2009、坂本2010など)。その日本版較正曲線を用いてこれらの測定結果を暦年較正した場合、ここで報告する較正年代値よりも新しくなる可能性がある。

試料の炭素含有率はすべて50%を超え、化学処理、測定上の問題は認められない。

第52表 富士岡1古墳群、向山遺跡における放射性炭素年代

測定番号	試 料 名	採取場所	試料形態	処理方法	δ ¹³ C (‰)	δ ¹³ C補正あり	
例是留方		採取物別			(AMS)	Libby Age(yrBP)	pMC (%)
IAAA-120976	4 (遺物番号3746)	TA2 床面	木炭	AAA	-24.45 ± 0.26	1,860 ± 20	79.31 ± 0.23
IAAA-120977	16 (遺物番号21191)	包含層 栗色土層(KU)	土器付着 炭化物	AaA	-24.64 ± 0.29	4,980 ± 30	53.81 ± 0.18
IAAA-120978	8 (遺物番号17541)	SH11 覆土1	木炭	AAA	-32.50 ± 0.51	1,870 ± 20	79.27 ± 0.23
IAAA-120979	13 (遺物番号25125)	SH14 覆土1	木炭	AAA	-27.27 ± 0.36	4,140 ± 20	59.70 ± 0.18
IAAA-120980	17 (遺物番号13525)	SK36 覆土1	土器付着 炭化物	AaA	-27.87 ± 0.34	7,900 ± 30	37.39 ± 0.14

[#5274,5275]

第53表 富士岡1古墳群、向山遺跡における放射性炭素年代(参考値)

測定番号	δ ¹³ C補正なし		暦年較正用	1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲	
侧 企 併 亏	Age (yrBP) pMC (%) (yrBP)		10 省平1√ 配西	20 宿升代靶团		
IAAA-120976	$1,850 \pm 20$	79.40 ± 0.22	$1,862 \pm 22$	89calAD-102calAD (9.7%) 123calAD-175calAD (42.6%) 192calAD-212calAD (15.8%)	82calAD-223calAD (95.4%)	
IAAA-120977	4,970±30	53.85 ± 0.18	$4,977 \pm 27$	3775calBC-3711calBC (68.2%)	3904calBC-3880calBC (3.4%) 3801calBC-3693calBC (90.0%) 3681calBC-3665calBC (2.0%)	
IAAA-120978	1,990 ± 20	78.06 ± 0.21	$1,865 \pm 23$	86calAD-106calAD (15.4%) 121calAD-174calAD (39.4%) 192calAD-211calAD (13.3%)	80calAD-222calAD (95.4%)	
IAAA-120979	4,180±20	59.42±0.18	4,143±24	2864calBC-2835calBC (14.8%) 2817calBC-2807calBC (4.9%) 2759calBC-2717calBC (21.9%) 2712calBC-2664calBC (23.3%) 2646calBC-2638calBC (3.3%)	2873calBC-2830calBC (18.6%) 2823calBC-2628calBC (76.8%)	
IAAA-120980	7,950±30	37.17±0.13	7,903±29	6812calBC-6785calBC (12.0%) 6779calBC-6685calBC (56.2%)	7023calBC-7013calBC (0.9%) 7006calBC-6968calBC (4.4%) 6946calBC-6936calBC (0.9%) 6915calBC-6882calBC (5.3%) 6837calBC-6649calBC (84.0%)	

文 献

Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51 (1), 337-360

小林謙一 2009 近畿地方以東の地域への拡散,西本豊弘編,新弥生時代のはじまり 第4巻 弥生農耕のはじまりとその年代,雄山閣,55-82

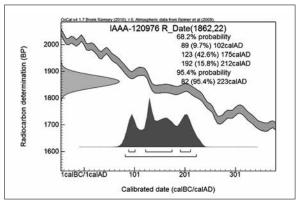
小林達雄編 2008 総覧縄文土器,総覧縄文土器刊行委員会,アム・プロモーション

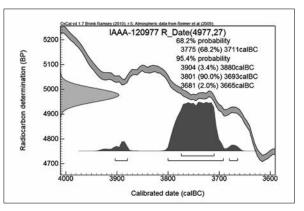
尾嵜大真 2009 日本産樹木年輪試料の炭素14年代からみた弥生時代の実年代, 弥生時代の考古学1 弥生文化の輪郭, 同成社, 225-235

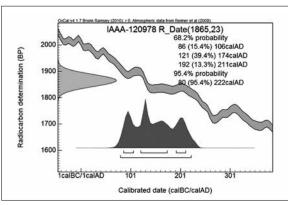
Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 51 (4), 1111-1150

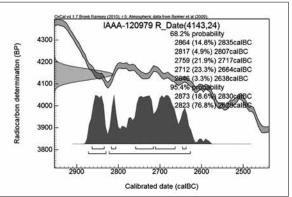
坂本 稔 2010 較正曲線と日本産樹木―弥生から古墳へ―,第5回年代測定と日本文化研究シンポジウム予稿 集,(株加速器分析研究所,85-90

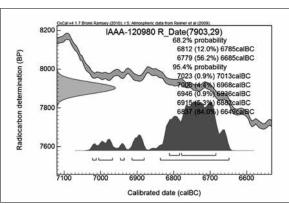
Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ¹⁴C data, Radiocarbon 19 (3), 355-363











第198図 暦年較正年代グラフ

富士岡1古墳群、向山遺跡、中尾沢遺跡 出土炭化材の樹種

はじめに

富士岡1古墳群(SFJO)、向山遺跡(SMY)、中尾沢遺跡(SNO)で検出された縄文時代や古墳時代の遺構等から出土した炭化材を対象として、木材利用を検討するための樹種同定を実施する。

I 富士岡1古墳群

1 試 料

試料は、住居跡SH2、SH3のP1、土坑TA2から出土した炭化材 4 点(試料番号 $1\sim4$)である。住居跡SH2、SH3は古墳時代前期と推定されている。なお、試料 4 については放射性炭素年代測定が行われている(年代測定報告参照)。

2 分析方法

試料を自然乾燥させた後、木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東 (1982) やWheeler他 (1998) を参考にする。また、日本産樹木の木材組織については、林 (1991) や伊東 (1995, 1996, 1997, 1998, 1999) を参考にする。

3 結果

樹種同定結果を第54表に示す。炭化材は、広葉樹2分類群(コナラ属アカガシ亜属・ハイノキ属ハイノキ節)に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

• コナラ属アカガシ亜属 (Quercus subgen. Cyclobalanopsis) ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸~厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を 有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高のものと複合放射組織とがある。

• ハイノキ属ハイノキ節 (Symplocos sect. Lodhra) ハイノキ科

散孔材で、道管壁は薄く、横断面では多角形〜角張った楕円形、単独または2-5 個が複合して散在する。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性、1-3 細胞幅、1-20細胞高で、時に上下に連結する。

年04 夜	角工 例	白垻矸	(OLJO)	の倒性円止結果

試料番号	遺構	遺物番号	種類
1	SH2	3108	コナラ属アカガシ亜属
2	SH3P1	3896	コナラ属アカガシ亜属
3	TA2	3597	ハイノキ属ハイノキ節
4	TA2	3746	コナラ属アカガシ亜属

4 考察

古墳時代前期と推定される住居跡SH2とSH3から出土した炭化材は、住居の建築部材に由来する可能性がある。とくに、SH3の炭化材はP5から出土しており、柱材の可能性がある。炭化材は、いずれも常緑広葉樹のアカガシ亜属に同定された。アカガシ亜属は、暖温帯性常緑広葉樹林を構成する常緑高木であり、木材は重硬で強度が高い。今回の結果から、遺跡周辺に常緑広葉樹のアカガシ亜属が生育しており、その木材を利用したことが推定される。また、住居構築材として、強度の高い木材を選択したことが推定される。

本遺跡周辺地域では、立地環境が多少異なるが、愛鷹山南西麓に位置する向山遺跡の古墳時代前期とされる住居跡から出土した炭化材にヒノキ科、アカガシ亜属、シキミが確認されている(本稿 II 参照)。アカガシ亜属の利用は、本遺跡の結果とも調和的である。

一方、時期および性格が不明の土坑TA2から出土した炭化材は、常緑広葉樹のアカガシ亜属とハイノキ節に同定された。

II 向山遺跡

1 試 料

試料は、住居跡SH1、TA1、TA3、TA5、SH11、SH14から出土した炭化材10点(試料番号 $5\sim14$)である。SH14は縄文時代中期、SH1、SH11は古墳時代前期と推定されている。なお、試料 8、13については放射性炭素年代測定が行われている(年代測定報告参照)。

2 分析方法

試料を自然乾燥させた後、木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東 (1982)、Wheeler他 (1998)、Richter他 (2006) を参考にする。また、日本産樹木の木材組織については、林 (1991) や伊東 (1995, 1996, 1997, 1998, 1999) を参考にする。

3 結果

樹種同定結果を第55表に示す。炭化材は、針葉樹1分類群(ヒノキ科)と広葉樹4分類群(コナラ属 コナラ亜属コナラ節・コナラ属アカガシ亜属・クリ・シキミ)に同定された。各分類群の解剖学的特徴 等を記す。

• コナラ属コナラ亜属コナラ節(Quercus subgen. Quercus sect. Prinus) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1-3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。 道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のものと複合放 射組織とがある。

• コナラ属アカガシ亜属 (Quercus subgen. Cyclobalanopsis) ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸~厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を 有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高のものと複合放射組織とがある。

• クリ (Castanea crenata Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材であるが、いずれも年輪界で割れており、早材部の一部と晩材部が観察できる。晩材部の道管は、多数が集まって火炎状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。

• シキミ (*Illicium anisatum* L.) シキミ科シキミ属

散孔材で、管壁厚は中庸~薄く、横断面では多角形、単独または2-4個が複合して散在する。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有し、壁孔は階段状~対列状に配列、道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-3細胞幅、1-20細胞高。

試料番号	遺構	遺物番号	種 類	
5	TA1	10338	コナラ属コナラ亜属コナラ節	
6	TA3	13234	クリ	
7	TA5	13434	クリ	
8	SH11	17541	コナラ属アカガシ亜属	
9	SH11	17558	シキミ	
10	SH11	17570	コナラ属アカガシ亜属	
11	SH1	4159	ヒノキ科	
12	SH11	17583	コナラ属アカガシ亜属	
13	SH14	25125	クリ	
14	SH14	25128	クリ	

第55表 向山遺跡 (SMY) の樹種同定結果

4 考察

炭化材には、合計 5 分類群が認められた。各分類群の材質などをみると、ヒノキ科にはヒノキ、サワラ、アスナロなどの有用材が含まれる。いずれも常緑高木で、木材は木理が通直で割裂性・耐水性が比較的高い。広葉樹のアカガシ亜属は、暖温帯性常緑広葉樹林を構成する常緑高木で、木材は重硬で強度が高い。コナラ節とクリは、二次林などを構成する落葉高木で、木材は比較的重硬で強度が高く、クリでは耐朽性も高い。シキミは、常緑広葉樹林等に生育する常緑高木で、木材は比較的強度が高い部類に入る。

時代別にみると、縄文時代中期と推定されるSH14から出土した炭化材は、住居の建築部材に由来する可能性がある。炭化材はいずれも落葉広葉樹のクリに同定された。クリは、二次林などに生育する落葉高木で、木材は重硬で強度・耐朽性が高い。この結果から、建築部材として強度・耐朽性の高い木材を選択・利用したことが推定される。

一方、古墳時代前期と推定されるSH1およびSH11の炭化材も建築部材の可能性があるが、ヒノキ科、アカガシ亜属、シキミで構成されており、クリは認められない。この結果から、縄文時代中期と古墳時代前期とで木材利用が異なる可能性がある。SH11では、アカガシ亜属を中心にシキミが混じる結果であり、強度の高い常緑広葉樹を利用したことが推定される。一方、SH1は針葉樹のヒノキ科であり、SH11とは木材利用が異なる。ヒノキ科は、割裂性が高く、分割加工が容易であることから、板状のものによく利用される。

時期不明の住居跡のうち、TA3とTA5の炭化材はいずれもクリであり、縄文時代中期のSH14と木材利用の傾向が似ている。TA1は、落葉広葉樹のコナラ節であった。この結果から、コナラ節も住居の建築部材などに利用されたことが推定される。

縄文時代中期の住居跡から出土した炭化材の樹種を明らかにした例は、本遺跡周辺地域では確認できないが、愛鷹山の東麓に位置する上山地遺跡や箱根山南西麓に位置する押出シ遺跡では調査した炭化材

が全てクリに同定されており、今回の結果とよく似ている(伊東・山田,2012)。この結果から、縄文時代中期では、愛鷹山麓やその周辺の広い範囲でクリを主体とした木材利用が見られた可能性がある。一方、古墳時代前期については、富士岡1古墳群において、住居跡から出土した炭化材にアカガシ亜属の利用が確認されており、今回の結果とも調和的である(本稿 I 参照)。

Ⅲ 中尾沢遺跡

1 試 料

試料は、住居跡SH1から出土した炭化材1点(試料番号15)である。この住居跡は古墳時代前期と推定されている。

2 分析方法

試料を自然乾燥させた後、木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)やWheeler他(1998)を参考にする。また、日本産樹木の木材組織については、林(1991)や伊東(1995, 1996, 1997, 1998, 1999)を参考にする。

3 結果

炭化材は、常緑広葉樹のサカキに同定された。解剖学的特徴等を記す。

• サカキ (*Cleyera japonica* Thunberg pro parte emend. Sieb. et Zucc.) ツバキ科サカキ属

散孔材で、小径の道管が単独または2-3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列~階段状に配列する。放射組織は異性、単列、1-20細胞高。

4 考察

古墳時代前期と推定される住居跡SH1から出土した炭化材は、常緑広葉樹のサカキに同定された。サカキは、暖温帯性常緑広葉樹林内に生育する常緑小高木であり、木材は重硬で強度が高い。この結果から、建築部材などに強度の高いサカキを利用した可能性がある。サカキは、希に直径が30cmを超える個体があるとされるが、一般には直径20cm以下の小径木が多いことから、建築部材の場合は、主柱ではなく垂木などの用途が考えられる。

周辺地域では、富士岡1古墳群や向山遺跡で古墳時代前期の住居跡出土炭化材にアカガシ亜属が多い結果が得られている(本稿I、II参照)。サカキもアカガシ亜属と共に生育する常緑広葉樹である点は共通点があり、古墳時代前期の本地域には常緑広葉樹を主体とした植生がみられたことが推定される。

引用文献

林 昭三,1991,日本産木材 顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.

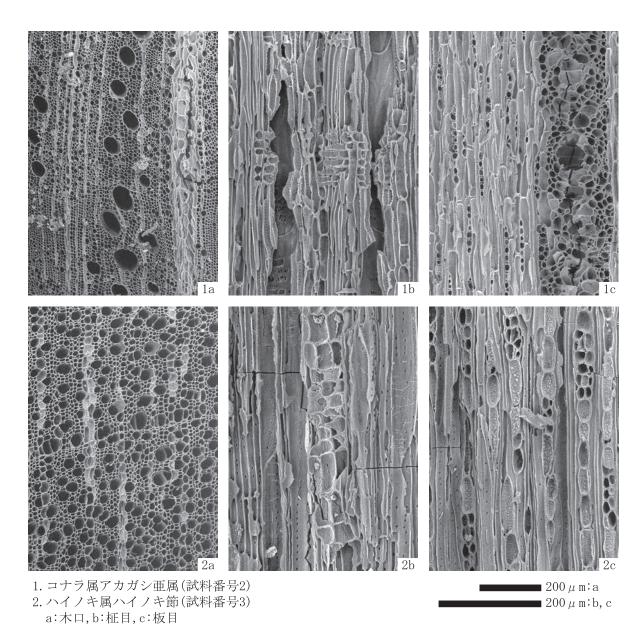
伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載 I. 木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181. 伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載 II. 木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所。66-176. 伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載 III. 木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所。83-201. 伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載IV.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載V.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.伊東隆夫・山田昌久(編),2012,木の考古学 出土木製品用材データベース.海青社,449p.

Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (編), 2006, 針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部久・内海泰弘 (日本語版監修), 海青社, 70p. [Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].

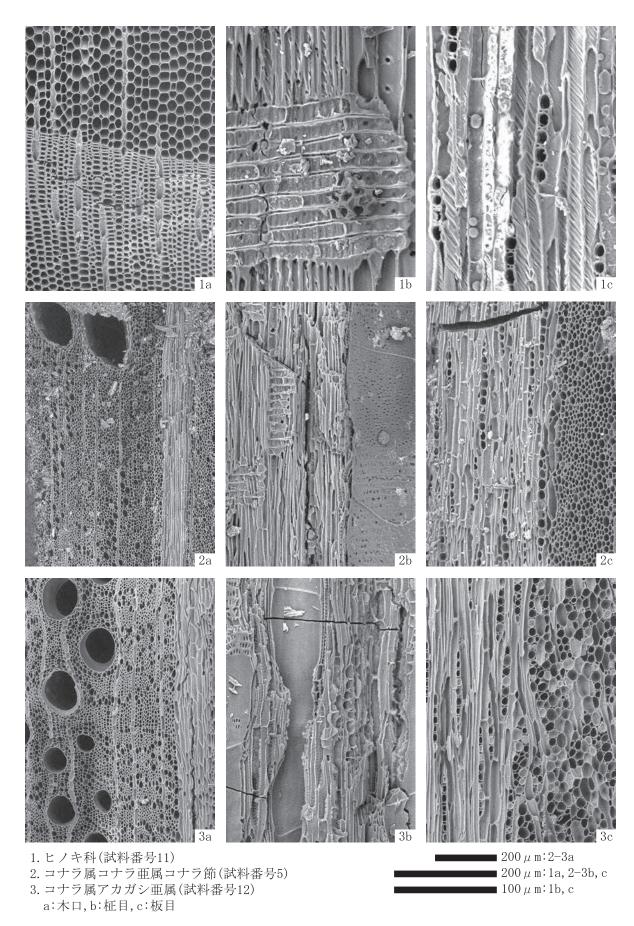
島地 謙·伊東隆夫, 1982, 図説木材組織. 地球社, 176p.

Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯浩(日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

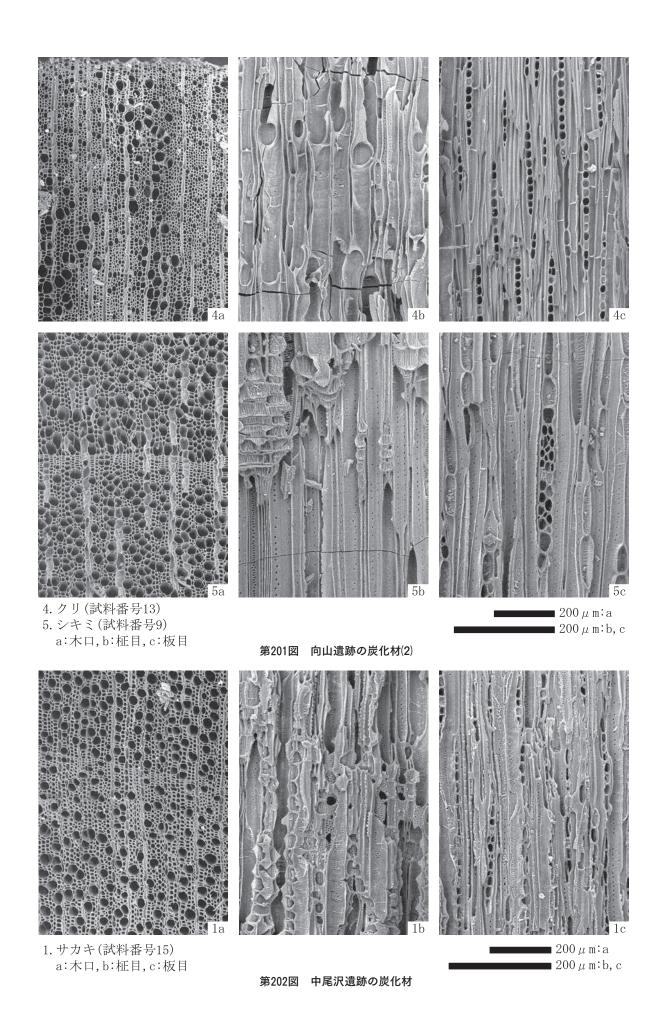
※)本分析は、パリノ・サーヴェイ株式会社の協力を得て行った。



第199図 富士岡1古墳群の炭化材



第200図 向山遺跡の炭化材(1)



-282-